

第2次新温泉町地域福祉計画（改訂版） 策定のためのアンケート調査

令和4年12月

新温泉町

目 次

I. 調査の概要	1
1 調査の目的	2
2 調査概要	2
3 報告書の見方	2
II. 調査結果	3
1 回答者について	4
2 住んでいる地域とのかかわりなどについて	9
3 地域福祉にかかわる機関や団体、制度について	84
4 健康や福祉について	111
5 地域における支えあいについて	135
6 避難行動要支援者登録制度について	141
7 これからの新温泉町の健康・福祉について	145
8 ご意見・ご要望（自由回答）	155

I . 調査の概要

1 調査の目的

新温泉町では、平成 29 年度に策定した「第 2 次新温泉町地域福祉計画」を見直し、今後さらに安心して暮らせるまちづくりをめざして、「第 2 次新温泉町地域福祉計画（改訂版）」の策定を進めています。

本調査は、町内にお住まいの 18 歳以上の方 1,000 人を対象に、福祉に対する意識や地域活動への参加状況等の実態を把握するとともに、ご意見・ご提言を広くお聞きし、計画策定の基礎資料として活用するために実施しました。

2 調査概要

- 調査地域：新温泉町全域
- 調査対象者：町内にお住まいの 18 歳以上の方 1,000 人を無作為抽出
- 調査期間：令和 4 年 9 月 20 日（火）～令和 4 年 10 月 3 日（月）
- 調査方法：郵送配布・郵送回収による本人記入方式

調査対象者数 （配布数）	有効回収数	有効回収率
1,000 人	509 人	50.9%

3 報告書の見方

- 回答結果の割合「％」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

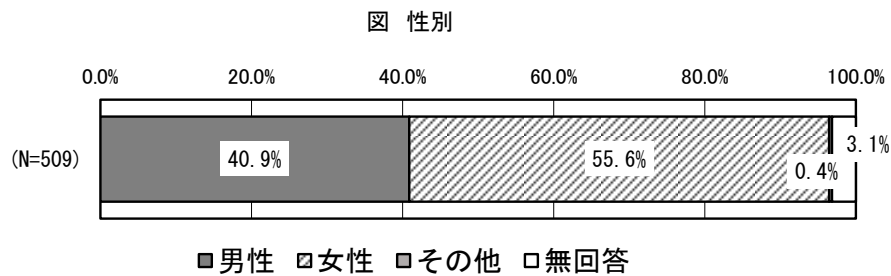
Ⅱ．調査結果

1 回答者について

（１）性別〈単数回答〉

〔問1 あなたの性別はどちらですか。（１つだけ○）〕

性別についてみると、「女性」（55.6％）が多く約５割、次いで「男性」（40.9％）、「その他」（0.4％）となっています。



（２）年齢〈単数回答〉

〔問2 あなたの年齢（令和4年9月1日現在）は何歳ですか。（１つだけ○）〕

年齢についてみると、「70～74 歳」（14.7％）が最も高く、次いで「65～69 歳」（13.0％）、「80～84 歳」（10.0％）となっています。

地区別にみると、すべての地区で回答者の約５～６割が「65 歳以上」となっています。また、「18～39 歳」で最も多いのは、「浜坂地区」（14.4％）となっています。

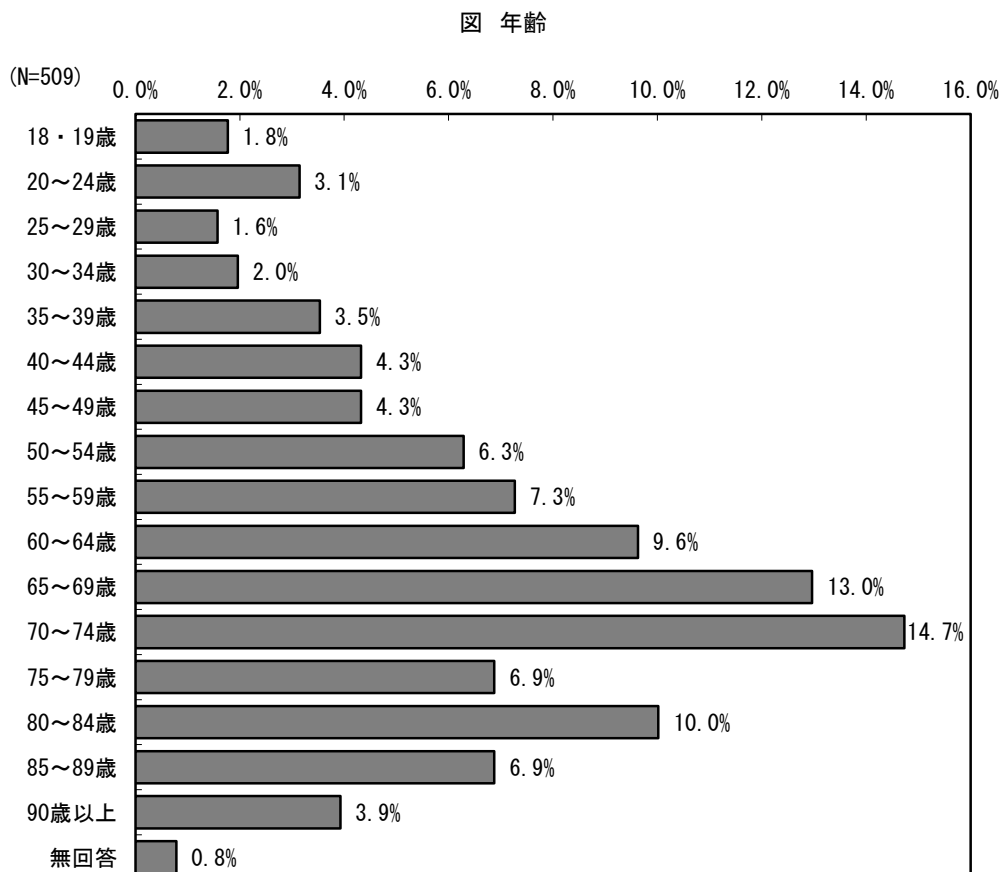
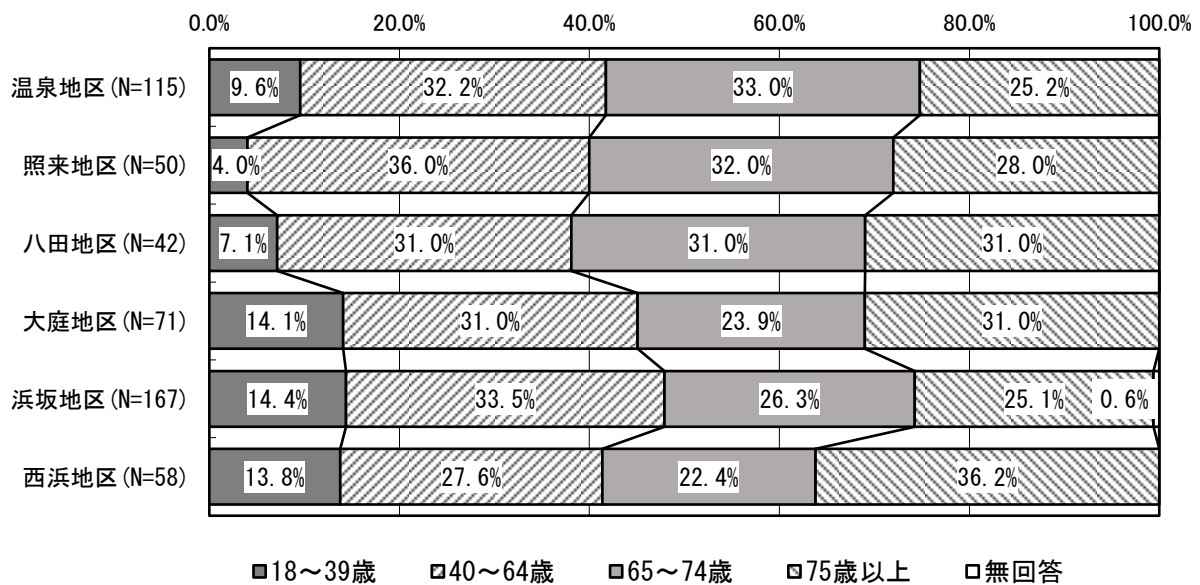


図 年齢(地区別)

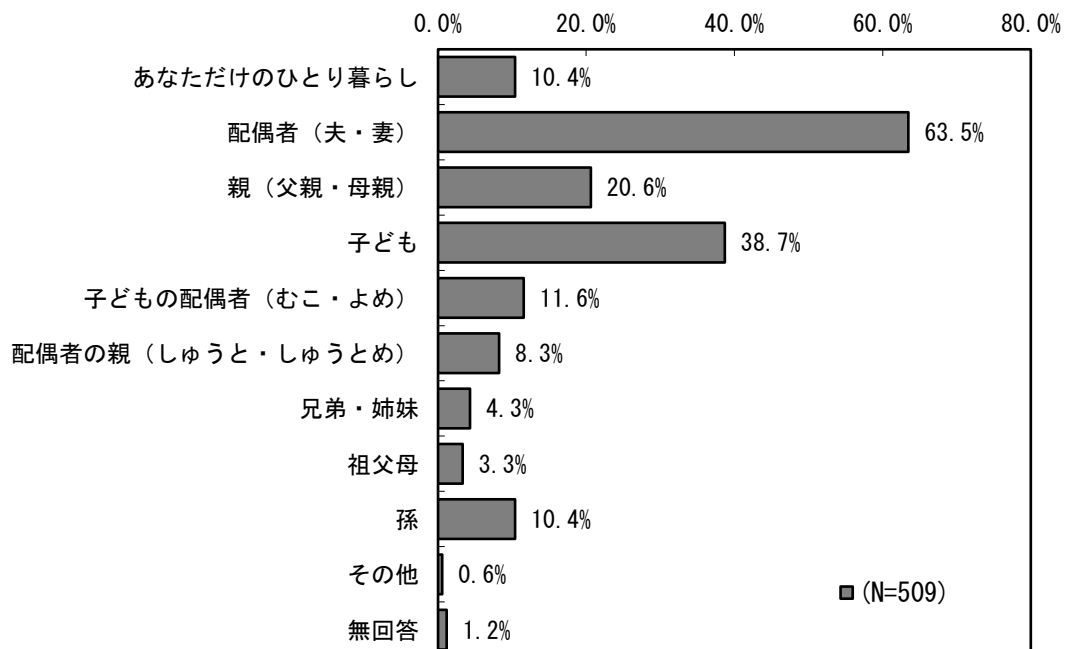


(3) 一緒に住んでいる人〈複数回答〉

〔問3(1) あなたと一緒に住まいの方は、次のうちどなたですか。(あてはまるものすべてに○)〕

一緒に住んでいる人についてみると、「配偶者(夫・妻)」(63.5%)が最も高く、次いで「子ども」(38.7%)、「親(父親・母親)」(20.6%)となっています。

図 一緒に住んでいる人(複数回答)

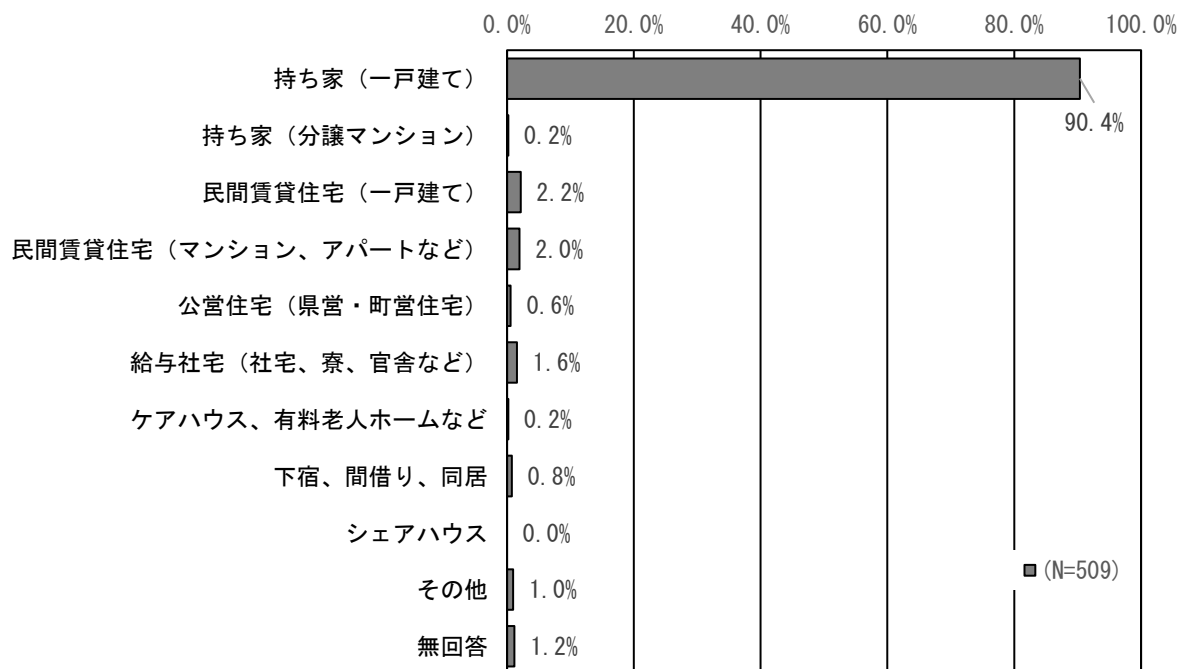


（４）住まいの形態〈単数回答〉

〔問3(2) あなたのお住まいの形態は、次のうちどれですか。(1つだけ○)〕

住まいの形態についてみると、「持ち家（一戸建て）」（90.4%）が最も高く、次いで「民間賃貸住宅（一戸建て）」（2.2%）、「民間賃貸住宅（マンション、アパートなど）」（2.0%）となっています。

図 住まいの形態



(5) 主な職業〈単数回答〉

〔問4 あなたの主な職業は何ですか。(1つだけ○)〕

主な職業についてみると、「無職（求職中を含む）」（21.2％）が最も高く、次いで「会社員、団体職員など」（17.7％）、「家事専業（主婦・主夫）」（17.3％）となっています。

年齢4区分別にみると、「75歳以上」で「無職（求職中を含む）」が48.2％と特に多くなっています。

図 主な職業

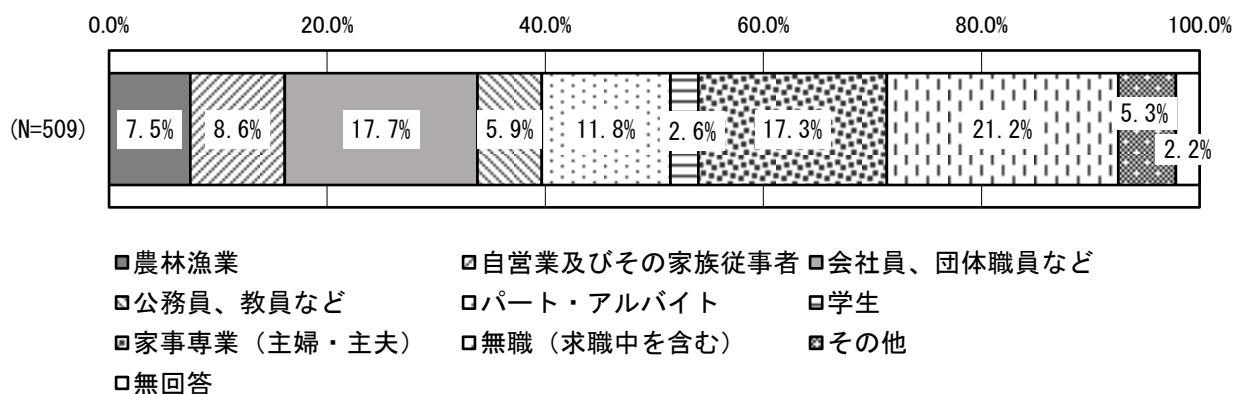
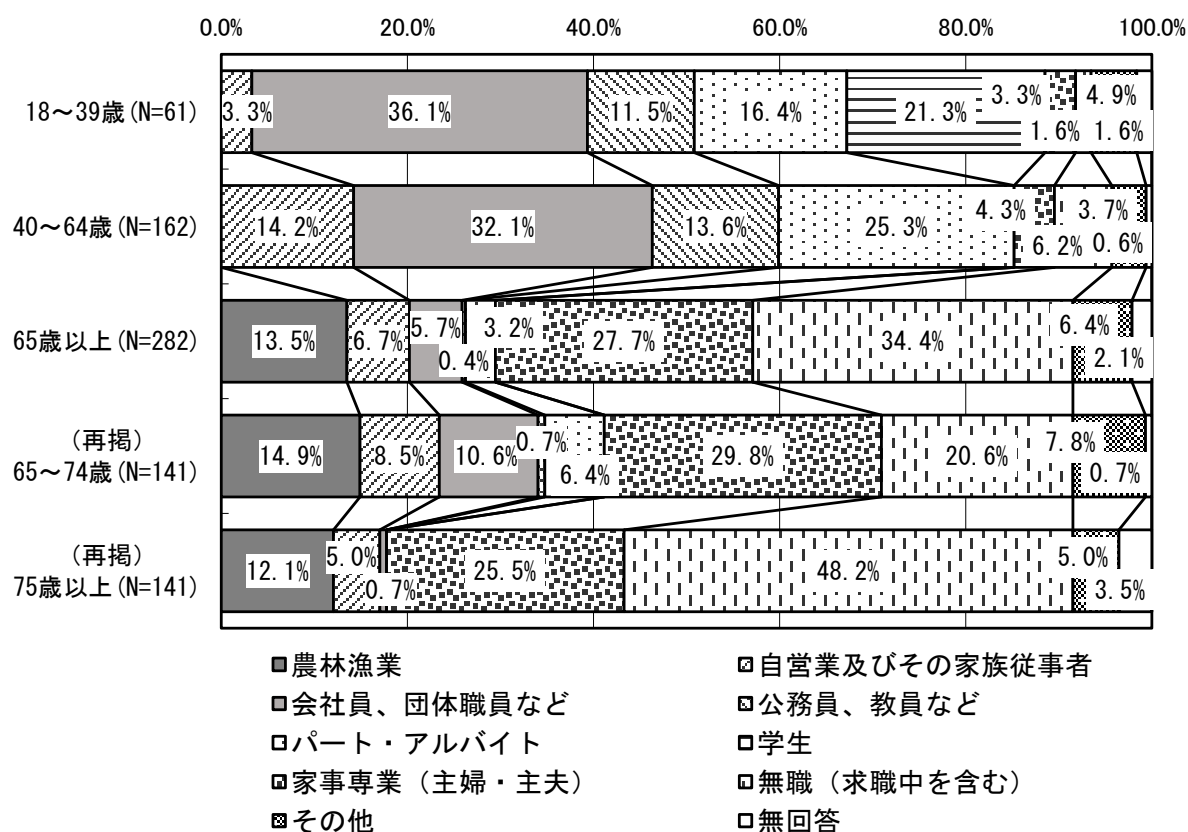


図 主な職業（年齢区分別）

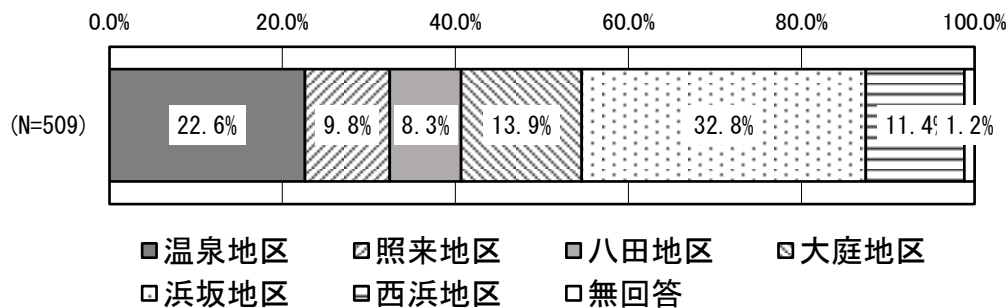


（６）居住地区〈単数回答〉

〔問5 あなたのお住まいの地区はどこですか。（１つだけ○）〕

居住地区についてみると、「浜坂地区」（32.8％）が最も高く、次いで「温泉地区」（22.6％）、「大庭地区」（13.9％）となっています。

図 居住地区

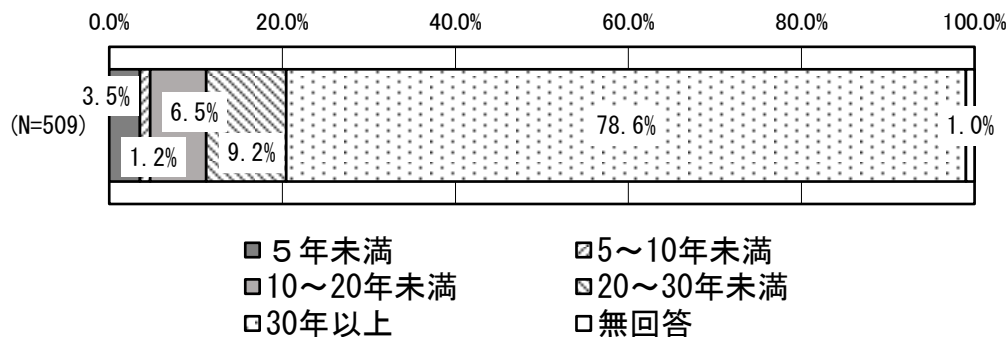


（７）居住年数〈単数回答〉

〔問6 あなたが新温泉町にお住まいになって何年になりますか。（１つだけ○）〕

居住年数についてみると、「30 年以上」（78.6％）が最も高く、次いで「20～30 年未満」（9.2％）、「10～20 年未満」（6.5％）となっています。

図 居住年数



2 住んでいる地域とのかかわりなどについて

（１）地域に安心を感じているか〈単数回答〉

〔問7（１）あなたのお住まいの地域に対するお気持ちについておうかがいします。地域に安心を感じていますか。（１つだけ○）〕

地域に安心を感じているかについてみると、「少し安心を感じている」（38.3%）が最も高く、次いで「たいへん安心を感じている」（27.7%）、「あまり安心を感じていない」（17.7%）となっています。

前回の調査結果から比較すると、「たいへん安心を感じている」と「少し安心を感じている」を合わせた“安心を感じている”と答えた人の割合と、「まったく安心を感じていない」と「あまり安心を感じていない」を合わせた“安心を感じていない”と答えた人の割合に大きな変化は見られません。

年齢区分別にみると、“安心を感じている”と答えた人の割合は「65 歳以上」が 71.6%に対して、「40～64 歳」は 60.5%、「18～39 歳」は 57.4%と、11～14 ポイント低くなっています。

地区別にみると、“安心を感じている”と答えた人の割合は「西浜地区」が 75.9%と最も高く、「温泉地区」が 61.7%と最も低くなっています。

地域での人とのかかわりに対する考え方別にみると、地域での人とのかかわりに積極的な考え方（隣近所を中心としたつきあいを大切にしたい、心から打ち解けられる関係を築きたいなど）の人の方が、“安心を感じている”の割合が高くなっています。

図 地域に安心を感じているか

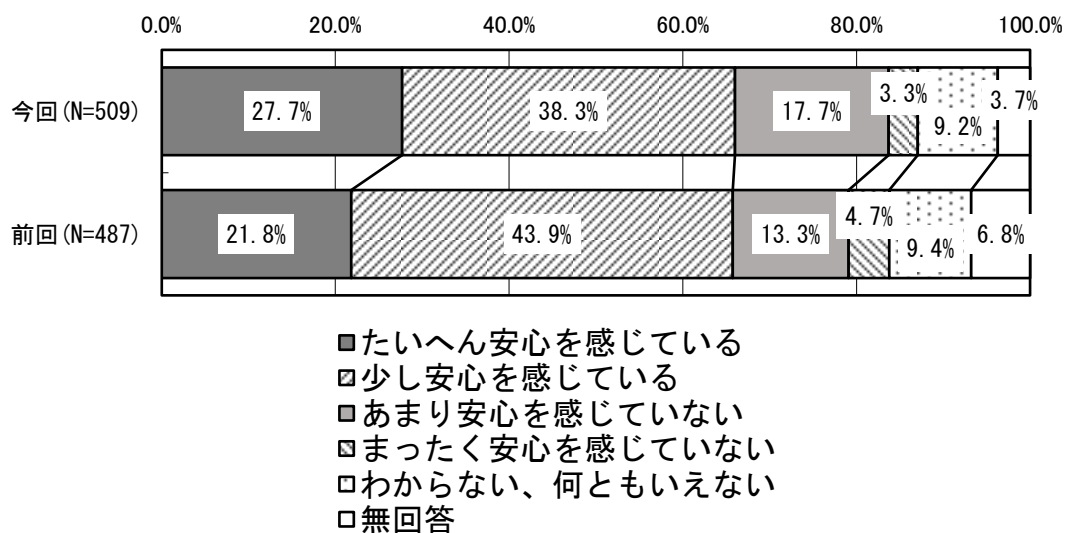


図 地域に安心を感じているか(男女別)

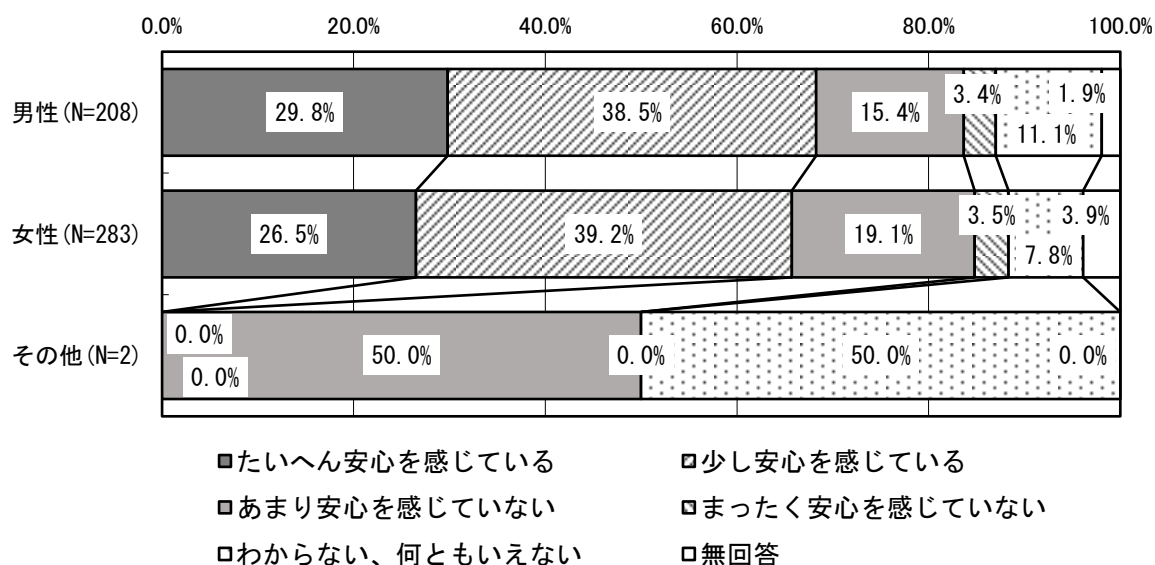


図 地域に安心を感じているか(年齢区分別)

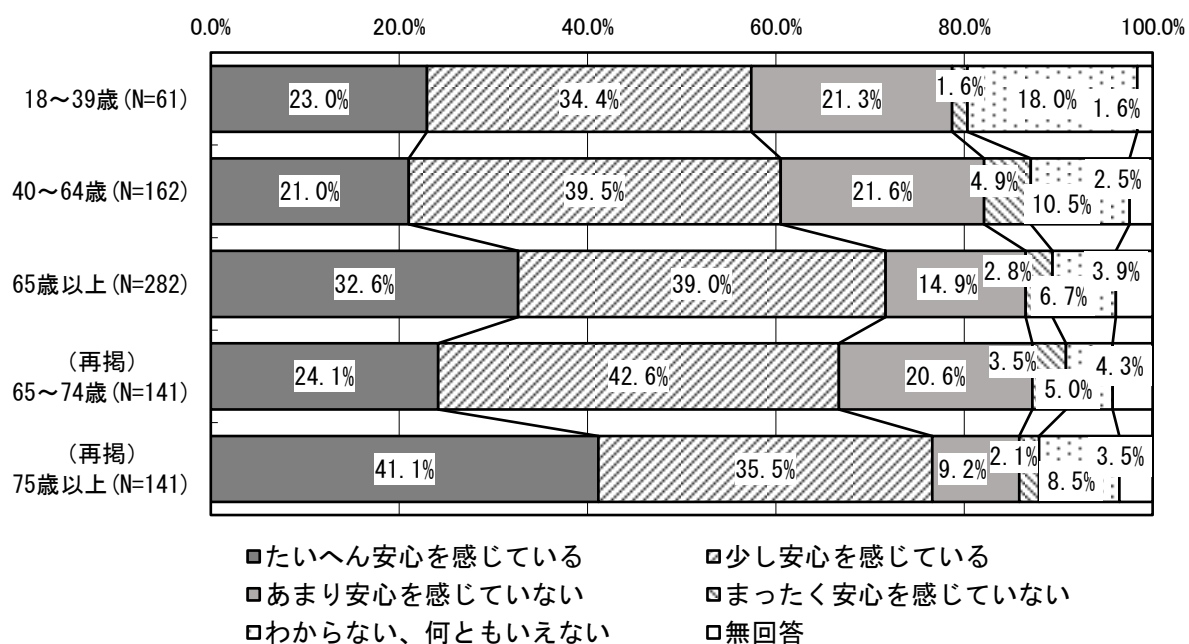


図 地域に安心を感じているか(地区別)

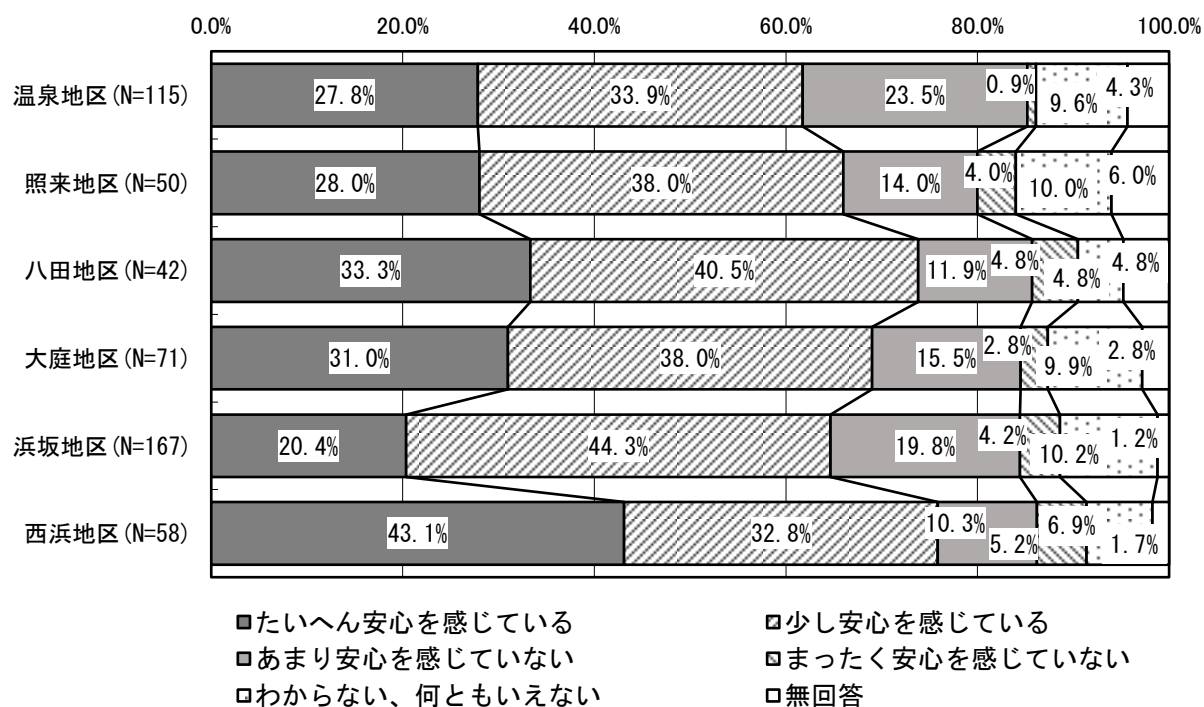
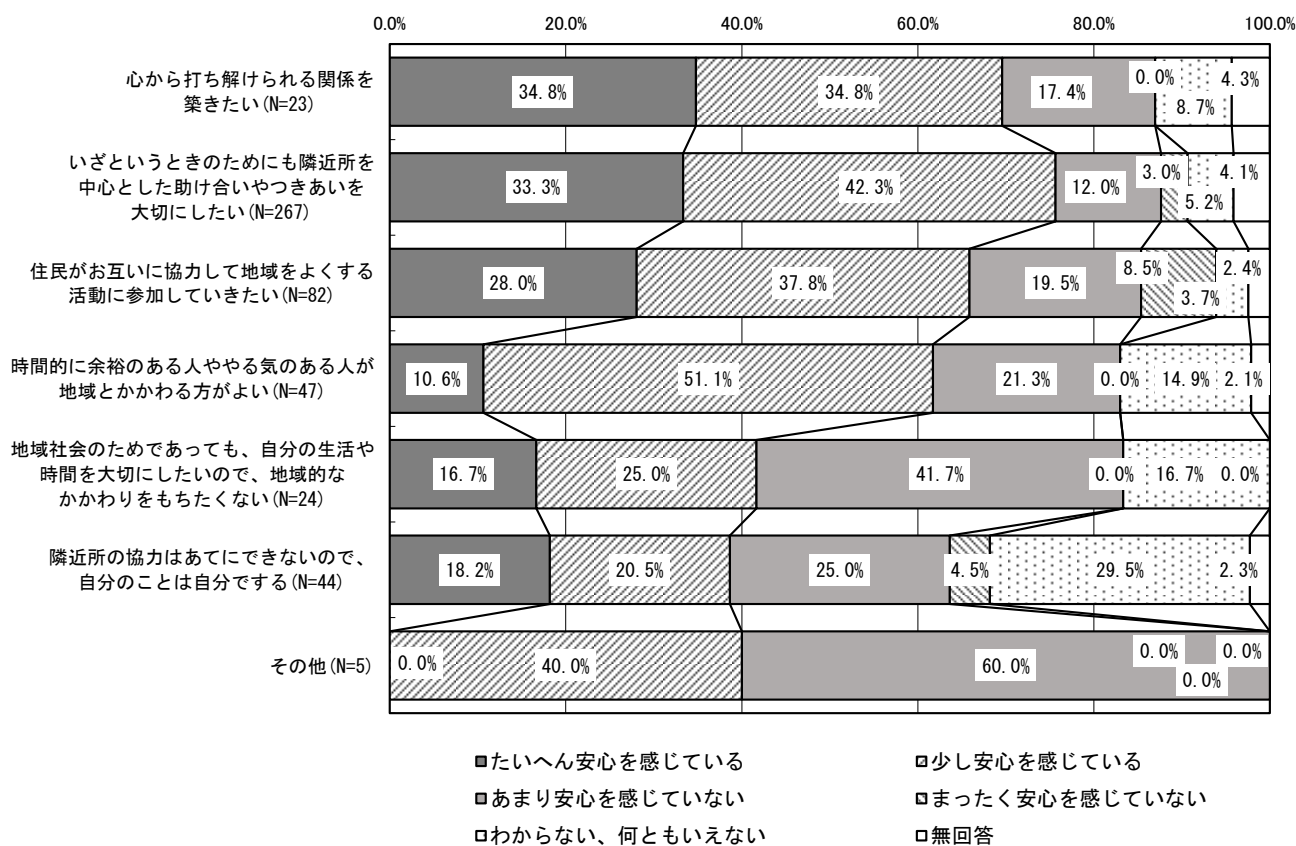


図 地域に安心を感じているか(地域での人とのかかわりに対する考え方別)



(1)で「たいへん安心を感じている」または「少し安心を感じている」と答えた方

(2) 安心を感じている理由〈複数回答〉

〔問7(2)(1)で「1.」または「2.」と答えた方におうかがいします。安心を感じている理由は何ですか。(3つまで〇)〕

安心を感じている理由についてみると、「長い間住み続けているから」(70.5%)が最も高く、次いで「地域の人と親しくしているから」(51.5%)、「治安がよいなど、安心して住めるから」(42.6%)となっています。

前回の調査結果から比較すると、上位3項目の順位は同じ結果となっており、「地域の人と親しくしているから」が8.2ポイント低下しています。

地区別にみると、「長い間住み続けているから」では、「西浜地区」(86.4%)、「八田地区」(80.6%)で多く、「地域の人と親しくしているから」では、「温泉地区」(62.0%)、「大庭地区」(61.2%)で多くなっています。また、「静けさや緑が多いなど、環境がよいから」では、「八田地区」が51.6%と多くなっています。

図 安心を感じている理由(3つ以内で複数回答)

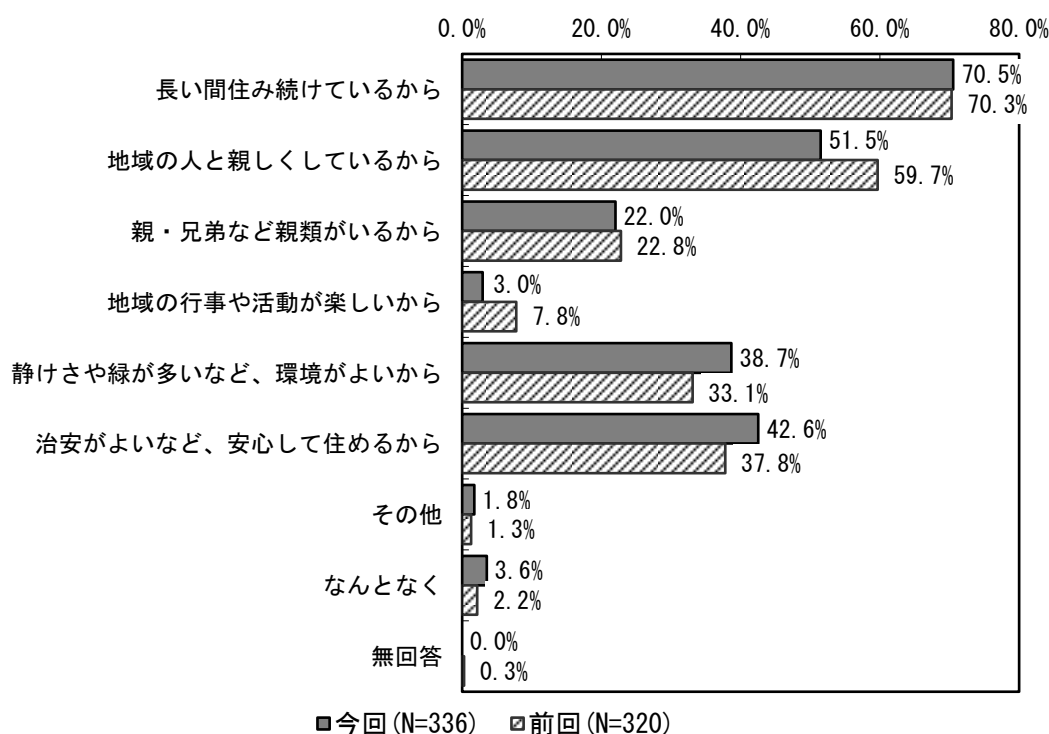


図 安心を感じている理由(3つ以内で複数回答)(男女別)

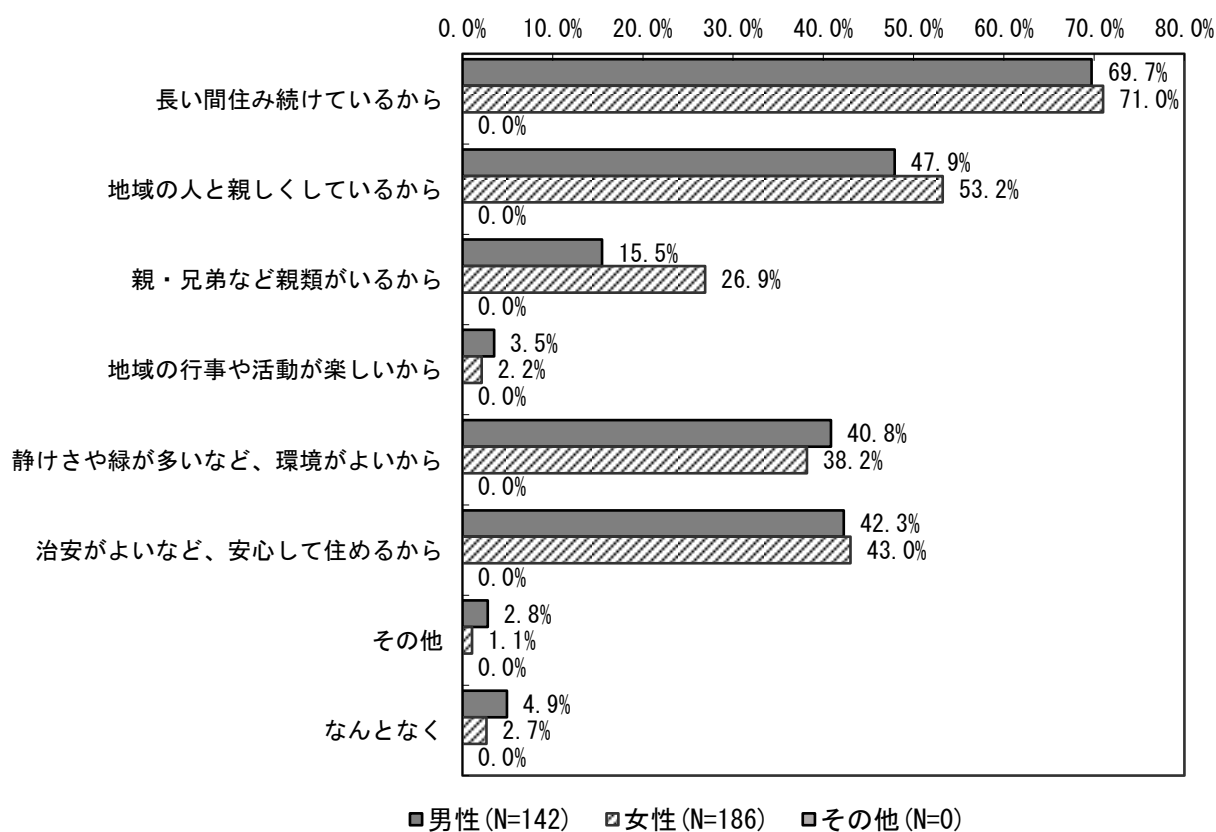


図 安心を感じている理由(3つ以内で複数回答)(年齢区分別)

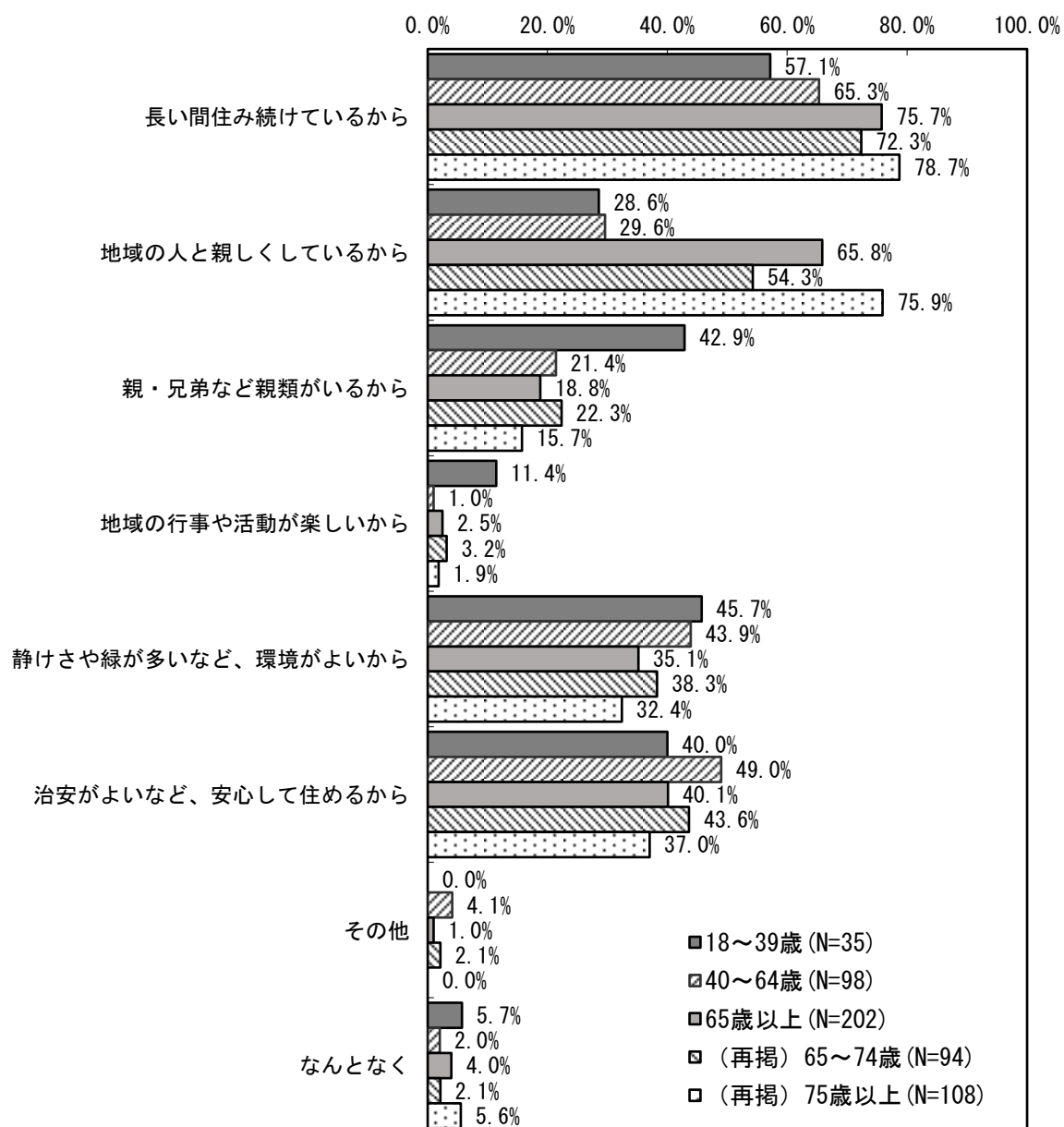
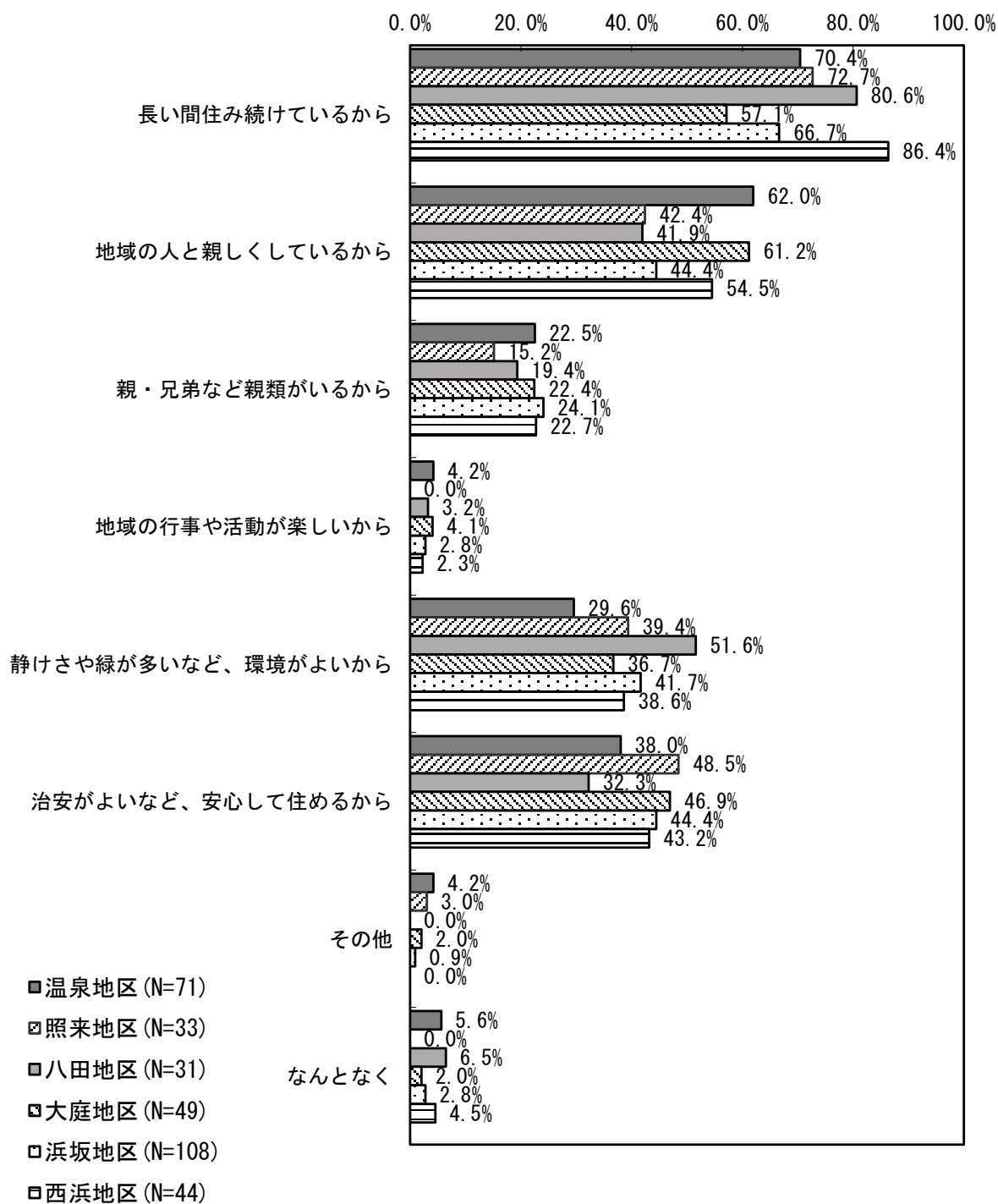


図 安心を感じている理由(3つ以内で複数回答)(地区別)



(1)で「あまり安心を感じていない」または「まったく安心を感じていない」と答えた方

(3) 安心を感じていない理由〈複数回答〉

〔問7(3) (1)で「3.」または「4.」と答えた方におうかがいします。安心を感じていない理由は何ですか。(3つまで〇)〕

安心を感じていない理由についてみると、「その他」(50.5%)が最も高く、次いで「自然などの環境がよくないから」(20.6%)、「地域の人と親しくしていないから」(19.6%)となっています。安心を感じていない理由の「その他」では、「少子化・若者の流出」「福祉・医療が充実していない」「交通環境の問題(移動が困難)」等があがっています。

前回の調査結果から比較すると、上位3項目の順位は同じ結果となっています。

年齢区分別にみると、「その他」を除いて、「18～39歳」では、「地域の人と親しくしていないから」(28.6%)、「生まれ育ったまちではないから」(21.4%)が多く、「65歳以上」では、「自然などの環境がよくないから」(28.0%)が多くなっています。

図 安心を感じていない理由(3つ以内で複数回答)

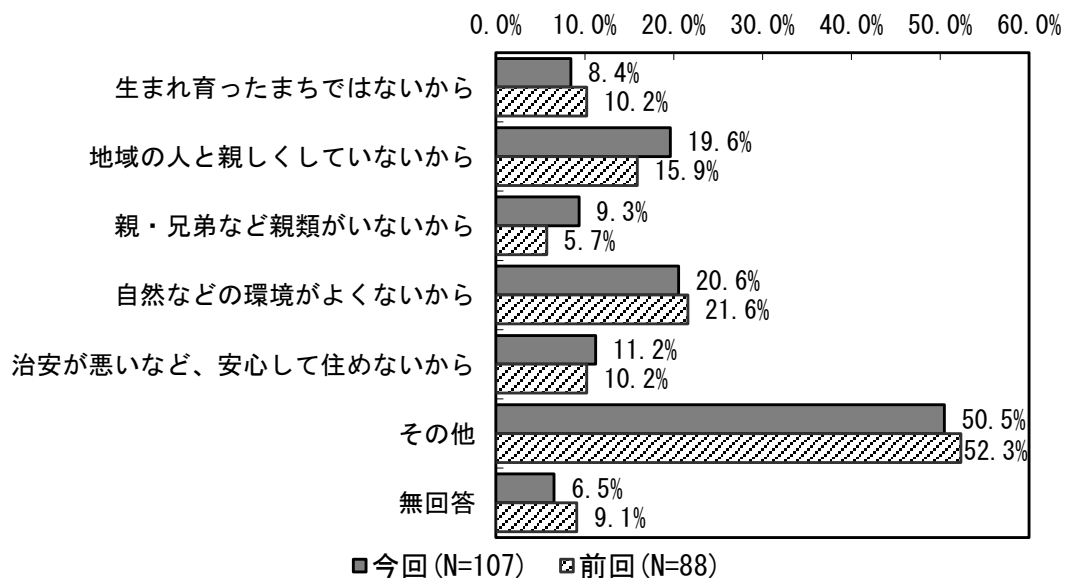


表 住まいの地域について安心を感じていない理由

内 容	件数
少子化・若者の流出	16
福祉・医療が充実していない	6
交通環境の問題（移動が困難）	5
将来の不安	4
高齢化の進展	4
後継者不足	3
その他	9
回答者数	47

図 安心を感じていない理由(3つ以内で複数回答)(男女別)

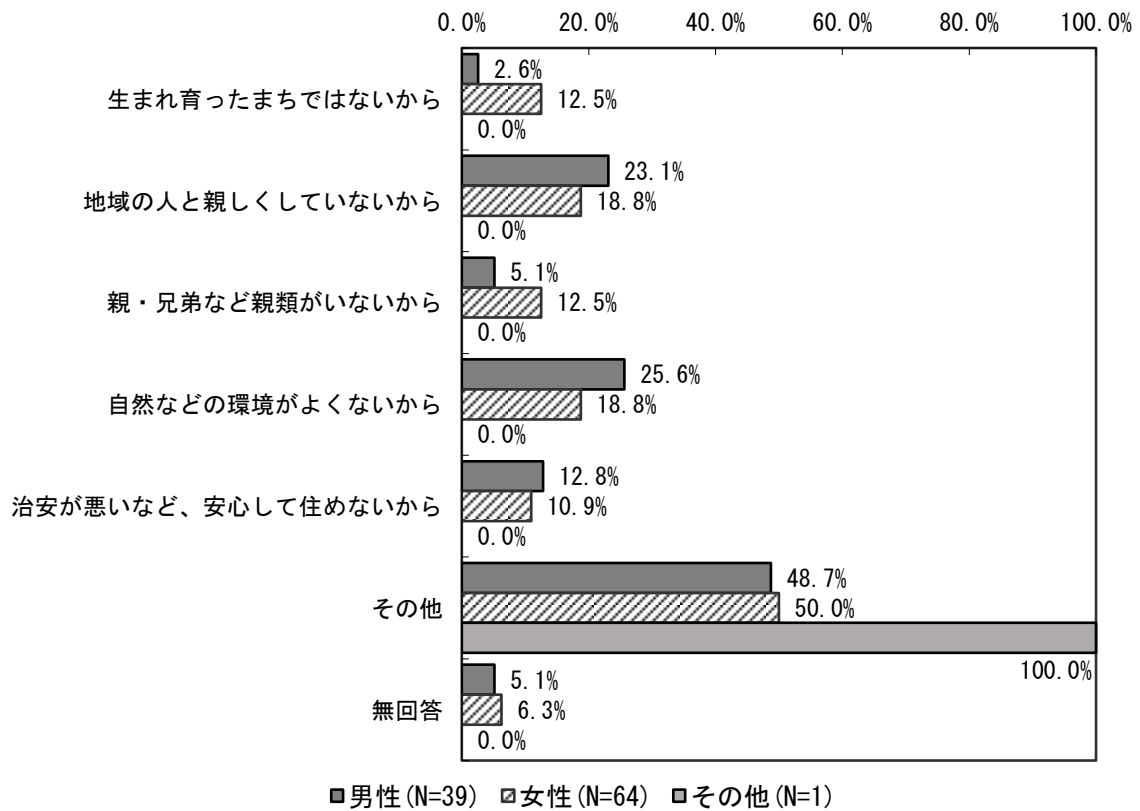


図 安心を感じていない理由(3つ以内で複数回答)(年齢区分別)

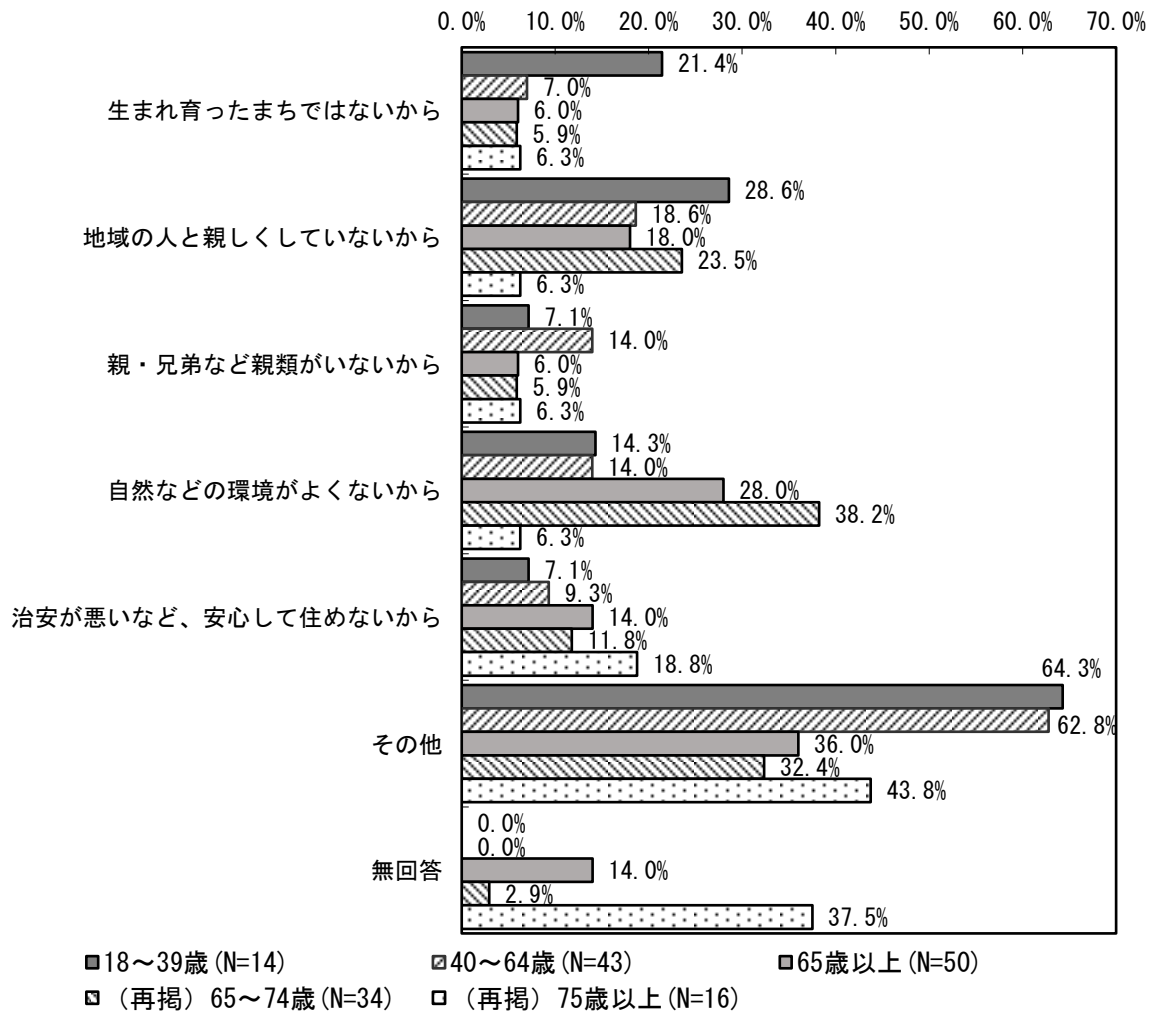
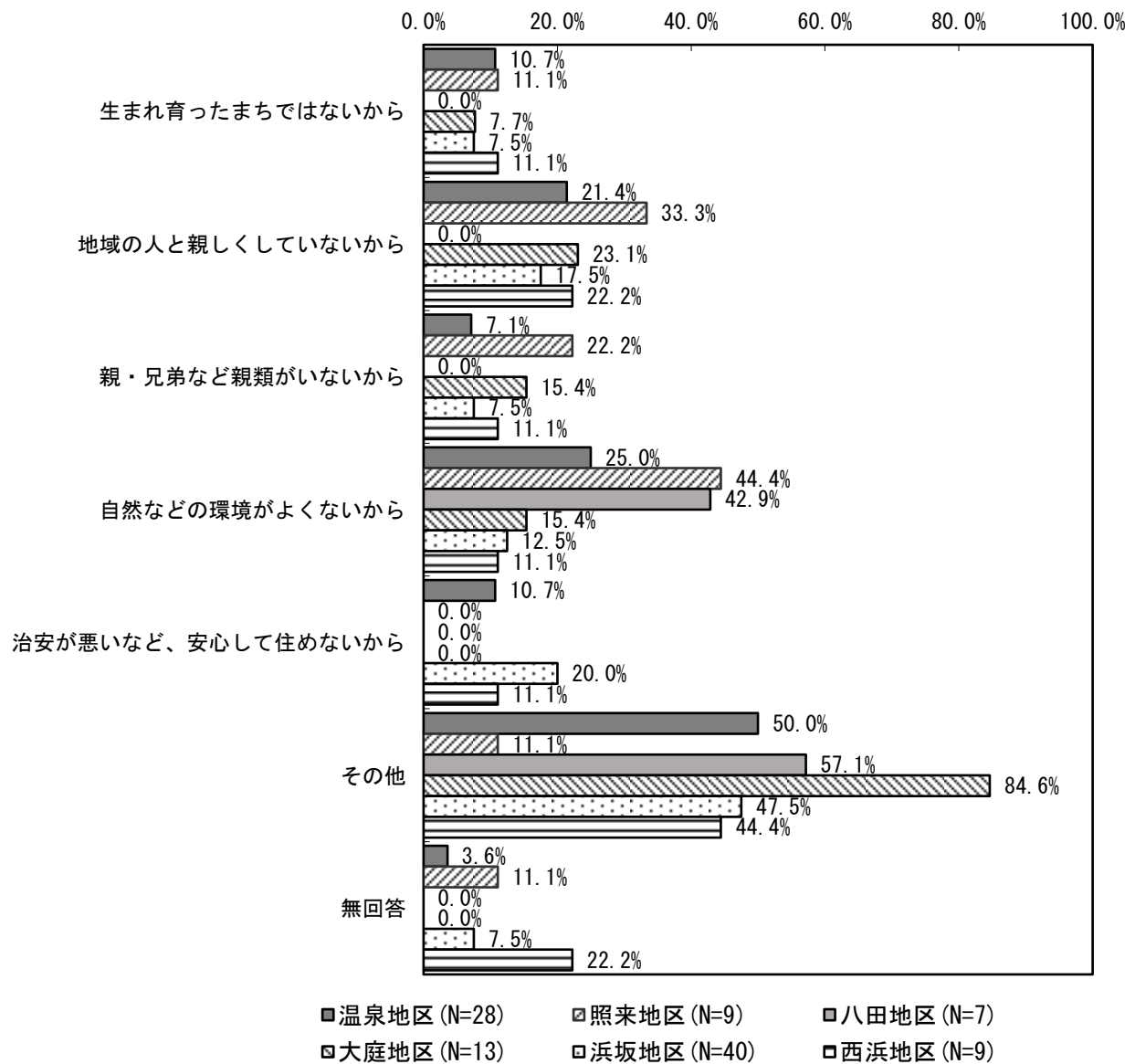


図 安心を感じていない理由(3つ以内で複数回答)(地区別)



（４）新温泉町での今後の居住意向〈単数回答〉

〔問8 これからも引き続いて、新温泉町にお住まいになりますか。（1つだけ〇）〕

新温泉町での今後の居住意向についてみると、「住み続けたい」（68.0％）が多く約7割、次いで「わからない」（23.8％）、「住み続けたくない」（3.7％）となっています。

前回の調査結果から比較すると、大きな変化は見られません。

年齢区分別にみると、年代が高いほど、「住み続けたい」が多くなっています。

居住年数別にみると、「住み続けたい」が最も多いのは、「30年以上」（73.5％）となっているのに対して、「住み続けたくない」が最も多いのは、「5～10年未満」（16.7％）となっています。

図 新温泉町での今後の居住意向

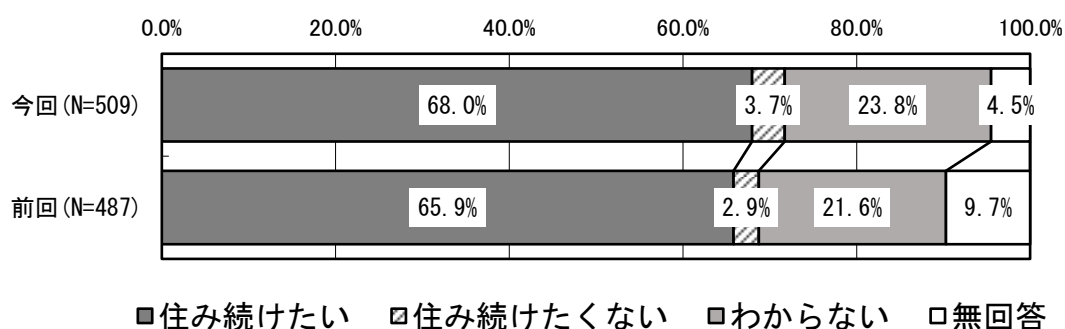


図 新温泉町での今後の居住意向(男女別)

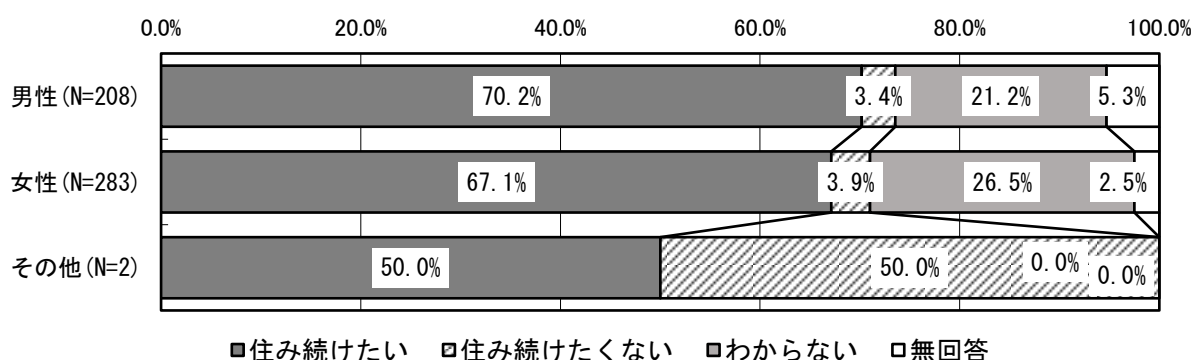


図 新温泉町での今後の居住意向(年齢区分別)

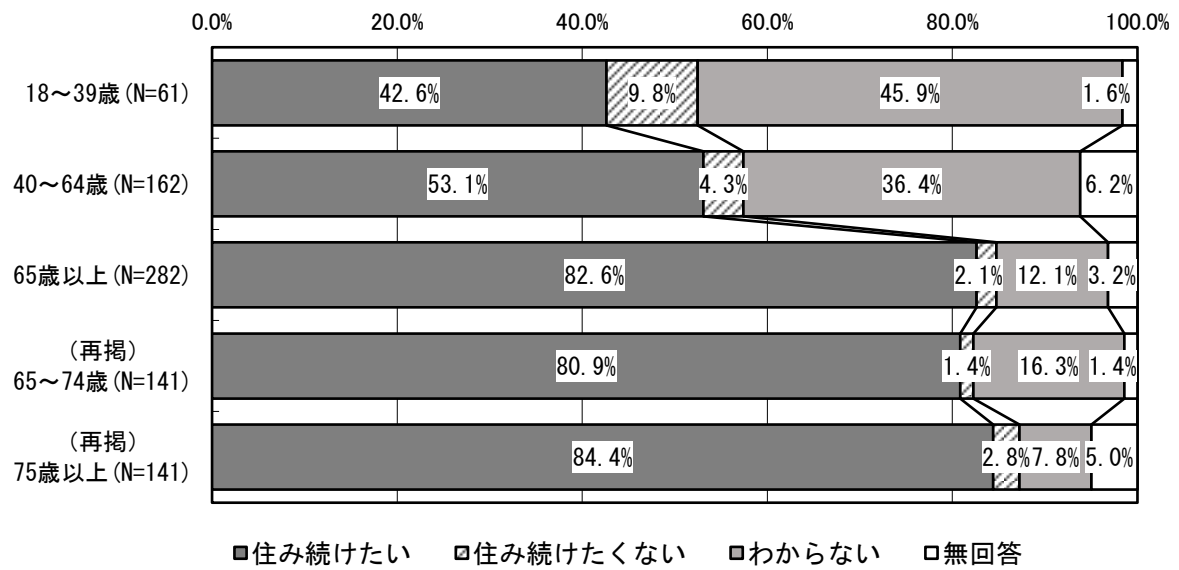


図 新温泉町での今後の居住意向(地区別)

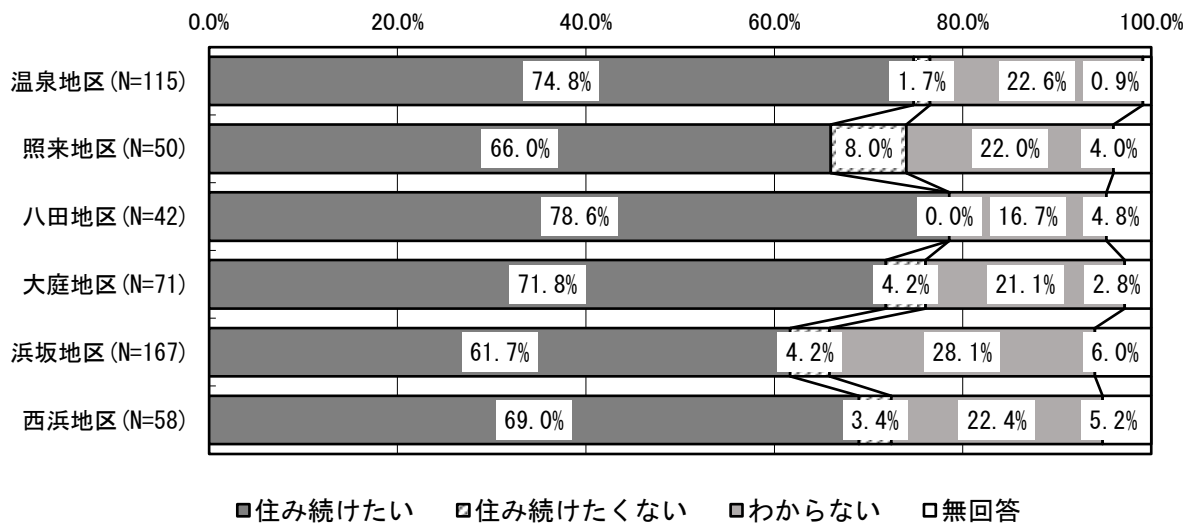
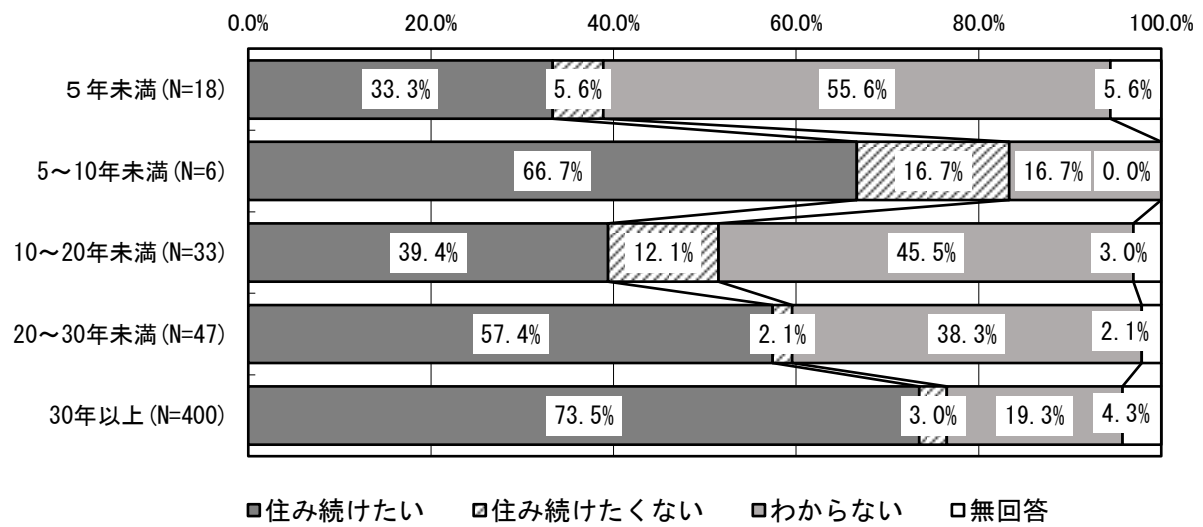


図 新温泉町での今後の居留意向(居住年数別)



(5)「支えあい・助けあう地域」の範囲〈単数回答〉

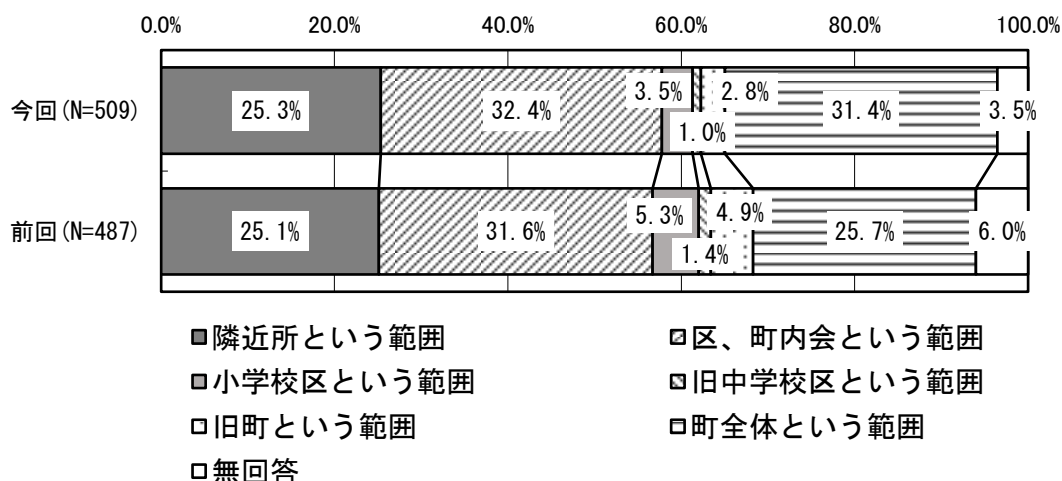
〔問9 あなたにとって「支えあい・助けあう地域」とはどの範囲のことをいいますか。(1つだけ○)〕

「支えあい・助けあう地域」の範囲についてみると、「区、町内会という範囲」(32.4%)が最も高く、次いで「町全体という範囲」(31.4%)、「隣近所という範囲」(25.3%)となっています。

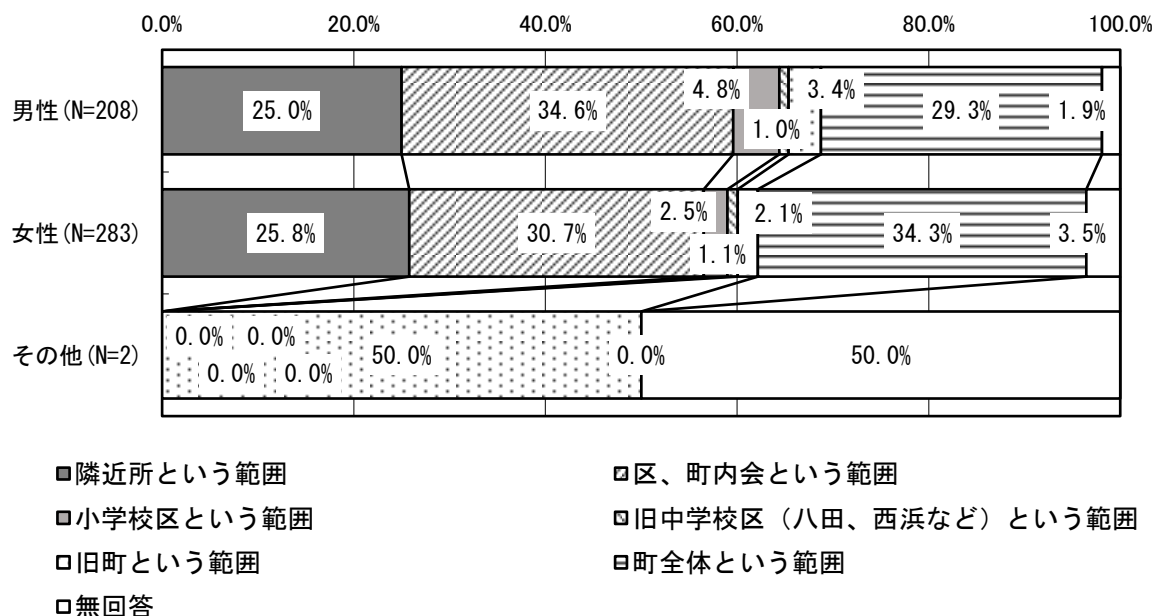
前回の調査結果から比較すると、上位3項目の順位は同じ結果となっており、「町全体という範囲」は5.7ポイント増加しています。

年齢区分別にみると、年代が高いほど「隣近所という範囲」が増加しています。

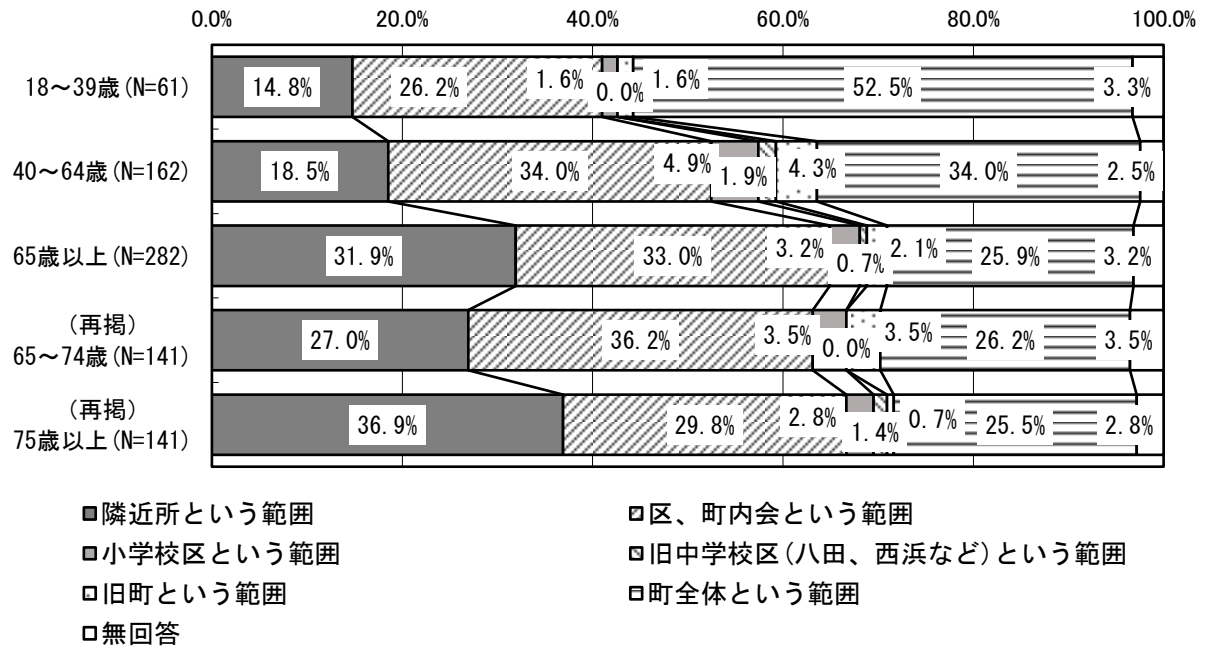
図「支えあい・助けあう地域」の範囲



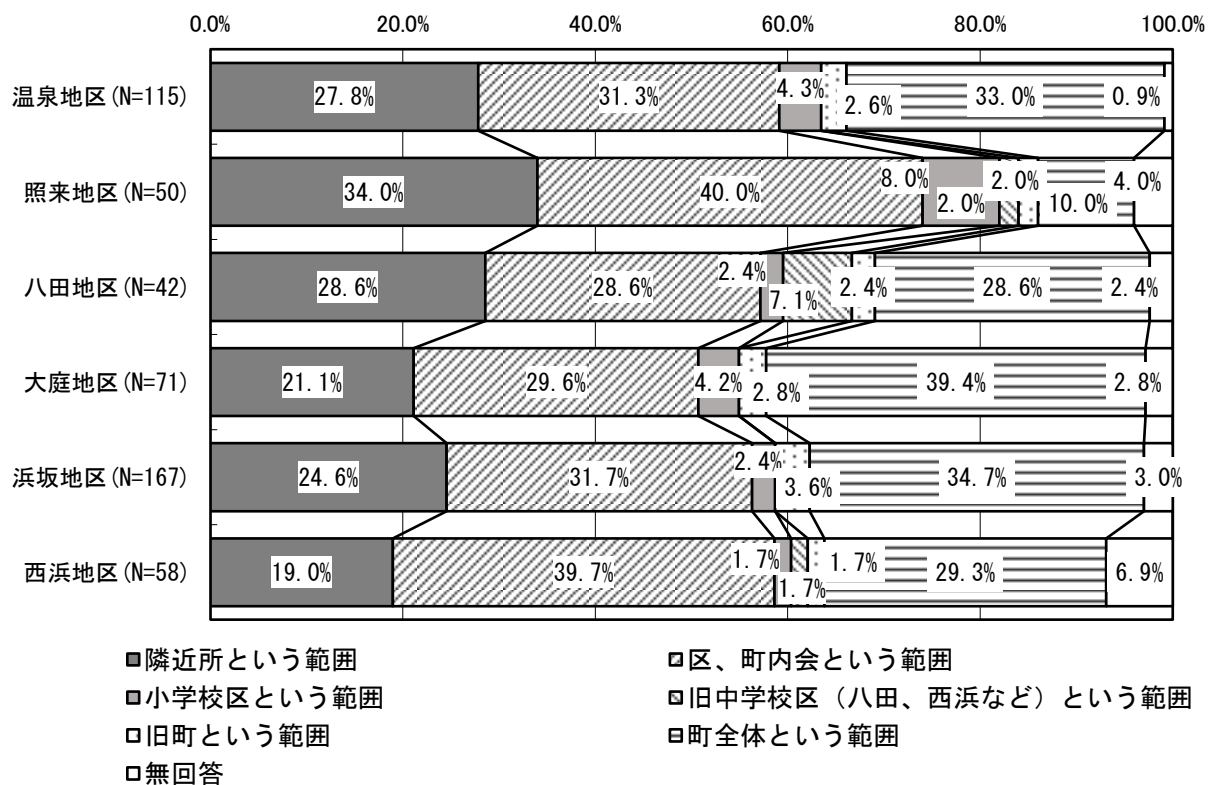
図「支えあい・助けあう地域」の範囲(男女別)



図「支えあい・助けあう地域」の範囲(年齢区分別)



図「支えあい・助けあう地域」の範囲(地区別)



（６）近所づきあいの程度〈単数回答〉

〔問 10 あなたはご近所とどのようなおつきあいをされていますか。（最も近いものに1つだけ〇）〕

近所づきあいの程度についてみると、「世間話や立ち話をする程度」（40.1％）が最も高く、次いで「会えばあいさつをかわす程度」（26.5％）、「困っているときに相談したり、助けあう程度」（24.8％）となっています。

前回の調査結果から比較すると、上位３項目の順位は同じ結果となっており、「世間話や立ち話をする程度」が5.8ポイント増加しています。

年齢区分別でみると、年代が高いほど、「困っているときに相談したり、助けあう程度」が高くなっています。また、年代が低いほど、「会えばあいさつをかわす程度」が高くなっています。

地区別にみると、「困っているときに相談したり、助けあう程度」が、「八田地区」（45.2％）、「照来地区」（38.0％）で高くなっています。

図 近所づきあいの程度

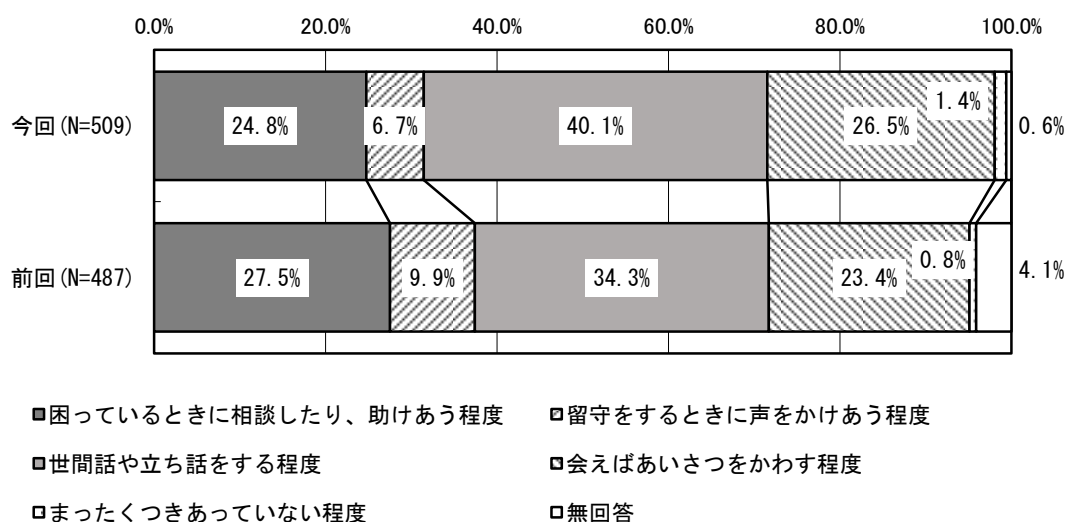


図 近所づきあいの程度（男女別）

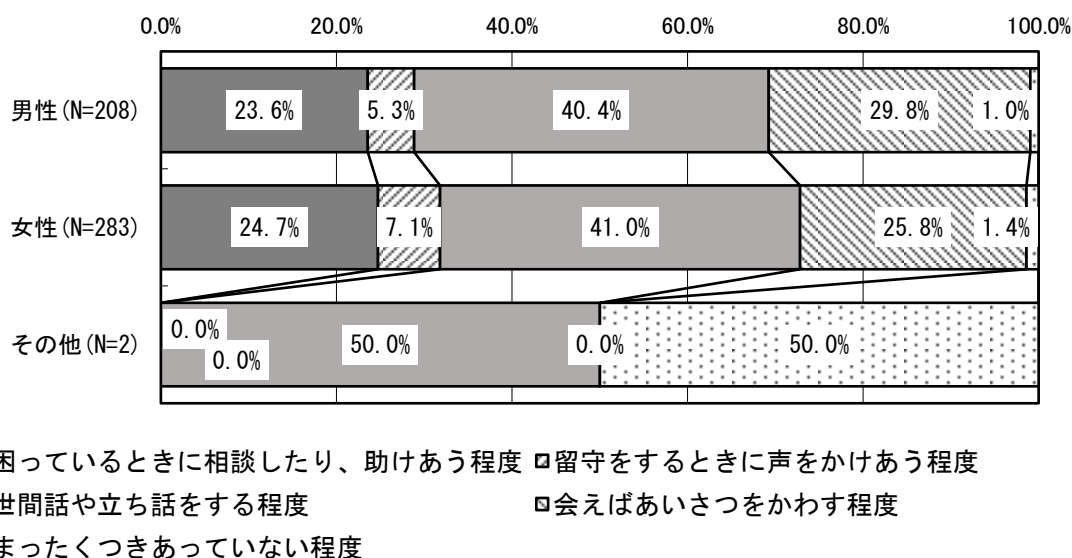
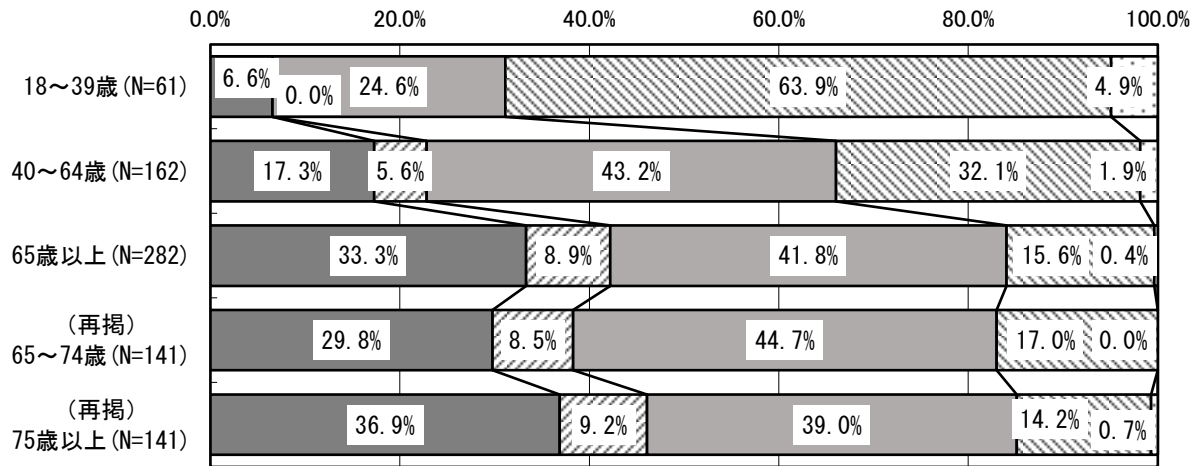
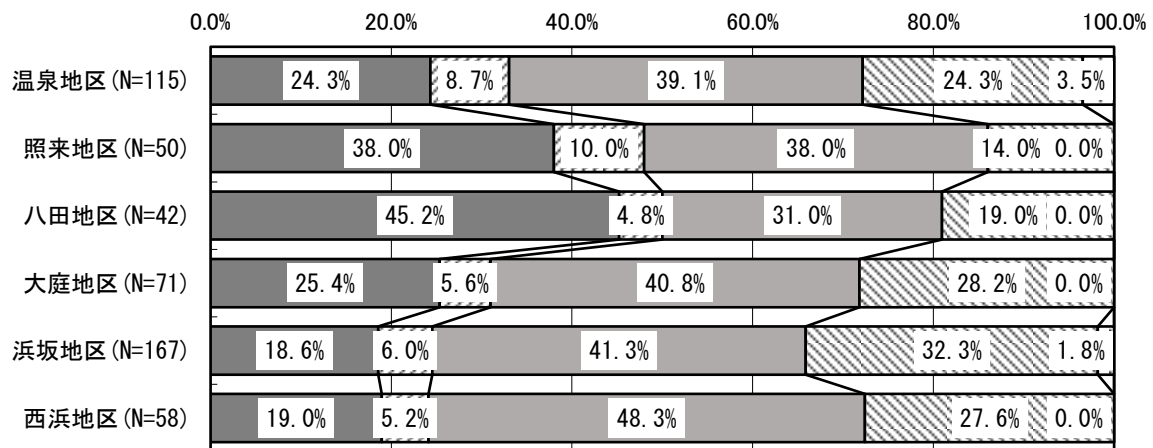


図 近所づきあいの程度（年齢区分別）



- 困っているときに相談したり、助けあう程度
- 留守をするときに声をかけあう程度
- 世間話や立ち話をする程度
- 会えばあいさつをかわす程度
- まったくつきあっていない程度

図 近所づきあいの程度（地区別）



- 困っているときに相談したり、助けあう程度
- 留守をするときに声をかけあう程度
- 世間話や立ち話をする程度
- 会えばあいさつをかわす程度
- まったくつきあっていない程度

(7) 新温泉町は、高齢者にとって住みやすいか〈単数回答〉

〔問 11(1) 新温泉町の住みよさについておうかがいします。新温泉町は、高齢者にとって住みやすいとお考えですか。(1つだけ○)〕

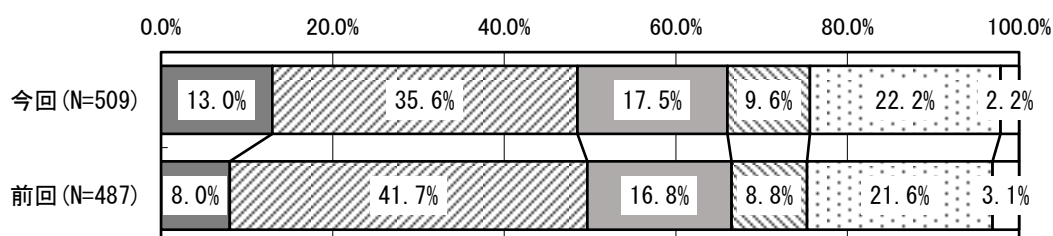
新温泉町は、高齢者にとって住みやすいかについてみると、「どちらかといえば住みやすい」(35.6%)が最も高く、次いで「わからない、何ともいえない」(22.2%)、「どちらかといえば住みにくい」(17.5%)となっています。

前回の調査結果から比較すると、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた“住みやすい”と答えた人の割合と、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合わせた“住みにくい”と答えた人の割合に大きな変化は見られません。

年齢区分別にみると、“住みやすい”と答えた人の割合は、「65歳以上」が最も高くなっています。

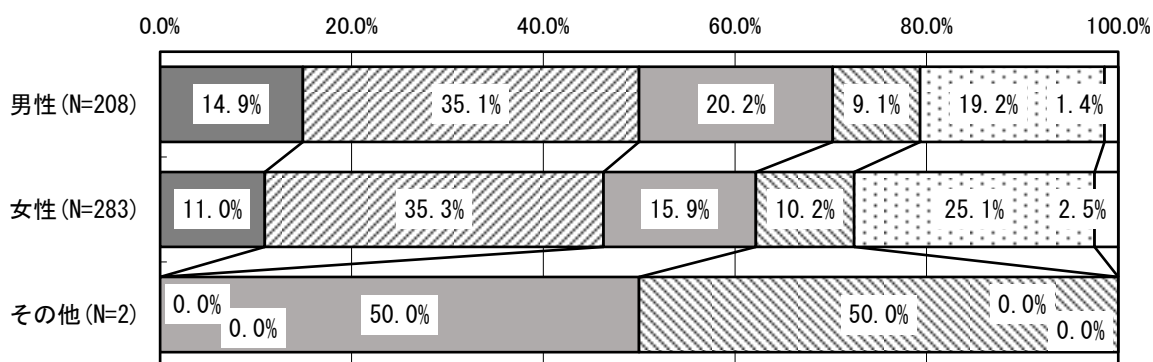
地区別にみると、「温泉地区」「大庭地区」「浜坂地区」「西浜地区」では、“住みやすい”が5割以上に対して、「照来地区」「八田地区」では4割以下となっています。特に「八田地区」では、“住みにくい”の方が“住みやすい”より多くなっています。

図 新温泉町は、高齢者にとって住みやすいか



- 住みやすい
- どちらかといえば住みにくい
- わからない、何ともいえない
- どちらかといえば住みやすい
- 住みにくい
- 無回答

図 新温泉町は、高齢者にとって住みやすいか(男女別)



- 住みやすい
- どちらかといえば住みにくい
- わからない、何ともいえない
- どちらかといえば住みやすい
- 住みにくい
- 無回答

図 新温泉町は、高齢者にとって住みやすいか(年齢区分別)

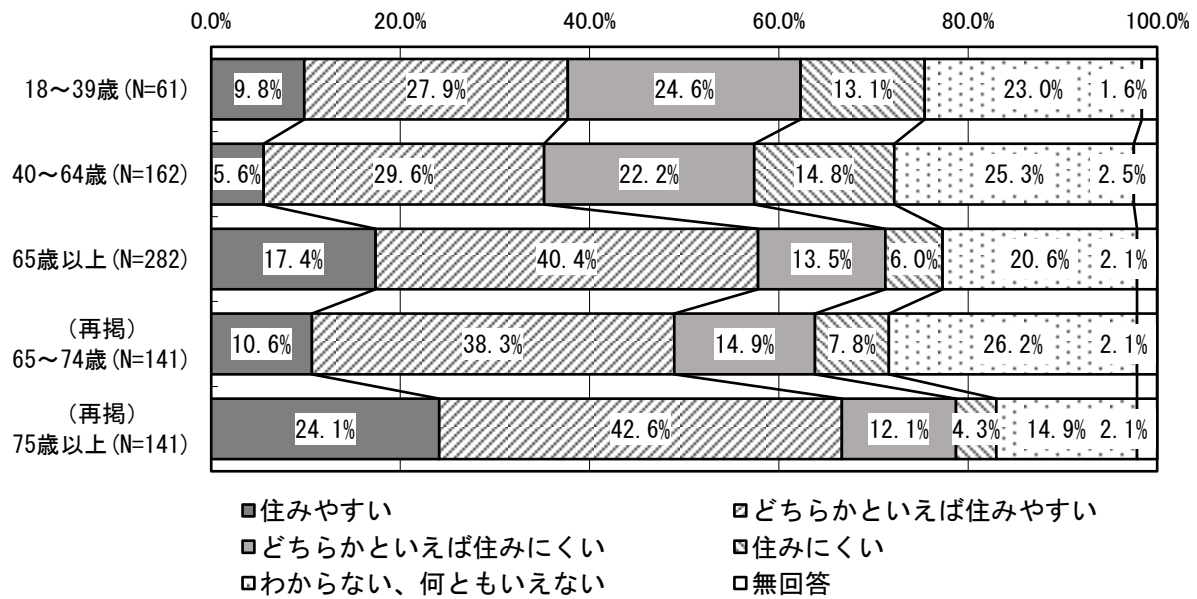
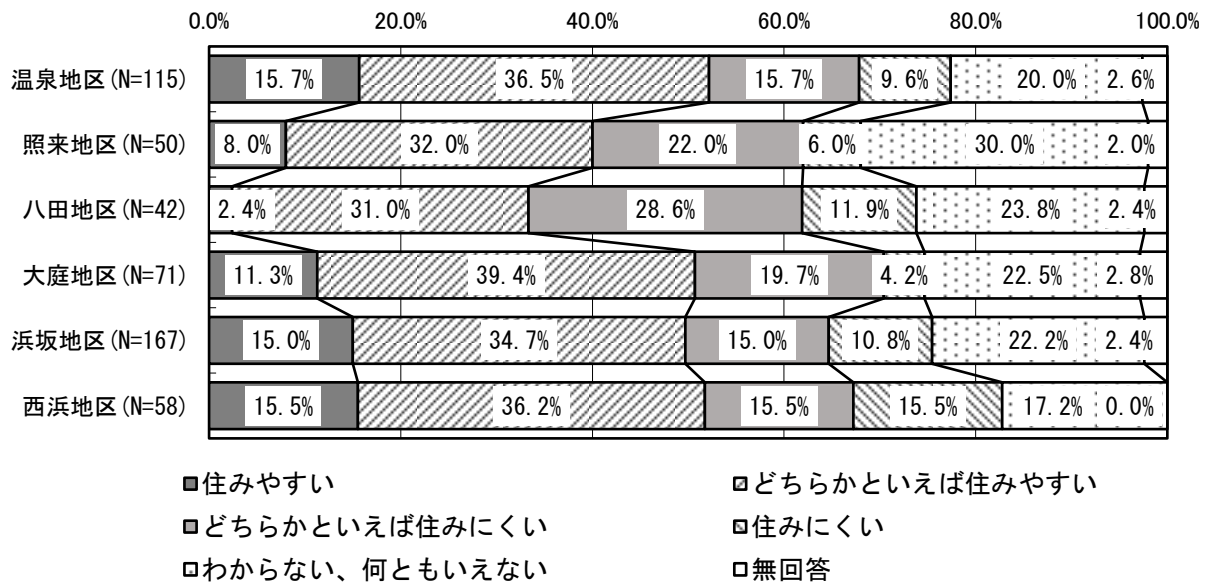


図 新温泉町は、高齢者にとって住みやすいか(地区別)



（８）新温泉町は、障がいのある人にとって住みやすいか〈単数回答〉

〔問 11(2) 新温泉町は、障がいのある人にとって住みやすいとお考えですか。(1つだけ○)〕

新温泉町は、障がいのある人にとって住みやすいかについてみると、「わからない、何ともいえない」(38.7%)が最も高く、次いで「どちらかといえば住みにくい」(23.2%)、「住みにくい」(17.5%)となっています。

前回の調査結果から比較すると、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた“住みやすい”と答えた人の割合と、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合わせた“住みにくい”と答えた人の割合に大きな変化は見られません。

年齢区分別にみると、“住みやすい”と答えた人の割合は、「65 歳以上」が最も高くなっています。

地区別にみると、すべての地区で“住みにくい”が“住みやすい”を上回っています。

図 新温泉町は、障がいのある人にとって住みやすいか

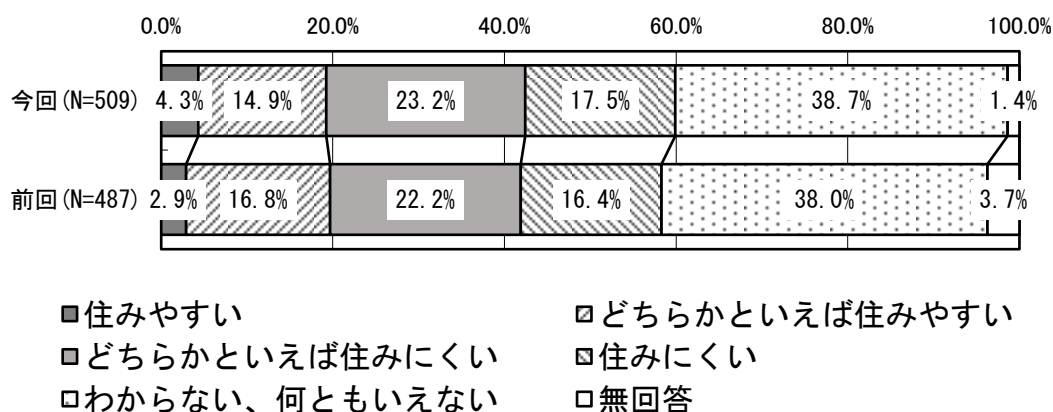


図 新温泉町は、障がいのある人にとって住みやすいか(男女別)

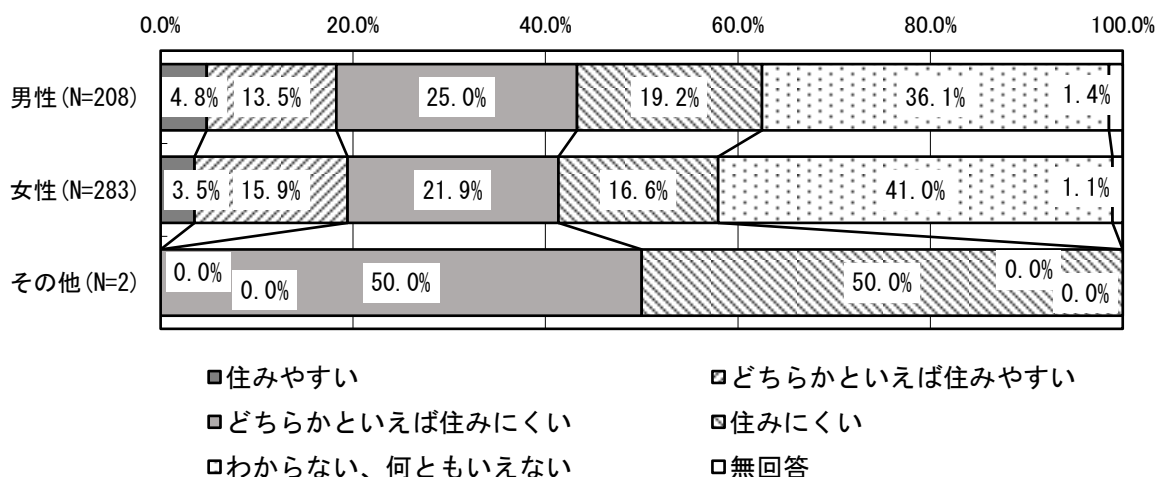


図 新温泉町は、障がいのある人にとって住みやすいか(年齢区分別)

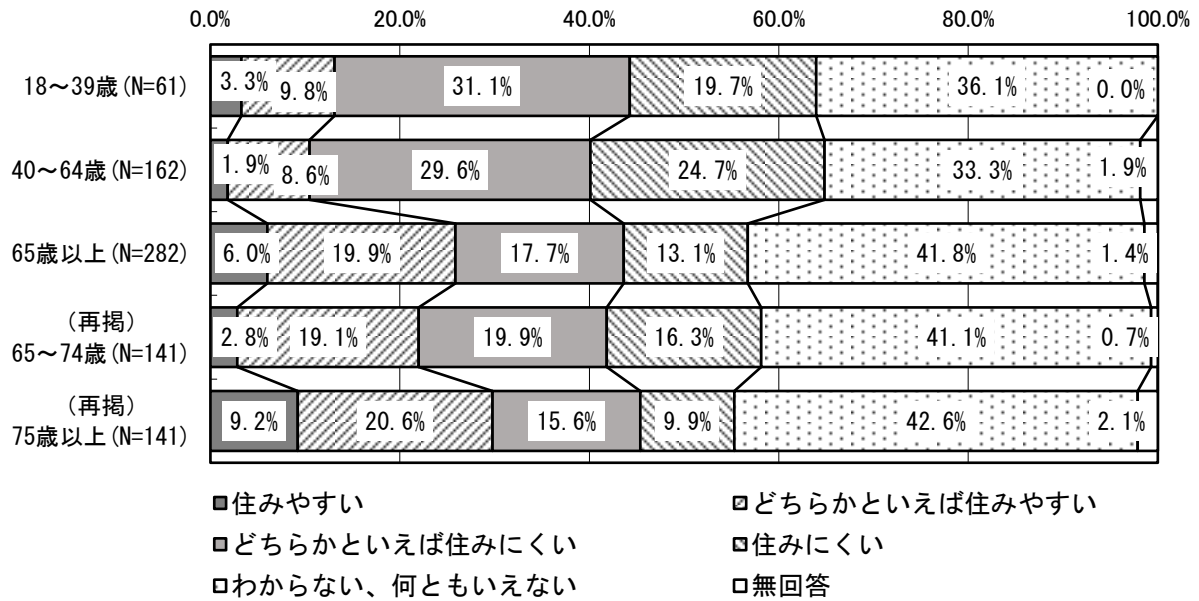
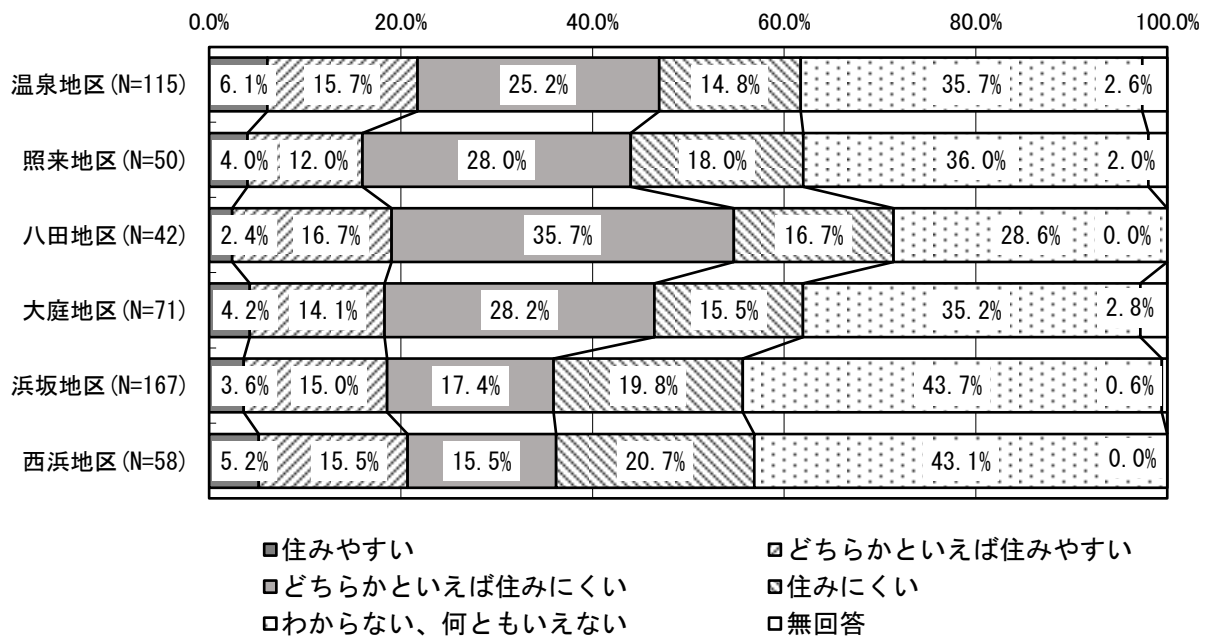


図 新温泉町は、障がいのある人にとって住みやすいか(地区別)



（９）新温泉町は、子どもにとって住みやすいか〈単数回答〉

〔問 11(3) 新温泉町は、子どもにとって住みやすいとお考えですか。(1つだけ〇)〕

新温泉町は、子どもにとって住みやすいかについてみると、「どちらかといえば住みやすい」(33.6%)が最も高く、次いで「わからない、何ともいえない」(30.8%)、「どちらかといえば住みにくい」(15.1%)となっています。

前回の調査結果から比較すると、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合わせた“住みやすい”と答えた人の割合と、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合わせた“住みにくい”と答えた人の割合に大きな変化は見られません。

年齢区分別にみると、「18～39歳」では“住みにくい”が42.7%と他の年代に比べて特に多くなっています。

地区別にみると、「浜坂地区」「西浜地区」では、“住みやすい”が多くなっているのに対して、「大庭地区」「八田地区」「照来地区」「温泉地区」では、“住みにくい”が「浜坂地区」「西浜地区」に比べて多くなっています。

図 新温泉町は、子どもにとって住みやすいか

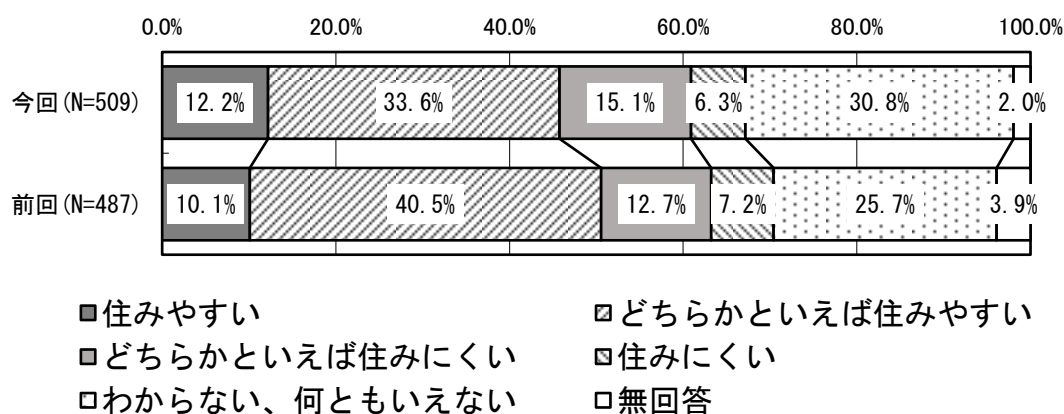


図 新温泉町は、子どもにとって住みやすいか(男女別)

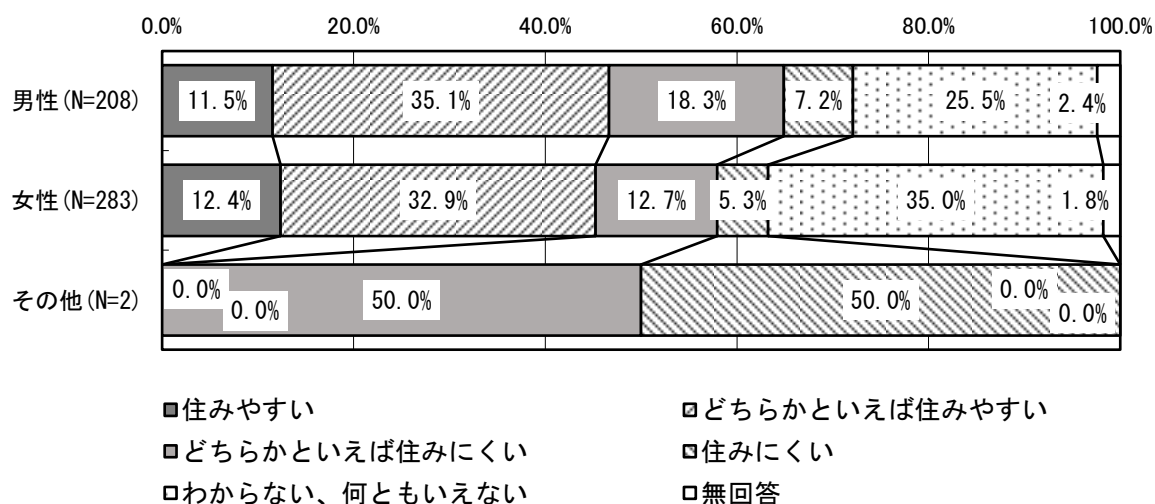


図 新温泉町は、子どもにとって住みやすいか(年齢区分別)

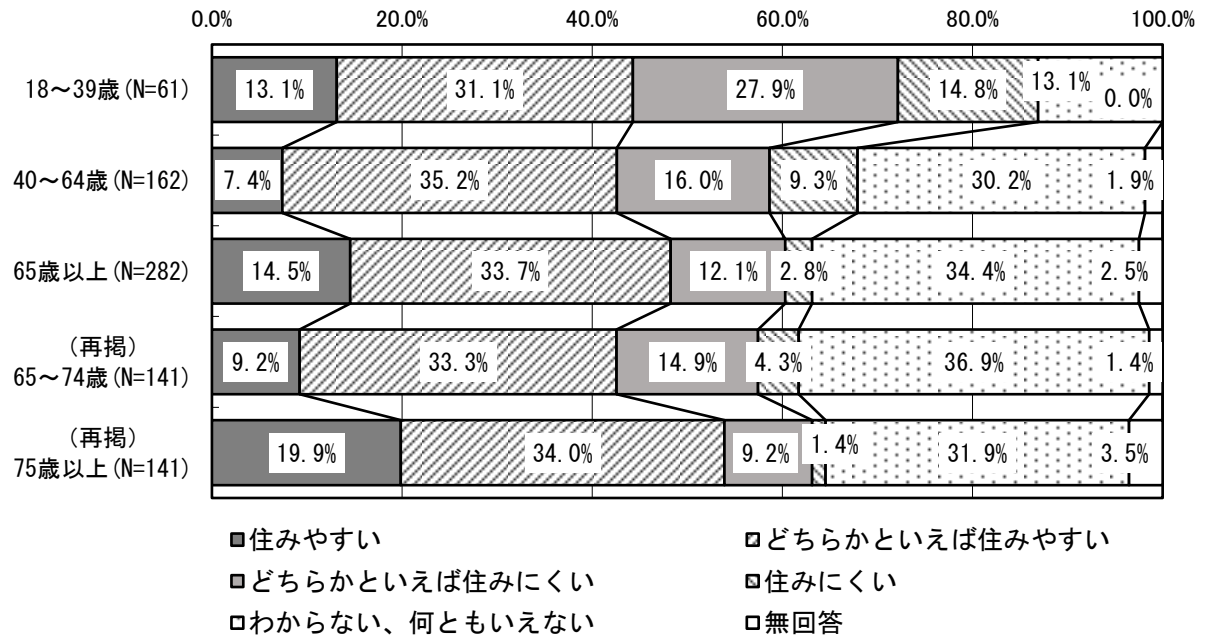
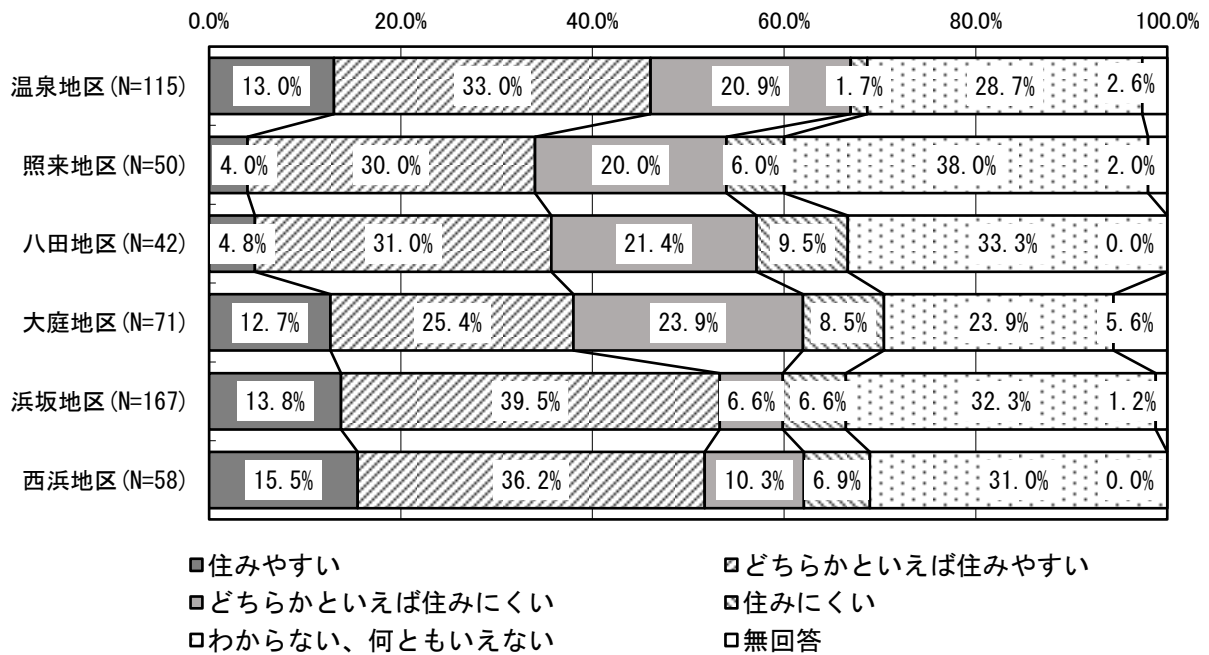


図 新温泉町は、子どもにとって住みやすいか(地区別)



(10) 住んでいる地域の住みやすいと思うところ〈複数回答〉

〔問 11(4) お住まいの地域で住みやすいと思うところは何ですか。(あてはまるものすべてに○)〕

住んでいる地域の住みやすいと思うところについてみると、「近隣に住む住民間の関係がよいところ」(42.8%)が最も高く、次いで「買い物などの日常生活が便利であるところ」(25.9%)、「特にない」(21.2%)となっています。

前回の調査結果から比較すると、上位3項目の順位は同じ結果となっています。

年齢区分別にみると、「40～64 歳」と「65歳以上」は、「近隣に住む住民間の関係がよいところ」が最も高くなっています。

地区別にみると、すべての地区で、「近隣に住む住民間の関係がよいところ」が最も高くなっています。

図 住んでいる地域の住みやすいと思うところ(複数回答)

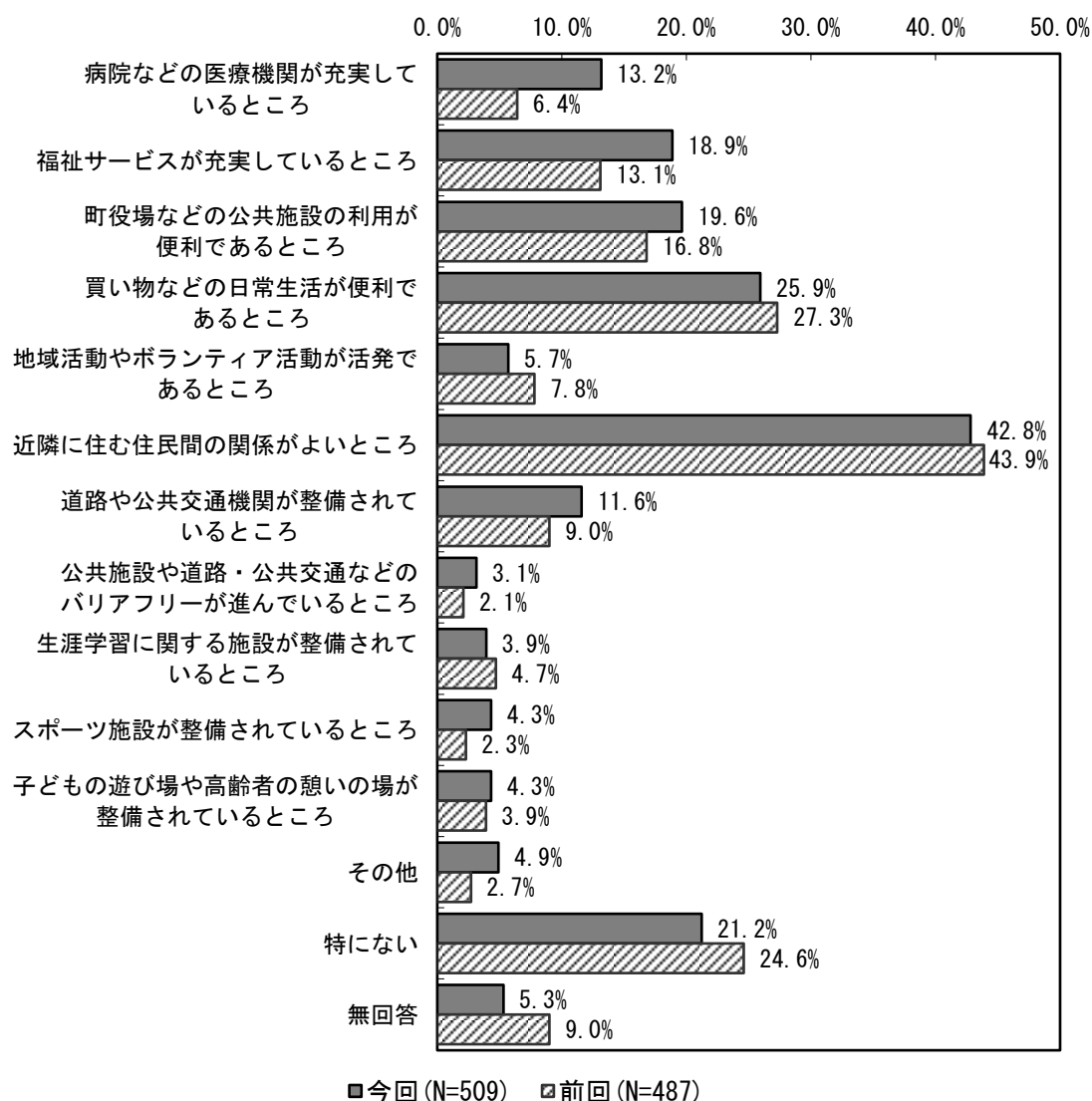


図 住んでいる地域の住みやすいと思うところ(複数回答)(男女別)

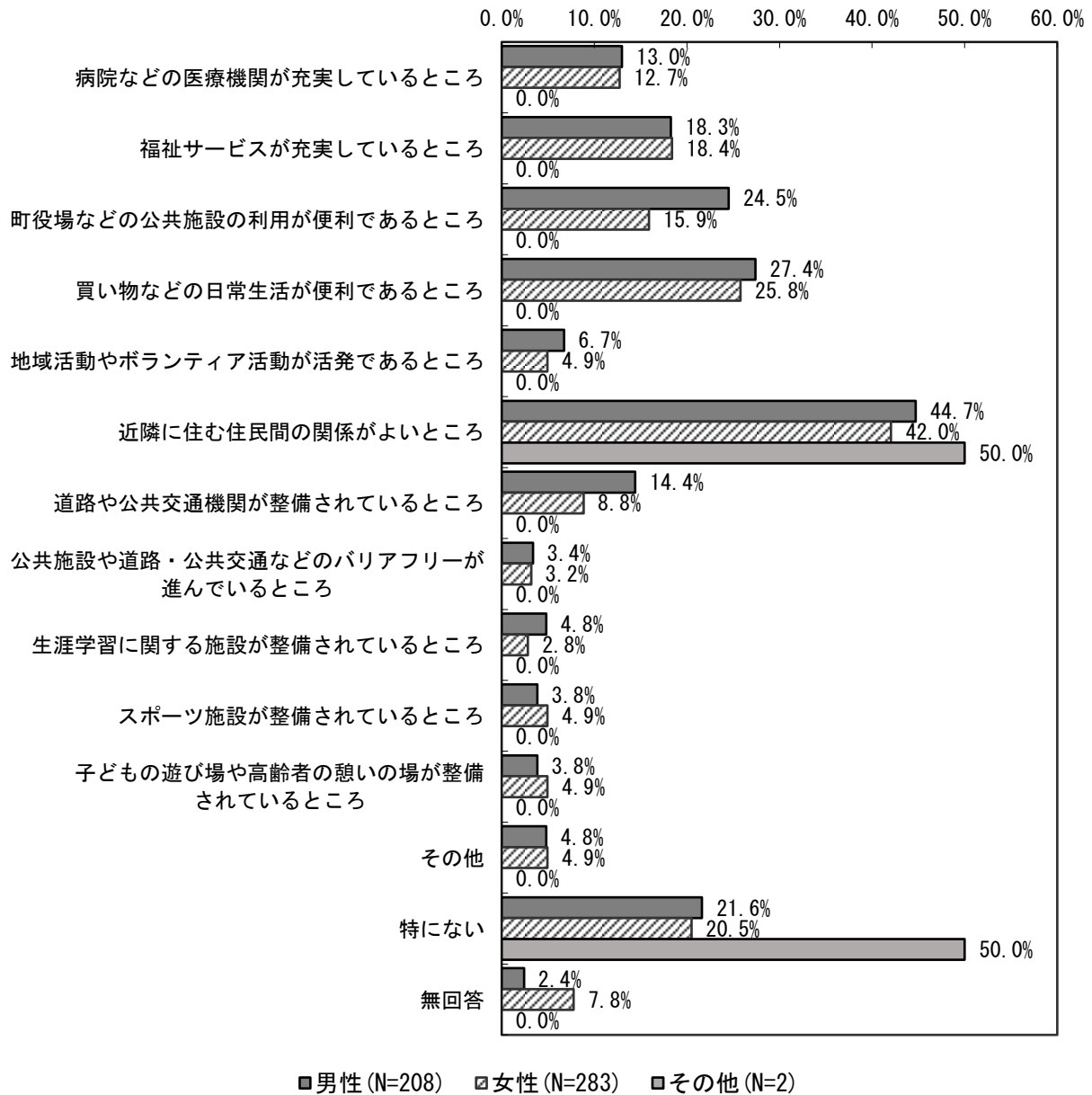


図 住んでいる地域の住みやすいと思うところ(複数回答)(年齢区分別)

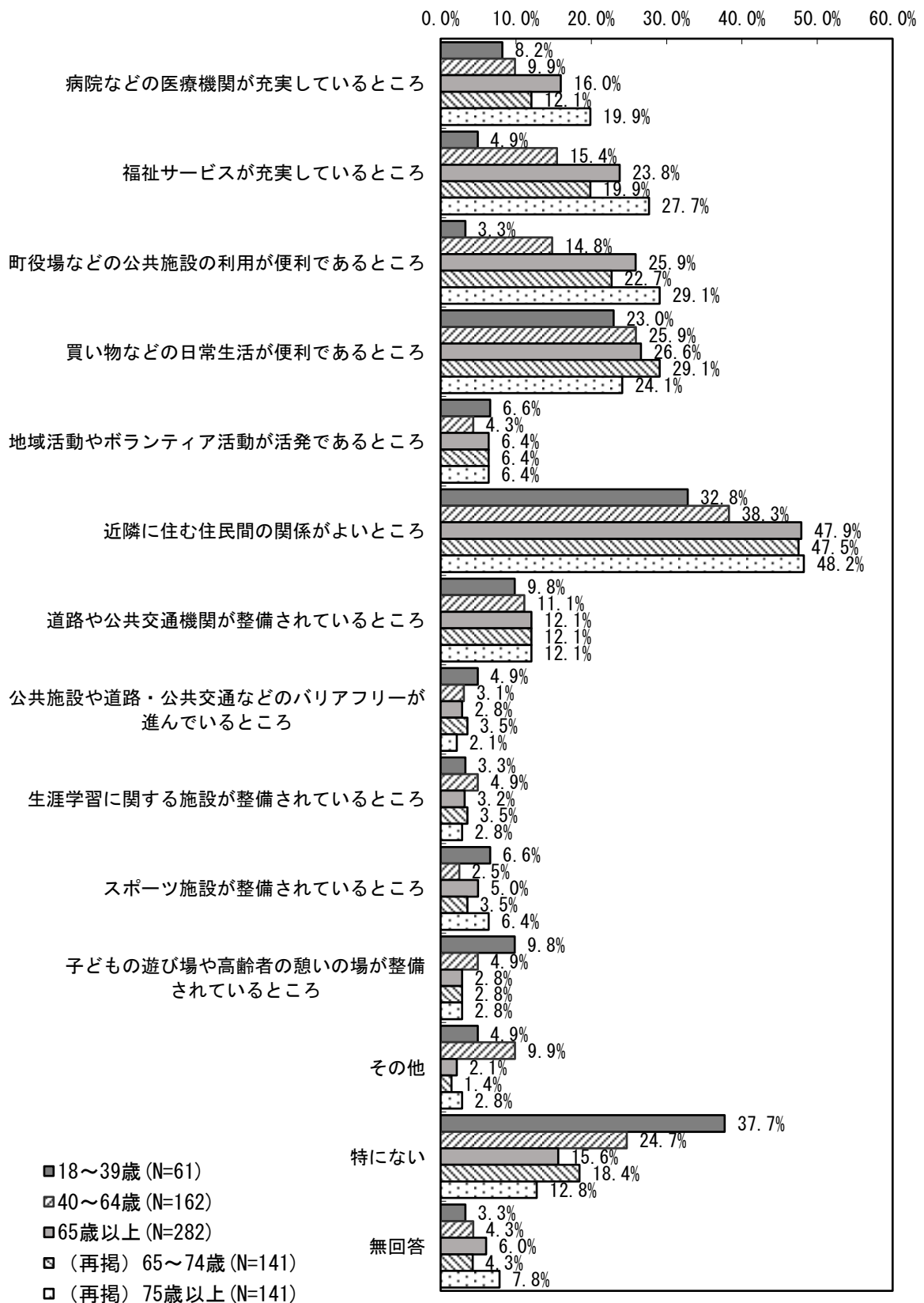
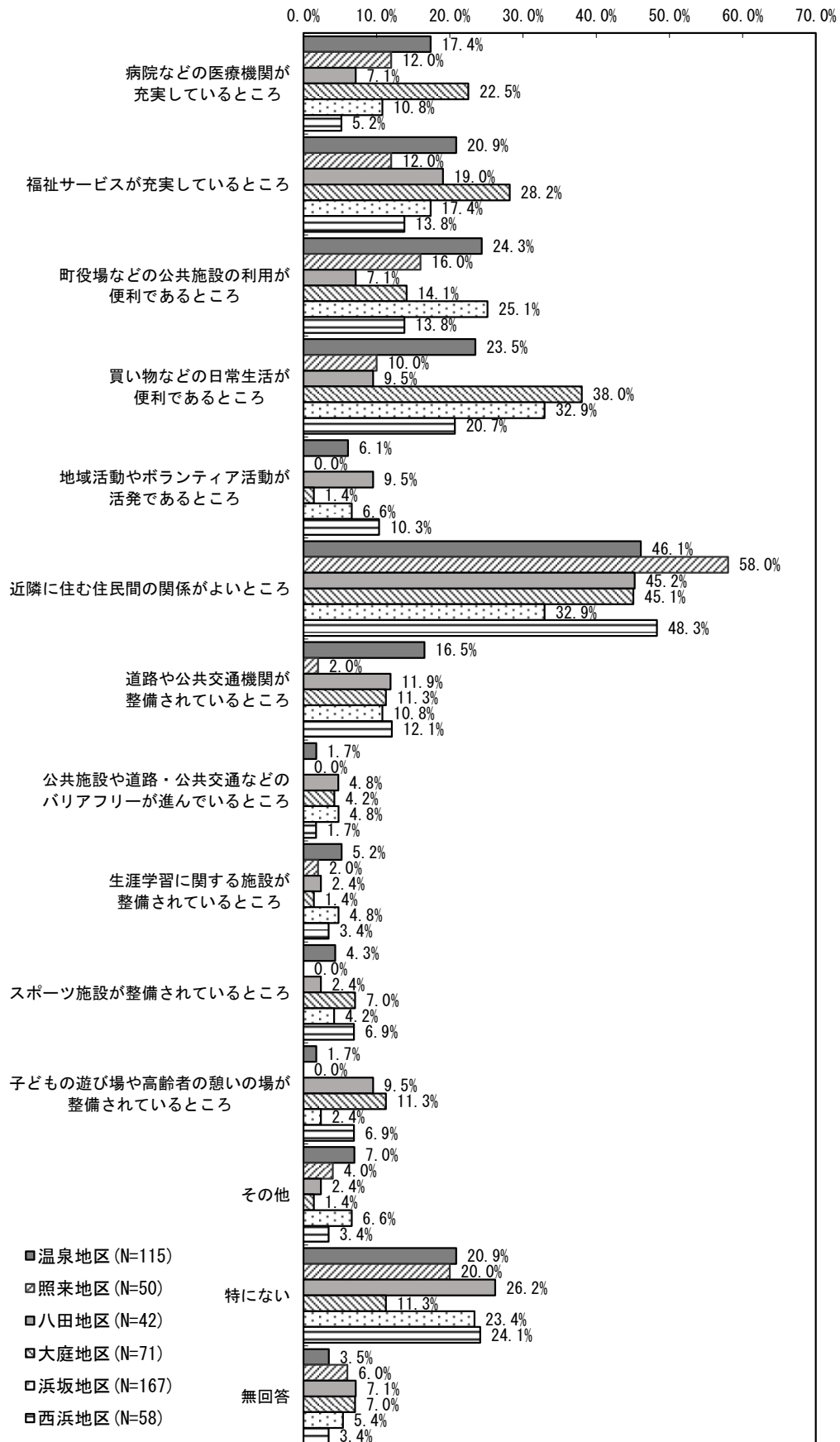


図 住んでいる地域の住みやすいと思うところ(複数回答)(地区別)



(11) 住んでいる地域の課題であると思うところ〈複数回答〉

〔問 11(5) お住まいの地域で課題であると思うところは何ですか。(あてはまるものすべてに○)〕

住んでいる地域の課題であると思うところについてみると、「病院などの医療機関が充実していないところ」(57.2%)が最も高く約6割、次いで「買い物などの日常生活が便利でないところ」(42.2%)、「子どもの遊び場や高齢者の憩いの場が整備されていないところ」(35.6%)となっています。

前回の調査結果から比較すると、上位3項目の順位は同じ結果となっており、「買い物などの日常生活が便利でないところ」が5.4ポイント増加しています。

年齢区分別にみると、すべての年代で「病院などの医療機関が充実していないところ」が最も高くなっています。

地区別にみると、「温泉地区」、「照来地区」、「八田地区」では、「買い物などの日常生活が便利でないところ」が最も高く、「大庭地区」、「浜坂地区」、「西浜地区」では、「病院などの医療機関が充実していないところ」が最も高くなっています。

図 住んでいる地域の課題であると思うところ(複数回答)

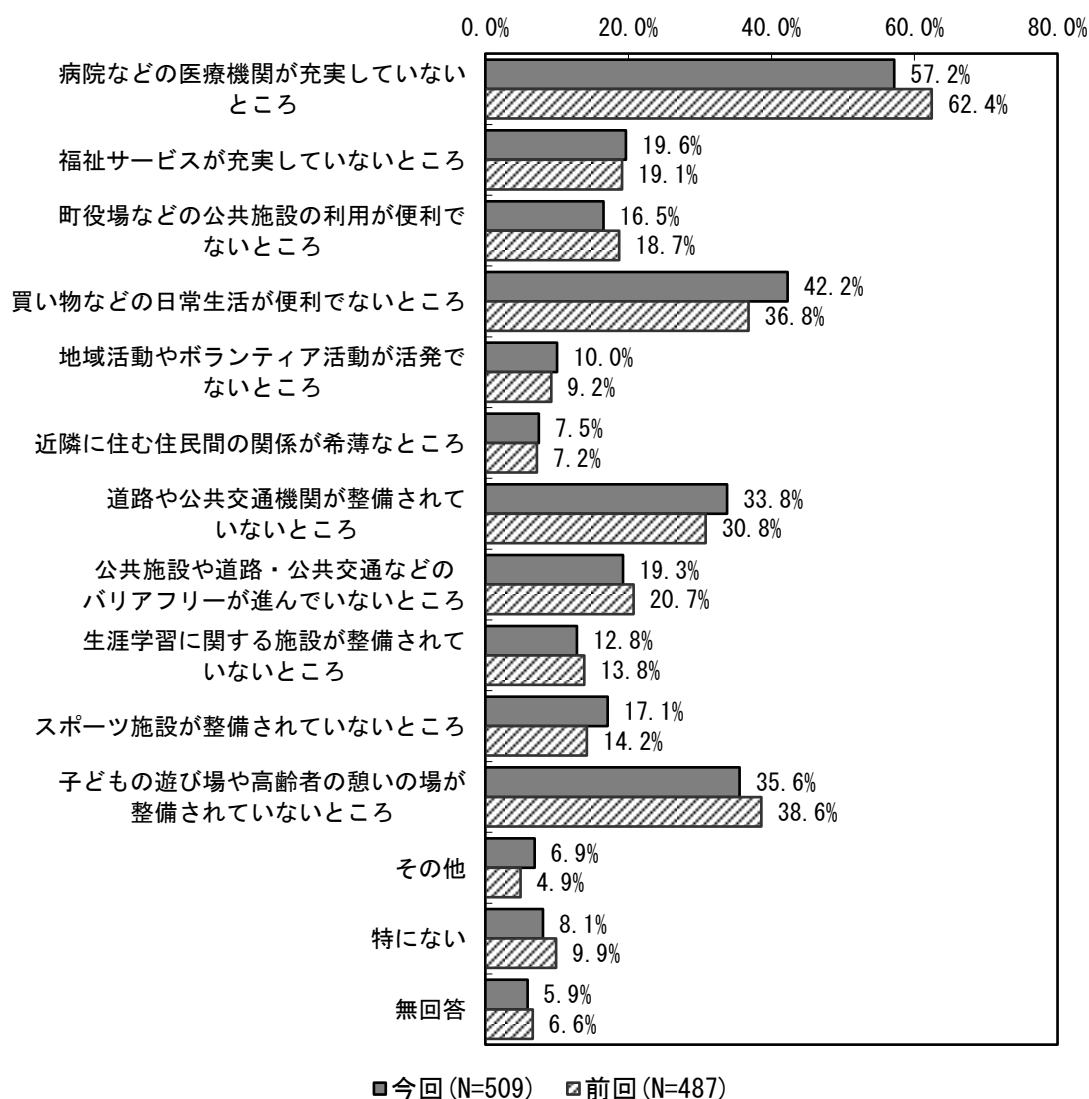
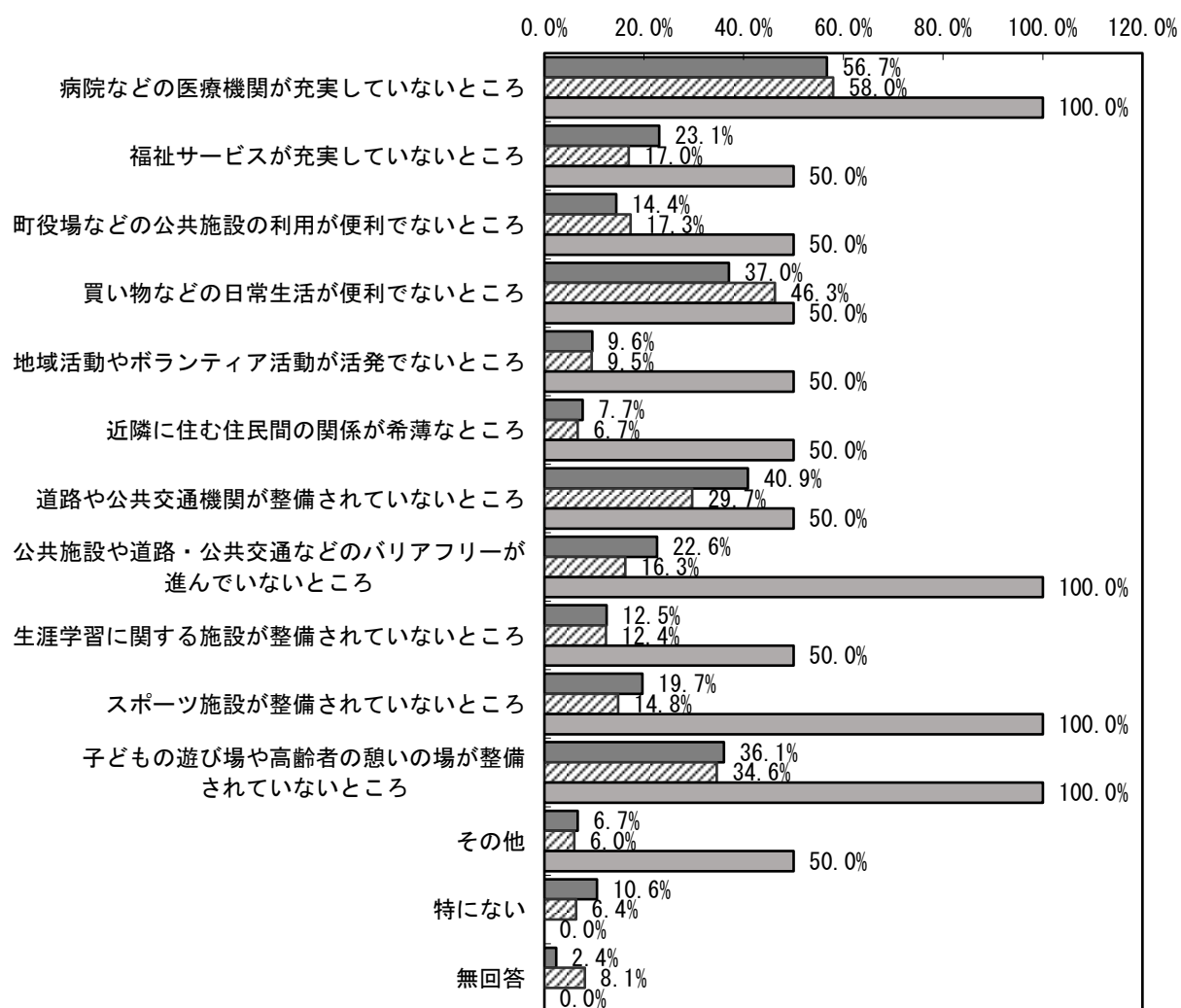


図 住んでいる地域の課題であると思うところ(複数回答)(男女別)



■男性(N=208) ■女性(N=283) ■その他(N=2)

図 住んでいる地域の課題であると思うところ(複数回答)(年齢区分別)

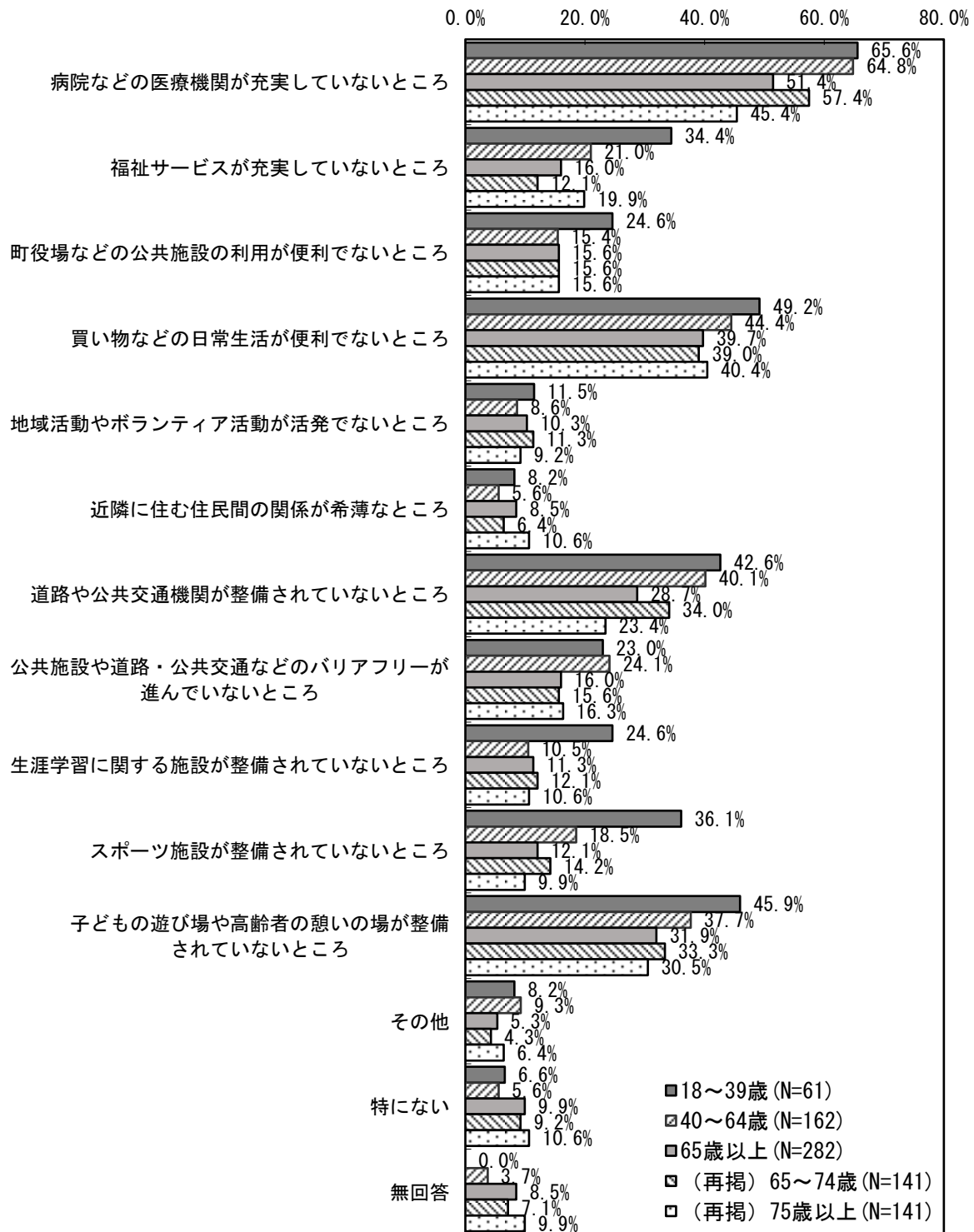
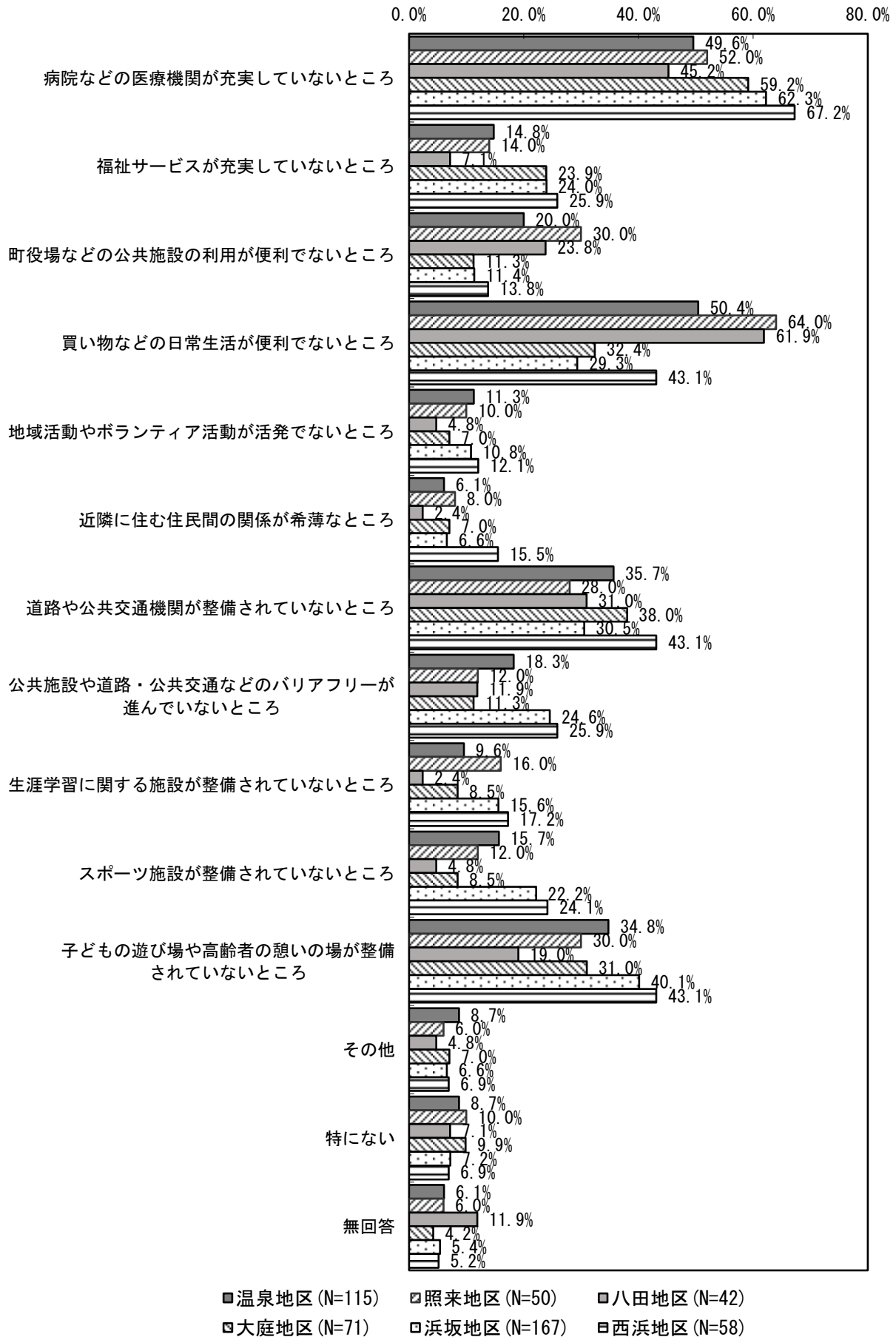


図 住んでいる地域の課題であると思うところ(複数回答)(地区別)



（12）地域での人とのかかわりに対してどのように考えるか〈単数回答〉

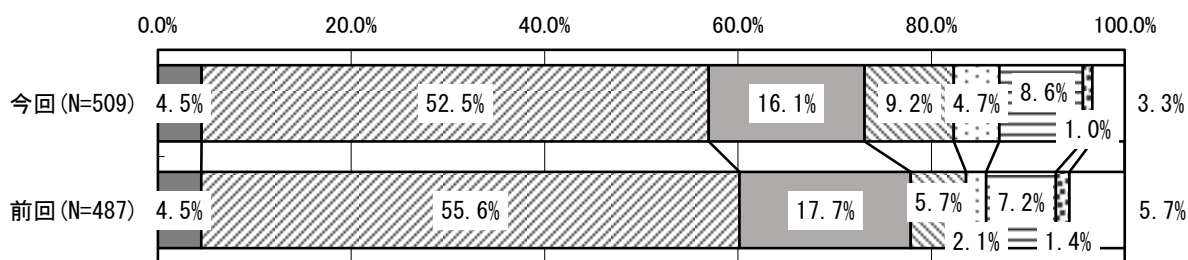
〔問 12 あなたは、地域での人とのかかわりに対してどのようにお考えですか。（最も近いものに1つだけ〇）〕

地域での人とのかかわりに対してどのように考えるかについてみると、「いざという時のためにも隣近所を中心とした助けあいやつきあいを大切にしたい」（52.5%）が最も高く、次いで「住民がお互いに協力して地域をよくする活動に参加していきたい」（16.1%）、「時間的に余裕のある人ややる気のある人が地域とかかわる方がよい」（9.2%）となっています。

前回の調査結果から比較すると、上位2項目の順位は同じ結果となっています。

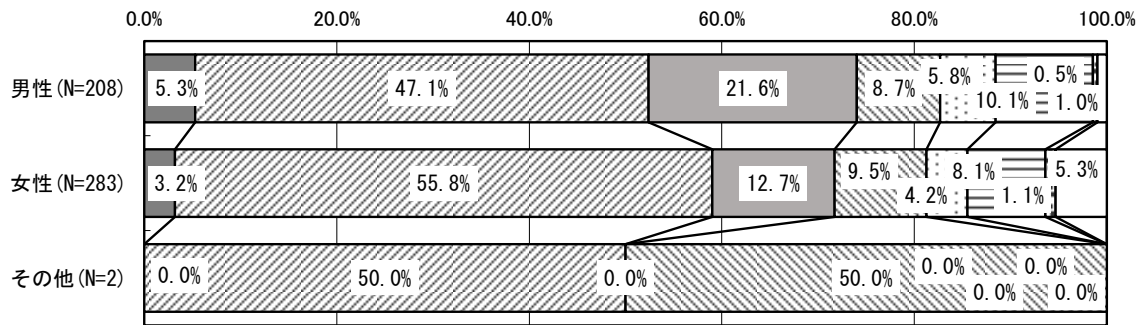
年齢区分別にみると、いずれの年代も「いざという時のためにも隣近所を中心とした助けあいやつきあいを大切にしたい」が多く、年代が高いほど、「心から打ち解けられる関係を築きたい」と「いざという時のためにも隣近所を中心とした助けあいやつきあいを大切にしたい」が多くなっています。また、年代が低いほど、「時間的に余裕のある人ややる気のある人が地域とかかわる方がよい」と「地域社会のためであっても、自分の生活や時間を大切にしたいので、地域的なかかわりを持ちたくない」が多くなっています。

図 地域での人とのかかわりに対してどのように考えるか



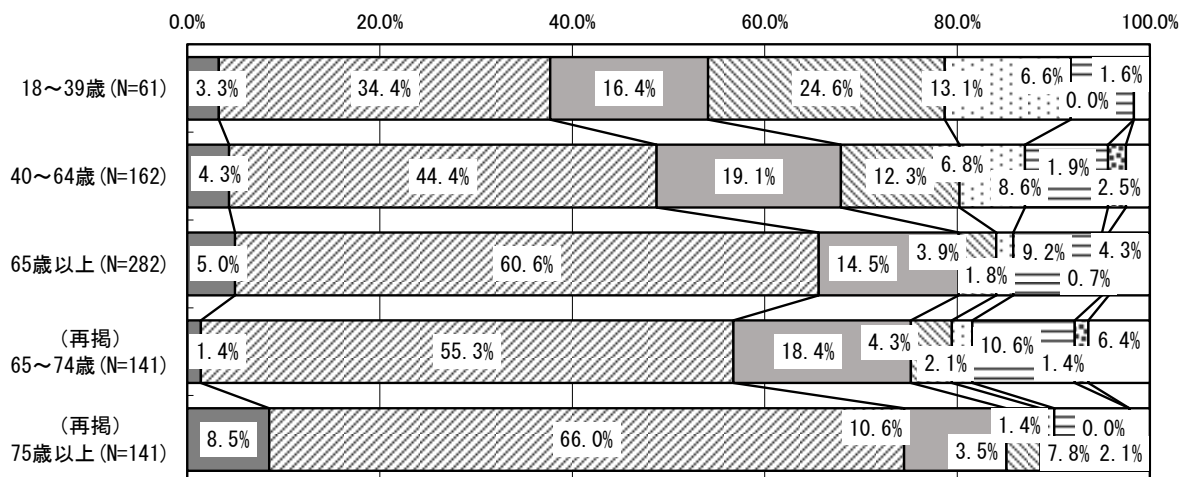
- 心から打ち解けられる関係を築きたい
- いざという時のためにも隣近所を中心とした助けあいやつきあいを大切にしたい
- 住民がお互いに協力して地域をよくする活動に参加していきたい
- 時間的に余裕のある人ややる気のある人が地域とかかわる方がよい
- 地域社会のためであっても、自分の生活や時間を大切にしたいので、地域的なかかわりを持ちたくない
- 隣近所の協力はあてにできないので、自分のことは自分です
- その他
- 無回答

図 地域での人とかかわりに対してどのように考えるか(男女別)



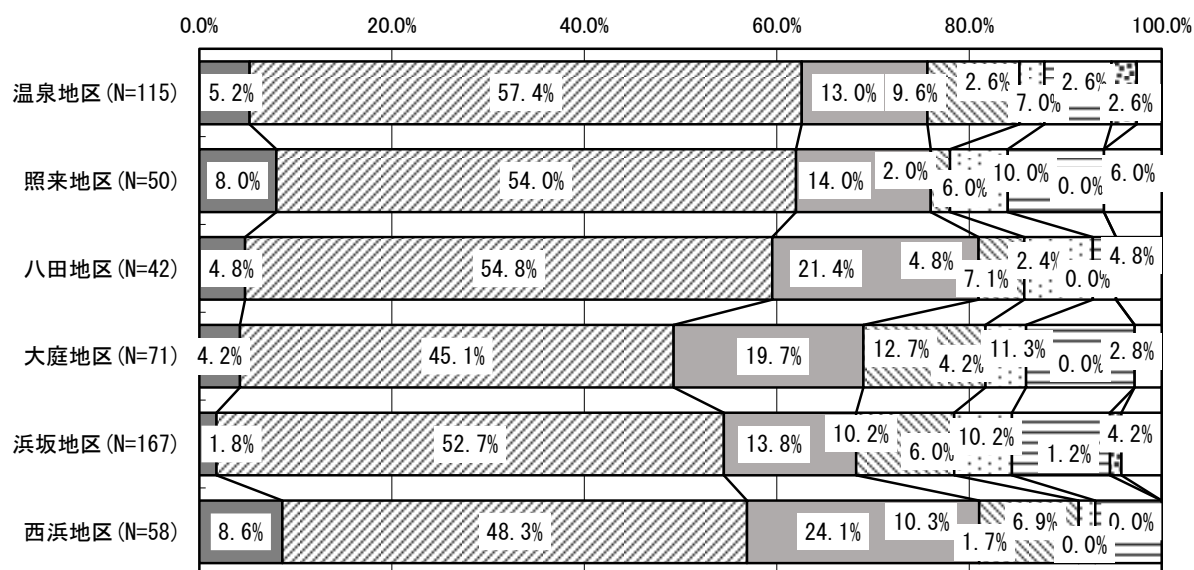
- ☒ 心から打ち解けられる関係を築きたい
- ☒ いざという時のためにも隣近所を中心とした助けあいやつきあいを大切にしたい
- ☒ 住民がお互いに協力して地域をよくする活動に参加していきたい
- ☒ 時間的に余裕のある人ややる気のある人が地域とかかわる方がよい
- ☐ 地域社会のためであっても、自分の生活や時間を大切にしたいので、地域的なかかわりを持ちたくない
- ☐ 隣近所の協力はあてにできないので、自分のことは自分です
- ☐ その他
- ☐ 無回答

図 地域での人とかかわりに対してどのように考えるか(年齢区分別)



- ☒ 心から打ち解けられる関係を築きたい
- ☒ いざという時のためにも隣近所を中心とした助けあいやつきあいを大切にしたい
- ☒ 住民がお互いに協力して地域をよくする活動に参加していきたい
- ☒ 時間的に余裕のある人ややる気のある人が地域とかかわる方がよい
- ☐ 地域社会のためであっても、自分の生活や時間を大切にしたいので、地域的なかかわりを持ちたくない
- ☐ 隣近所の協力はあてにできないので、自分のことは自分です
- ☐ その他
- ☐ 無回答

図 地域での人とかかわりに対してどのように考えるか(地区別)



- ☒ 心から打ち解けられる関係を築きたい
- ☒ いざという時のためにも隣近所を中心とした助けあいやつきあいを大切にしたい
- ☒ 住民がお互いに協力して地域をよくする活動に参加していきたい
- ☒ 時間的に余裕のある人ややる気のある人が地域とかかわる方がよい
- ☐ 地域社会のためであっても、自分の生活や時間を大切にしたいので、地域的なかかわりをもたたくない
- ☐ 隣近所の協力はあてにできないので、自分のことは自分でする
- ☒ その他
- ☐ 無回答

(13) 現在参加している地域活動の分野〈複数回答〉

〔問 13(1) あなたは現在、どのような分野で地域活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)〕

現在参加している地域活動の分野について、年齢区分別にみると、「18～39 歳」では、「参加していない」(70.5%) が最も高くなっています。40 歳以上では、「地域の清掃・美化や地域おこし」が高くなっています。(「40～64 歳」45.1%、「65 歳以上」37.6%)

前回の調査結果から比較すると、「参加していない」が 8.5 ポイント増加し、「地域の清掃・美化や地域おこし」が 7.7 ポイント減少しています。

年齢区分別にみると、「18～39 歳」では、「参加していない」(70.5%) が最も高くなっています。また、「40～64 歳」と「65 歳以上」は、「地域の清掃・美化や地域おこし」(45.1%、37.6%) が最も高くなっています。

図 現在参加している地域活動の分野(複数回答)

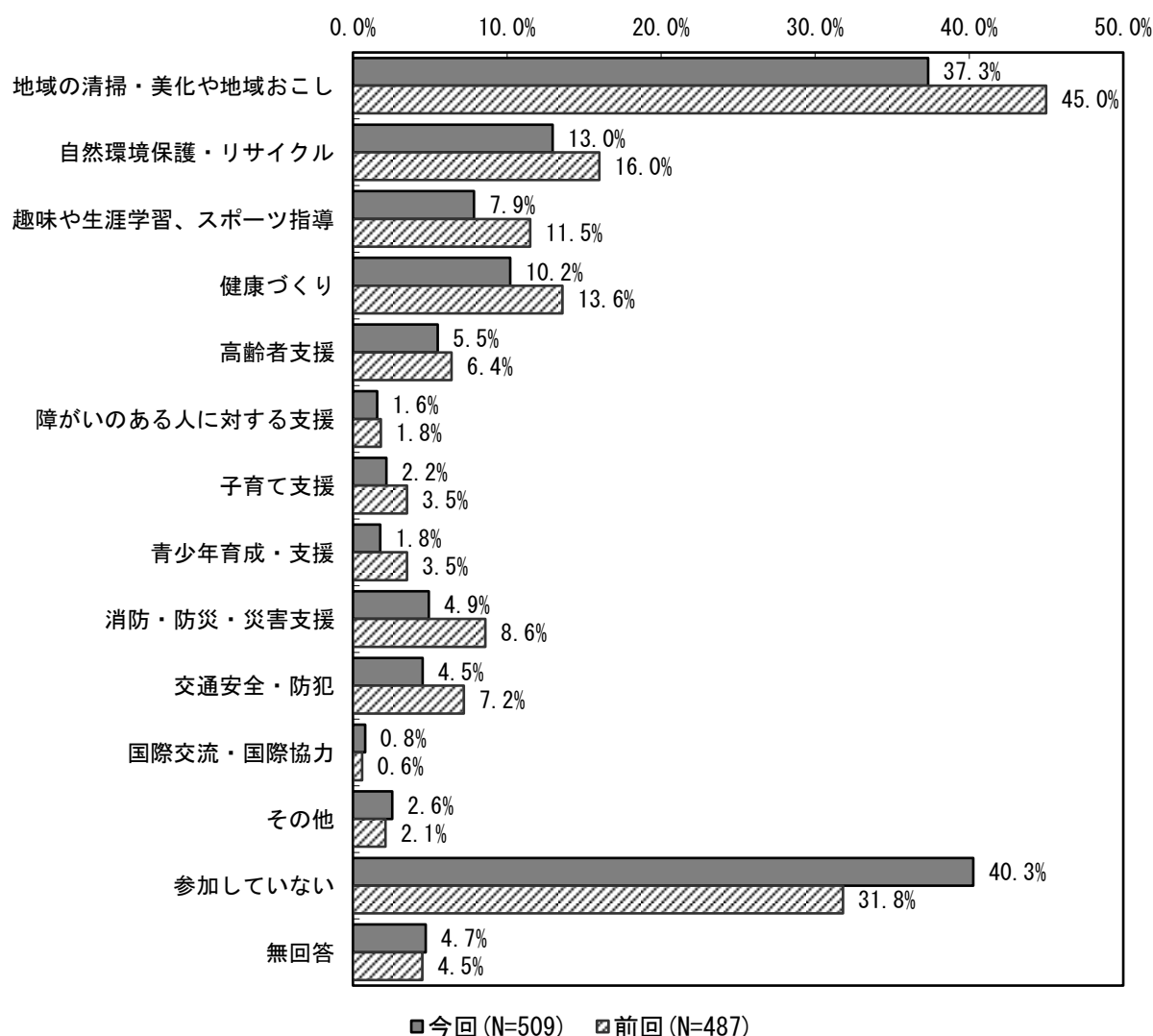


図 現在参加している地域活動の分野(複数回答)(男女別)

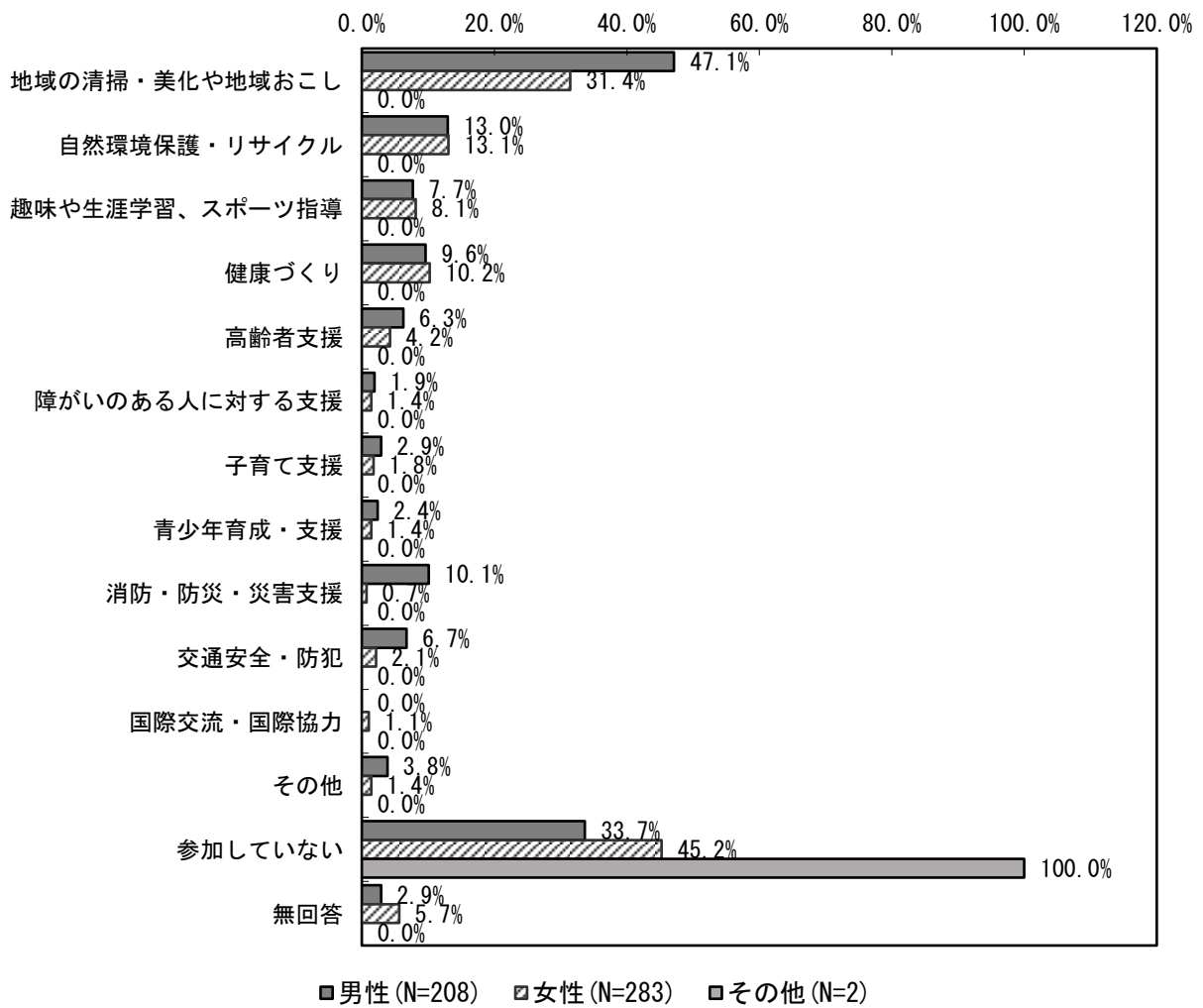


図 現在参加している地域活動の分野(複数回答)(年齢区分別)

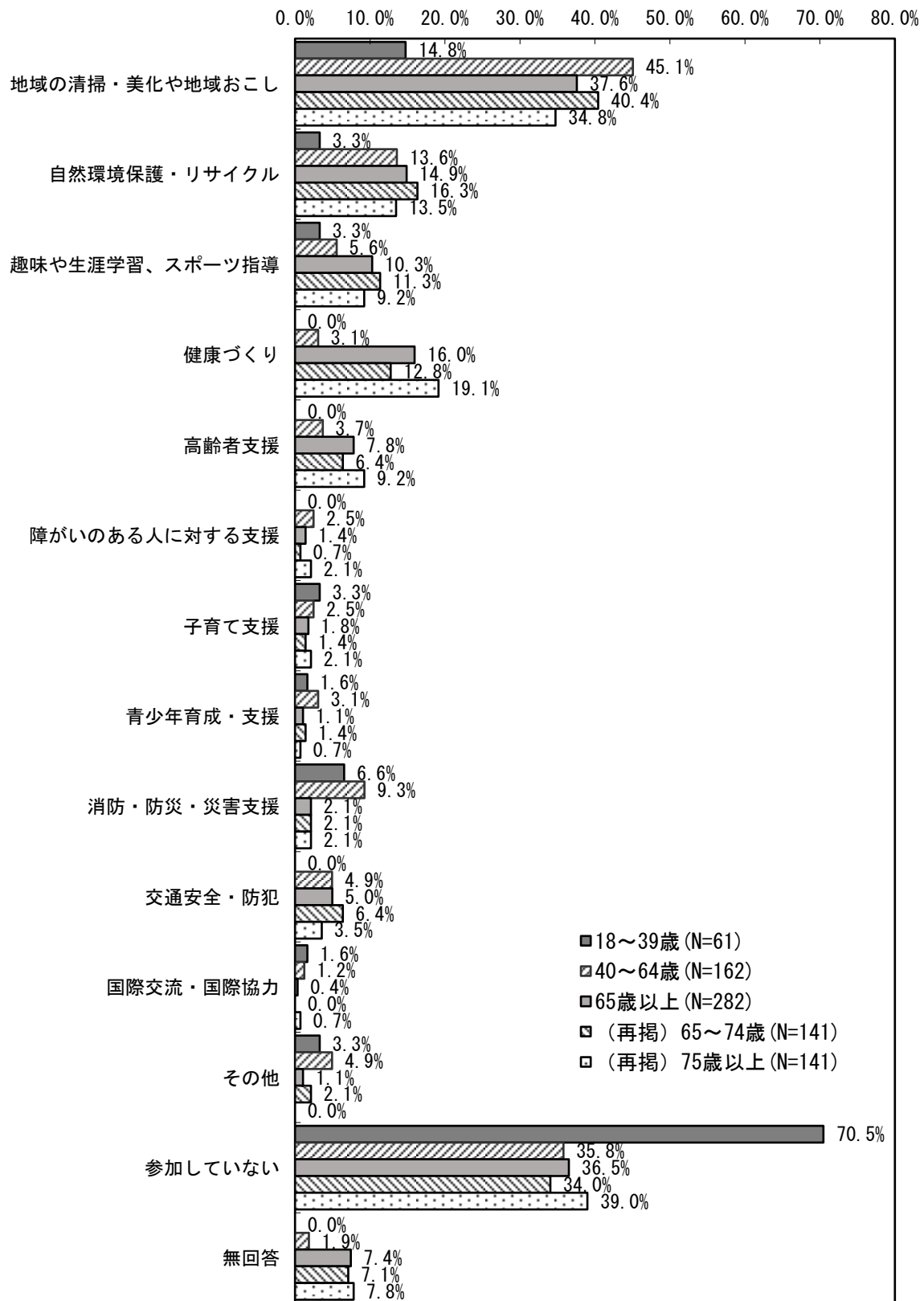
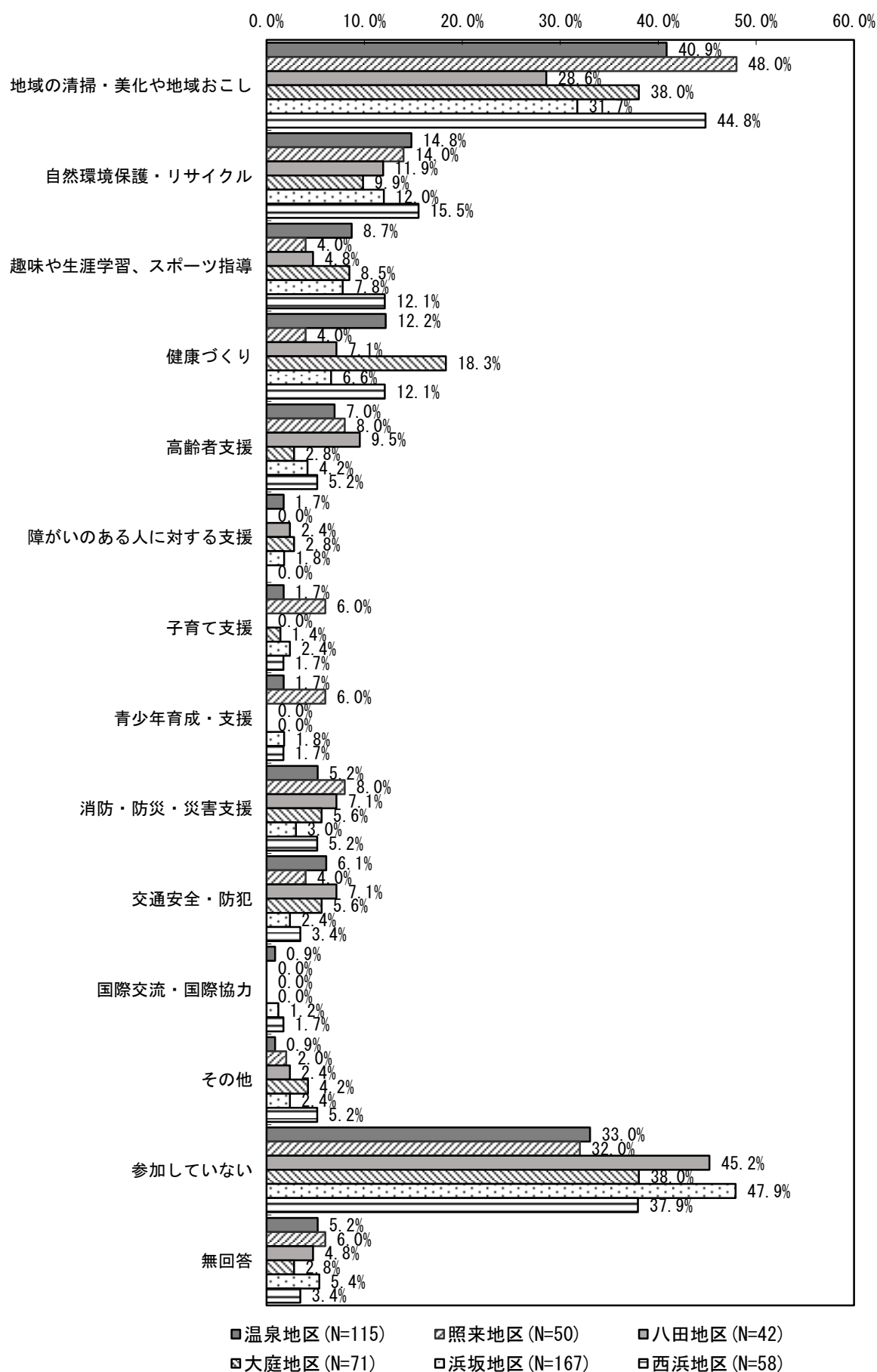


図 現在参加している地域活動の分野(複数回答)(地区別)



(13)で「参加していない」と答えた方

(14) 地域活動に参加していない理由〈複数回答〉

〔問 13(2) (1)で「13. 参加していない」と答えた方におうかがいします。その理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)〕

地域活動に参加していない理由についてみると、「忙しくて余裕がない」(36.6%)が最も高く、次いで「どこで活動しているかわからない」(20.0%)、「興味がない」(14.6%)となっています。

前回の調査結果から比較すると、「どこで活動しているかわからない」が8.9ポイント増加し、「忙しくて余裕がない」が5.2ポイント減少しています。

性別にみると、男女ともに、「忙しくて余裕がない」が最も高くなっています。

年齢区分別にみると、「18～39歳」と「40～64歳」は、「忙しくて余裕がない」(60.5%、58.6%)が最も高くなっています。また、「65歳以上」は、「体が弱い、病気がち」(22.3%)が最も高くなっています。

図 地域活動に参加していない理由(複数回答)

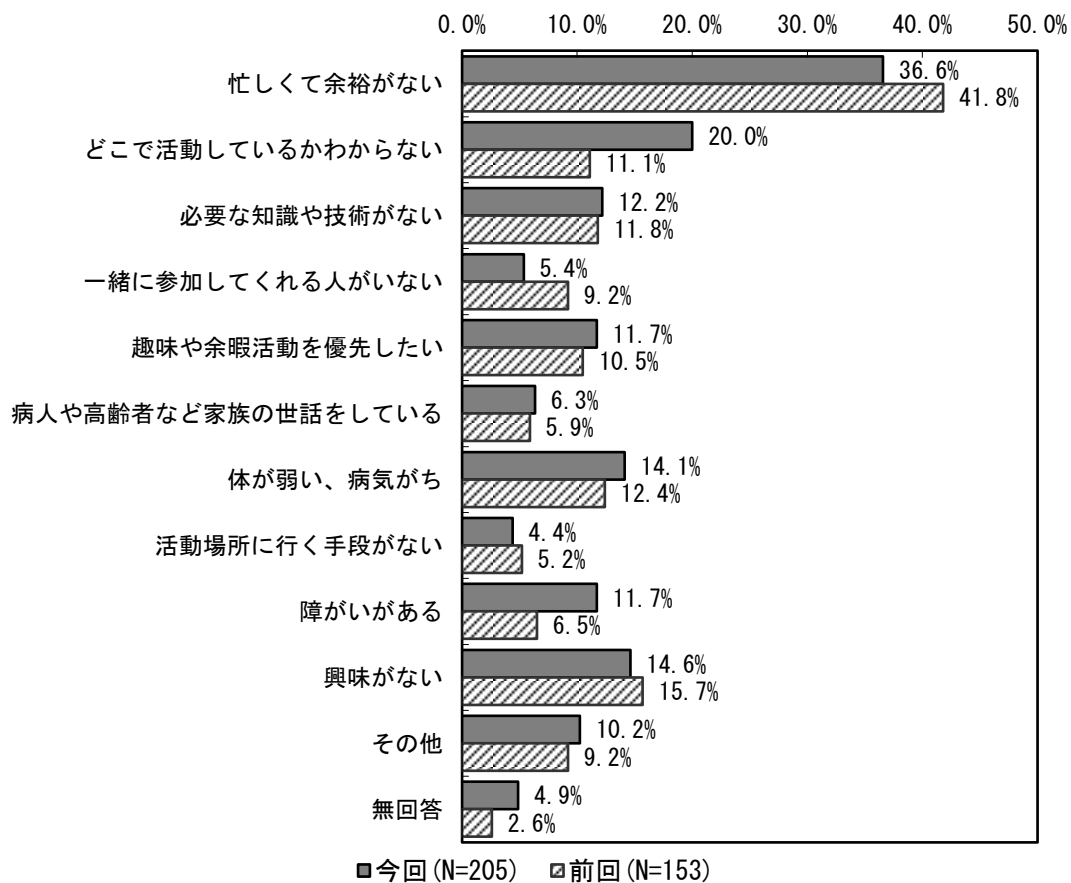


図 地域活動に参加していない理由(複数回答)(男女別)

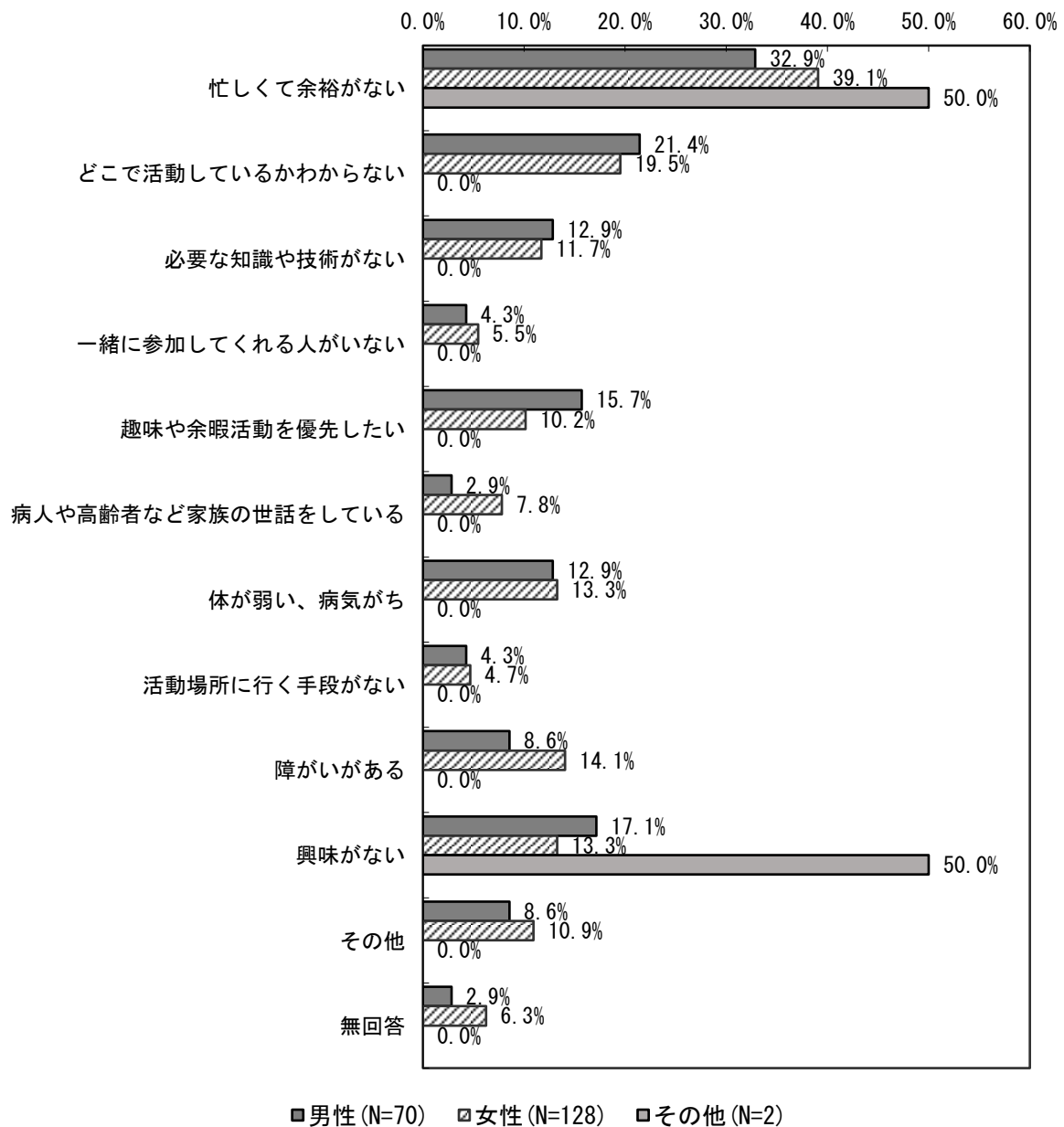


図 地域活動に参加していない理由(複数回答)(年齢区分別)

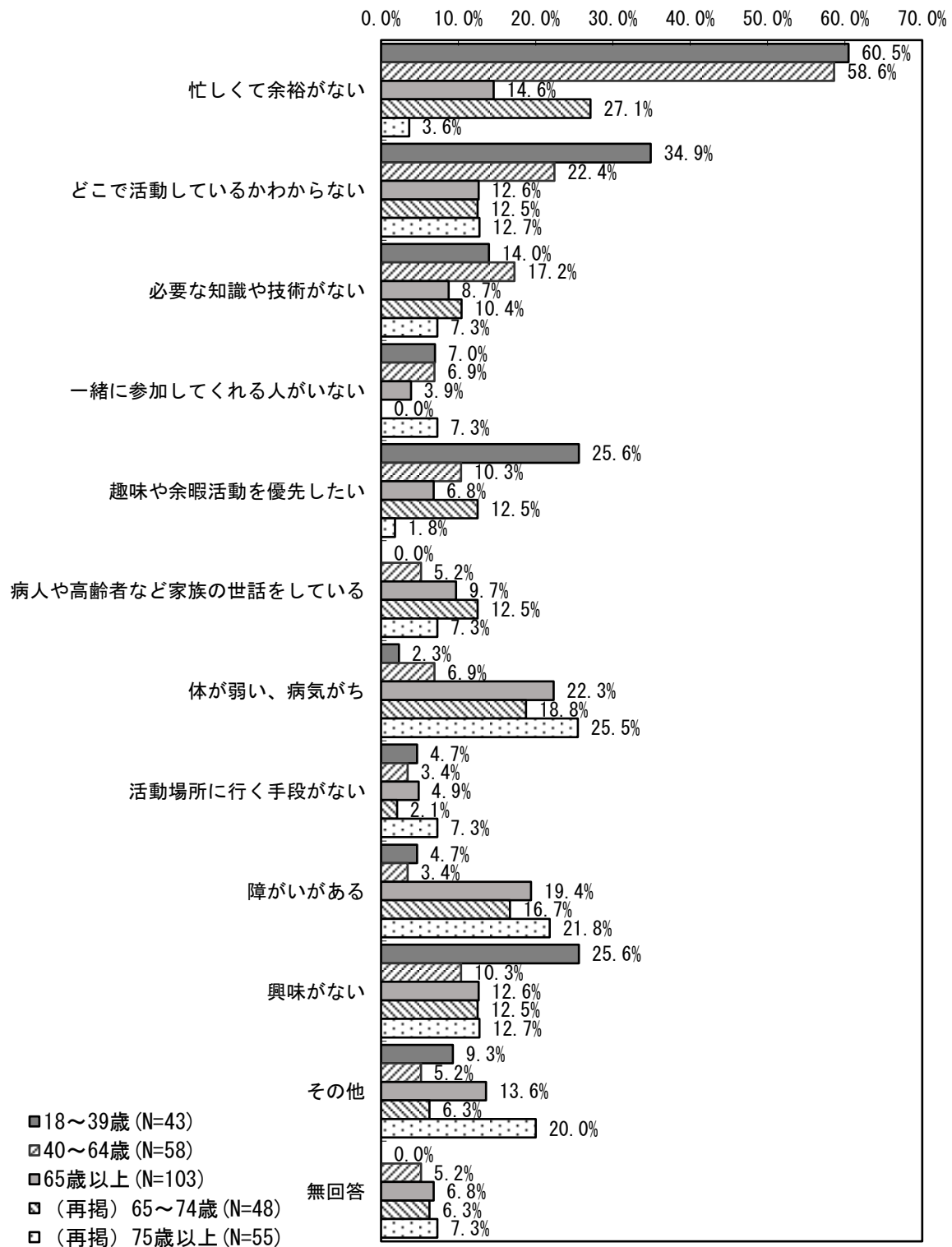
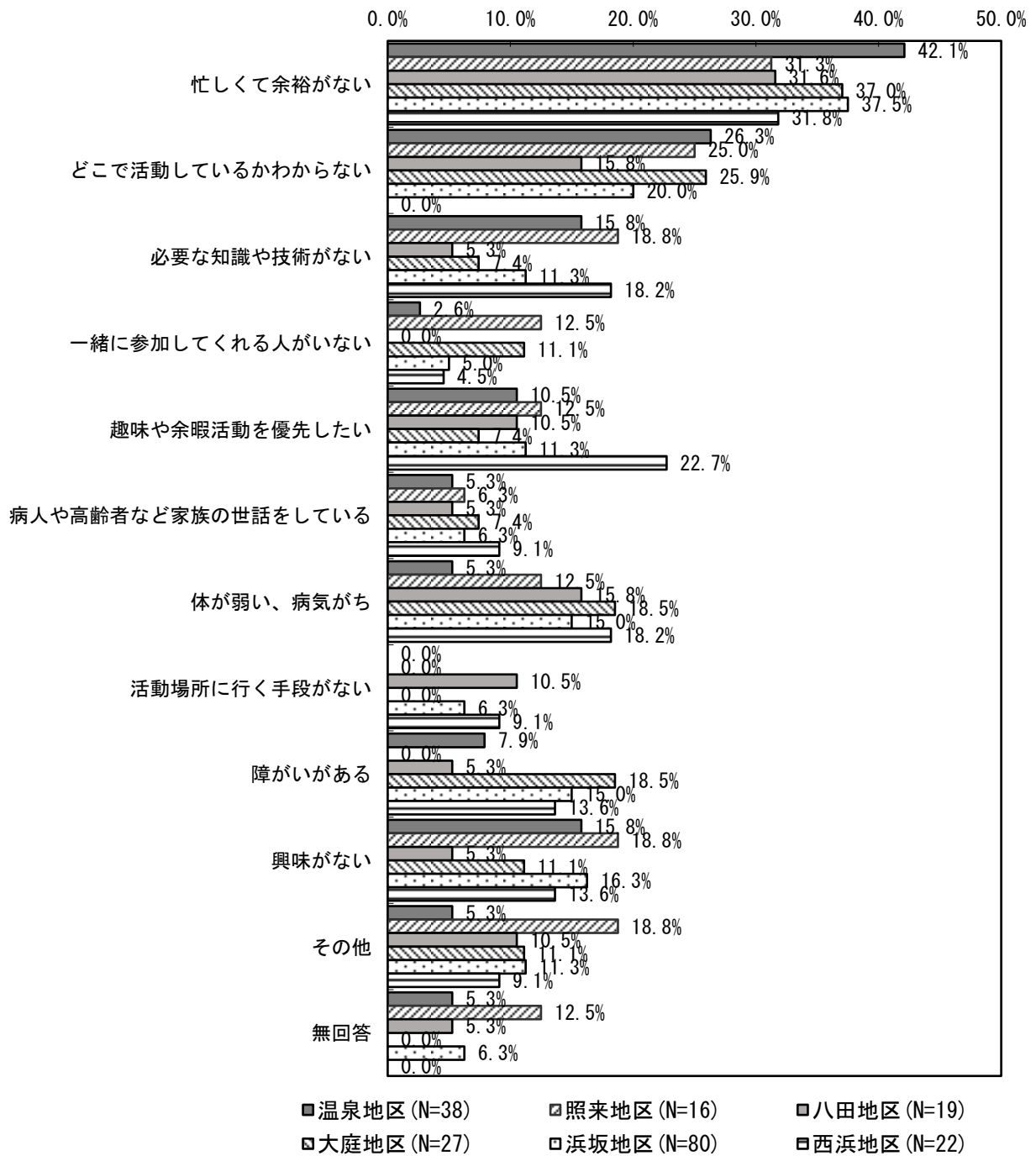


図 地域活動に参加していない理由(複数回答)(地区別)



(13)で「参加していない」と答えた方

(15) 今後参加したい地域活動の分野〈複数回答〉

〔問 13(3) (1)で「13. 参加していない」と答えた方におうかがいします。今後もし参加するとしたら、どの分野に参加したいですか。(あてはまるものすべてに〇)〕

今後参加したい地域活動の分野について、年齢区分別にみると、「18～39 歳」では、「子育て支援」(25.6%)、「40～64 歳」では、「健康づくり」(31.0%)、「65 歳以上」では、「参加したくない」(35.0%) が最も高くなっています。特に「75 歳以上」では 38.2%と高くなっています。

前回の調査結果から比較すると、「参加したくない」が 6.6 ポイント増加しています。

性別にみると、男性は、「地域の清掃・美化や地域おこし」、「健康づくり」、「参加したくない」がいずれも 22.9%で最も高くなっています。女性は、「参加したくない」(31.3%) が最も高くなっています。

年齢区分別にみると、「18～39 歳」では、「子育て支援」(25.6%)、「40～64 歳」では、「健康づくり」(31.0%)、「65 歳以上」では、「参加したくない」(35.0%) がそれぞれ最も高くなっています。

図 今後参加したい地域活動の分野(複数回答)

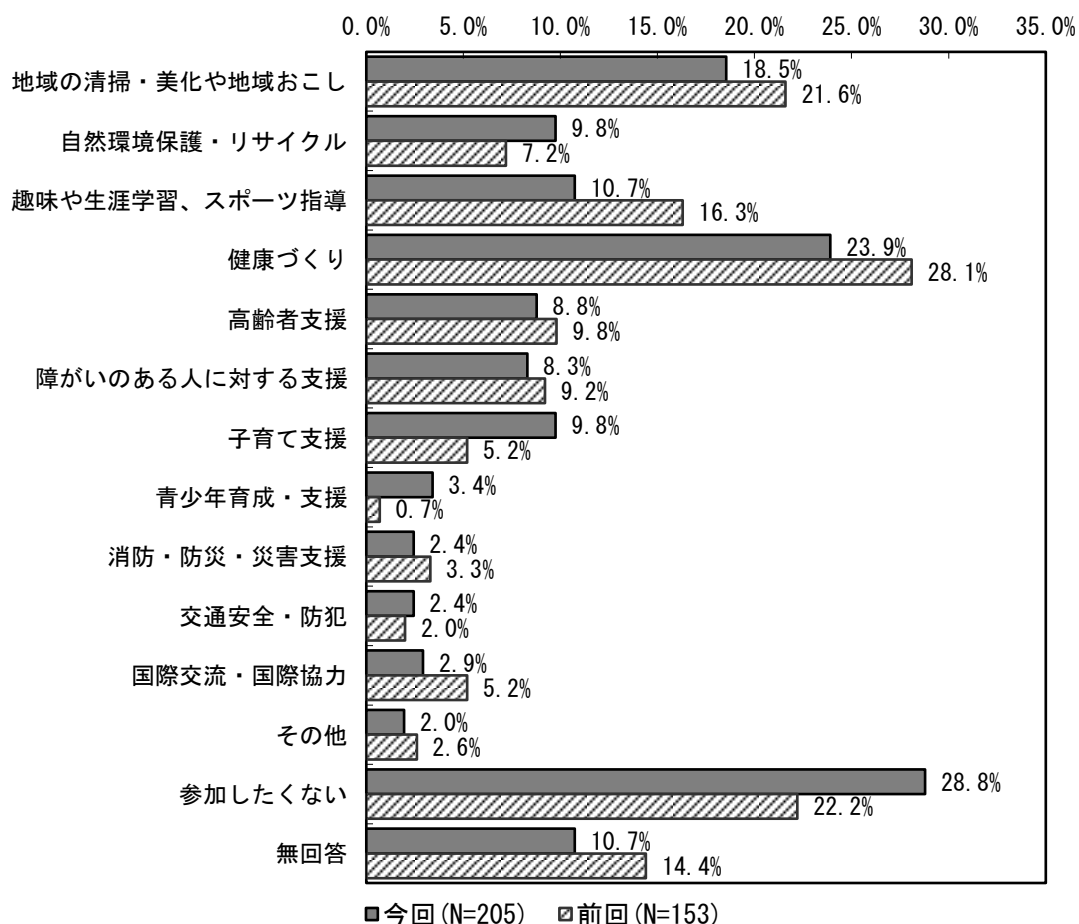


図 今後参加したい地域活動の分野(複数回答)(男女別)

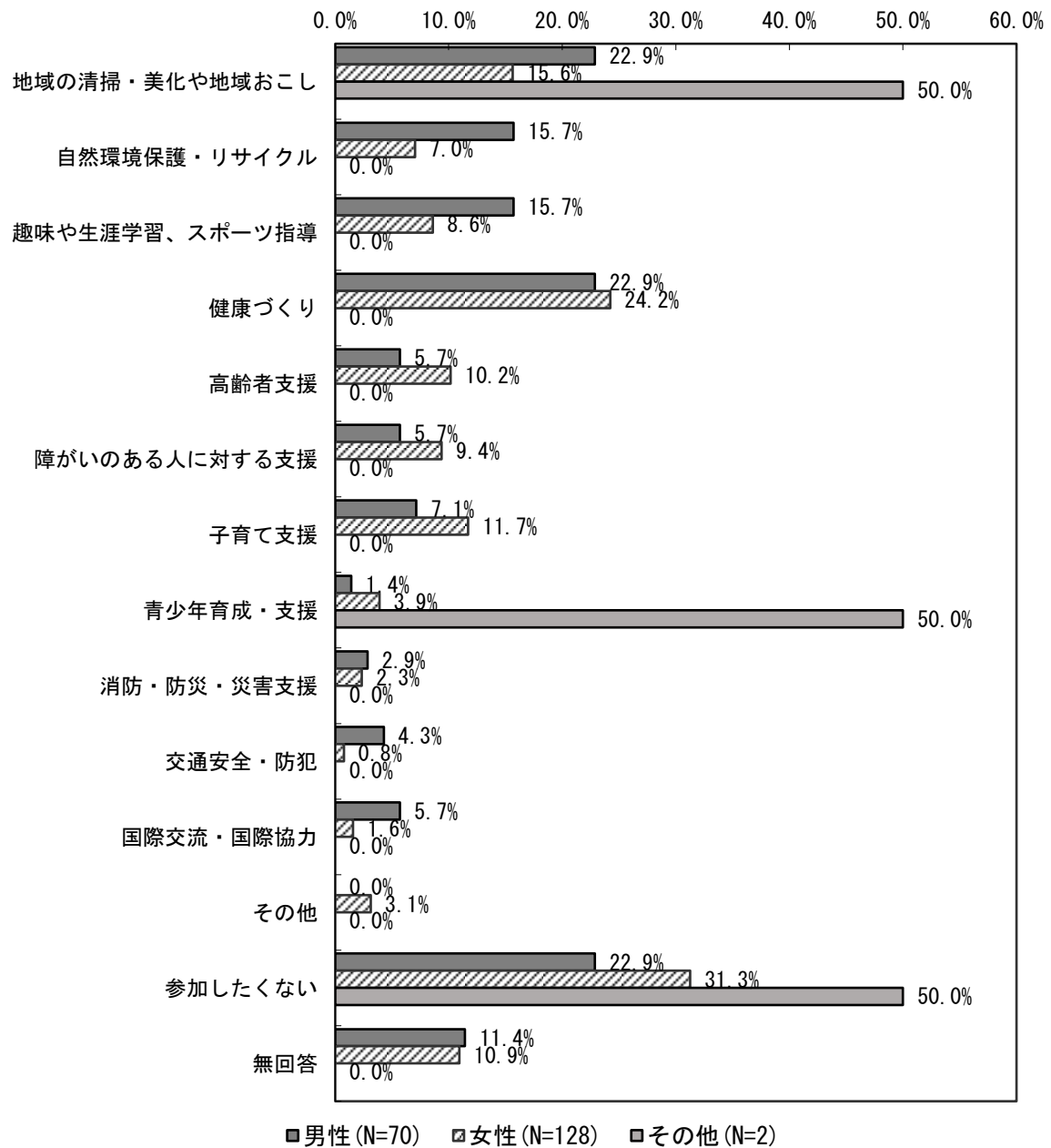


図 今後参加したい地域活動の分野(複数回答)(年齢区分別)

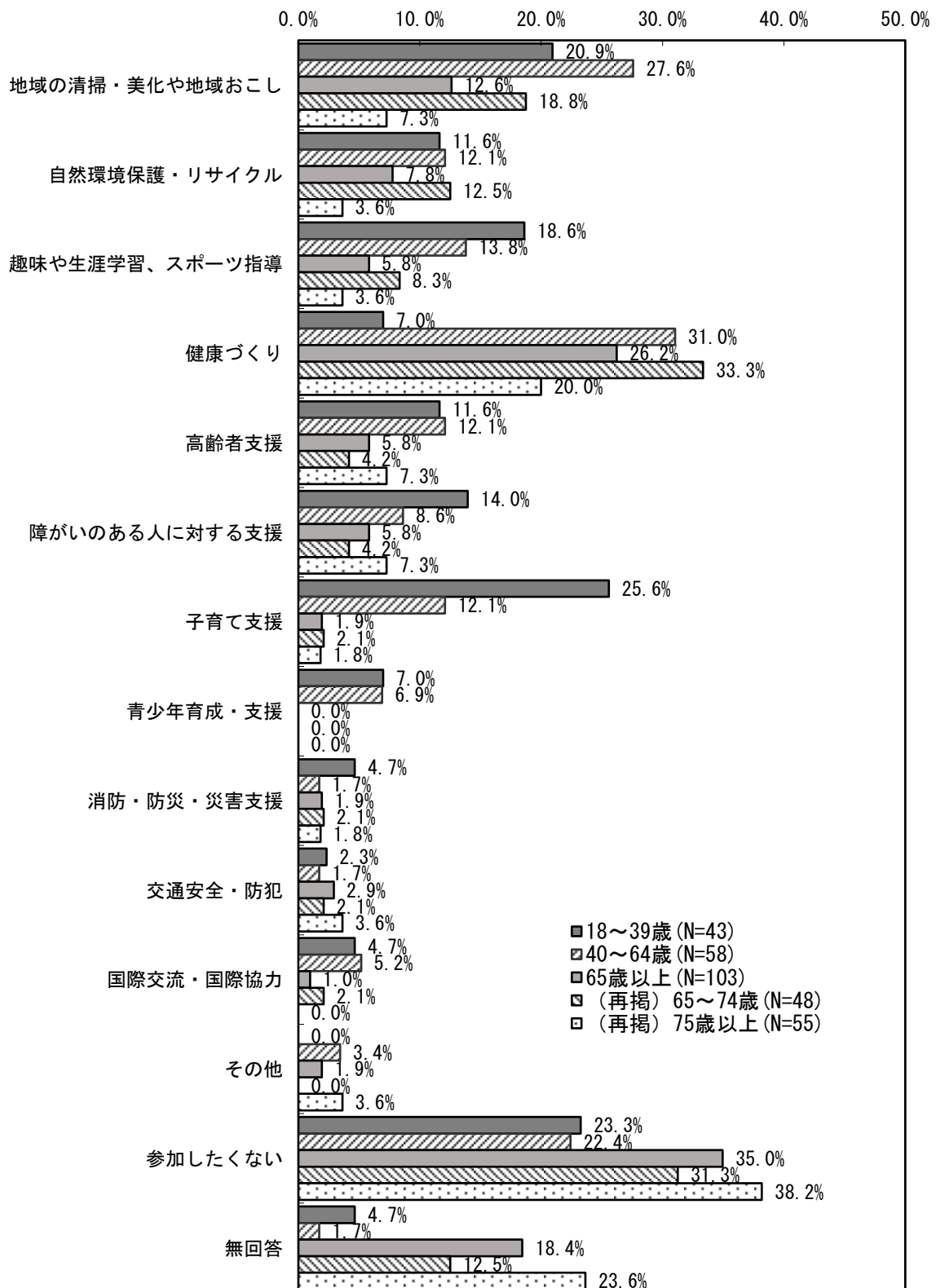
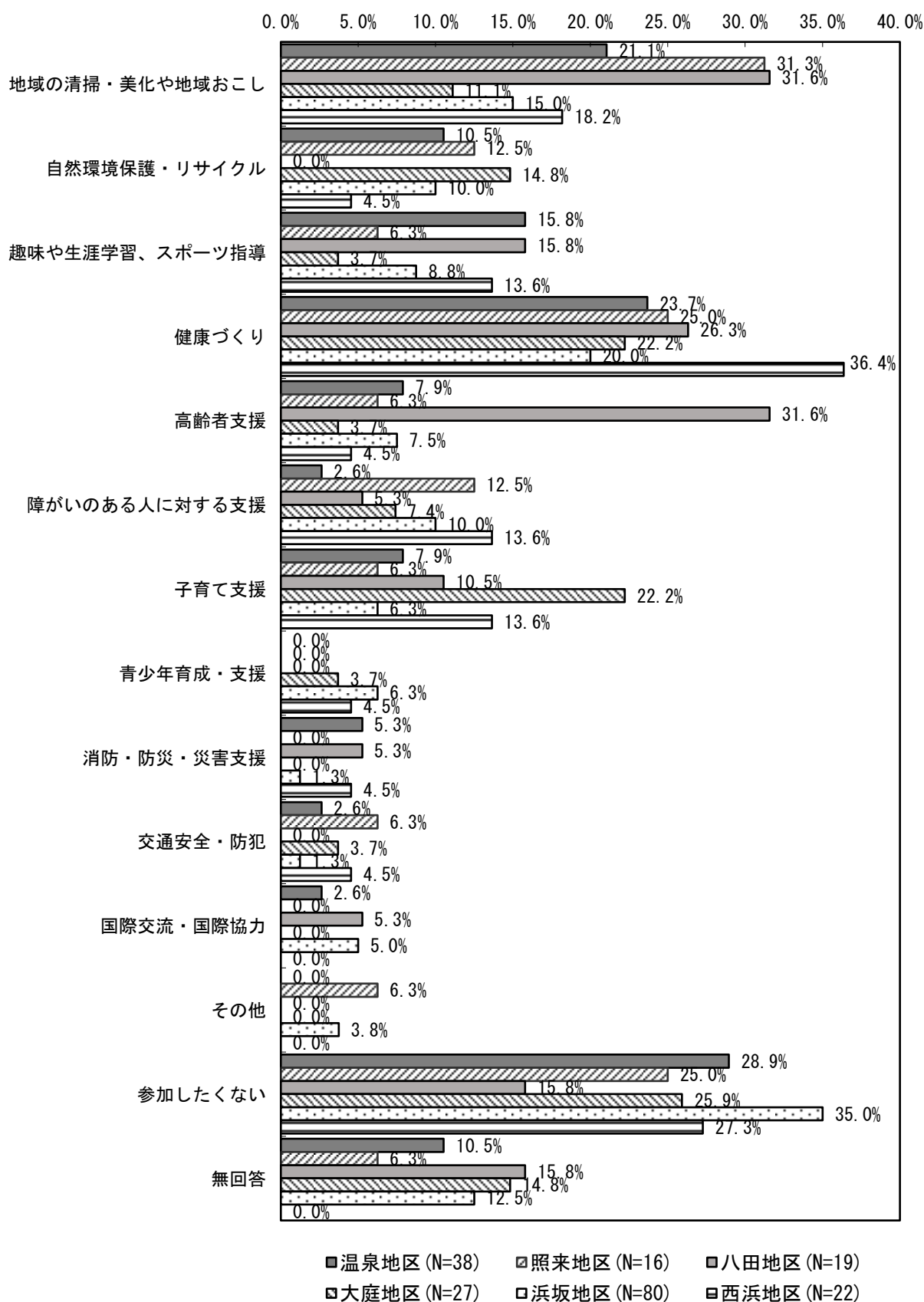


図 今後参加したい地域活動の分野(複数回答)(地区別)



(16) 新型コロナウイルス感染症による影響

〔問 14 ご近所とのつきあいや地域活動などについて、新型コロナウイルス感染症による影響はありましたか。(①、②のそれぞれ、あてはまるものに1つだけ〇)〕

新型コロナウイルス感染症による影響による、①近所づきあいについてみると、「変わらない」(69.5%)が多く約7割、次いで「減った」(25.7%)、「増えた」(1.2%)となっています。

年齢区分別に近所づきあいが「減った」をみると、「40～64 歳」(32.7%)が最も高くなっています。

地区別に近所づきあいが「減った」をみると、「大庭地区」(28.2%)が最も高くなっています。

また、②地域活動への参加についてみると、「変わらない」(48.3%)が多く約5割、次いで「減った」(43.0%)、「増えた」(1.2%)となっています。

年齢区分別に地域活動への参加が「減った」をみると、「40～64 歳」(55.6%)が最も高くなっています。

地区別に地域活動への参加が「減った」をみると、「照来地区」(54.0%)、「大庭地区」(53.5%)が多くなっています。

新型コロナウイルス感染症による影響は、「①近所づきあい」に比べて「②地域活動への参加」でより大きく表れています。

図 新型コロナウイルス感染症による影響 ①近所づきあい

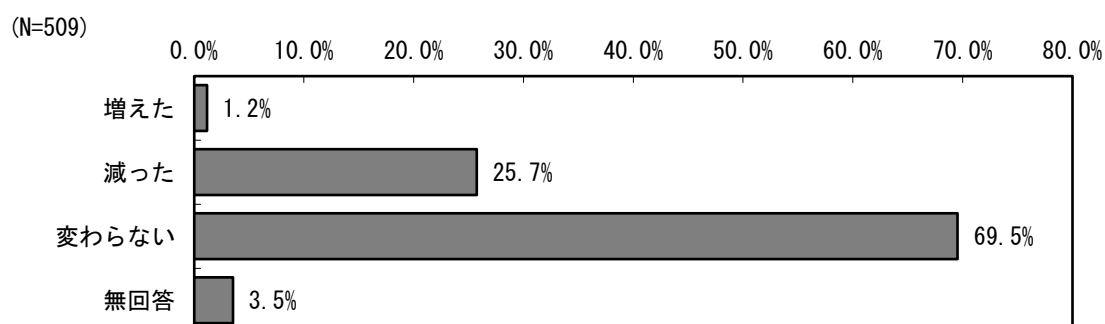


図 新型コロナウイルス感染症による影響 ①近所づきあい(男女別)

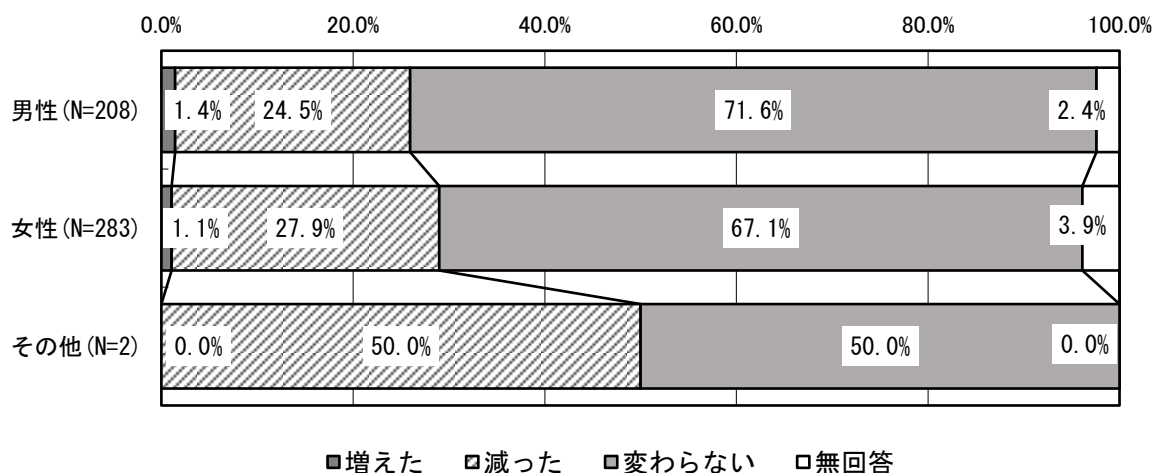


図 新型コロナウイルス感染症による影響 ①近所づきあい(年齢区分別)

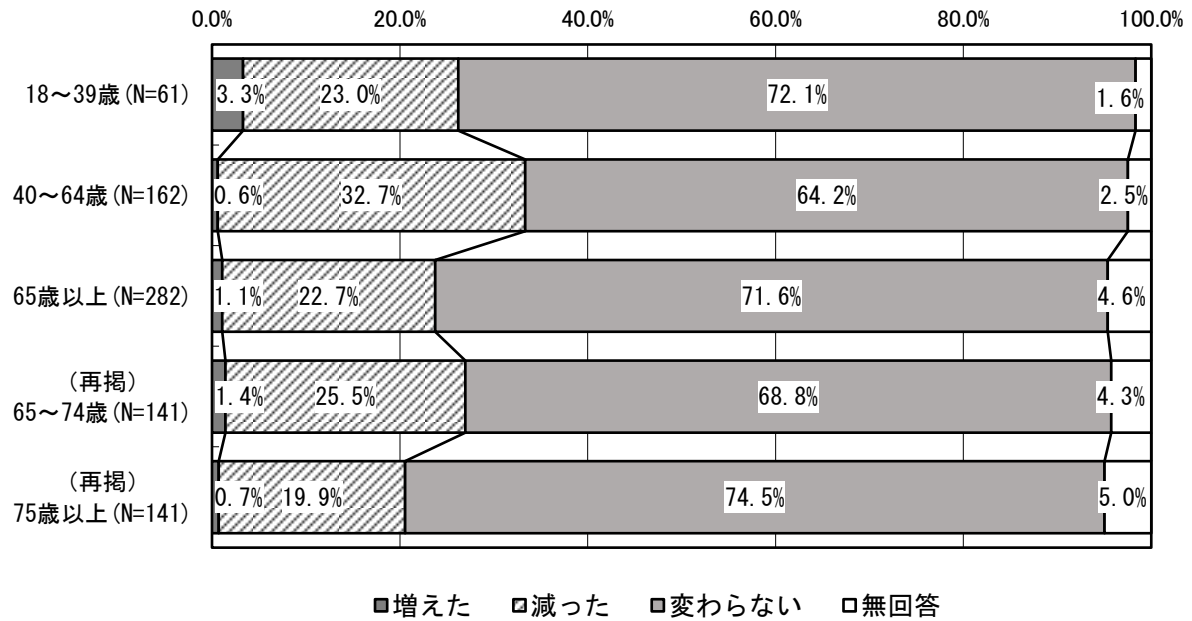


図 新型コロナウイルス感染症による影響 ①近所づきあい(地区別)

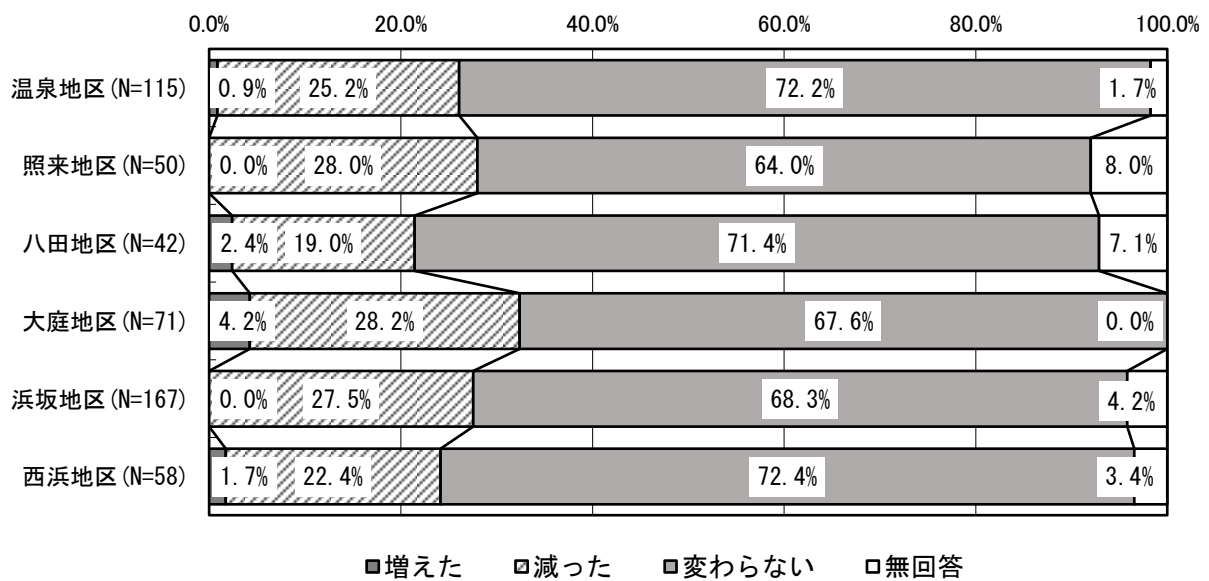


図 新型コロナウイルス感染症による影響 ②地域活動への参加

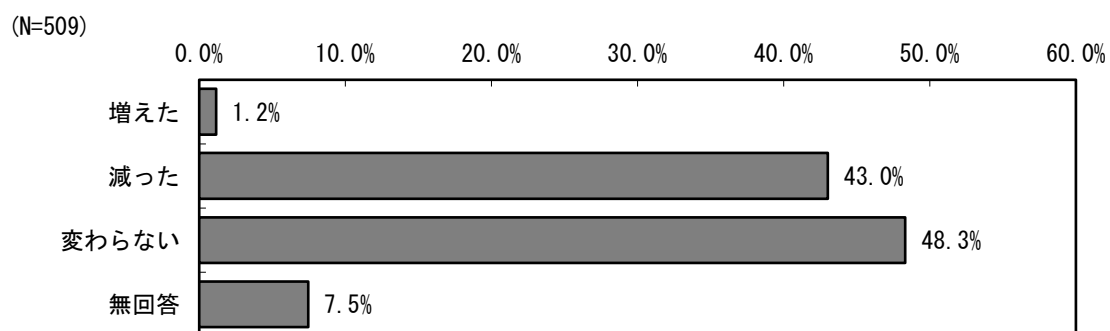


図 新型コロナウイルス感染症による影響 ②地域活動への参加(男女別)

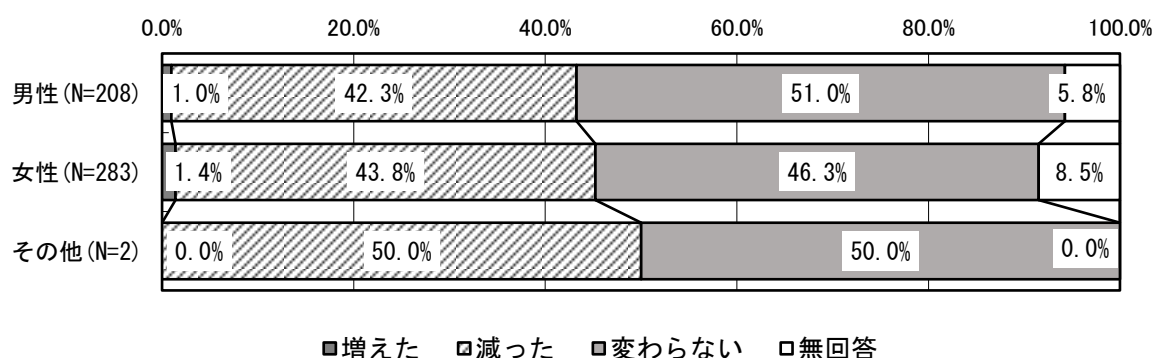


図 新型コロナウイルス感染症による影響 ②地域活動への参加(年齢区分別)

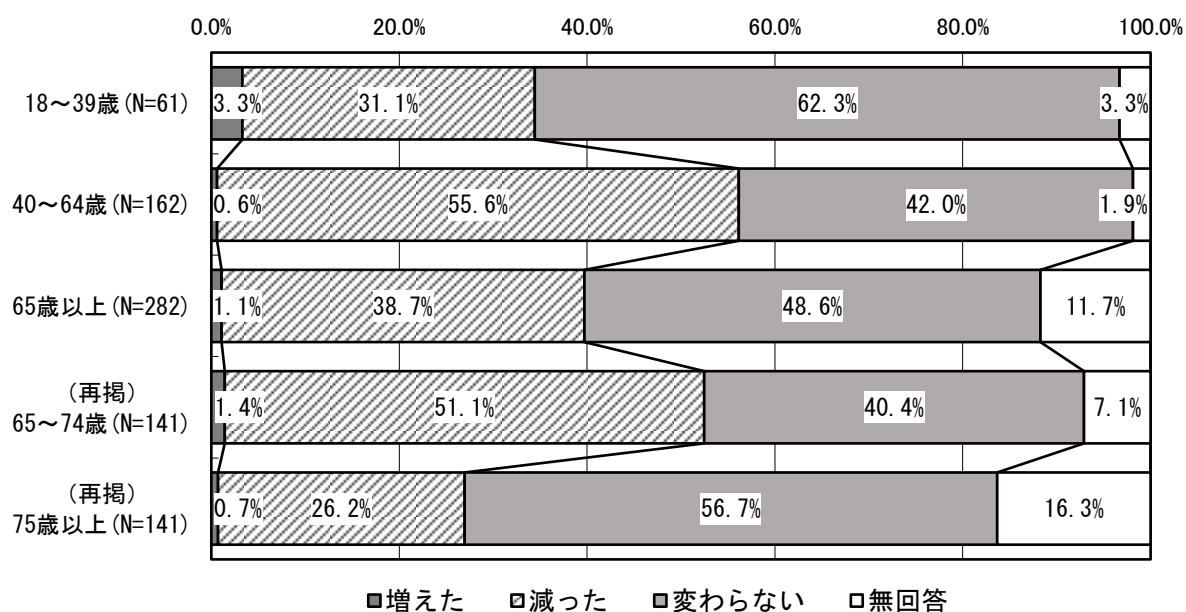
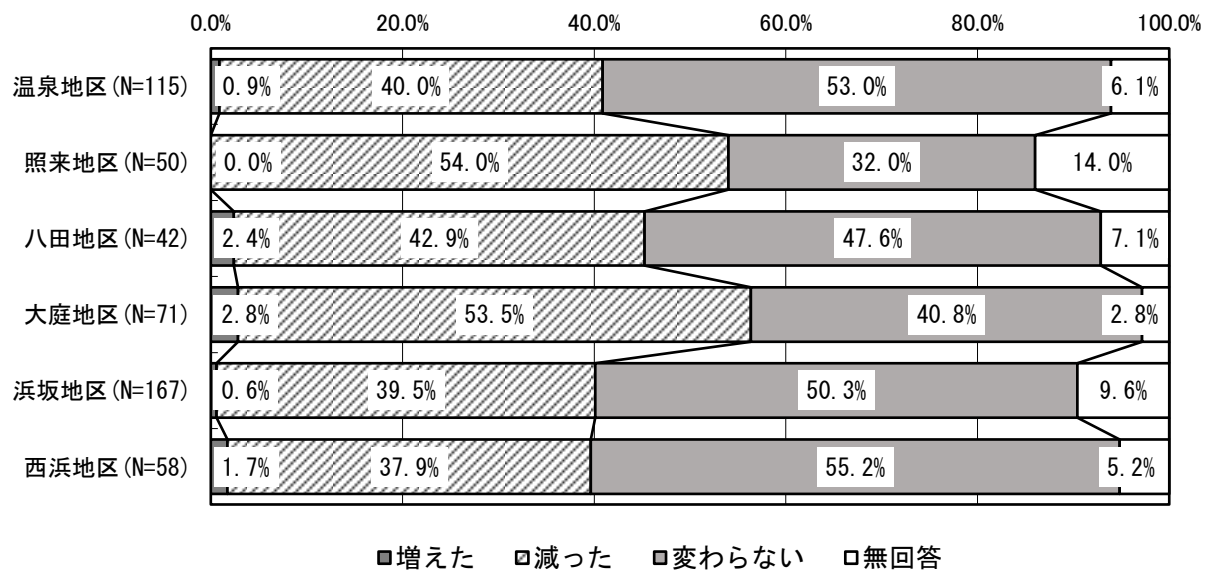


図 新型コロナウイルス感染症による影響 ②地域活動への参加(地区別)



(17) 新型コロナウイルス感染症による影響で困ったこと

〔問 15 新型コロナウイルス感染症による影響で困ったことは何ですか。(あてはまるものに1つだけ○)〕

新型コロナウイルス感染症による影響で困ったことについてみると、「買い物やレジャーなどの行動に制限があること」(42.0%)が最も高く、次いで「人と直接話す機会が減ったこと」(38.1%)、「入院、入所中の家族や友人に会えなくなったこと」(30.6%)となっています。

年齢区分別にみると、「18～39 歳」と「40～64 歳」は、「買い物やレジャーなどの行動に制限があること」(60.7%、56.8%)が最も高く、「65 歳以上」は、「人と直接話す機会が減ったこと」(42.2%)が最も高くなっています。

図 新型コロナウイルス感染症による影響で困ったこと(複数回答)

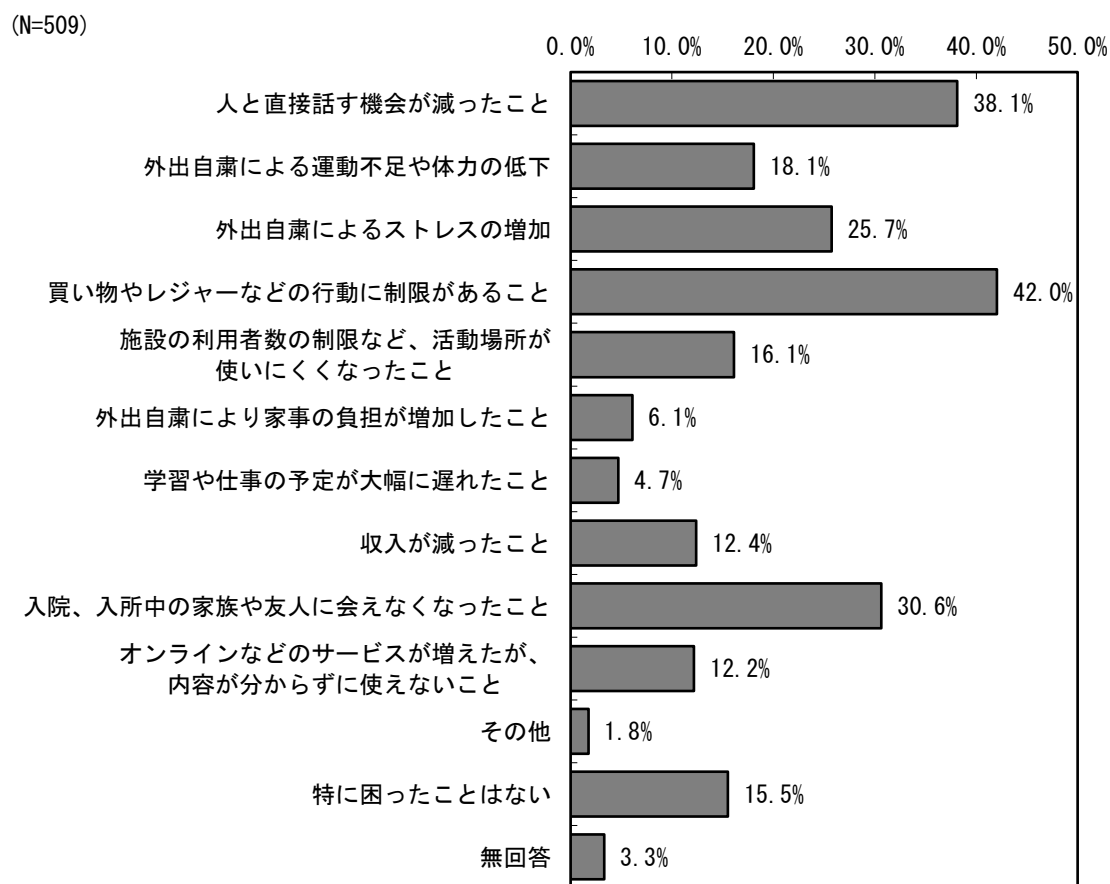


図 新型コロナウイルス感染症による影響で困ったこと(複数回答)(男女別)

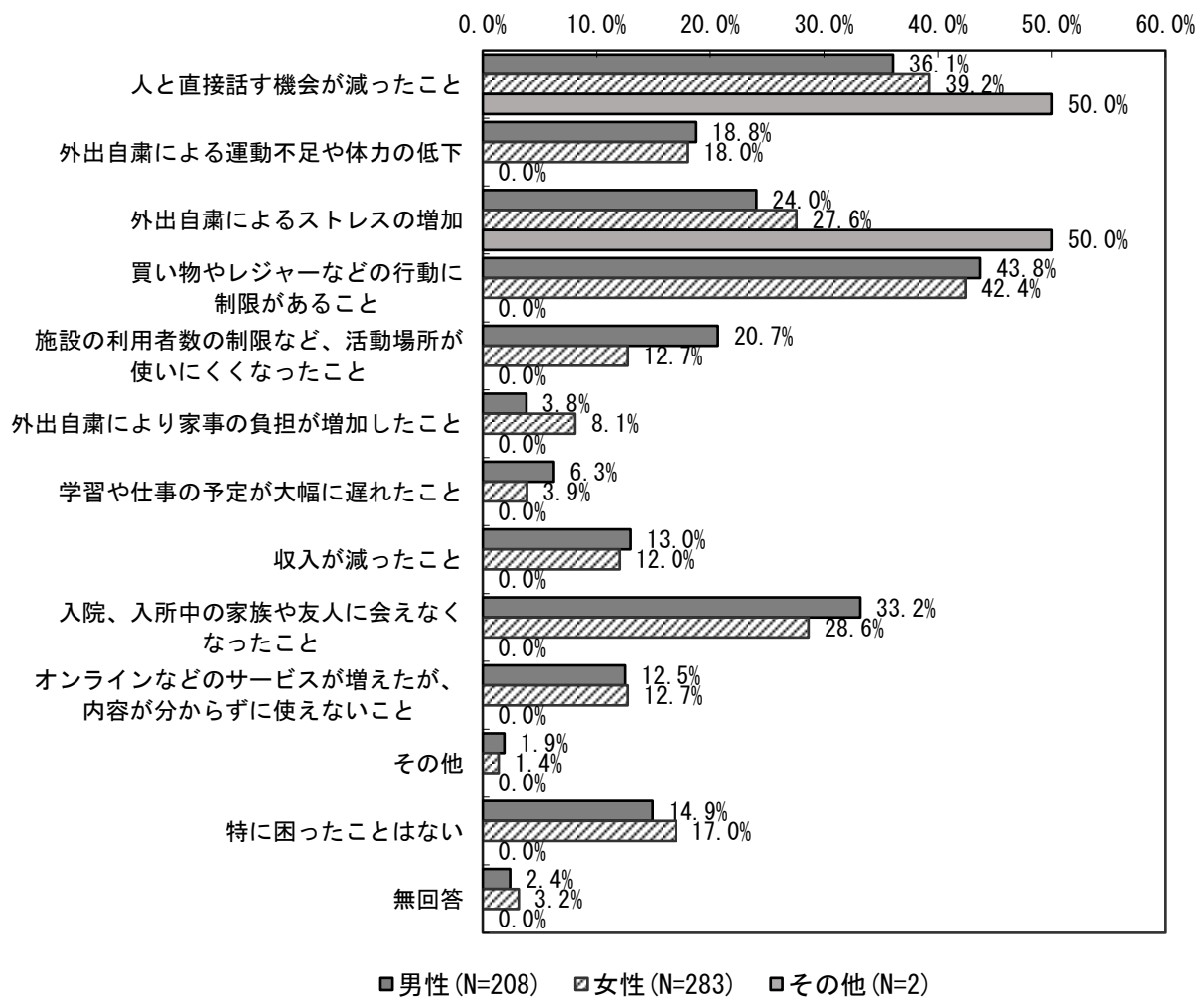


図 新型コロナウイルス感染症による影響で困ったこと(複数回答)(年齢区分別)

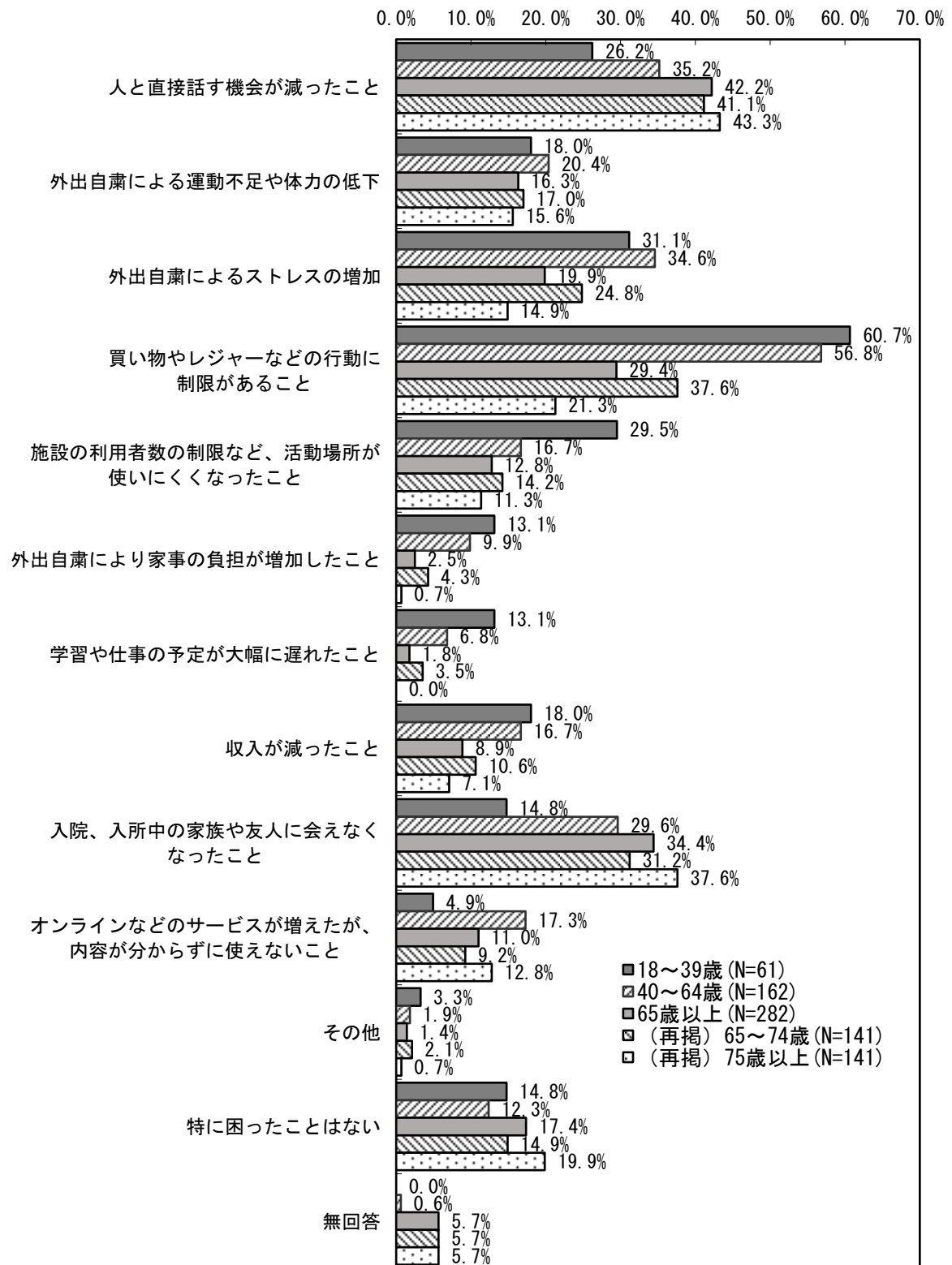
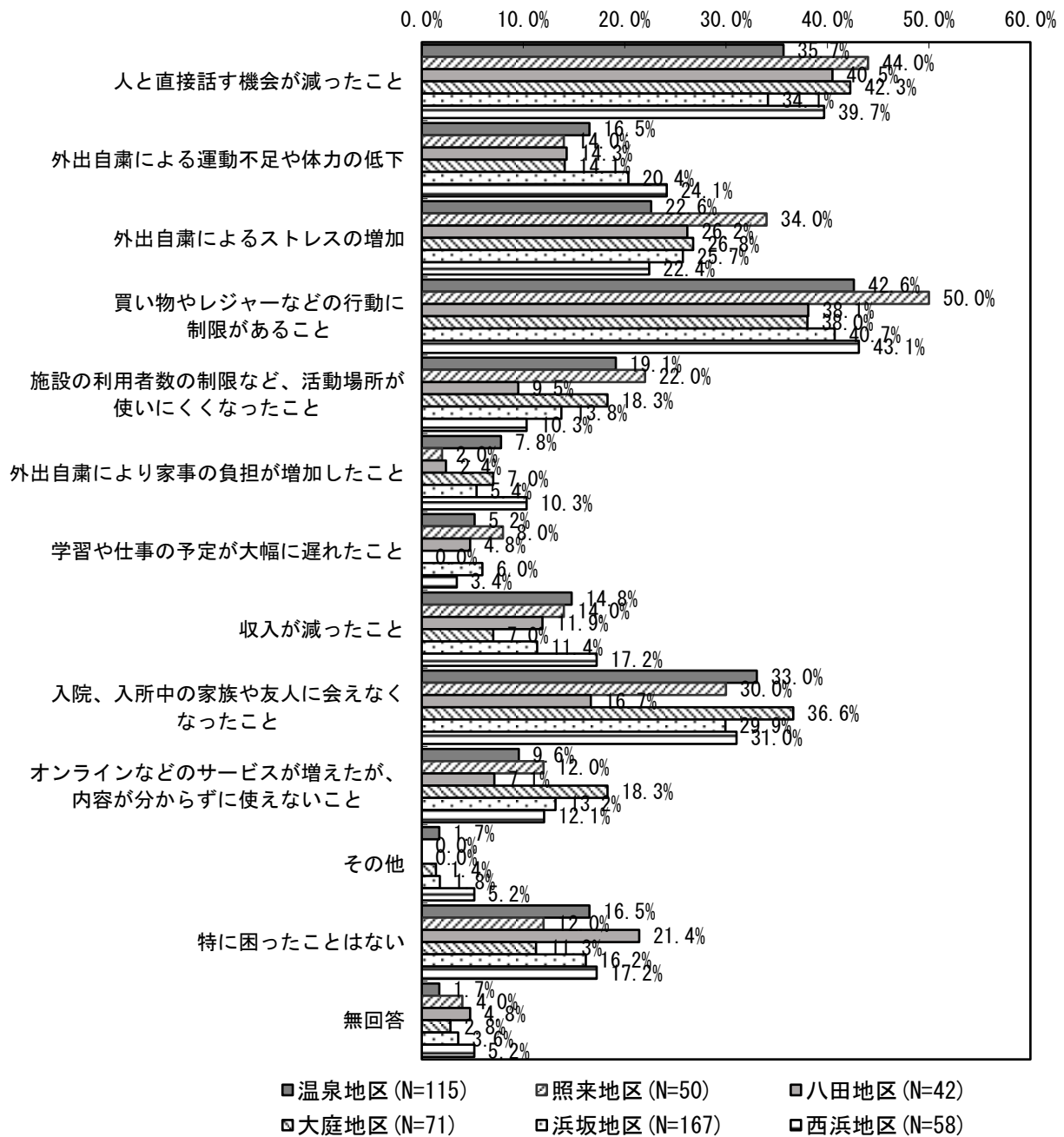


図 新型コロナウイルス感染症による影響で困ったこと(複数回答)(地区別)



(18) 高齢者や障がいのある人、子どものことなどで悩んだり困っている世帯に対して できること〈複数回答〉

〔問 16 あなたが地域で、高齢者や障がいのある人、子どものことなどで悩んだり困っている世帯があったら、できることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)〕

高齢者や障がいのある人、子どものことなどで悩んだり困っている世帯に対してできることについてみると、「安否確認の声かけ」(52.7%) が最も高く、次いで「話し相手」(37.1%)、「ちょっとした買い物」(27.5%) となっています。

前回の調査結果から比較すると、「話し相手」が5.2ポイント減少しています。

年齢区別にみると、「18～39歳」は、「話し相手」(41.0%) が最も高く、「40～64歳」と「65歳以上」は、「安否確認の声かけ」(61.1%、51.1%) が最も高くなっています。

図 高齢者や障がいのある人、子どものことなどで悩んだり困っている世帯に対してできること(複数回答)

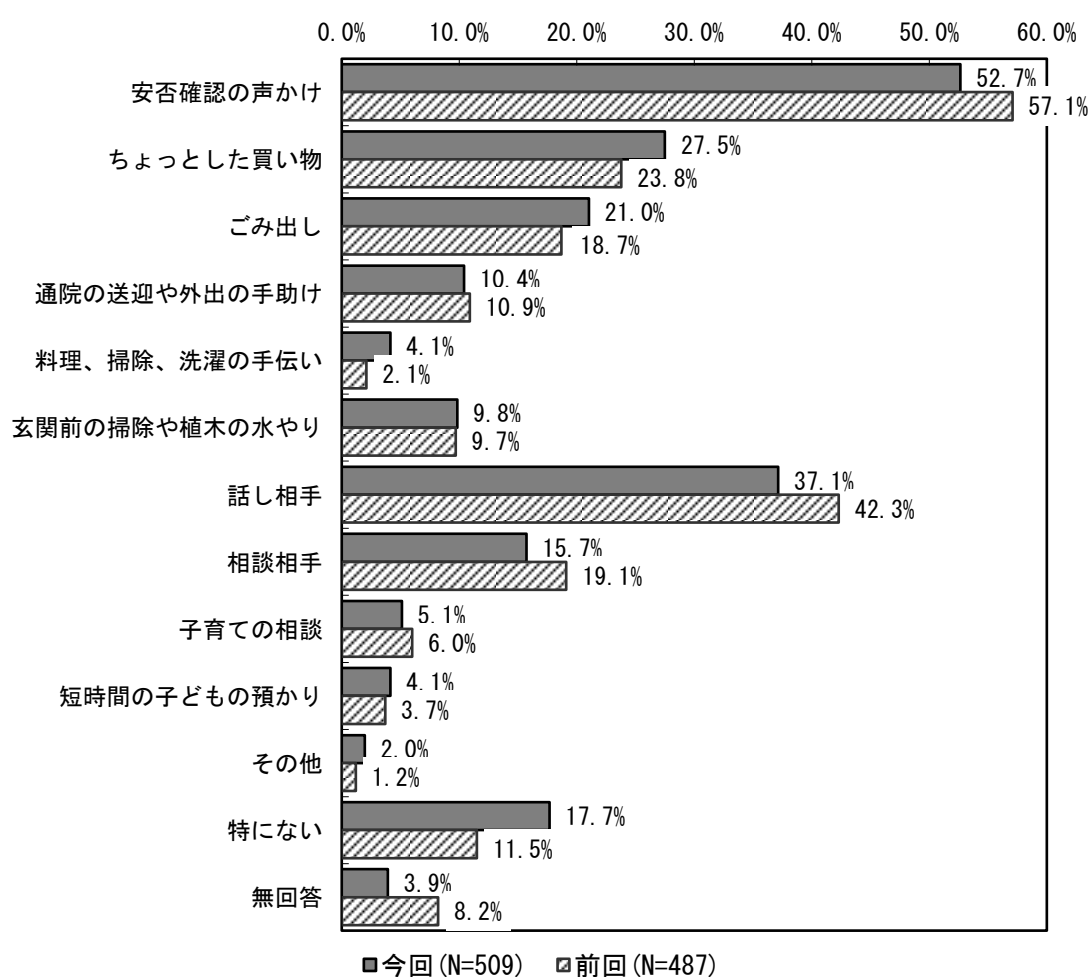


図 高齢者や障がいのある人、子どものことなどで悩んだり困っている世帯に対してできること(複数回答)(男女別)

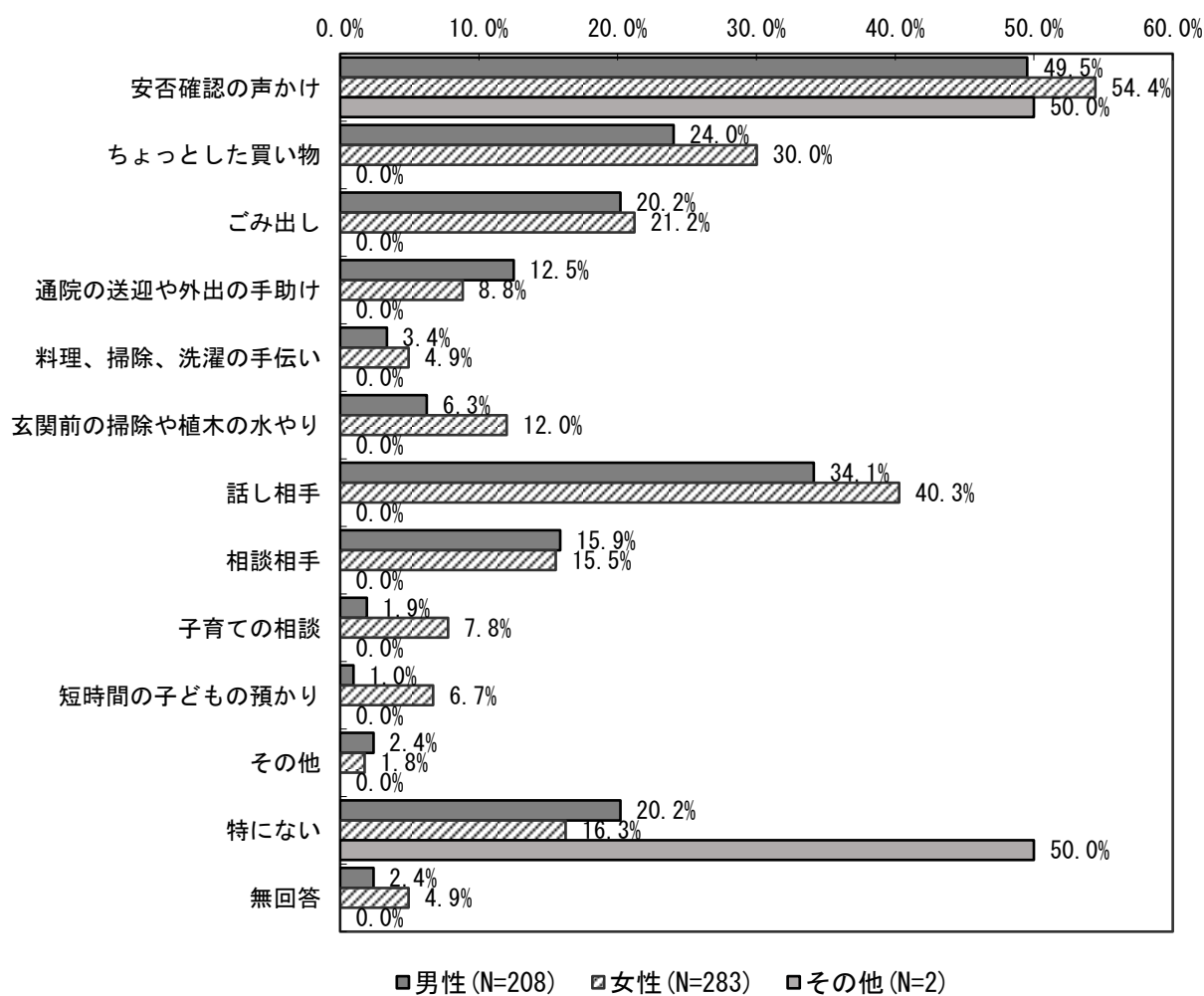


図 高齢者や障がいのある人、子どものことなどで悩んだり困っている世帯に対してできること(複数回答)(年齢区分別)

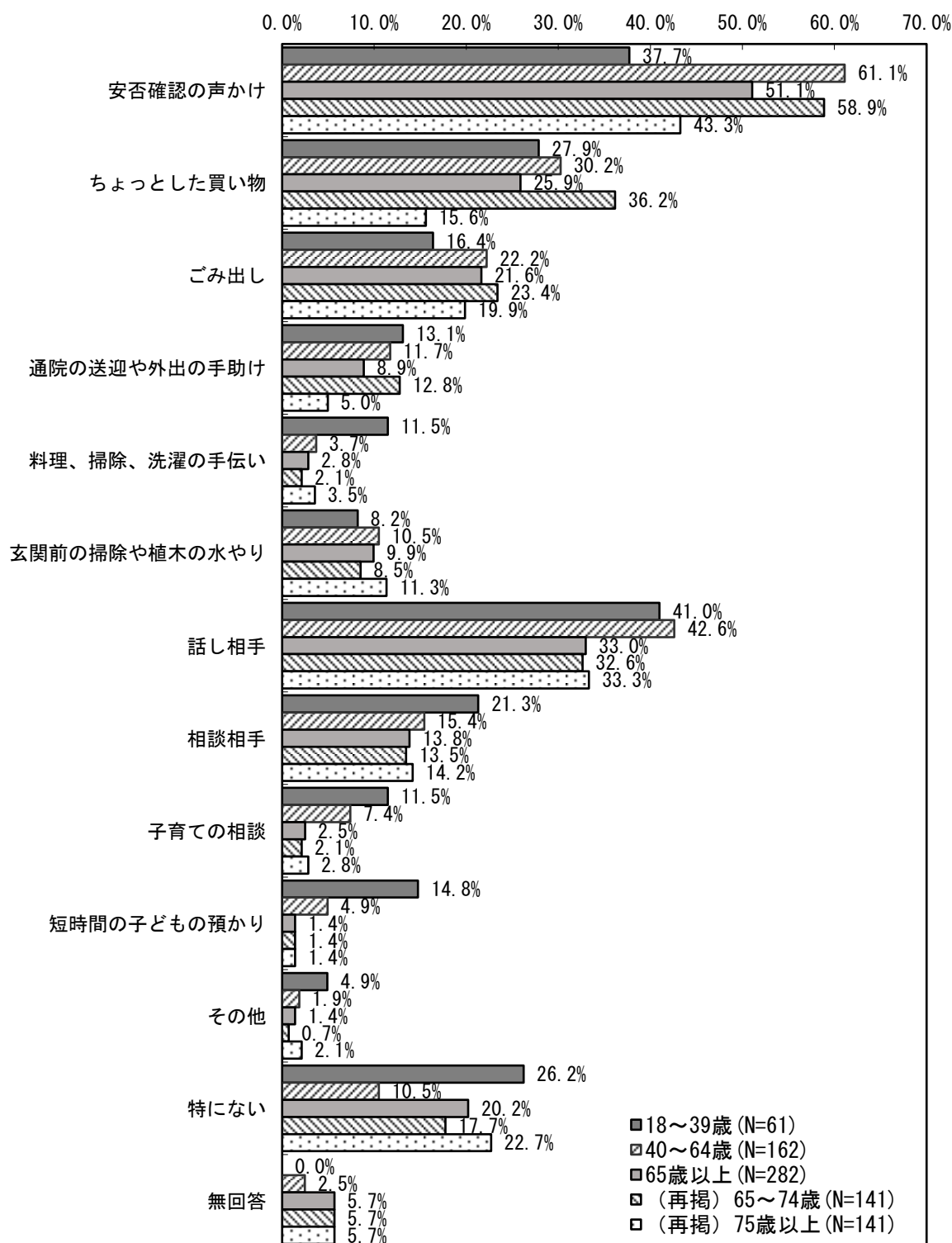
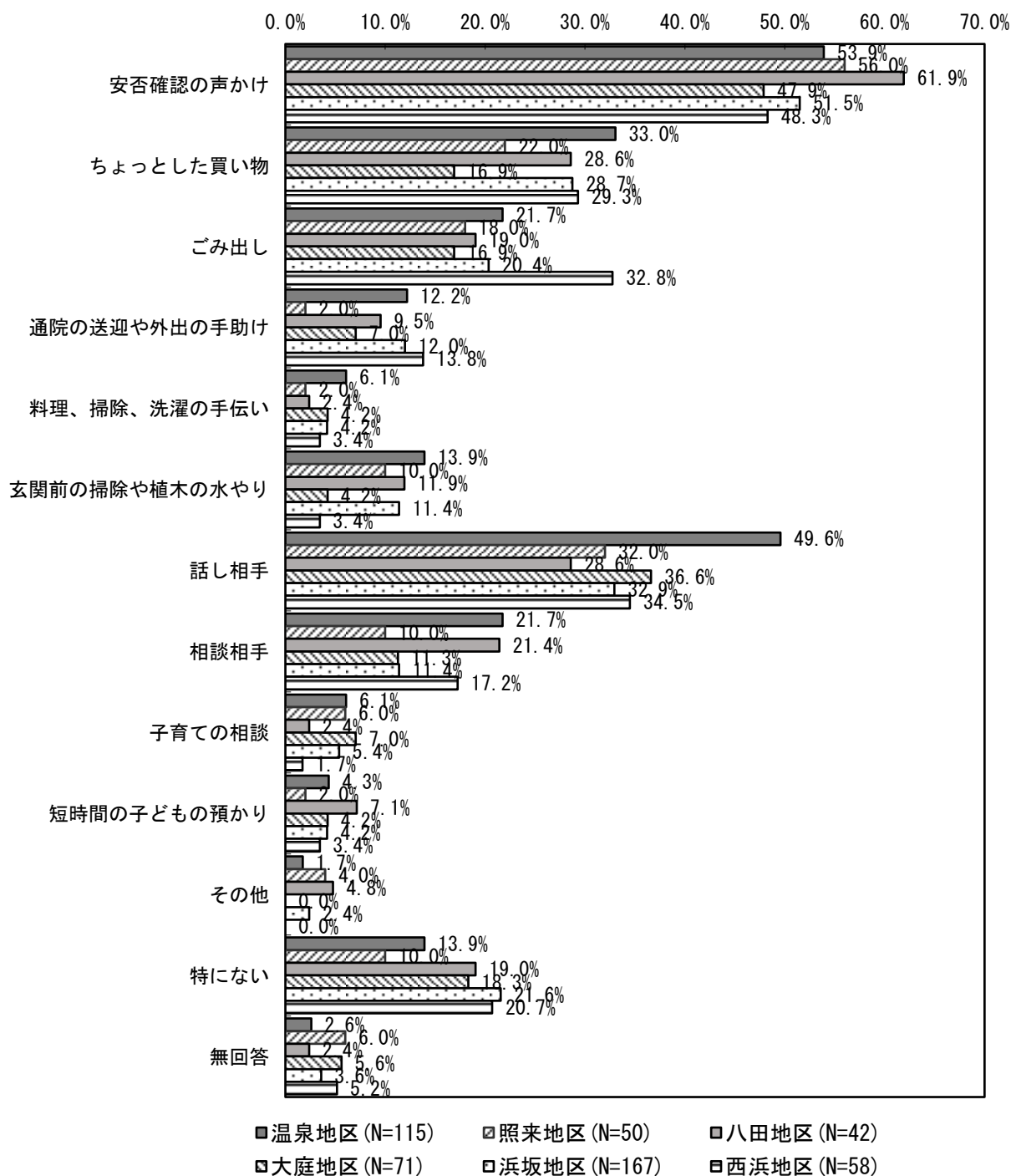


図 高齢者や障がいのある人、子どものことなどで悩んだり困っている世帯に対してできること(複数回答)(地区別)



（19）地域における助けあいや支えあいの活動を活発にするために必要なこと〈複数回答〉

〔問 17 地域における助けあいや支えあいの活動を活発にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで○）〕

地域における助けあいや支えあいの活動を活発にするために必要なことについてみると、「住民自ら進んで日頃から相互のつながりをもつように心がけること」（40.9％）が最も高く、次いで「支えあう意識の啓発」（25.5％）、「支えあいの仲間づくりの機会と場所の確保」（22.6％）となっています。

前回の調査結果から比較すると、「町内会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を積極的に進めること」が9.2ポイント、「支えあいの仲間づくりの機会と場所の確保」が5.5ポイント減少しています。

図 地域における助けあいや支えあいの活動を活発にするために必要なこと(3つ以内で複数回答)

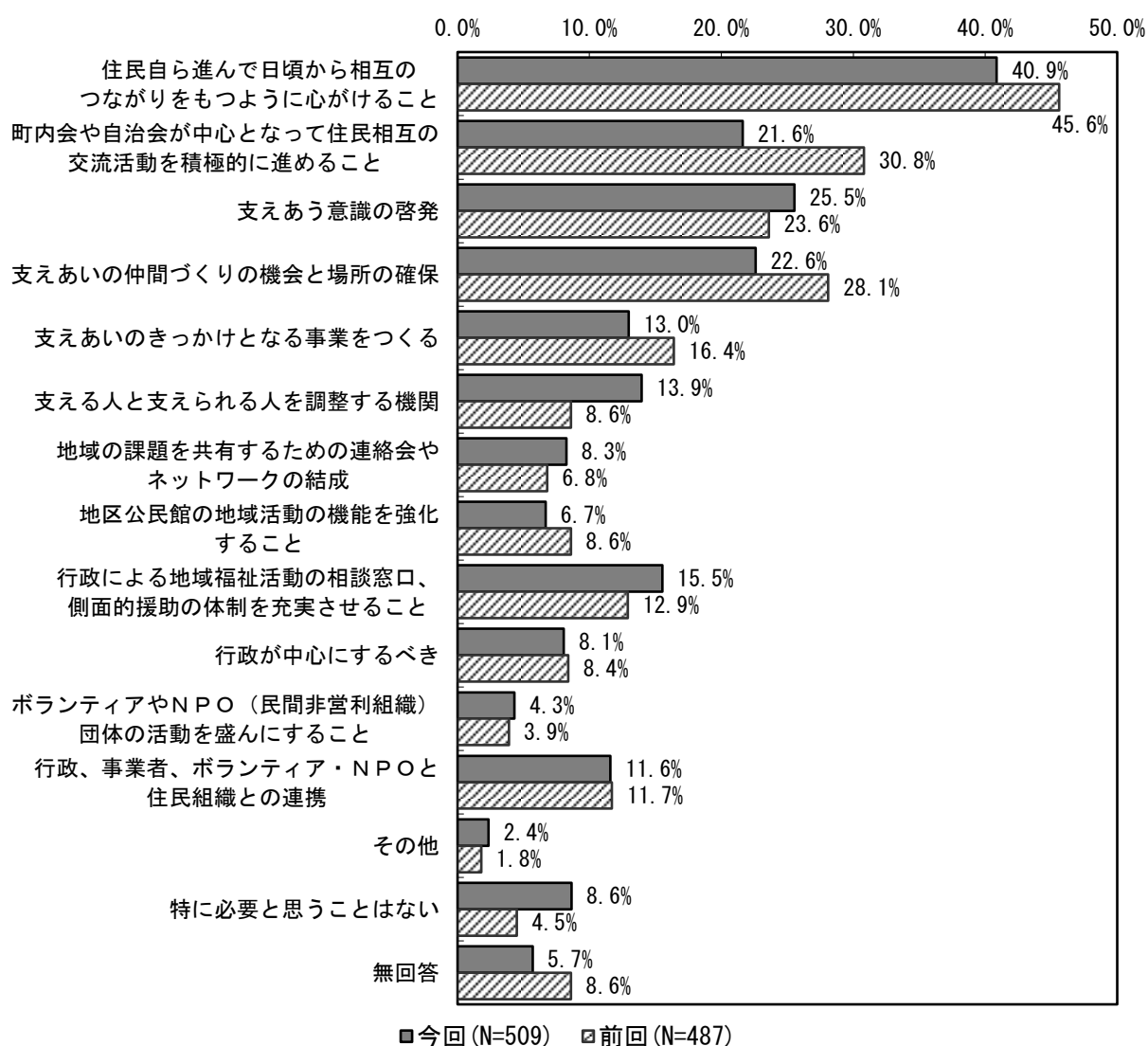


図 地域における助けあいや支えあいの活動を活発にするために必要なこと(3つ以内で複数回答)(男女別)

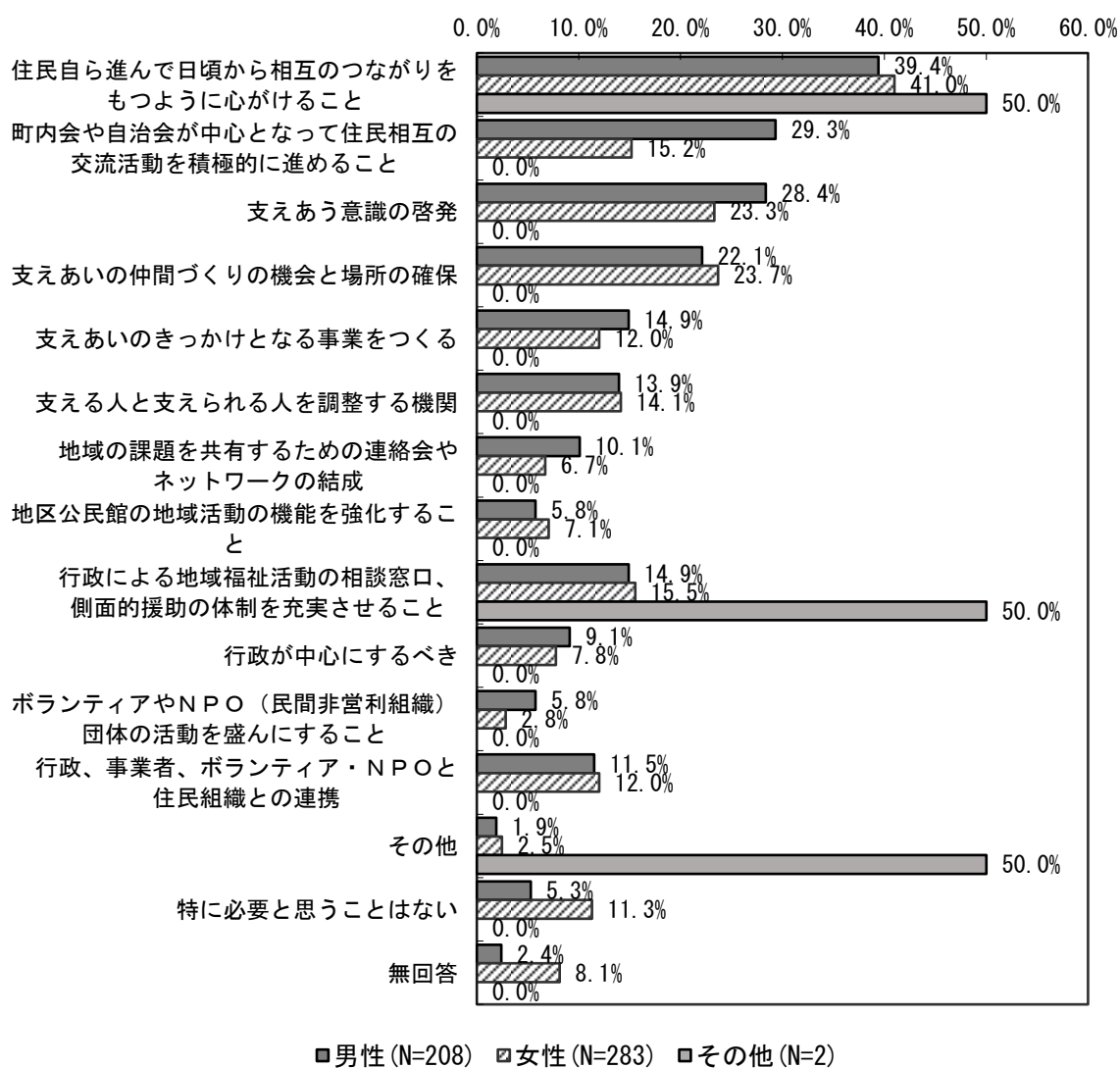


図 地域における助けあいや支えあいの活動を活発にするために必要なこと(3つ以内で複数回答)(年齢区分別)

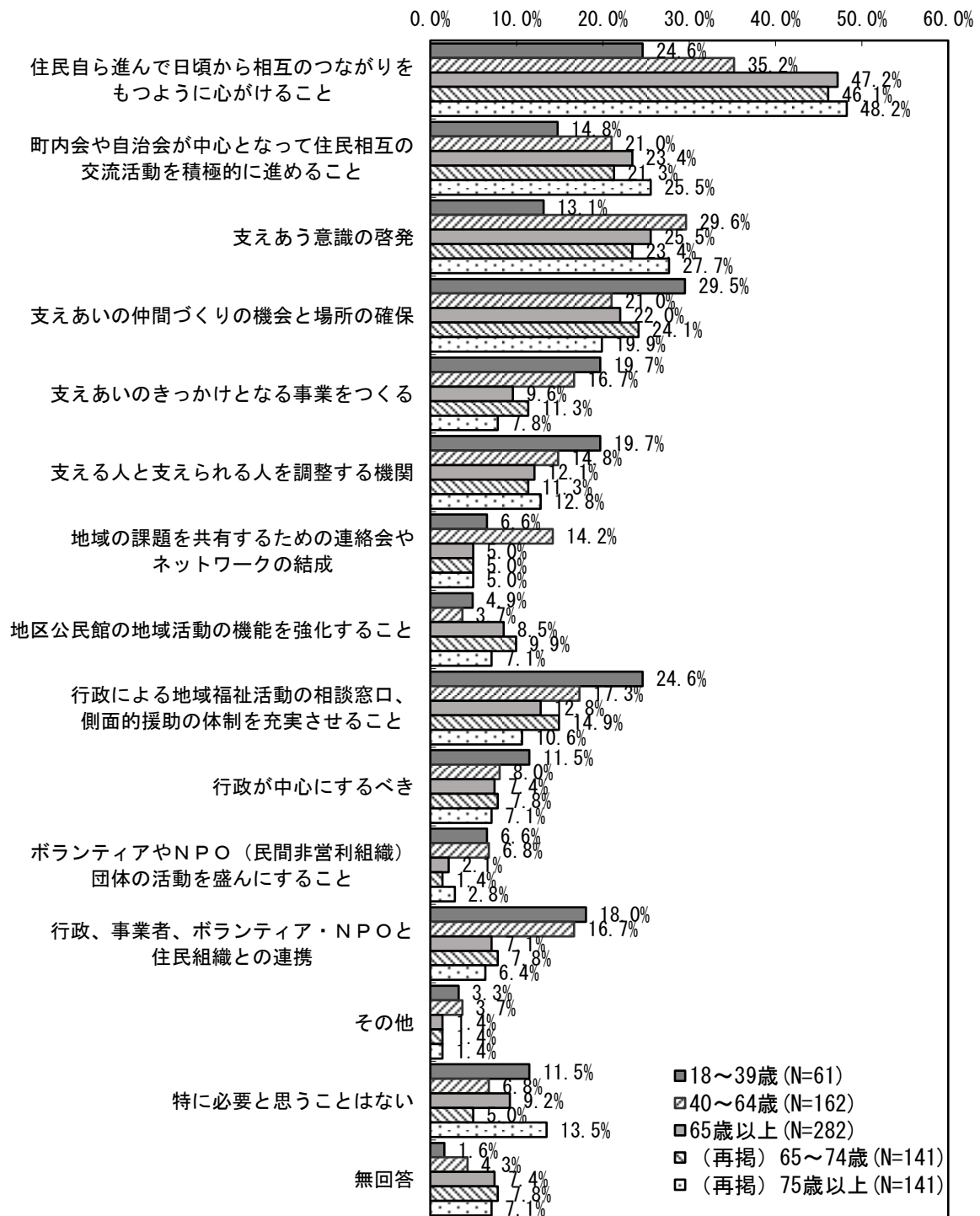


図 地域における助けあいや支えあいの活動を活発にするために必要なこと(3つ以内で複数回答)(地区別)(1/2)

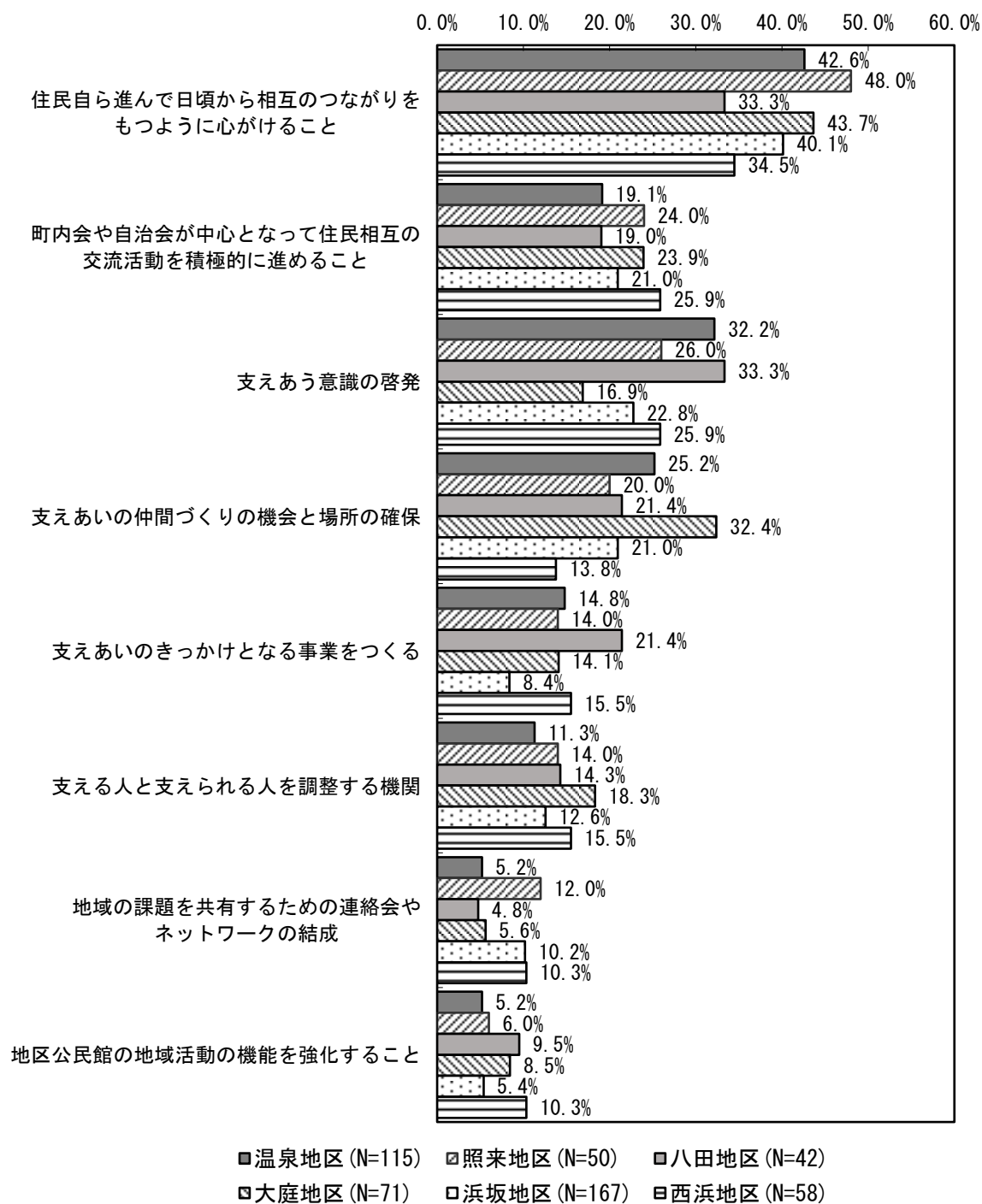
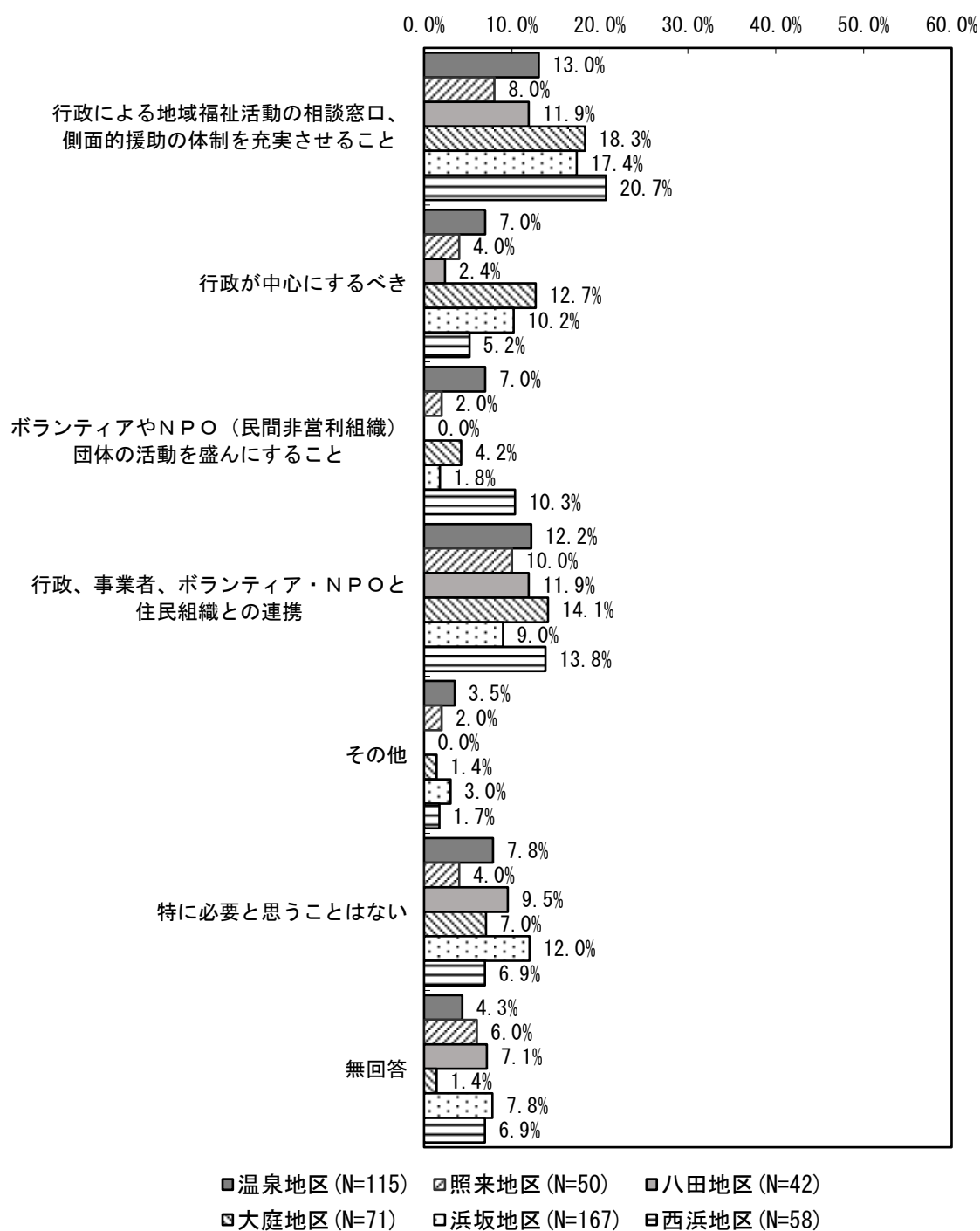


図 地域における助けあいや支えあいの活動を活発にするために必要なこと(3つ以内で複数回答)(地区別)(2/2)



（20）地域の人たちが協力して取り組んでいくことが必要な問題〈複数回答〉

〔問 18 地域の人たちが協力して取り組んでいくことが必要な問題は、次のうちどれだと思いますか。（3つまで○）〕

地域の人たちが協力して取り組んでいくことが必要な問題についてみると、「地域の清掃・美化や地域おこし」（48.1%）が最も高く、次いで「高齢者支援」（39.5%）、「健康づくり」（25.7%）となっています。

前回の調査結果から比較すると、「自然環境保護・リサイクル」が5.6ポイント増加し、「健康づくり」が5.5ポイント減少しています。

図 地域の人たちが協力して取り組んでいくことが必要な問題（3つ以内で複数回答）

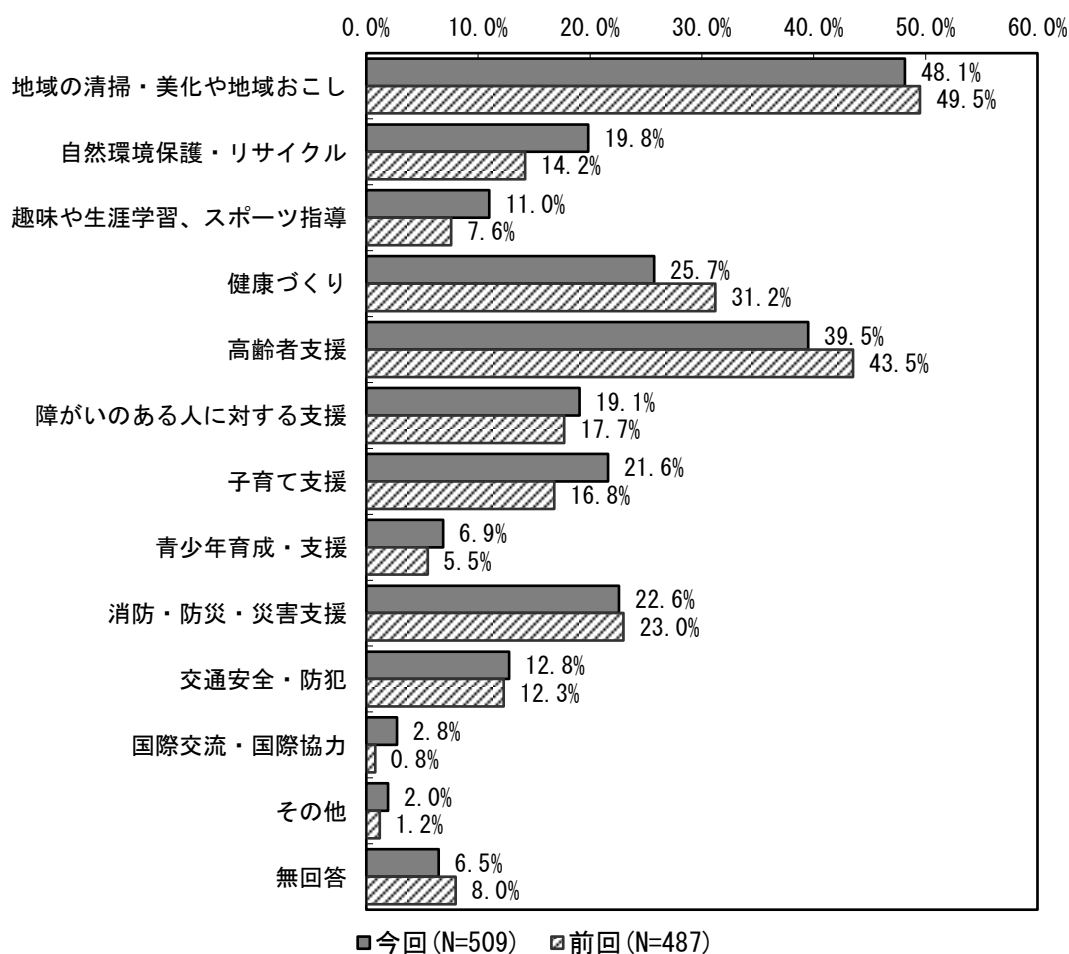


図 地域の人たちが協力して取り組んでいくことが必要な問題(3つ以内で複数回答)(男女別)

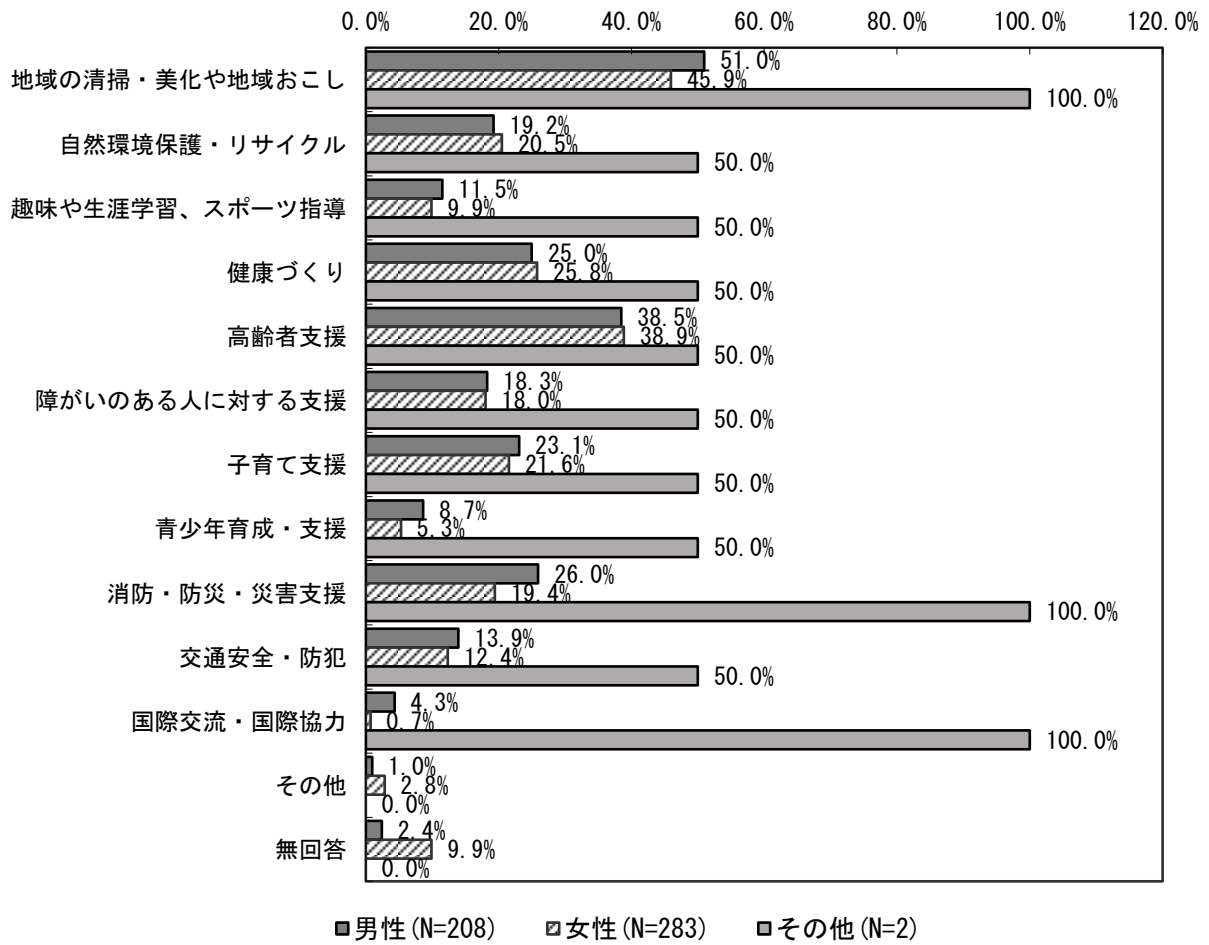


図 地域の人たちが協力して取り組んでいくことが必要な問題(3つ以内で複数回答)(年齢区分別)

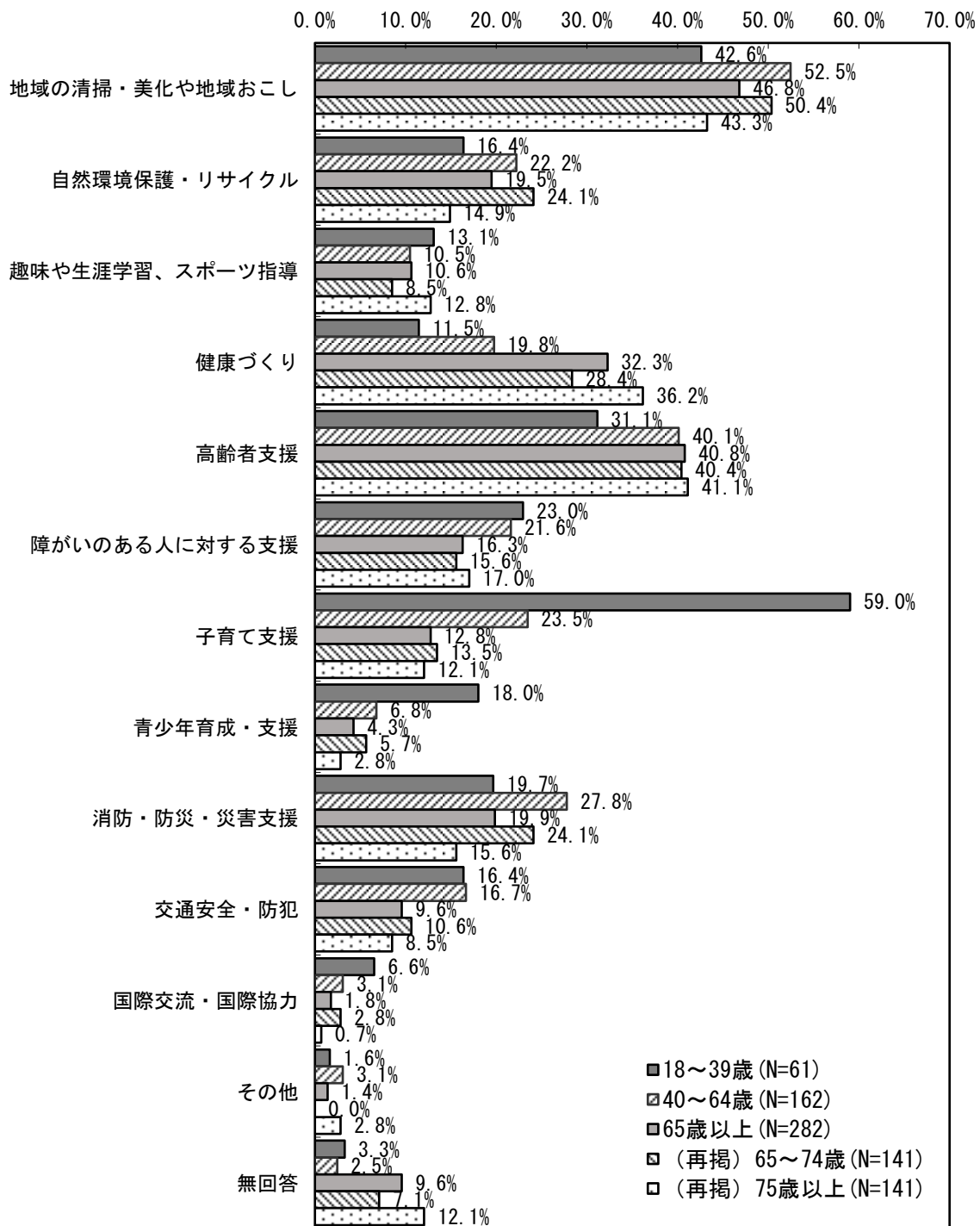
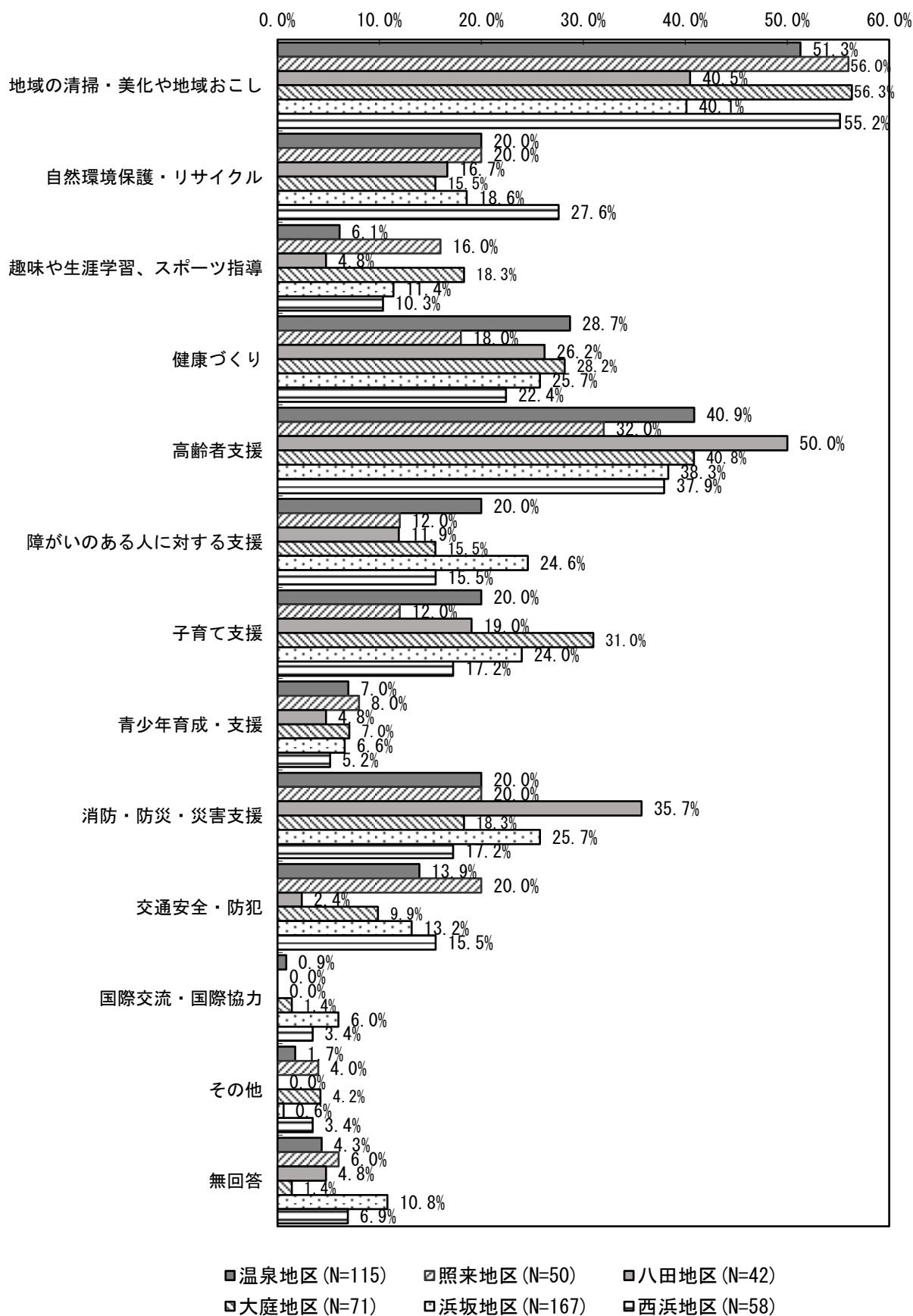


図 地域の人たちが協力して取り組んでいくことが必要な問題(3つ以内で複数回答)(地区別)



(21) 身近で虐待について見聞きした経験〈複数回答〉

〔問 19(1) あなたは、身近で虐待について見聞きしたことがありますか。(あてはあるものすべてに○)〕

身近で虐待について見聞きした経験についてみると、85.5%が「身近では見聞きしたことがない」となっていますが、「高齢者への虐待を見聞きしたことがある」(4.9%)、「子どもへの虐待を見聞きしたことがある」(2.6%)、「障がいのある人への虐待を見聞きしたことがある」(1.6%) など、なんらかの虐待について見聞きした割合が約 10%になっています。

図 身近で虐待について見聞きした経験(複数回答)

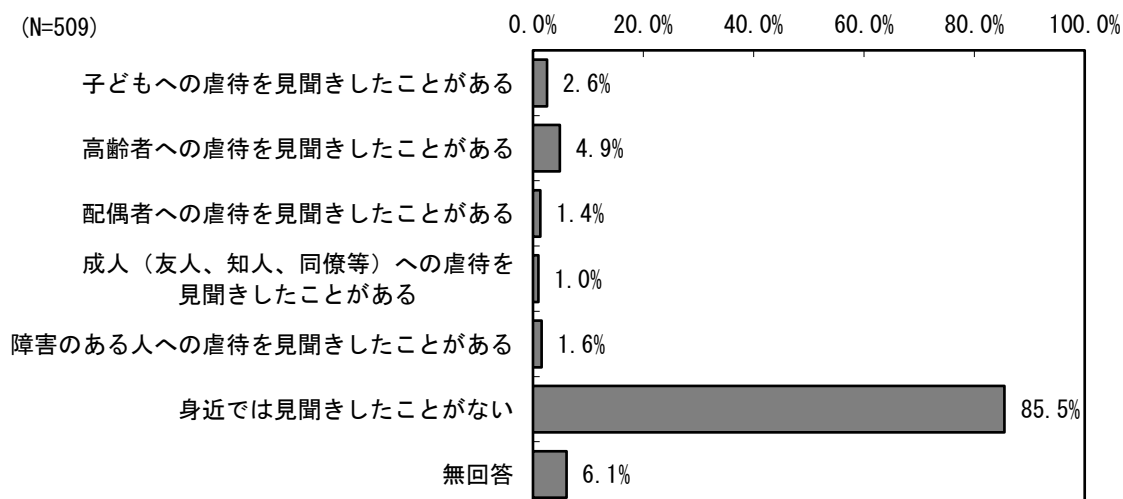


図 身近で虐待について見聞きした経験(複数回答)(男女別)

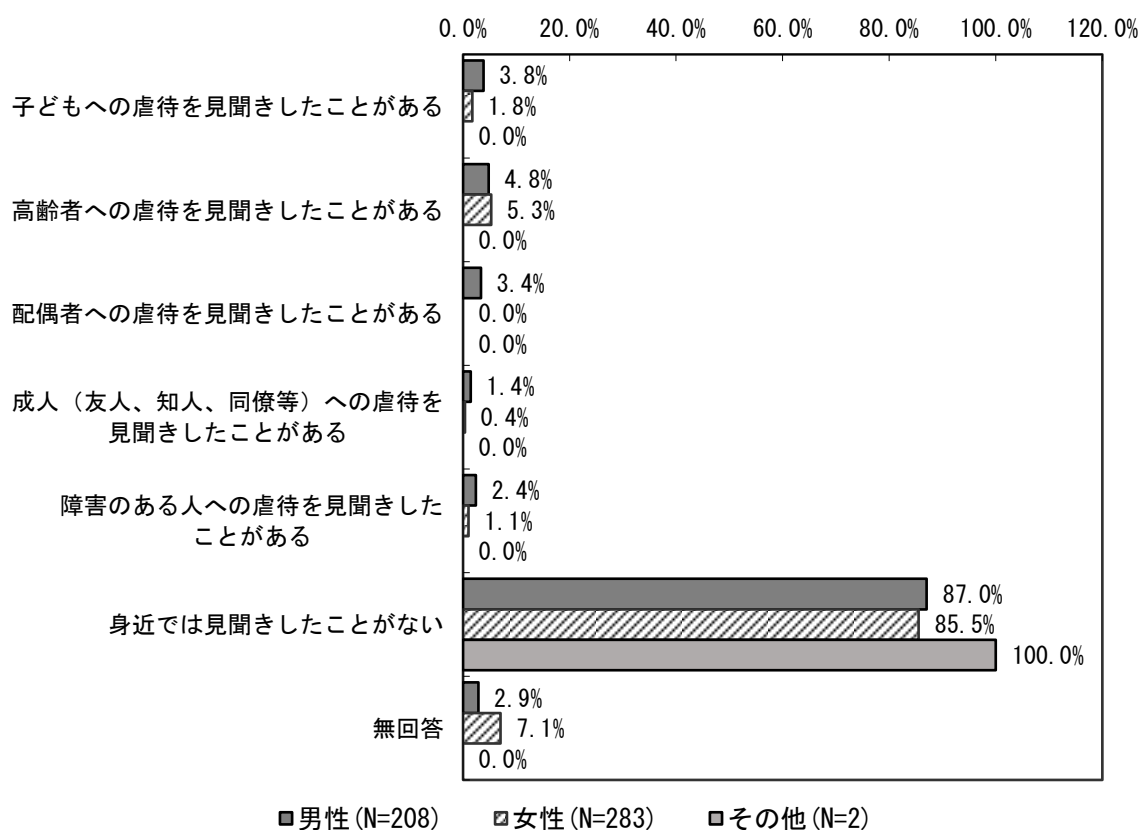


図 身近で虐待について見聞きした経験(複数回答)(年齢区分別)

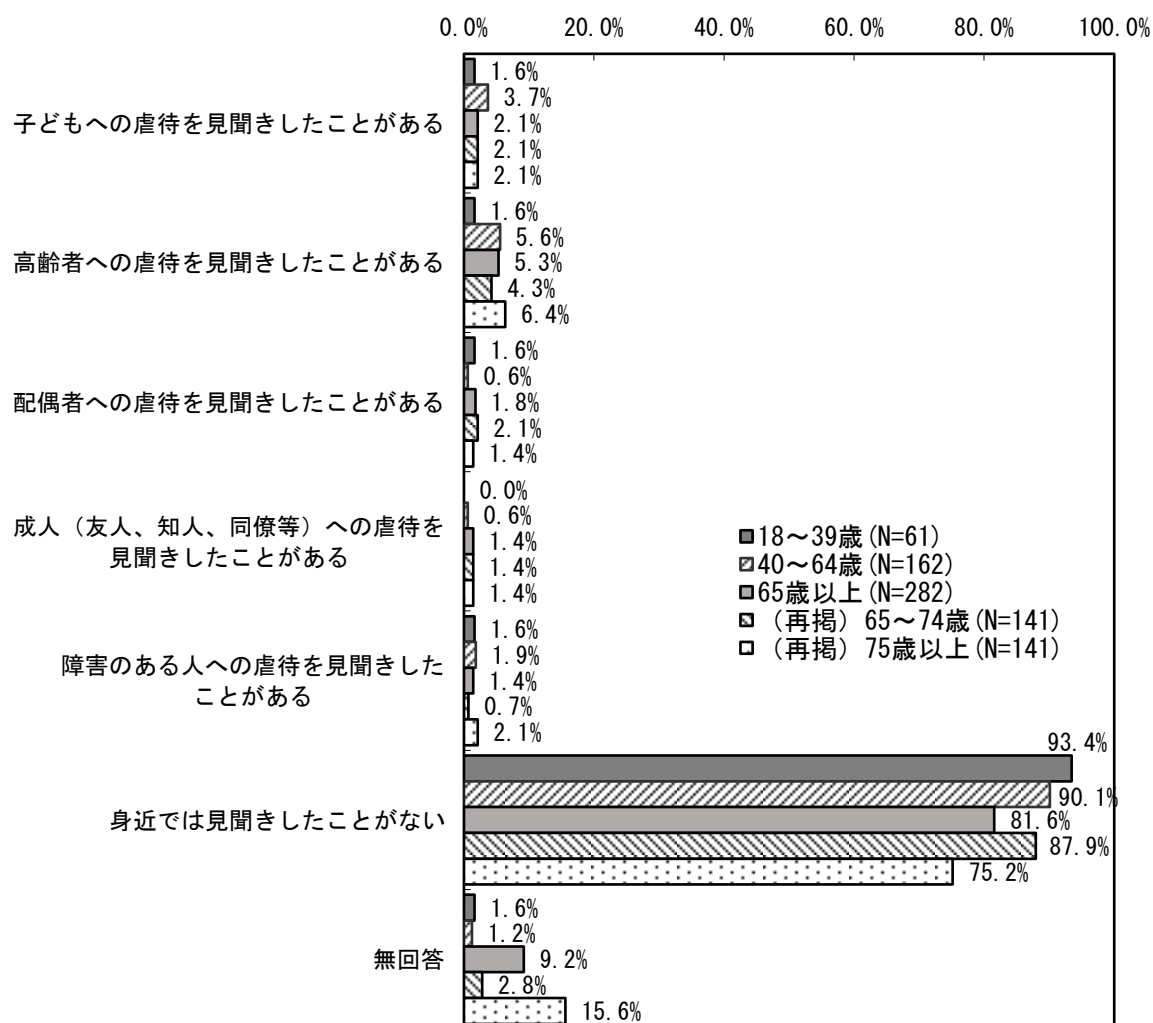
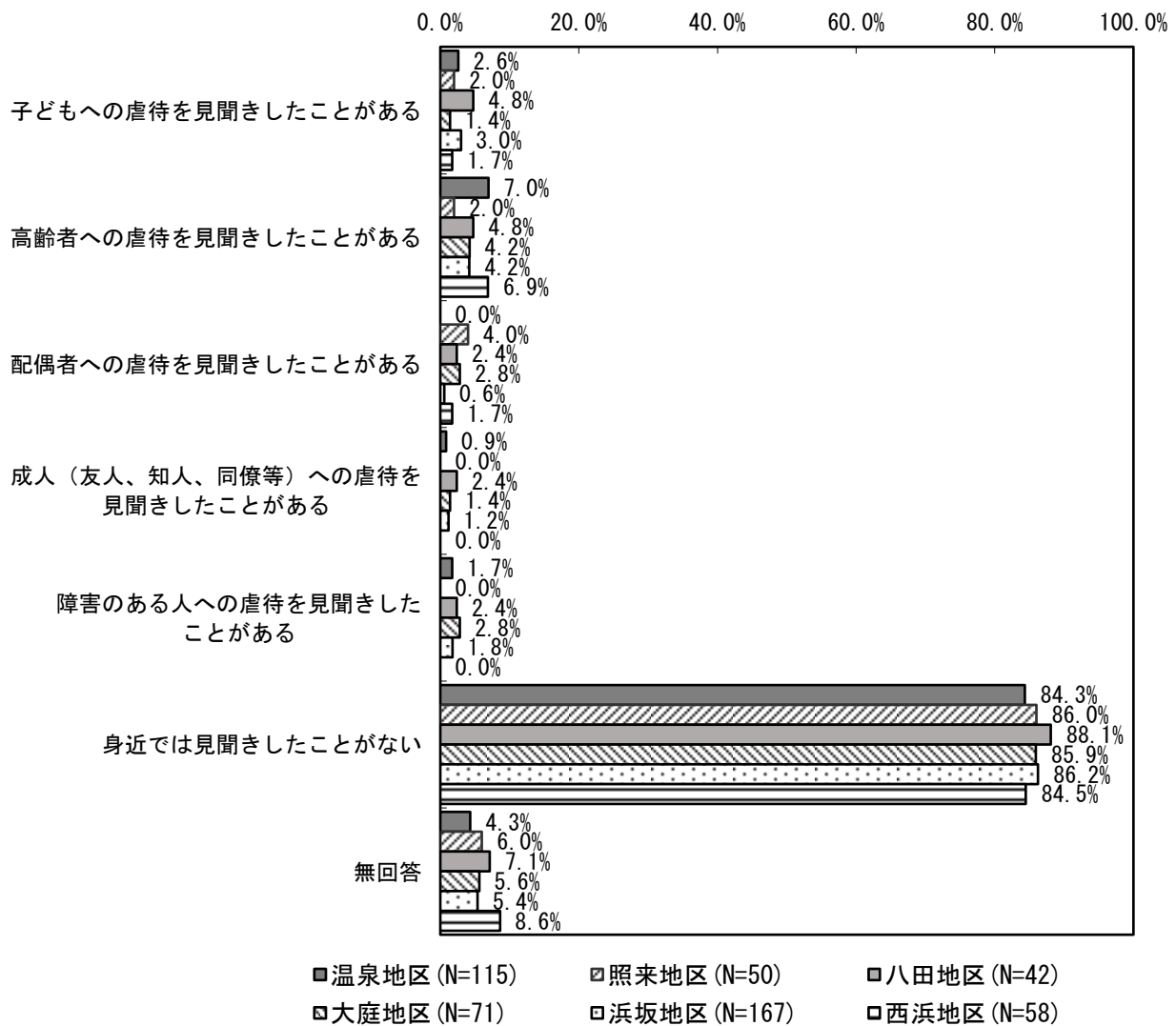


図 身近で虐待について見聞きした経験(複数回答)(地区別)



(22) 虐待を見聞きした際の対応〈複数回答〉

〔問 19(2) 問 19(1)で「1. 」～「5. 」を選んだ方(虐待を見聞きしたことがある方)におうかがいします。あなたは、虐待を見聞きした時どうしましたか。(あてはあるものすべてに○)〕

虐待を見聞きした際の対応についてみると、「通報・連絡したことが知られると困るので、何もしなかった」(32.6%)が最も高く、次いで「どこに通報もしくは連絡・相談すればよいかわからなかった」(23.3%)、「民生委員・児童委員に連絡・相談した」(16.3%)となっています。

図 虐待を見聞きした際の対応(複数回答)

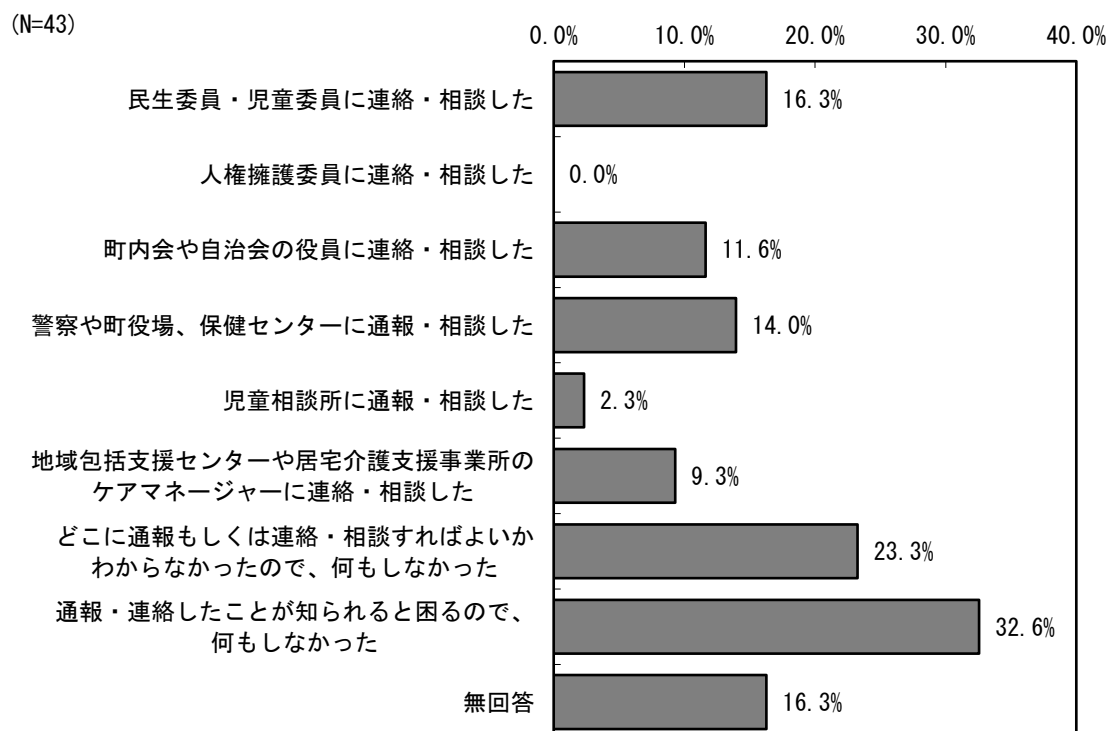


図 虐待を見聞きした際の対応(複数回答)(男女別)

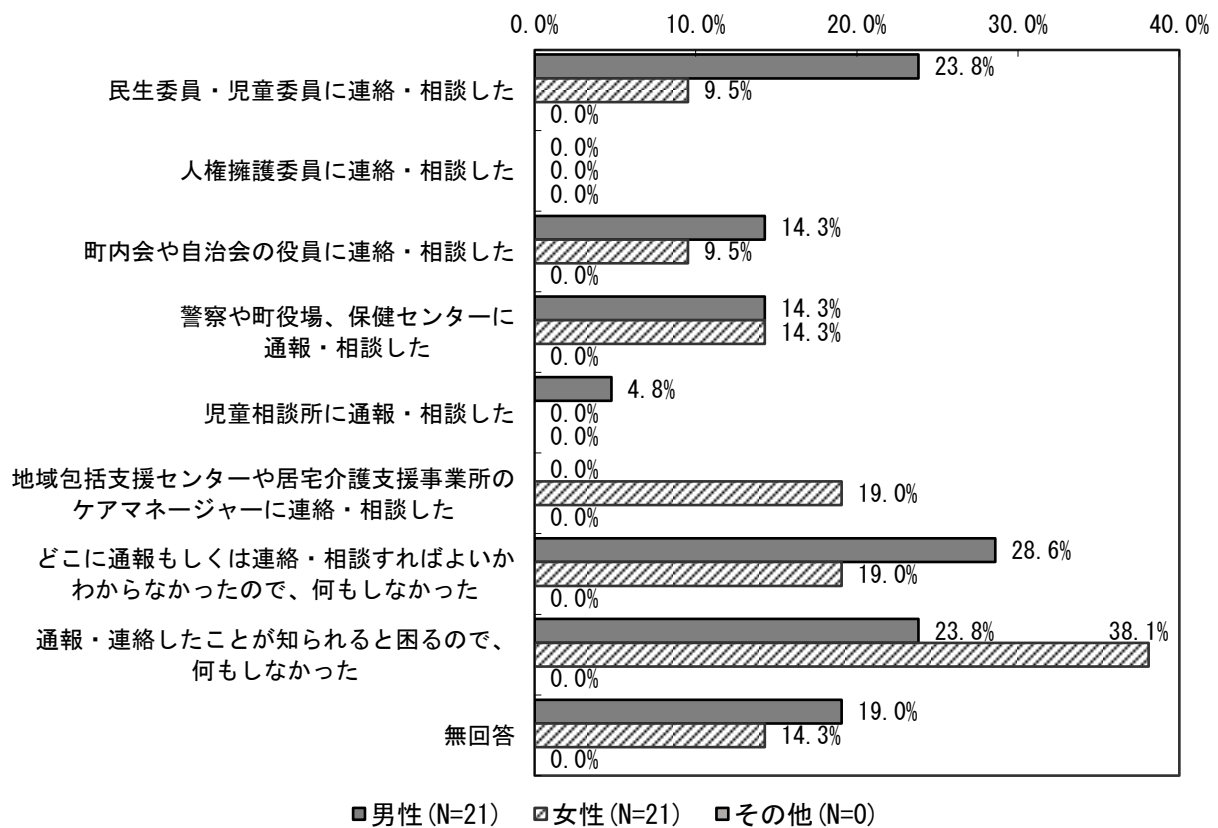


図 虐待を見聞きした際の対応(複数回答)(年齢区分別)

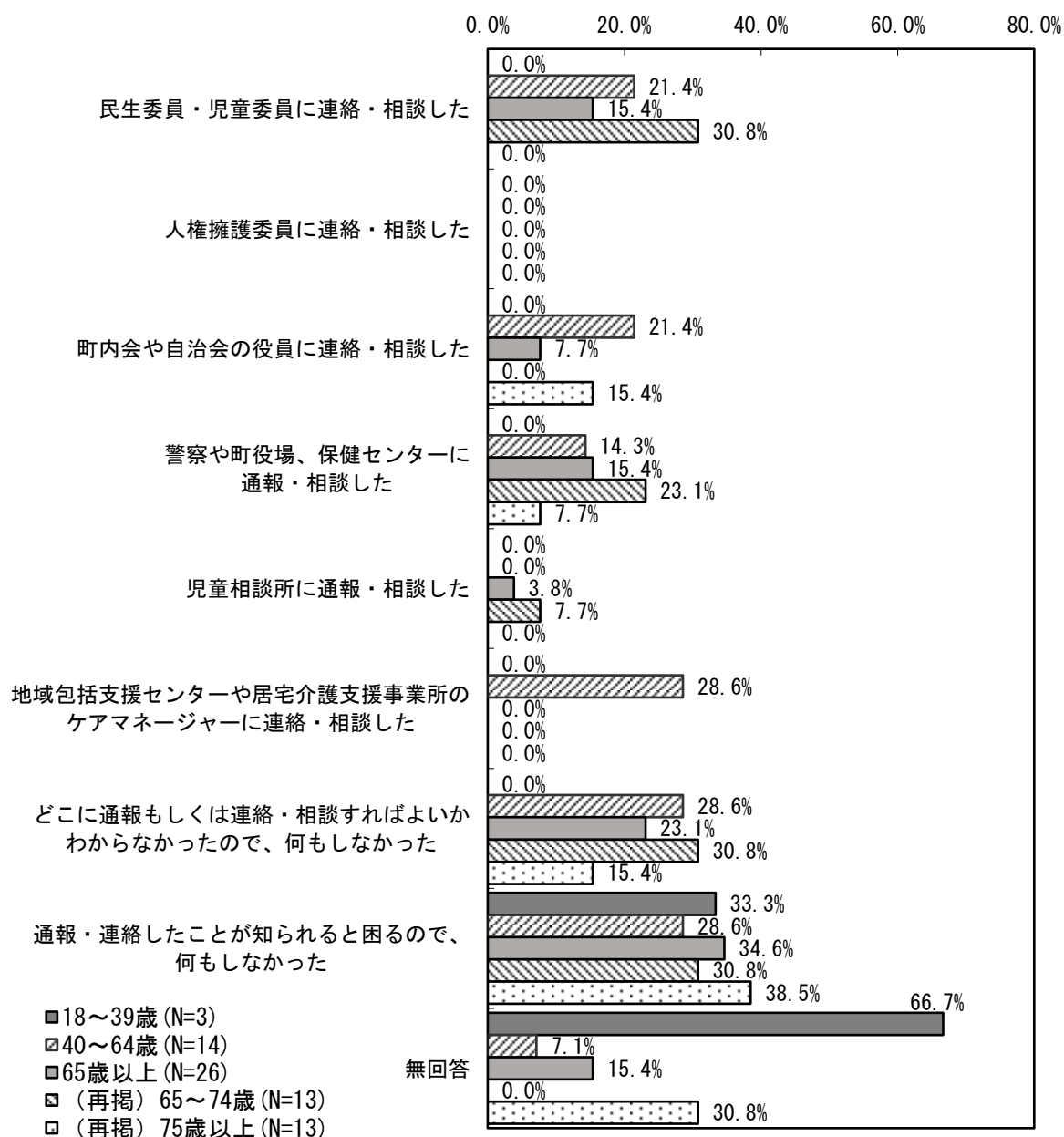
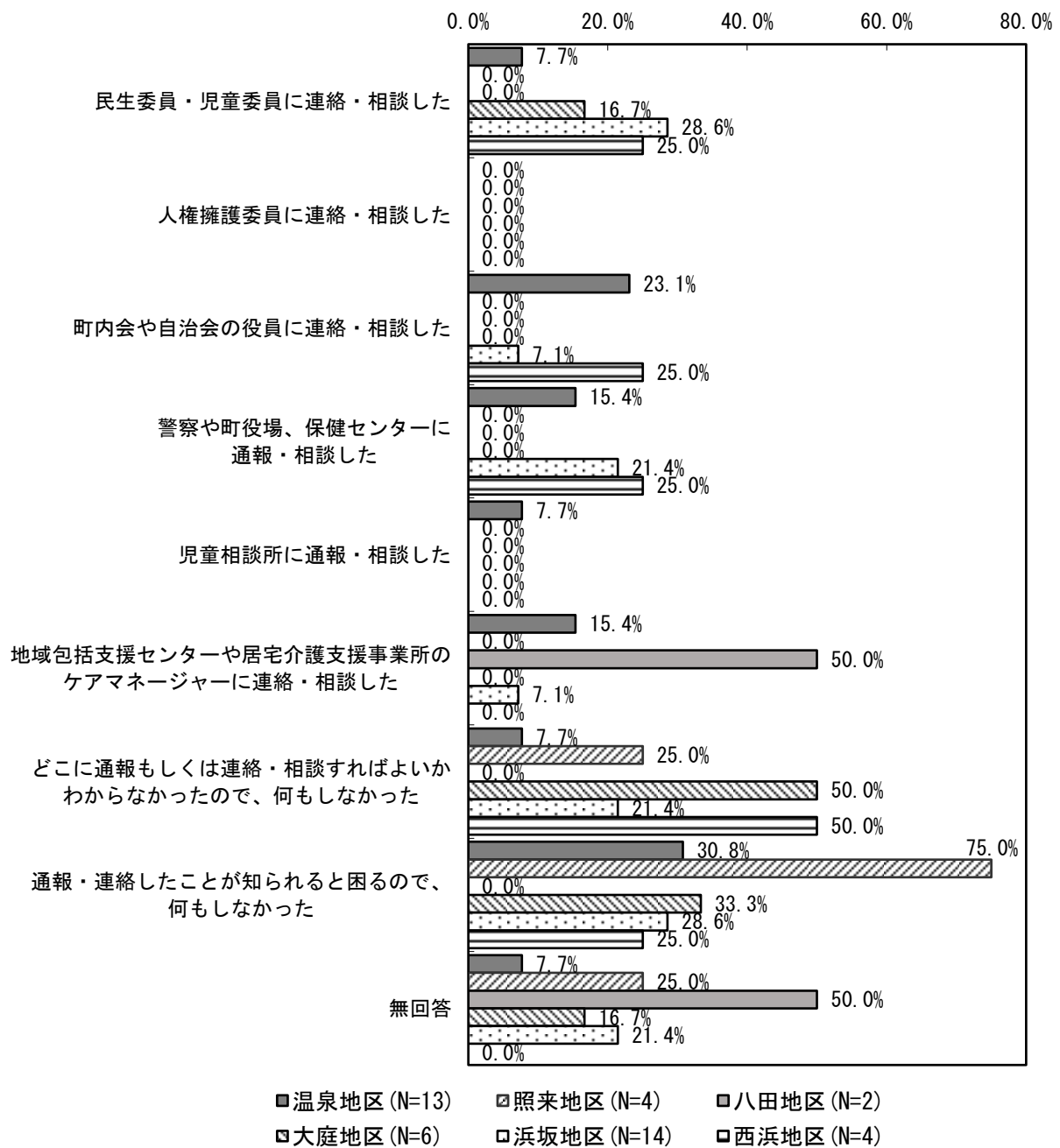


図 虐待を見聞きした際の対応(複数回答)(地区別)



3 地域福祉にかかわる機関や団体、制度について

(1) 社会福祉協議会や地域の団体が行っている福祉活動で知っているもの〈複数回答〉

〔問 20 新温泉町では、社会福祉協議会や地域の団体が福祉活動を行っています。これらの機関、団体の福祉活動で、あなたが知っているものを選んでください。(知っているものすべてに○)〕

社会福祉協議会や地域の団体が行っている福祉活動で知っているものについてみると、「ふれあい・いきいきサロン」(48.1%)が最も高く、次いで「高齢者向け給食サービス」(46.2%)、「高齢者の交流会」(27.9%)となっています。

前回の調査結果から比較すると、「学習会・研修会」が14.9ポイント、「高齢者の交流会」が10.1ポイント減少しています。

図 社会福祉協議会や地域の団体が行っている福祉活動で知っているもの(複数回答)

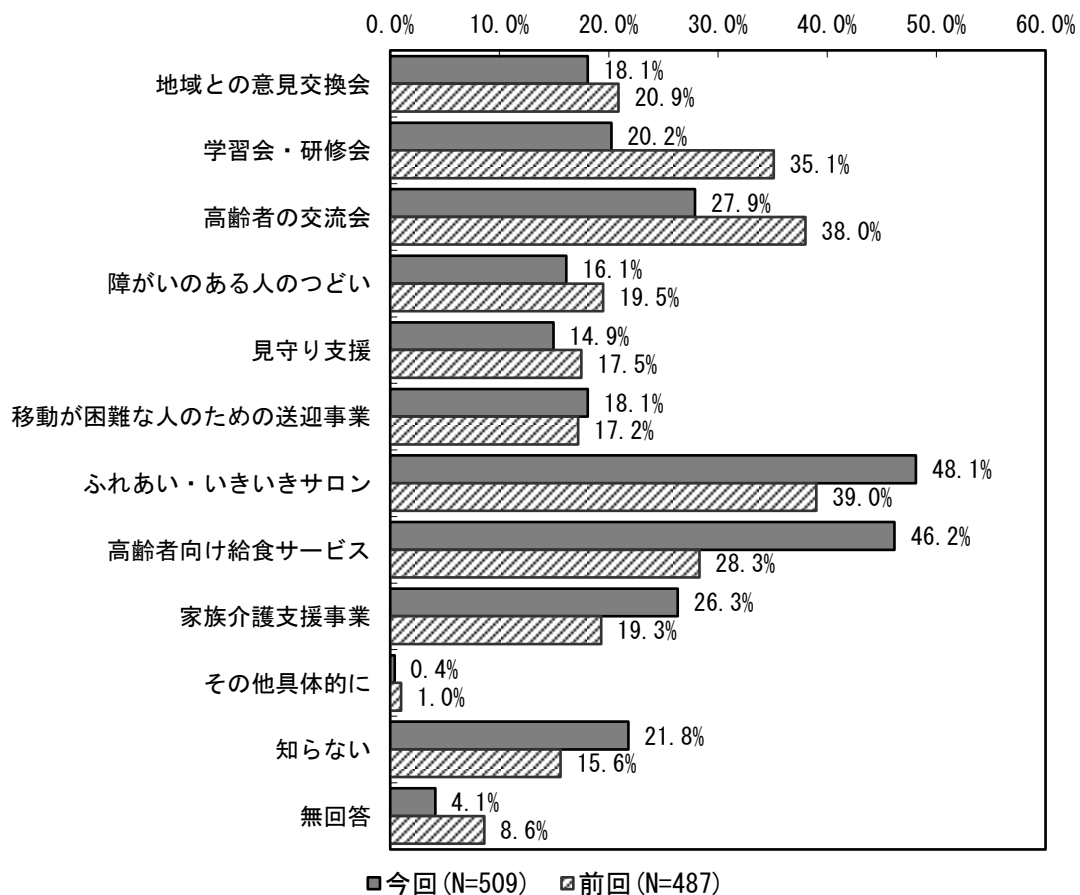


図 社会福祉協議会や地域の団体が行っている福祉活動で知っているもの(複数回答)(男女別)

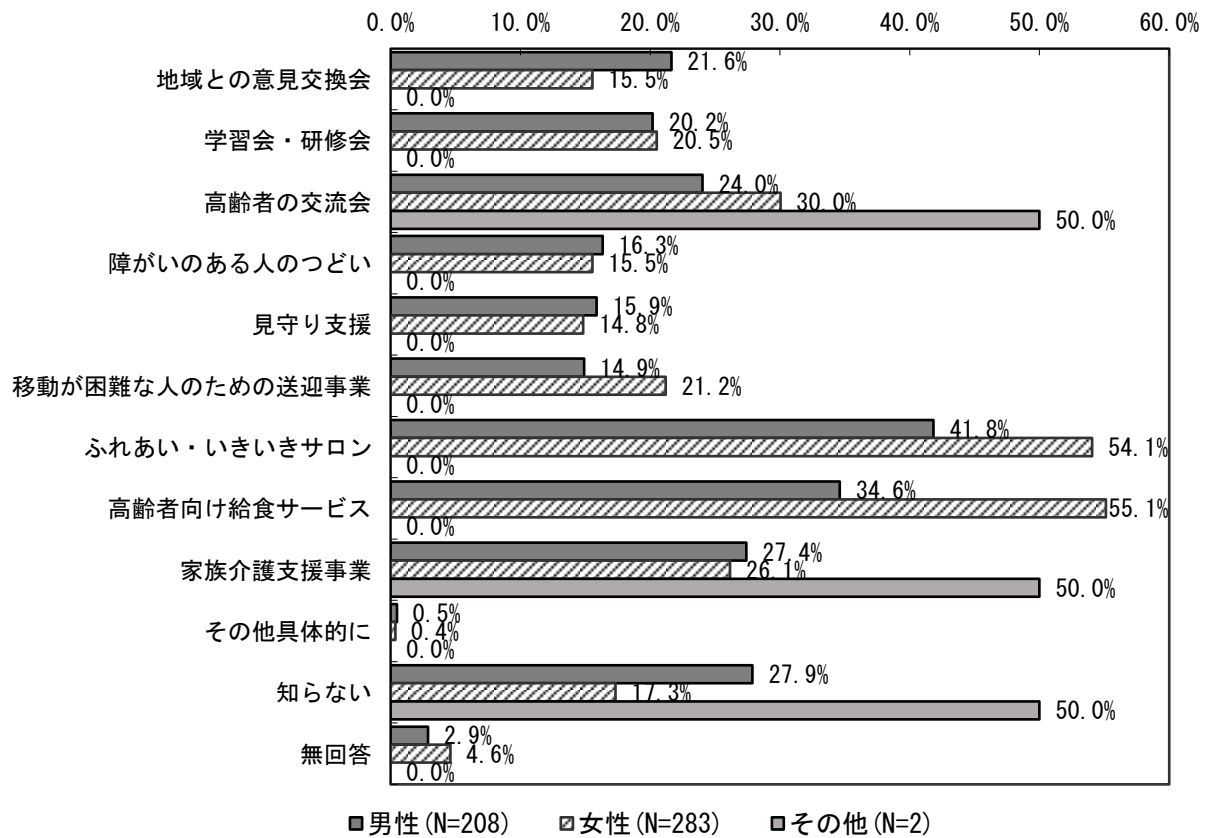


図 社会福祉協議会や地域の団体が行っている福祉活動で知っているもの（複数回答）（年齢区分別）

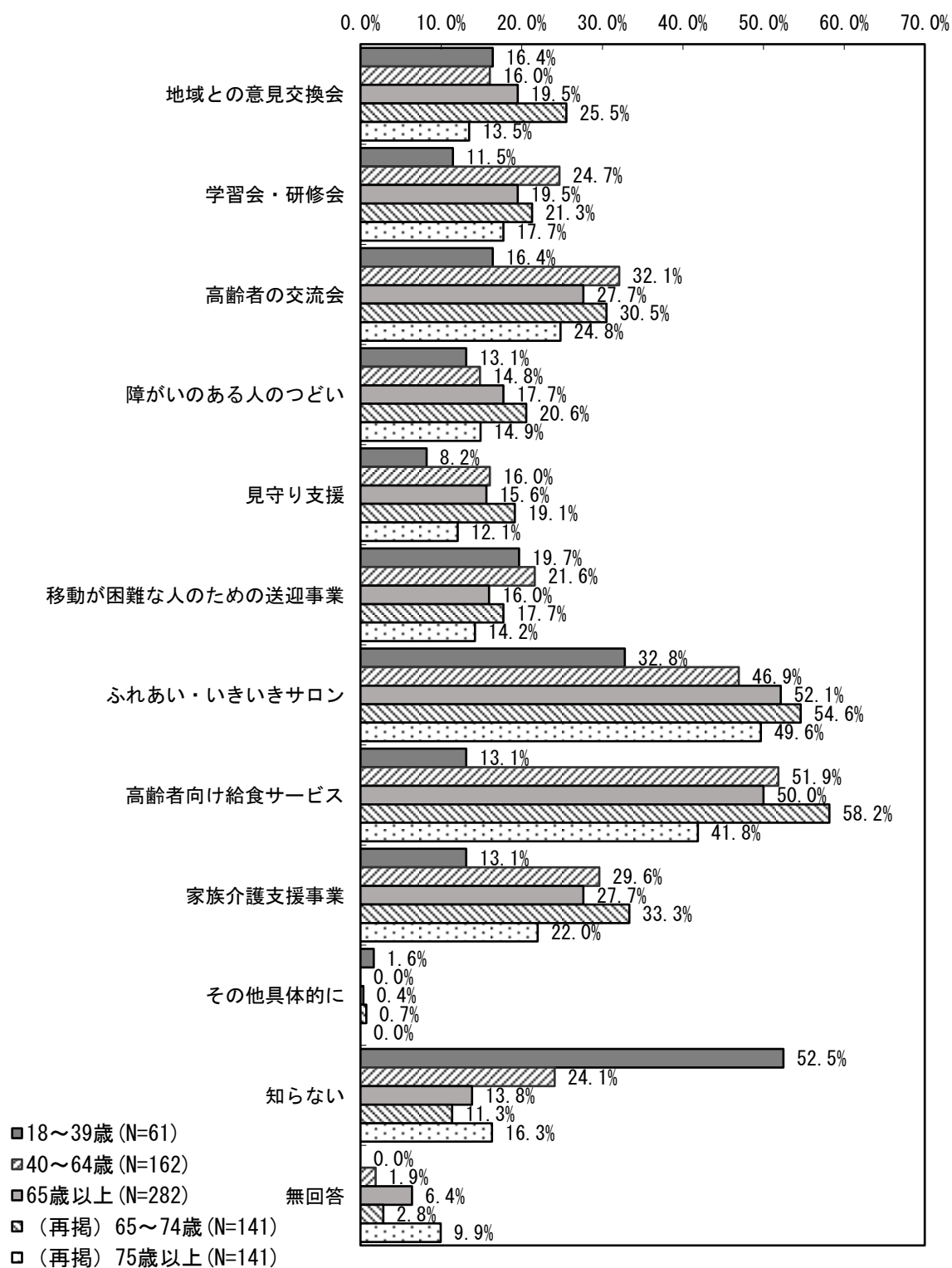
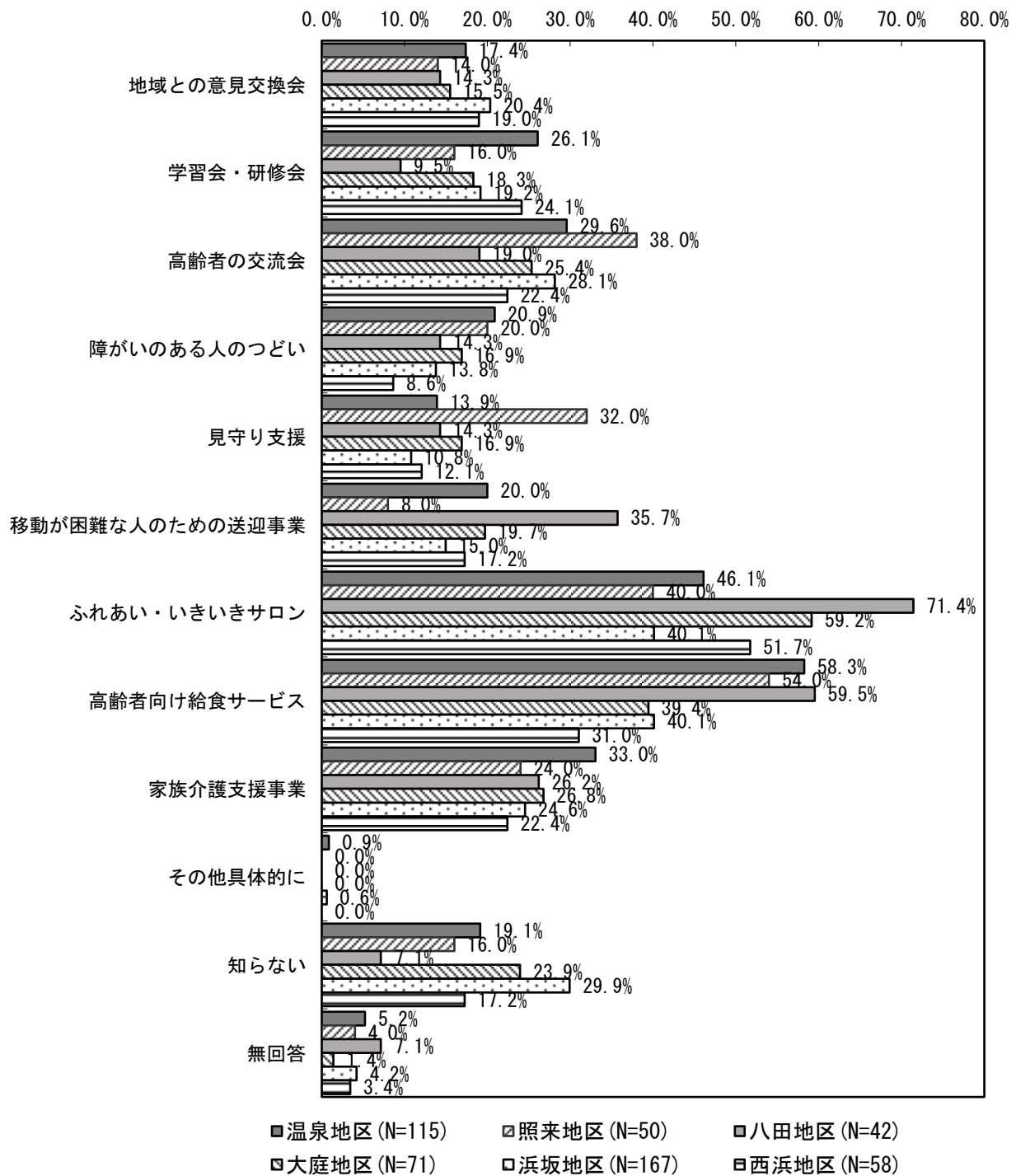


図 社会福祉協議会や地域の団体が行っている福祉活動で知っているもの(複数回答)(地区別)



(2)「小地域福祉活動」に参加したことがあるか〈単数回答〉

〔問 21 社会福祉協議会では、地域住民(ボランティア)と連携して、援助を必要とする高齢者や障がいのある人などの地域生活を地域ぐるみで支援する「小地域福祉活動」を行っています。あなたは、「小地域福祉活動」に参加したことがありますか。(1つだけ○)〕

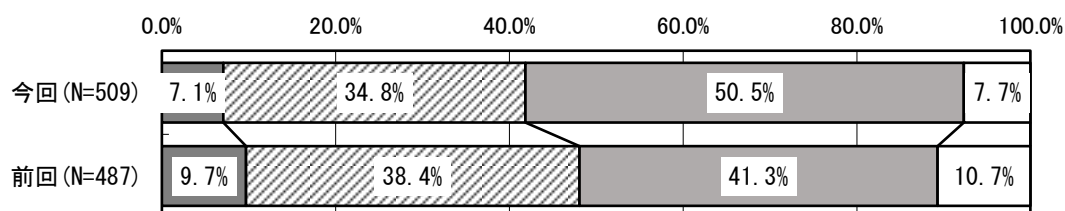
「小地域福祉活動」に参加したことがあるかについてみると、「参加したことがなく、今後も参加するつもりはない」(50.5%)が多く約5割、次いで「参加したことはないが、参加したいと考えている」(34.8%)、「参加したことがある」(7.1%)となっています。

前回の調査結果から比較すると、「参加したことがなく、今後も参加するつもりはない」が9.2ポイント増加しています。

年齢区分別にみると、年代が上がるほど参加経験や参加意向が高く、年代が低いほど、「参加したことがなく、今後も参加するつもりはない」が多くなっています。

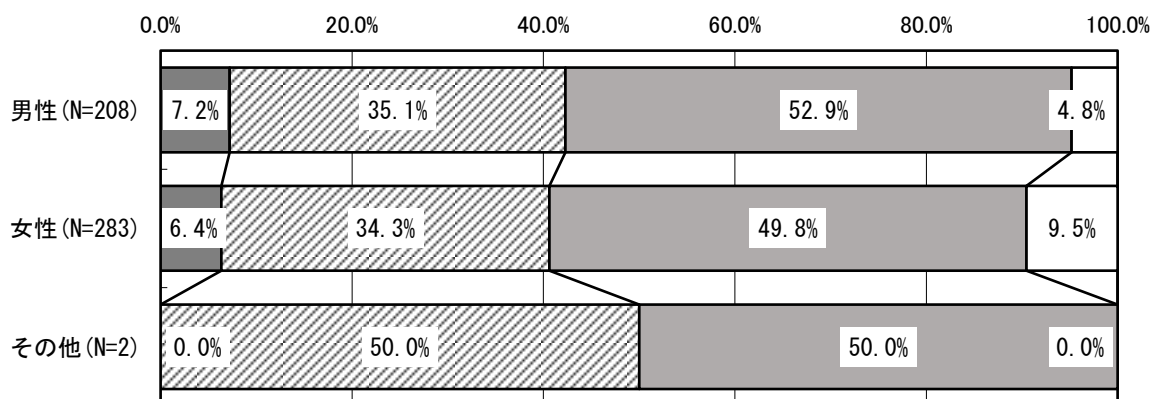
地区別にみると、「大庭地区」「照来地区」では参加経験が他地区に比べて低くなっています。一方、「参加したことがなく、今後も参加するつもりがない」は「西浜地区」(55.2%)、「照来地区」(54.0%)で高くなっています。

図 「小地域福祉活動」に参加したことがあるか



- 参加したことがある
- ▨ 参加したことはないが、参加したいと考えている
- 参加したことがなく、今後も参加するつもりはない
- 無回答

図 「小地域福祉活動」に参加したことがあるか(男女別)



- 参加したことがある
- ▨ 参加したことはないが、参加したいと考えている
- 参加したことがなく、今後も参加するつもりはない
- 無回答

図 「小地域福祉活動」に参加したことがあるか(年齢区分別)

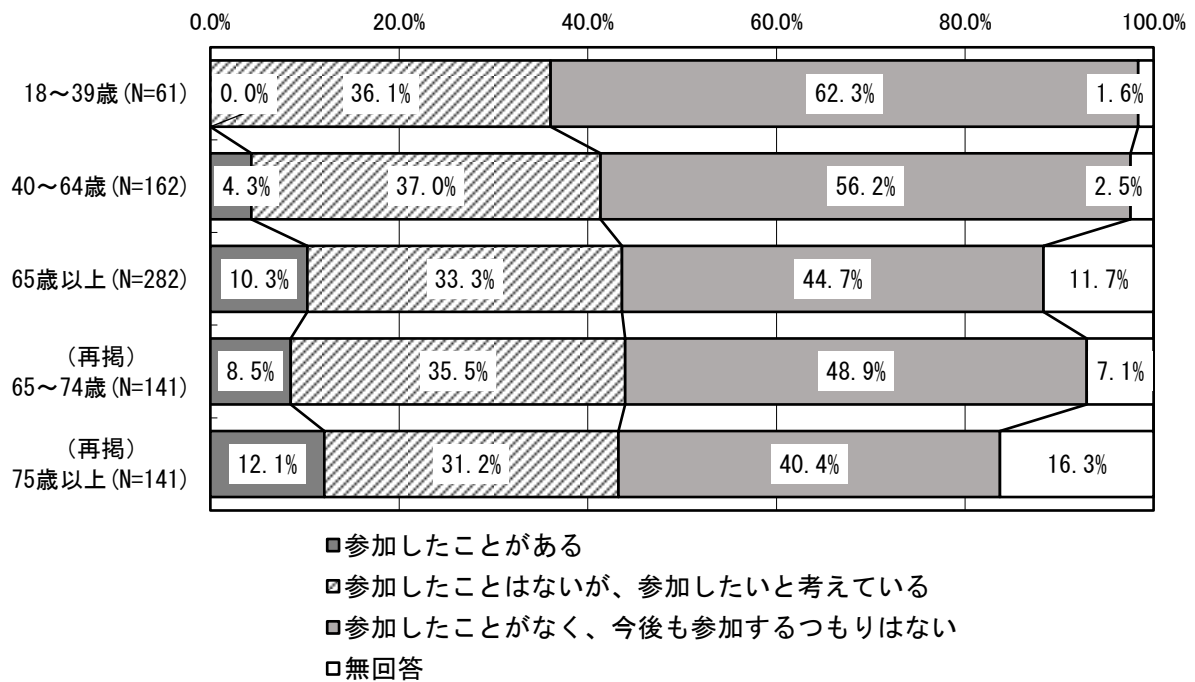
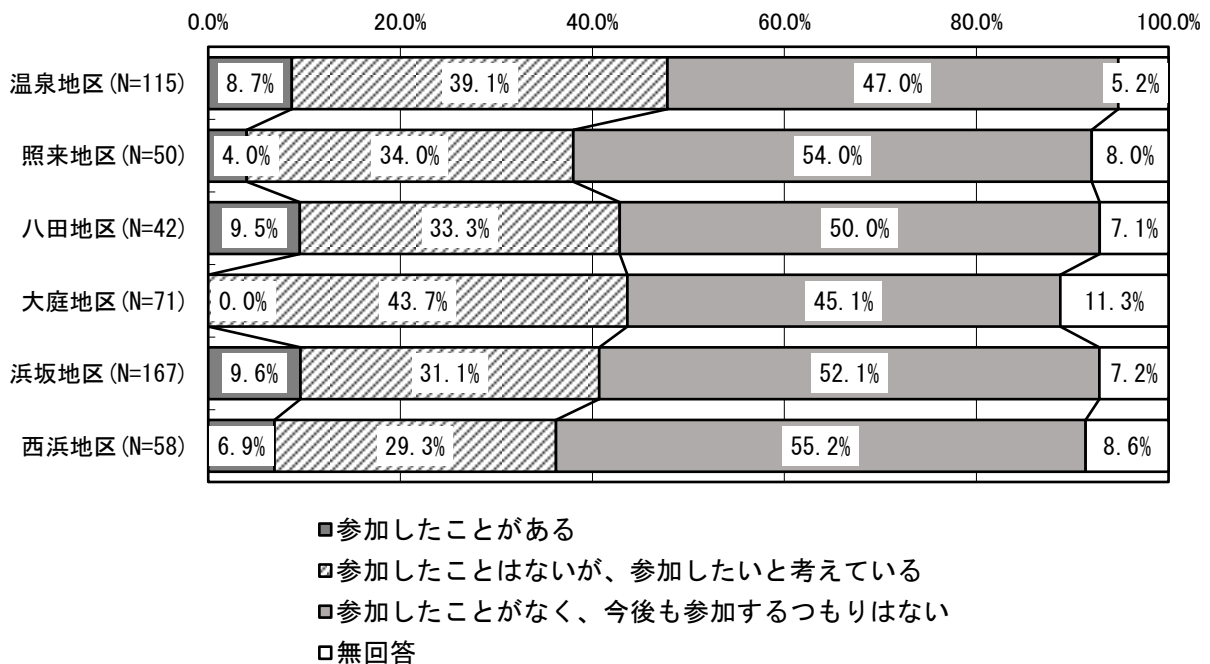


図 「小地域福祉活動」に参加したことがあるか(地区別)



(3)「地域包括支援センター」について知っているか〈単数回答〉

〔問 22 あなたは、お住まいの地域の「地域包括支援センター」について知っていますか。(1つだけ〇)〕

「地域包括支援センター」について知っているかについてみると、「まったく知らない」(30.5%)が最も高く、次いで「ある程度知っている」(29.9%)、「あまり知らない」(29.1%)となっています。

前回の調査結果から比較すると、大きな変化は見られません。

図 「地域包括支援センター」について知っているか

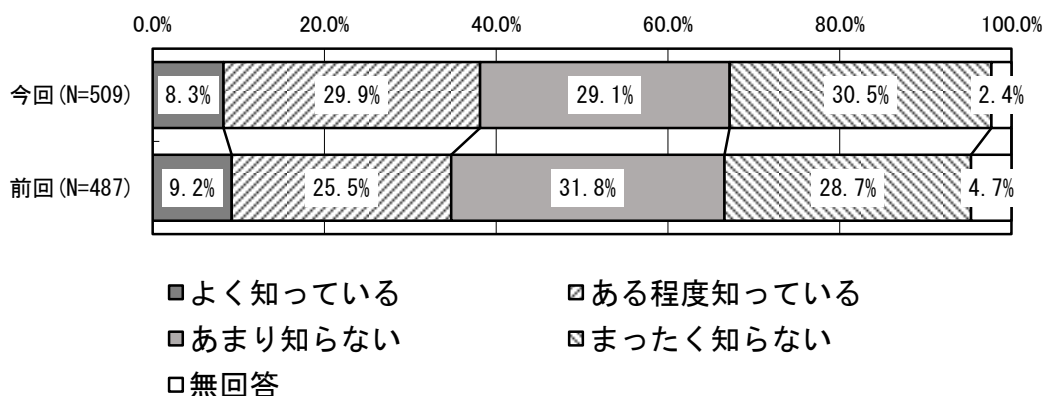
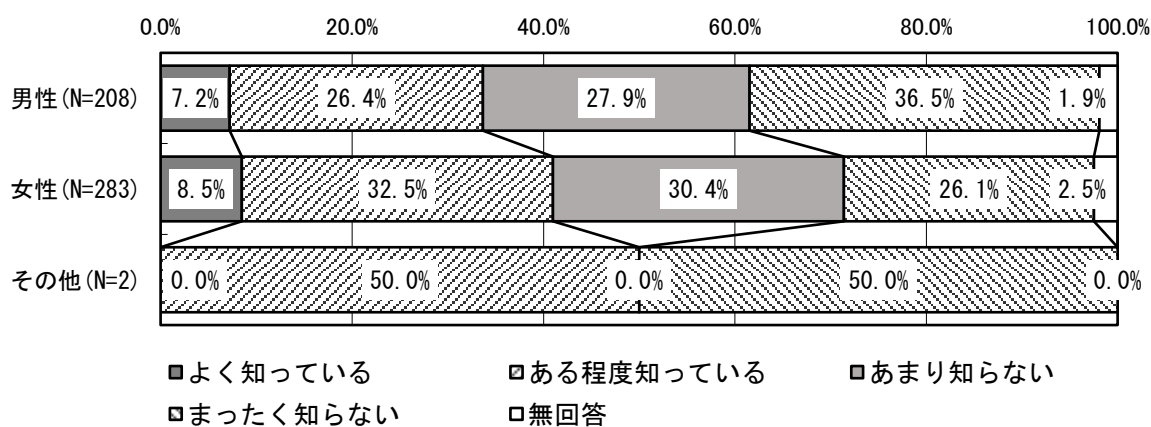
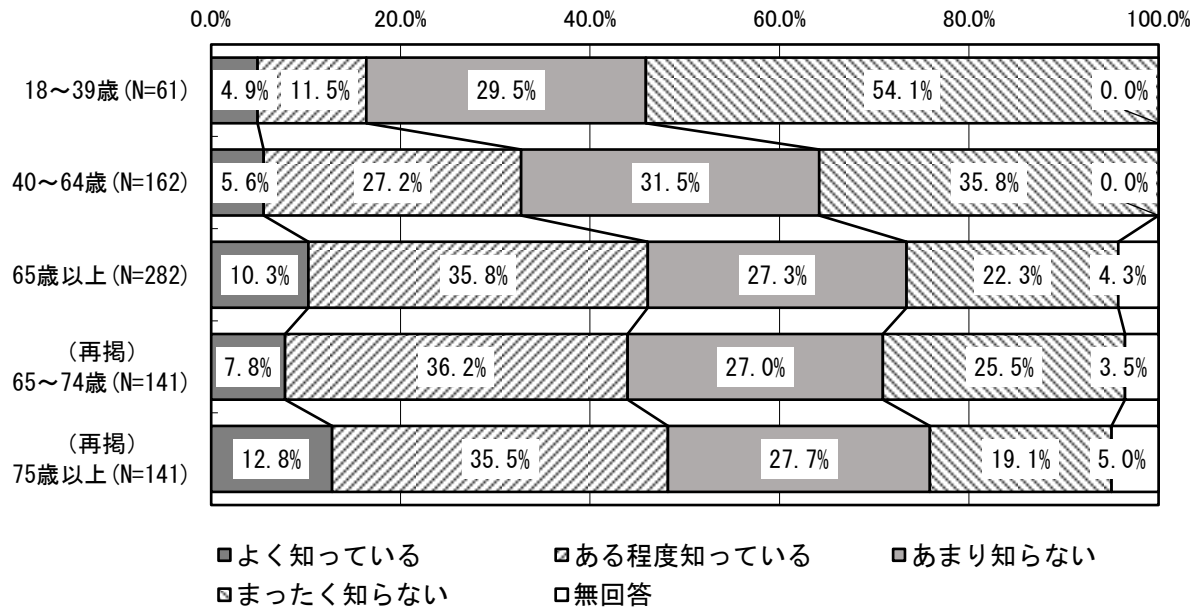


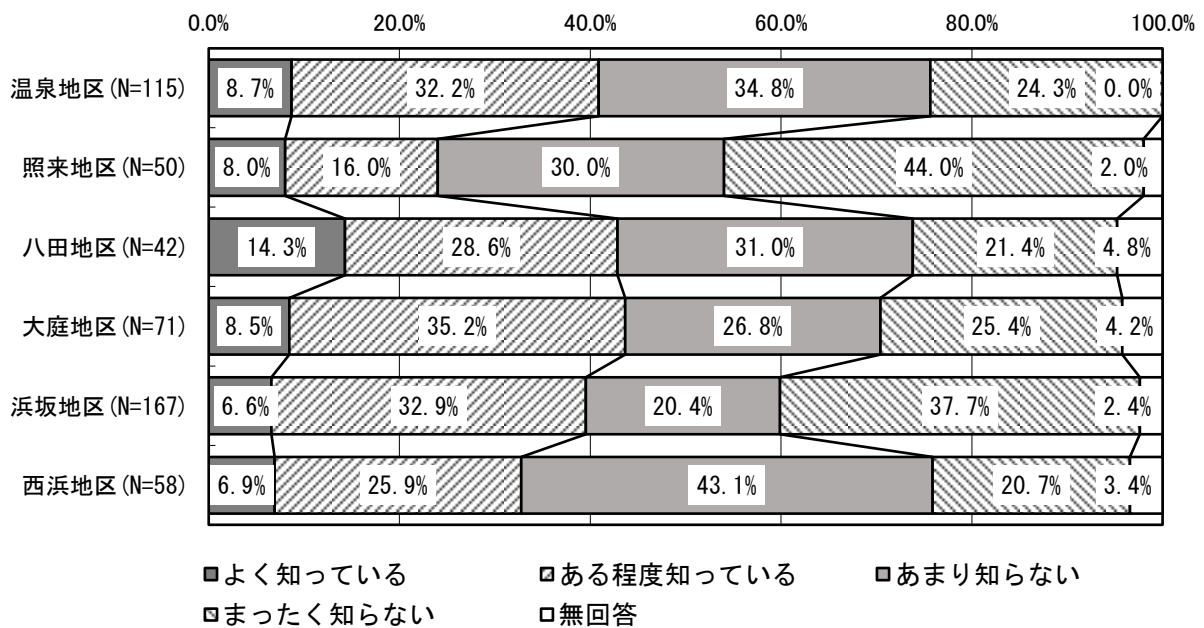
図 「地域包括支援センター」について知っているか(男女別)



図「地域包括支援センター」について知っているか(年齢区分別)



図「地域包括支援センター」について知っているか(地区別)



（４）民生委員・児童委員について知っているか〈単数回答〉

〔問 23 あなたは、民生委員・児童委員について知っていますか。（１つだけ〇）〕

民生委員・児童委員について知っているかについてみると、「相談をしたことはないが、地域で誰がなっているかを知っている」（51.5%）が最も高く、次いで「そういう人がいることは知っているが、地域で誰がなっているかは知らない」（35.8%）、「そういう人がいることを知らない」（5.7%）となっています。

前回の調査結果から比較すると、大きな変化は見られません。

年齢区分別にみると、年代が高いほど、「相談をしたことはないが、地域で誰がなっているかを知っている」が多くなっています。また、「そういう人がいることを知らない」との回答は、「18～39 歳」で23.0%と高くなっています。

地区別にみると、「相談をしたことはないが、地域で誰がなっているかを知っている」の割合は、八田地区、照来地区、温泉地区で高くなっています。一方、大庭地区では最も低くなっています。図

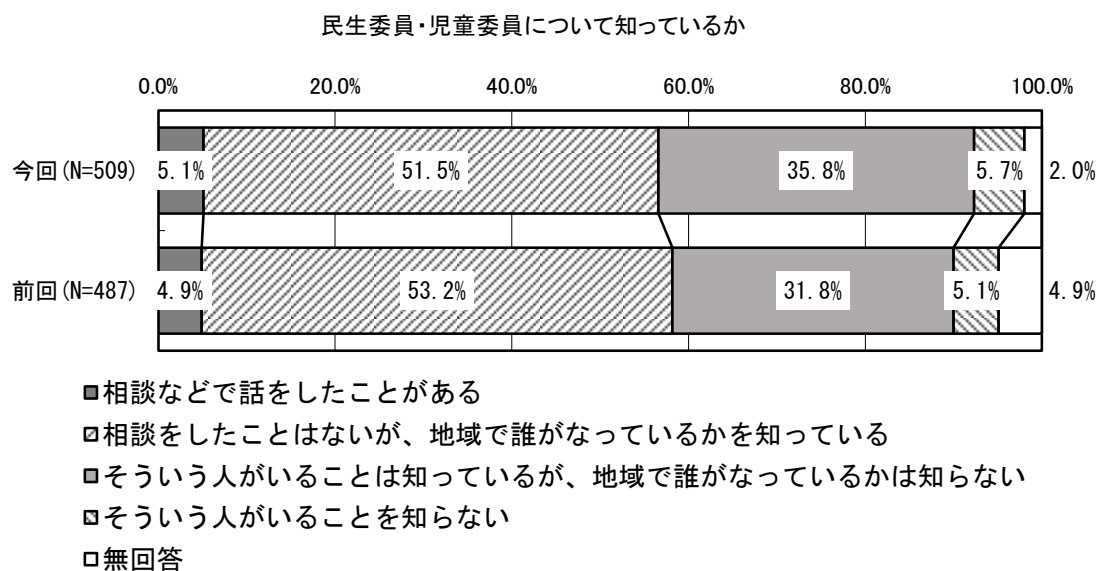
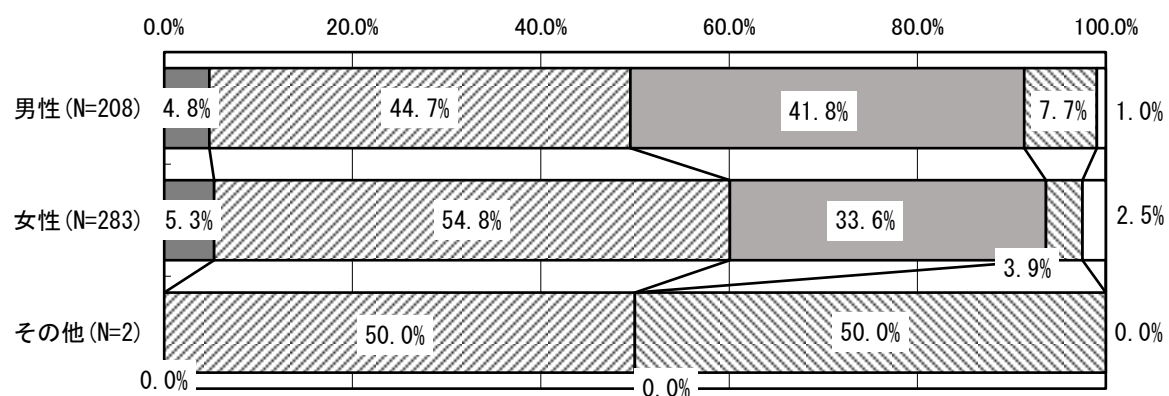


図 民生委員・児童委員について知っているか(男女別)



- 相談などで話をしたことがある
- ▨相談をしたことはないが、地域で誰がなっているかを知っている
- ▤そういう人があることは知っているが、地域で誰がなっているかは知らない
- そういう人があることを知らない
- 無回答

図 民生委員・児童委員について知っているか(年齢区分別)

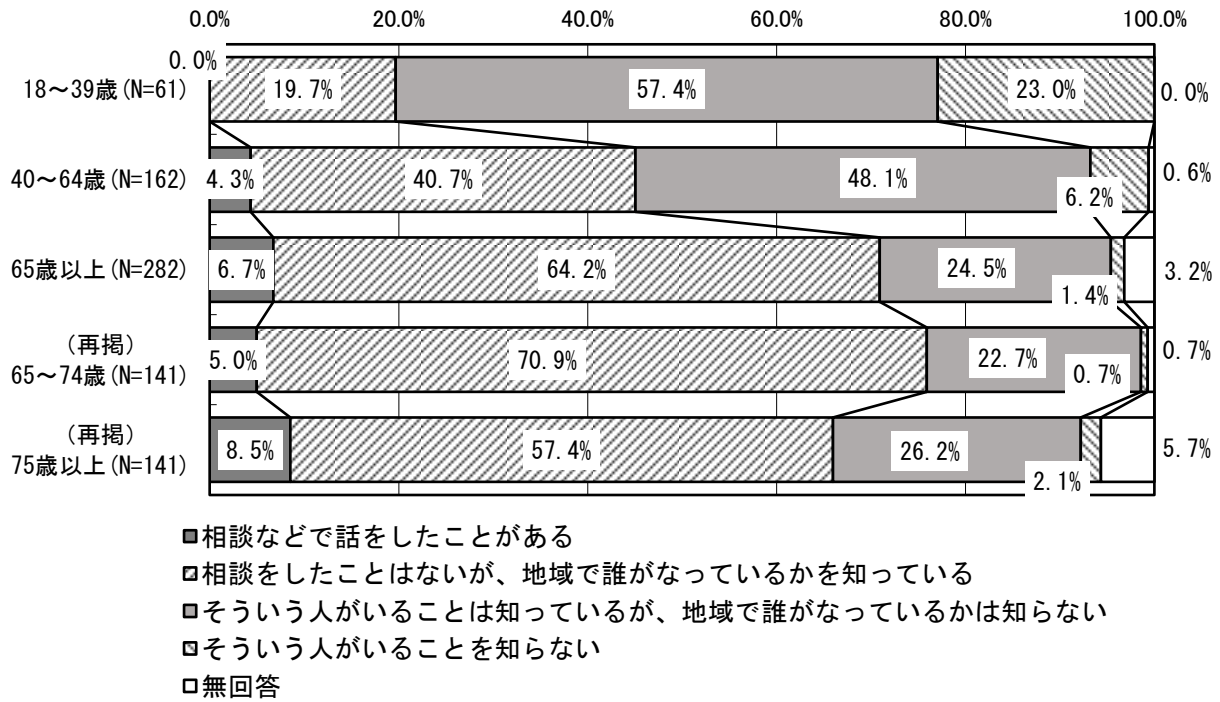
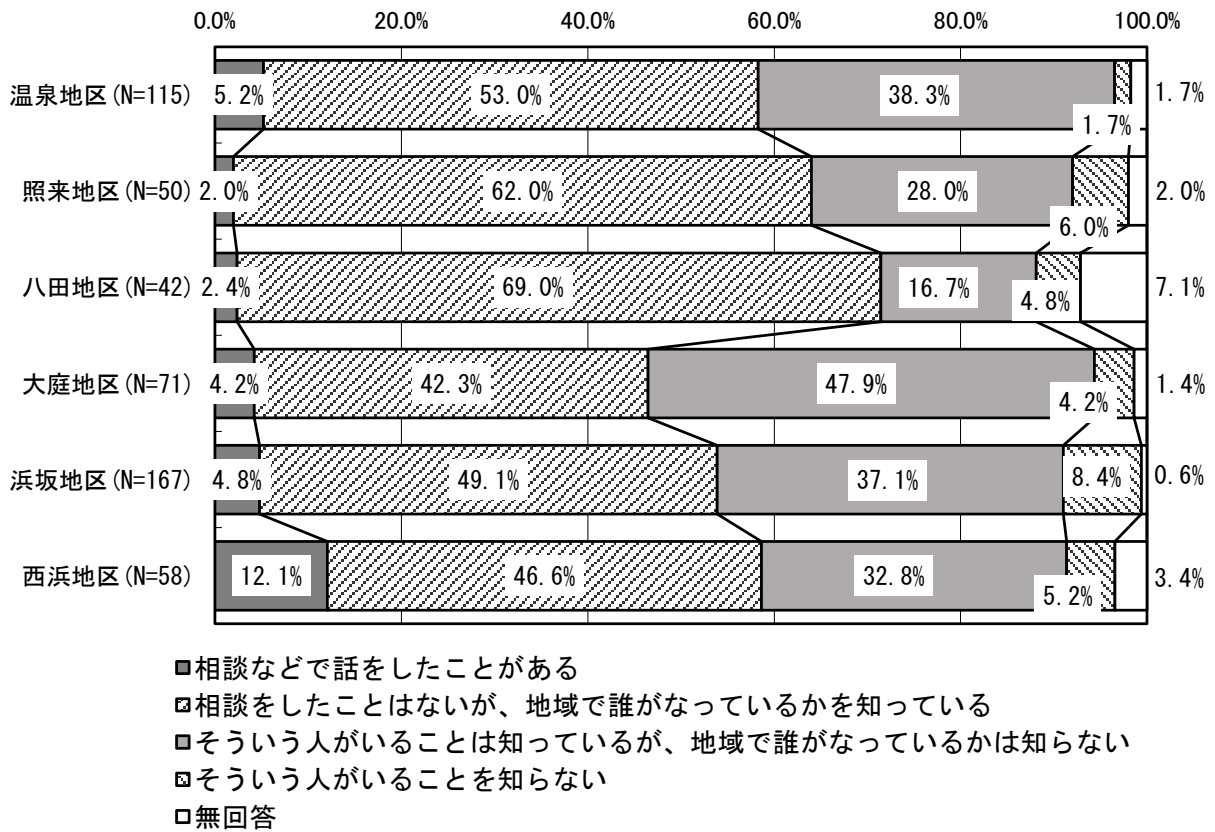


図 民生委員・児童委員について知っているか(地区別)



（５）福祉委員について知っているか〈単数回答〉

〔問 24 あなたは、福祉委員について知っていますか。（１つだけ○）〕

福祉委員について知っているかについてみると、「そういう人がいることは知っているが、地域で誰がなっているかは知らない」（39.7％）が最も高く、次いで「そういう人がいることを知らない」（35.2％）、「相談をしたことはないが、地域で誰がなっているかを知っている」（20.0％）となっています。

前回の調査結果から比較すると、大きな変化は見られません。

年齢区分別にみると、年代が高いほど、「相談をしたことはないが、地域で誰がなっているかを知っている」が高くなっています。また、「そういう人がいることを知らない」との回答は、「18～39 歳」で 52.5％と高くなっています。

地区別にみると、「相談をしたことはないが、地域で誰がなっているかを知っている」の割合は、八田地区が特に高く、次いで、照来地区となっています。一方、西浜地区では最も低くなっています。

図 福祉委員について知っているか

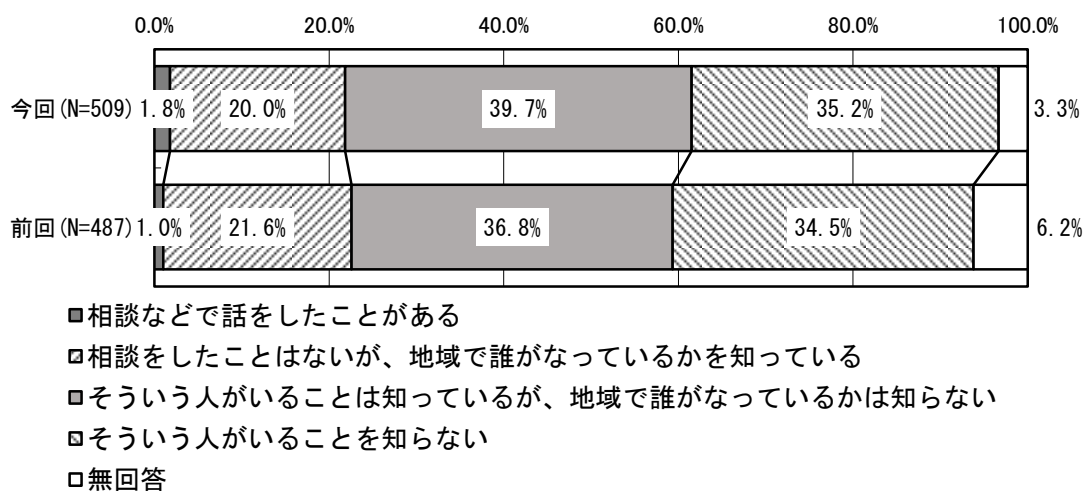
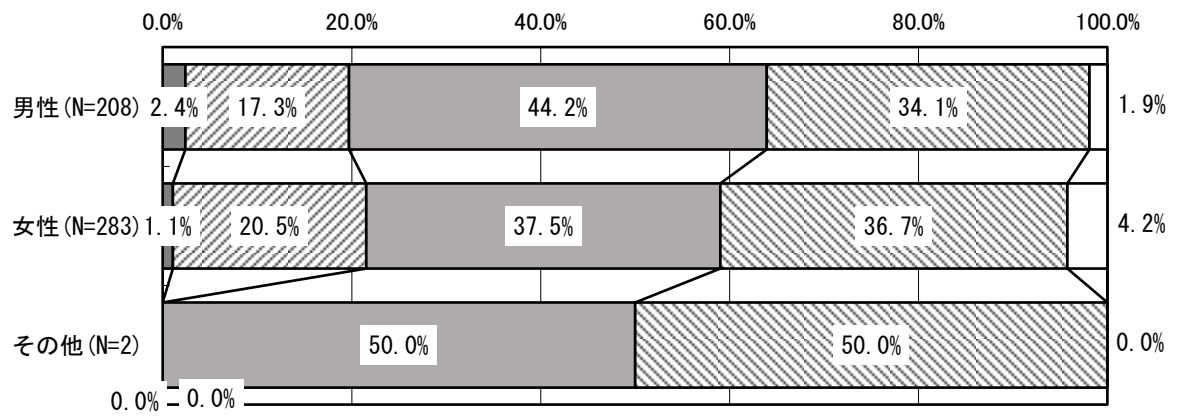
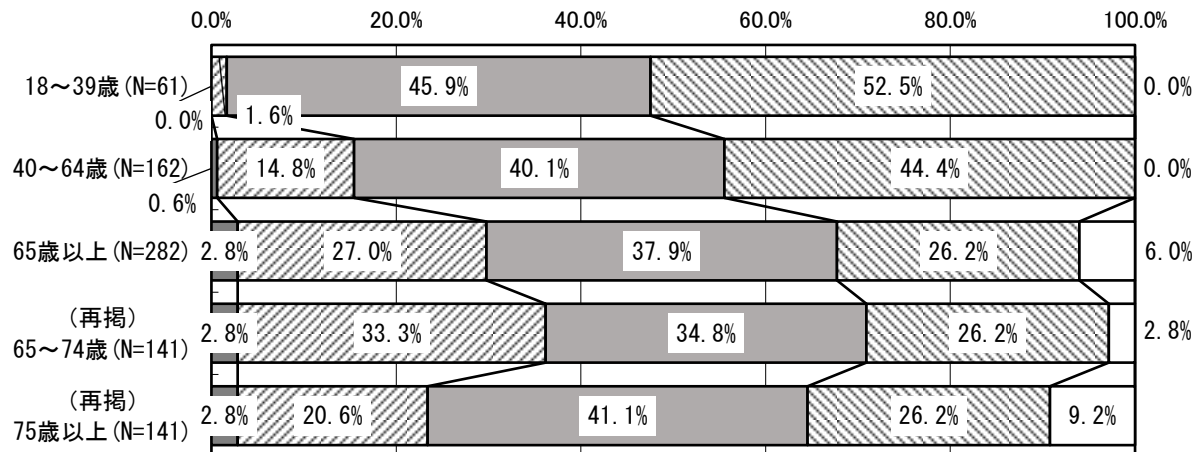


図 福祉委員について知っているか（男女別）



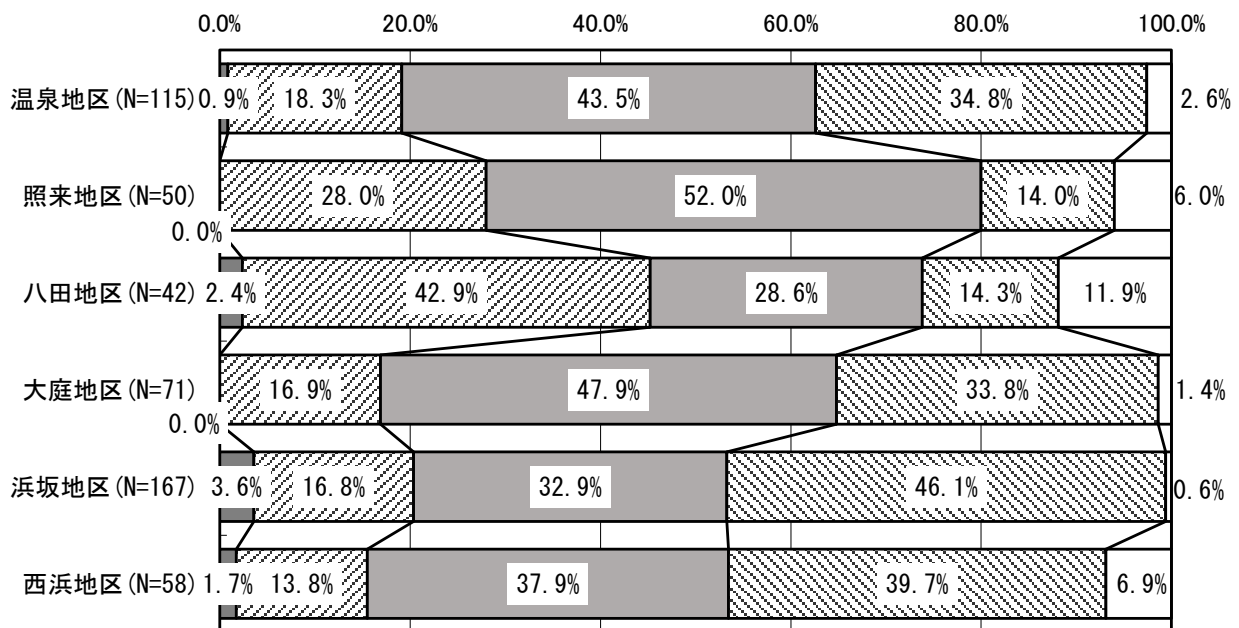
- 相談などで話をしたことがある
- ▨相談をしたことはないが、地域で誰がなっているかを知っている
- そういう人があることは知っているが、地域で誰がなっているかは知らない
- ▤そういう人があることを知らない
- 無回答

図 福祉委員について知っているか(年齢区分別)



- 相談などで話をしたことがある
- ▨ 相談をしたことはないが、地域で誰がなっているかを知っている
- そういう人があることは知っているが、地域で誰がなっているかは知らない
- そういう人があることを知らない
- 無回答

図 福祉委員について知っているか(地区別)



- 相談などで話をしたことがある
- ▨ 相談をしたことはないが、地域で誰がなっているかを知っている
- そういう人があることは知っているが、地域で誰がなっているかは知らない
- そういう人があることを知らない
- 無回答

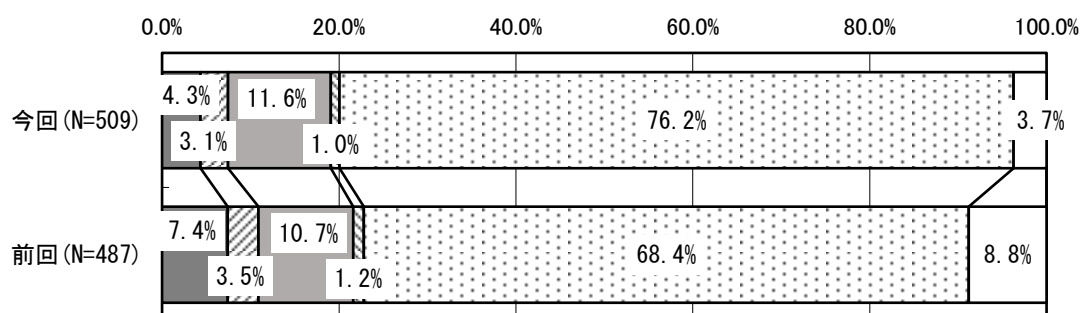
（６）新温泉町内で活動しているボランティア団体やグループに所属したり活動したりしたことがあるか〈単数回答〉

〔問 25(1) あなたは、新温泉町内で活動しているボランティア団体やグループに所属したり活動したりしたことがありますか。(1つだけ○)〕

新温泉町内で活動しているボランティア団体やグループに所属したり活動したりしたことがあるかについてみると、「参加したことがない」(76.2%) が最も高く、次いで「現在はしていないが、昔活動したことがある」(11.6%)、「現在ボランティア団体やグループに所属して活動している」(4.3%)となっています。

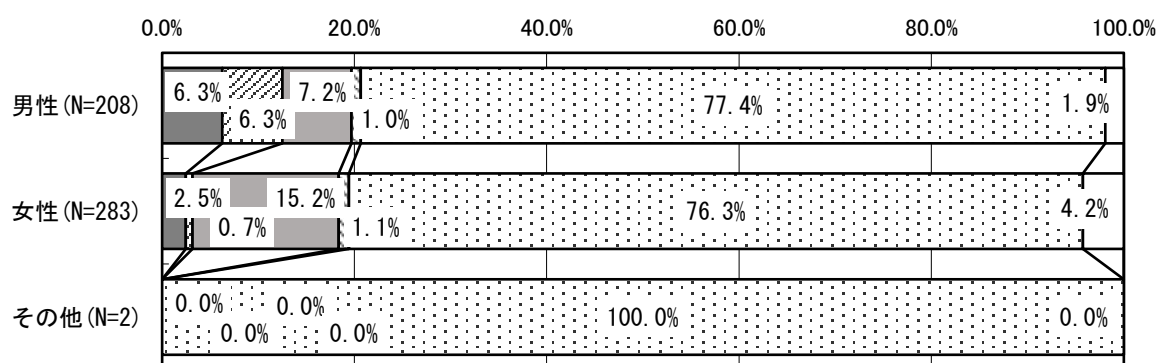
前回の調査結果から比較すると、「参加したことがない」が7.8ポイント増加しています。

図 新温泉町内で活動しているボランティア団体やグループに所属したり活動したりしたことがあるか



- 現在ボランティア団体やグループに所属して活動している
- ▨ボランティア団体やグループに所属していないが、たまに活動に参加している
- 現在はしていないが、昔活動したことがある
- ▨新温泉町外の団体やグループで活動している・活動したことがある
- 参加したことがない
- 無回答

図 新温泉町内で活動しているボランティア団体やグループに所属したり活動したりしたことがあるか(男女別)



- 現在ボランティア団体やグループに所属して活動している
- ▨ボランティア団体やグループに所属していないが、たまに活動に参加している
- 現在はしていないが、昔活動したことがある
- ▨新温泉町外の団体やグループで活動している・活動したことがある
- 参加したことがない
- 無回答

図 新温泉町内で活動しているボランティア団体やグループに所属したり活動したりしたことがあるか(年齢区分別)

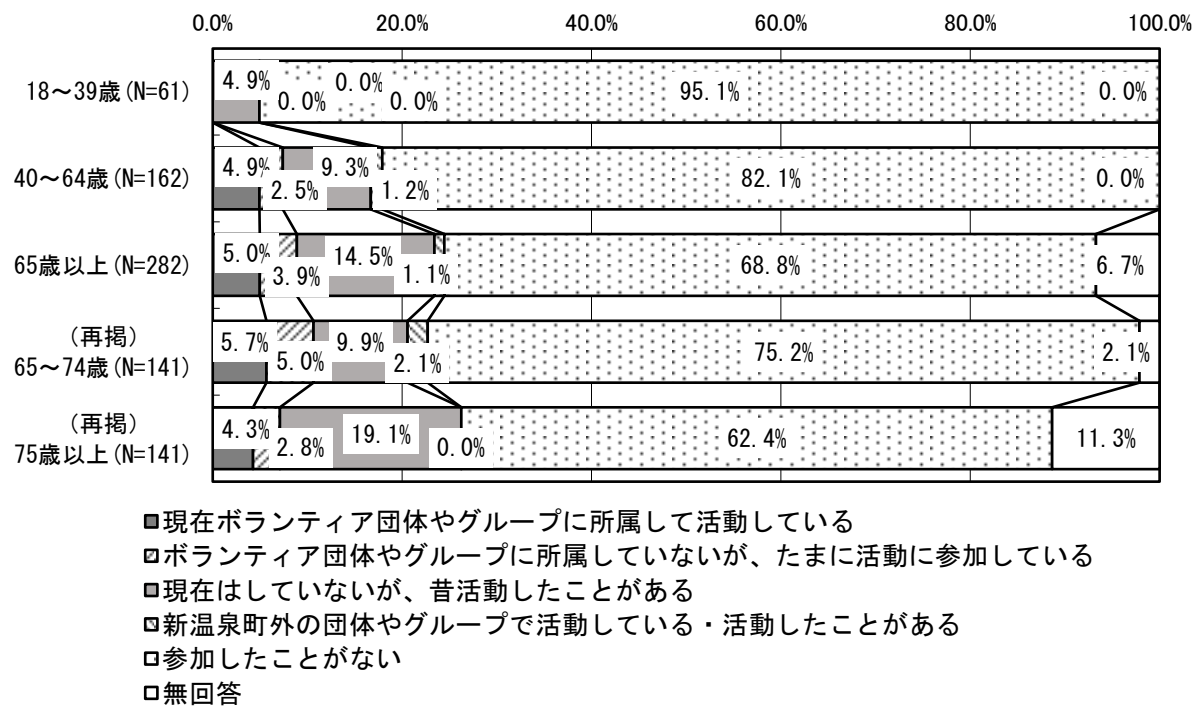
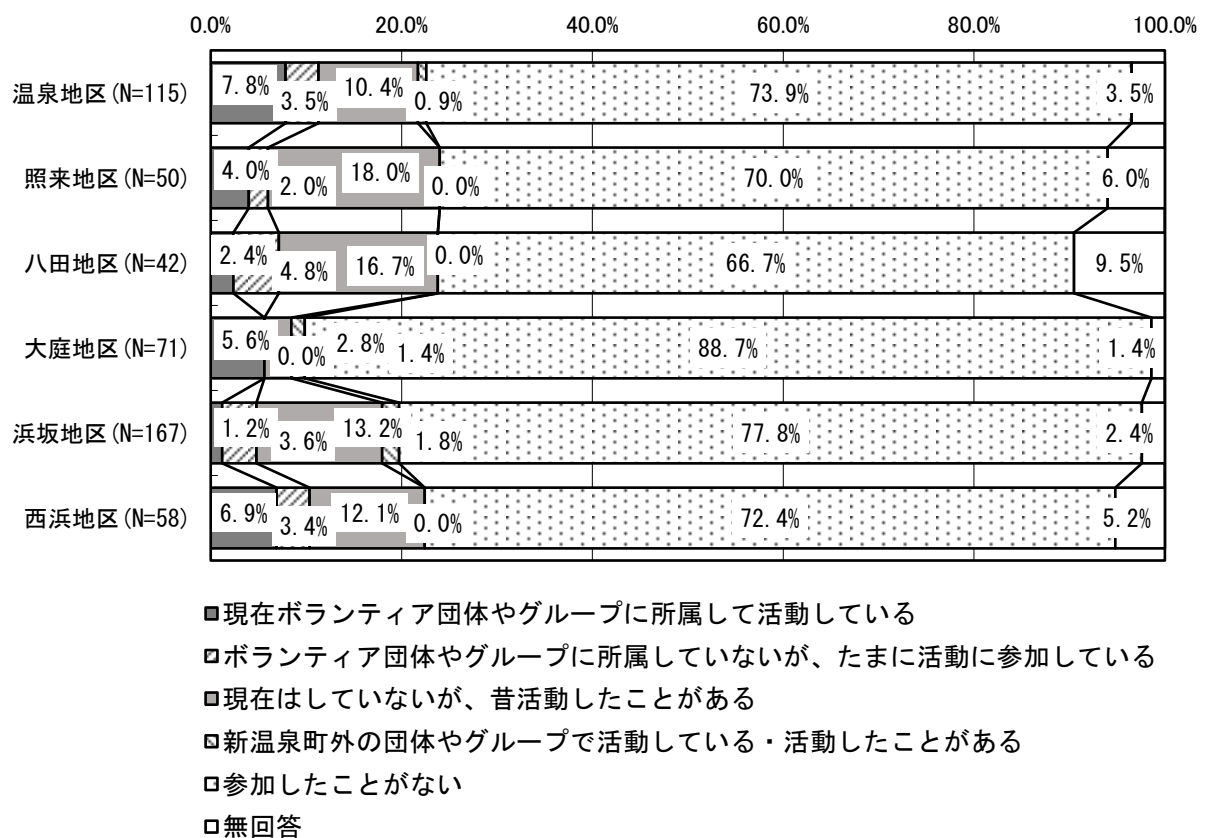


図 新温泉町内で活動しているボランティア団体やグループに所属したり活動したりしたことがあるか(地区別)



(6)で「参加したことがない」以外を選んだ方

(7) 活動団体・グループの分野〈複数回答〉

〔問 25(2) (1)で「1.」～「4.」を選んだ方におうかがいします。どんな分野の活動団体・グループですか。(あてはまるものすべてに○)〕

活動団体・グループの分野についてみると、「ひとり暮らし高齢者など高齢者に対する支援」、「環境美化、リサイクルなど環境関係」(いずれも 30.4%) が最も高く、次いで「防犯や防災、その他地域の安全を守る活動」(15.7%) となっています。

前回の調査結果から比較すると、「環境美化・リサイクルなどの環境関係」が 9.7 ポイント、「健康づくりの支援」が 6.3 ポイント増加しています。

図 活動団体・グループの分野(複数回答)

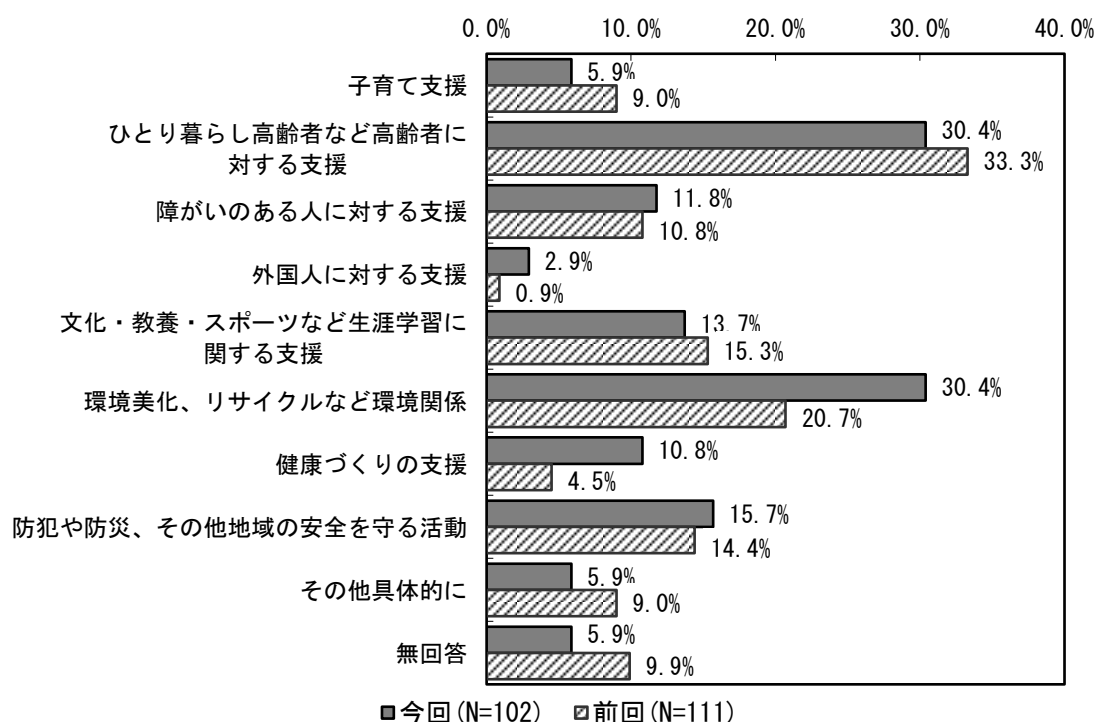


図 活動団体・グループの分野(複数回答)(男女別)

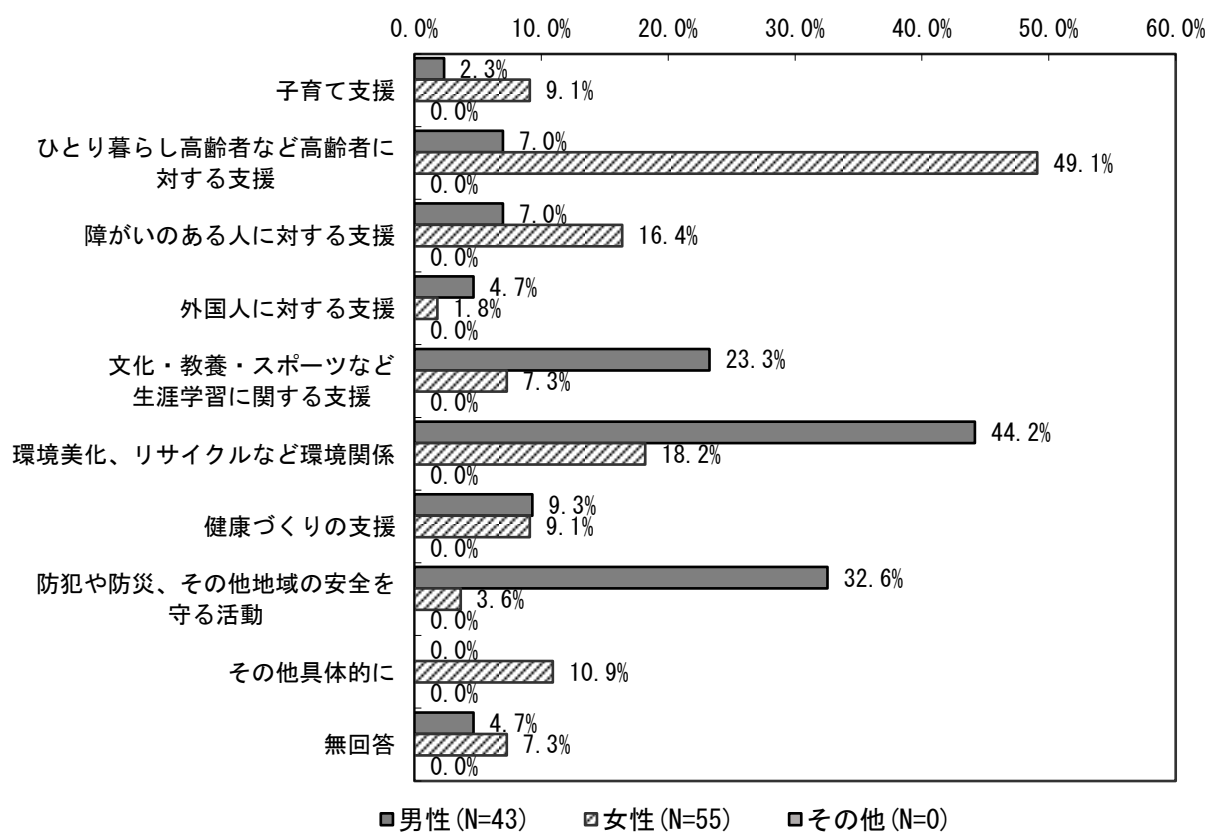


図 活動団体・グループの分野(複数回答)(年齢区分別)

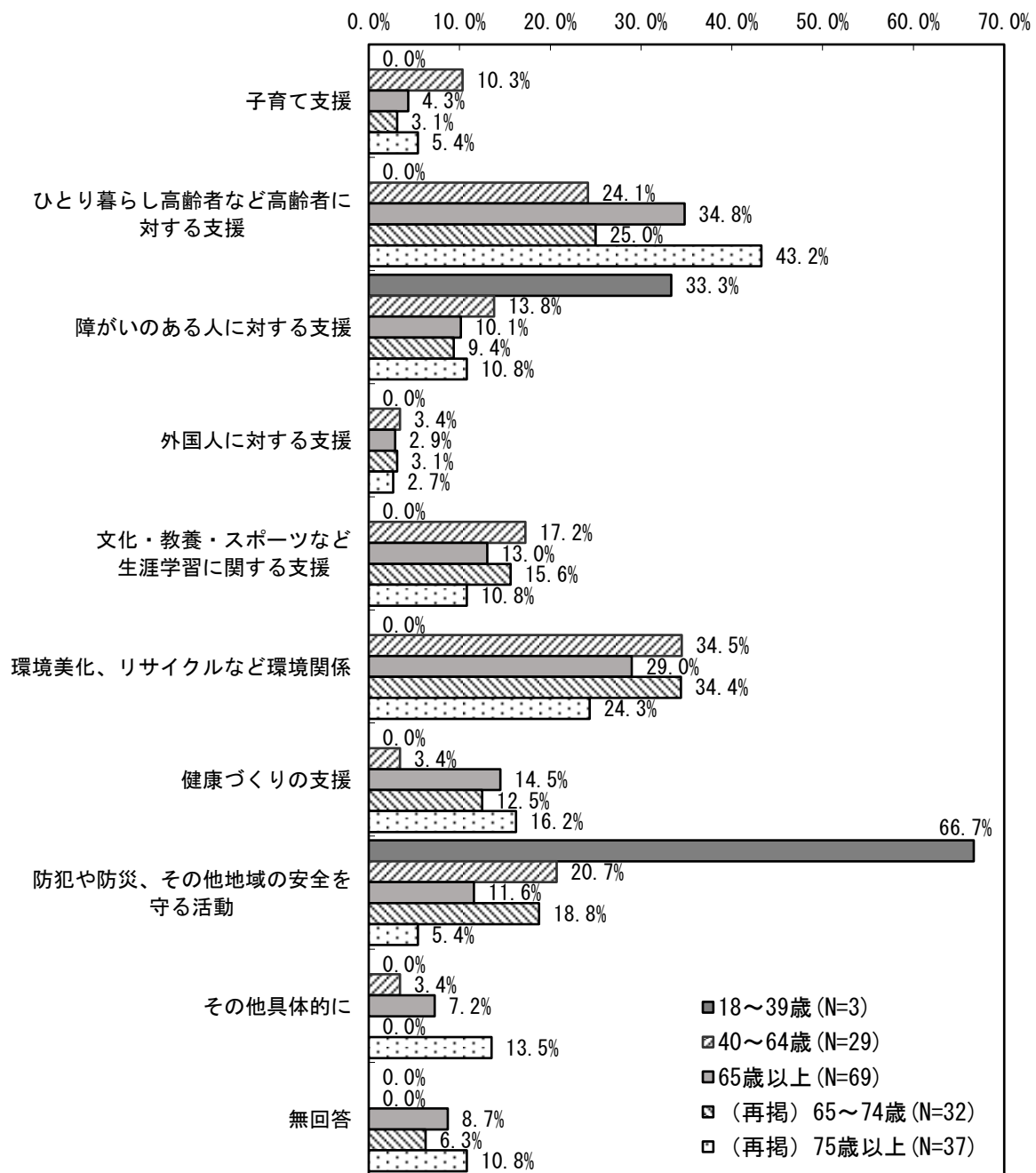
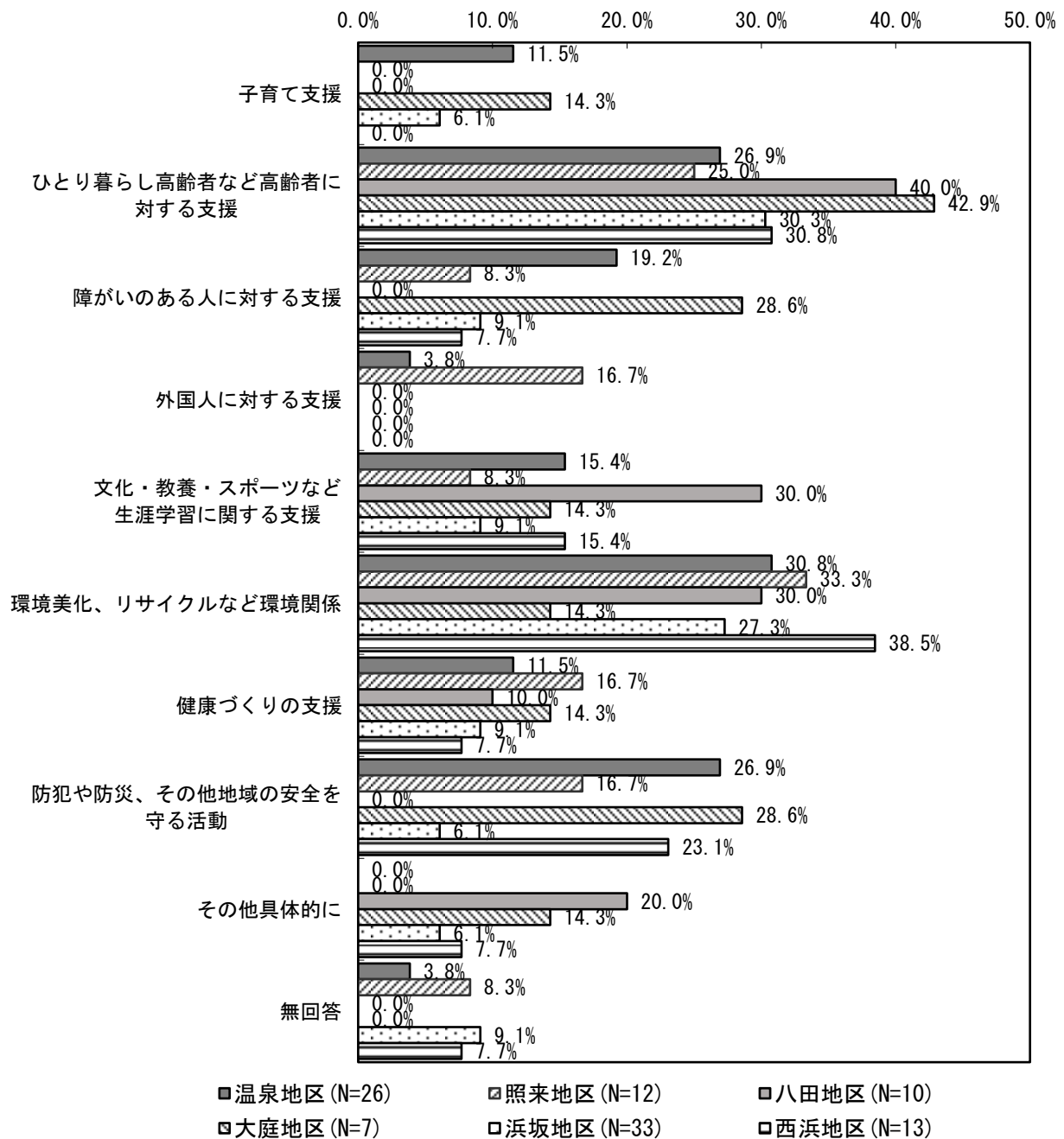


図 活動団体・グループの分野(複数回答)(地区別)



（８）ボランティア活動についてどのように思っているか〈単数回答〉

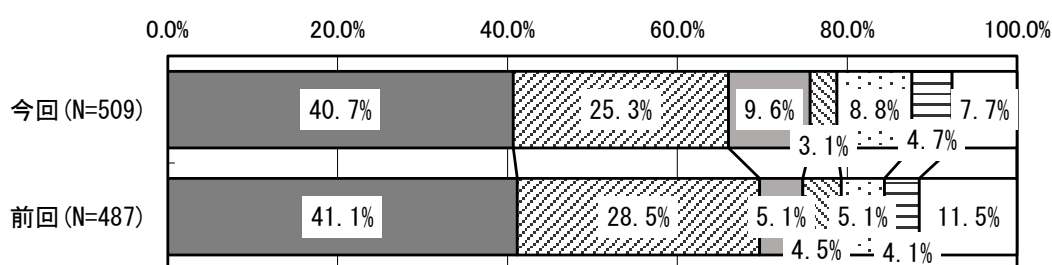
〔問 26 あなたは、ボランティア活動についてどのように思っていますか。(1つだけ○)〕

ボランティア活動についてどのように思っているかについてみると、「地域において助けあいや支えあい、交流などを深めるためにも必要である」（40.7％）が最も高く、次いで「気持ちはあるが、忙しいので参加できない」（25.3％）、「活動をしたいが、内容や参加方法がわからない」（9.6％）となっています。

前回の調査結果から比較すると、大きな変化は見られません。

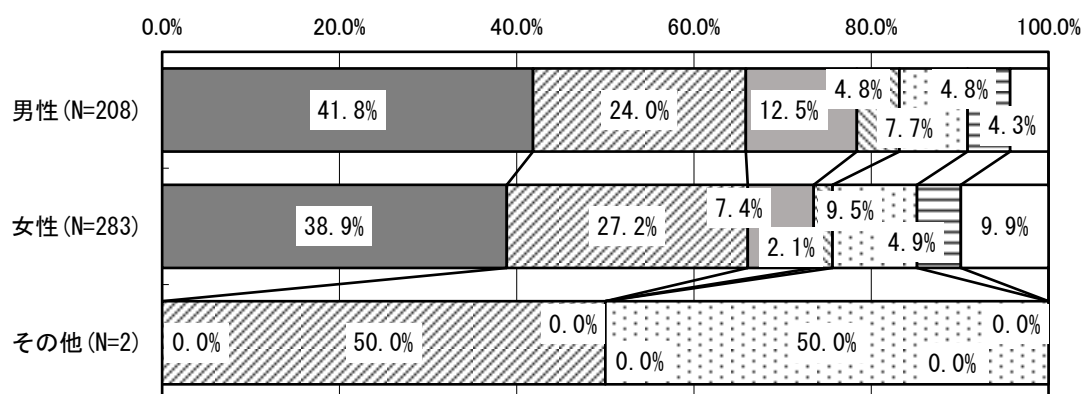
年齢区分別にみると、年代が高いほど、「地域において助けあいや支えあい、交流などを深めるためにも必要である」が高くなっています。

図 ボランティア活動についてどのように思っているか



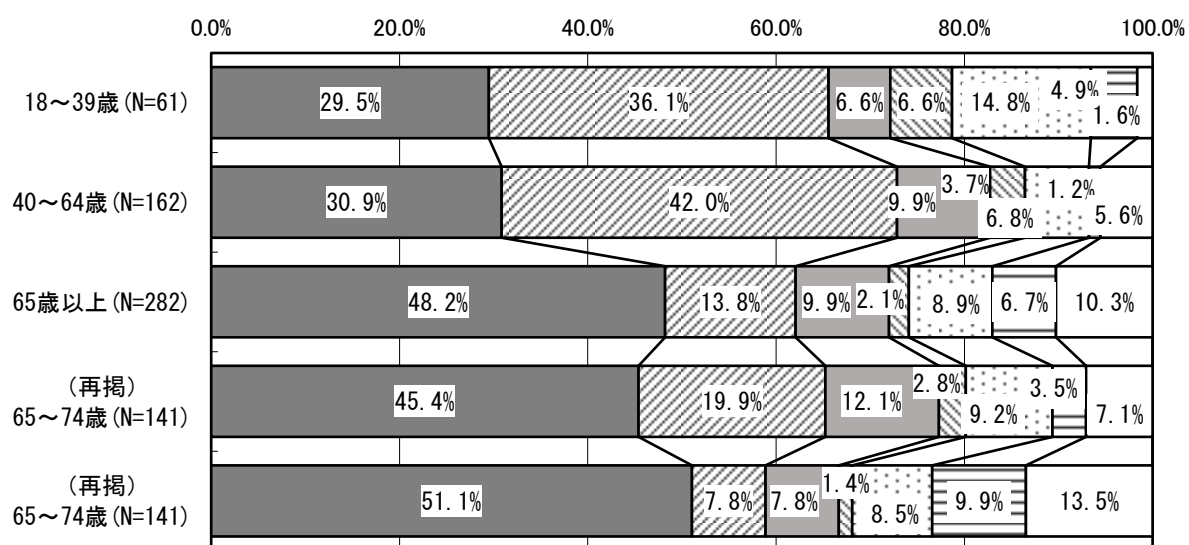
- 地域において助けあいや支えあい、交流などを深めるためにも必要である
- 気持ちはあるが、忙しいので参加できない
- 活動をしたいが、内容や参加方法がわからない
- そのような活動は本来行政が行うべきである
- ボランティア活動はしたくない
- その他
- 無回答

図 ボランティア活動についてどのように思っているか(男女別)



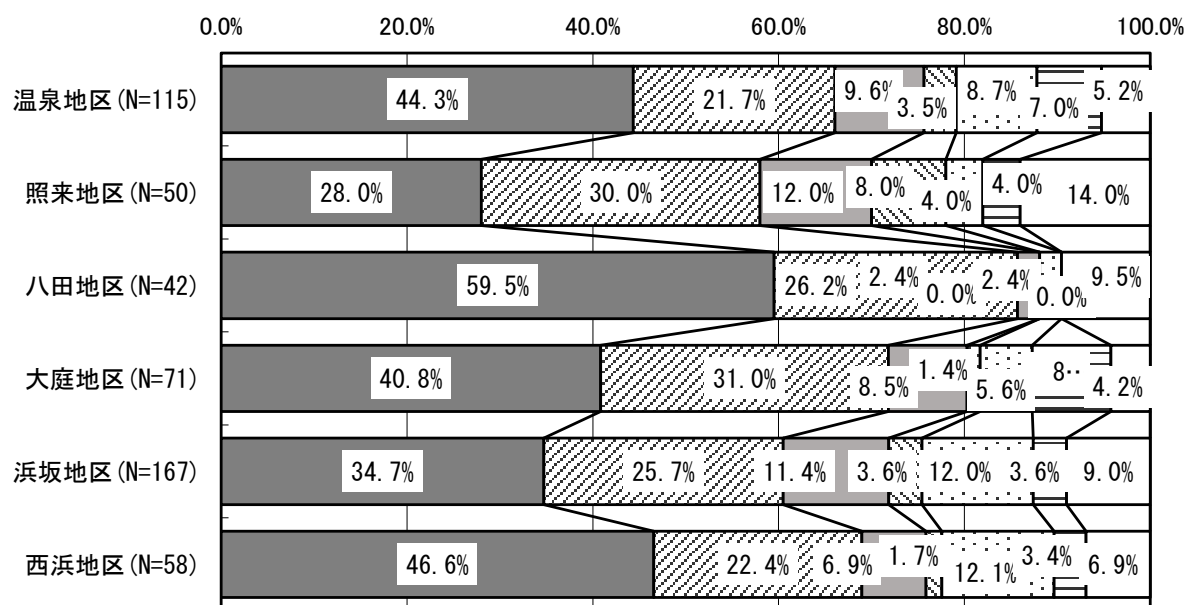
- ☐ 地域において助けあいや支えあい、交流などを深めるためにも必要である
- ☐ 気持ちはあるが、忙しいので参加できない
- ☐ 活動をしたいが、内容や参加方法がわからない
- ☐ そのような活動は本来行政が行うべきである
- ☐ ボランティア活動はしたくない
- ☐ その他
- ☐ 無回答

図 ボランティア活動についてどのように思っているか(年齢区分別)



- ☐ 地域において助けあいや支えあい、交流などを深めるためにも必要である
- ☐ 気持ちはあるが、忙しいので参加できない
- ☐ 活動をしたいが、内容や参加方法がわからない
- ☐ そのような活動は本来行政が行うべきである
- ☐ ボランティア活動はしたくない
- ☐ その他
- ☐ 無回答

図 ボランティア活動についてどのように思っているか(地区別)



- 地域において助けあいや支えあい、交流などを深めるためにも必要である
- ▣気持ちはあるが、忙しいので参加できない
- ▣活動をしたいが、内容や参加方法がわからない
- ▣そのような活動は本来行政が行うべきである
- ボランティア活動はしたくない
- その他
- 無回答

(9)「成年後見制度」について知っているか〈単数回答〉

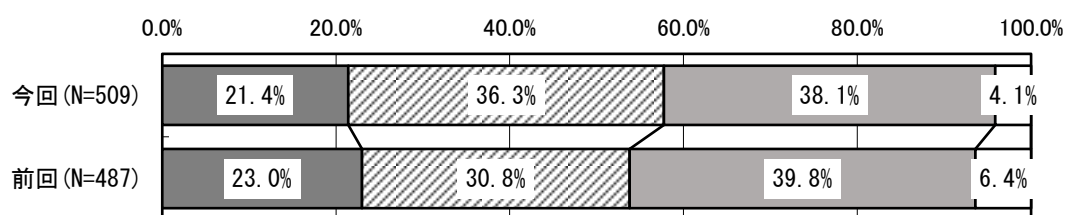
〔問 27 あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。(1つだけ○)〕

「成年後見制度」について知っているかについてみると、「知らない」(38.1%)が最も高く、次いで「制度名は知っていたが、内容は知らない」(36.3%)、「制度名も内容も知っている」(21.4%)となっています。

前回の調査結果から比較すると、「制度名は知っていたが、内容は知らない」が5.5ポイント増加しています。

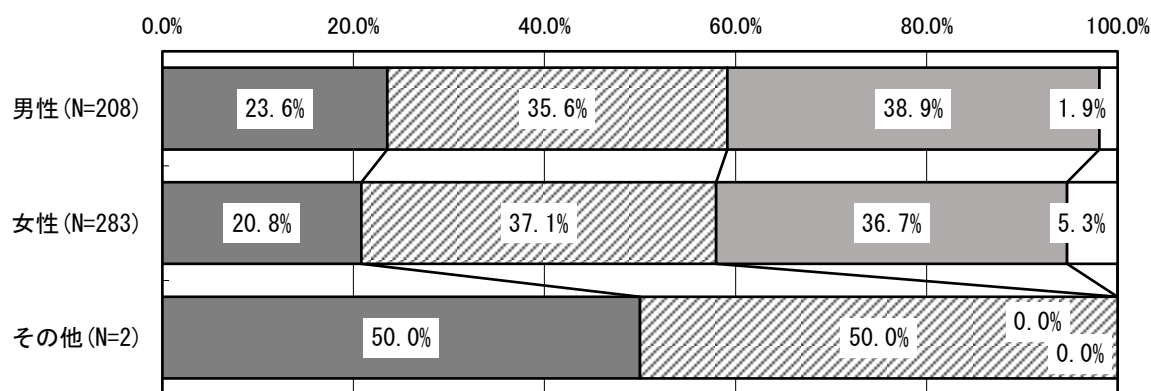
年齢区別にみると、「制度名も内容も知っている」では「40～64歳」が30.2%と最も高くなっています。一方、「18～39歳」は、「知らない」(55.7%)が最も高くなっています。

図「成年後見制度」について知っているか



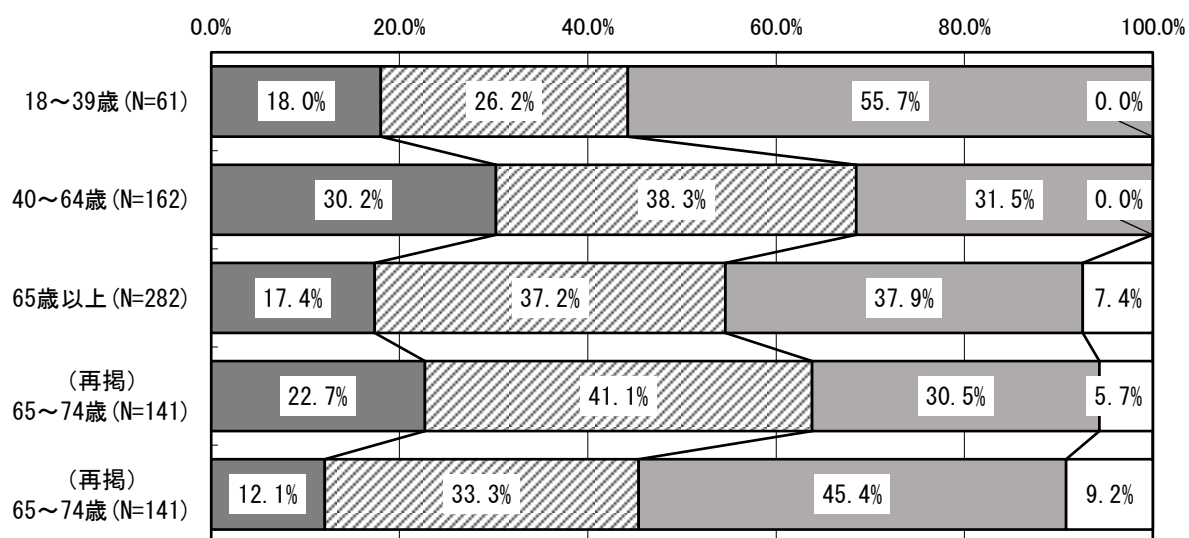
- 制度名も内容も知っている
- ▨ 制度名は知っていたが、内容は知らない
- 知らない
- 無回答

図「成年後見制度」について知っているか(男女別)



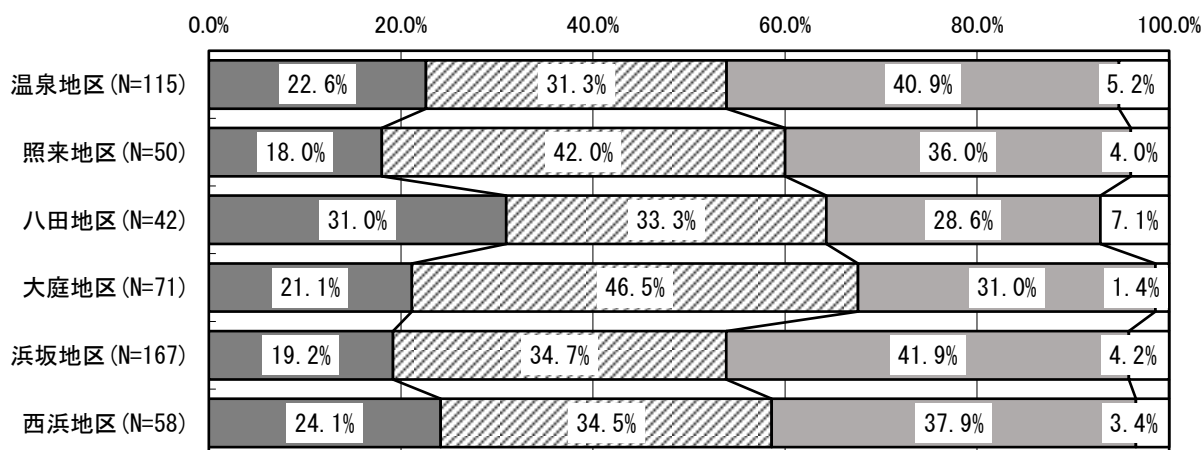
- 制度名も内容も知っている
- ▨ 制度名は知っていたが、内容は知らない
- 知らない
- 無回答

図「成年後見制度」について知っているか(年齢区分別)



■制度名も内容も知っている □制度名は知っていたが、内容は知らない □知らない □無回答

図「成年後見制度」について知っているか(地区別)



■制度名も内容も知っている □制度名は知っていたが、内容は知らない
□知らない □無回答

(10)「生活困窮者自立支援制度」を知っているか〈単数回答〉

〔問 28 経済的に生活が困窮したときに、困りごとの解決に向けて支援(住居確保、就労支援等)するという「生活困窮者自立支援制度」を知っていますか。(1つだけ〇)〕

「生活困窮者自立支援制度」を知っているかについてみると、「知らない」(47.2%) が最も高く、次いで「制度名は知っていたが、内容は知らない」(40.7%) となっており、「制度名も内容も知っている」は(8.8%) となっています。

年齢区別にみると、「制度名も内容も知っている」では「40～64 歳」が 12.3%と最も高くなっています。一方、すべての年代で、「知らない」の割合が高くなっています。(「18～39 歳」で 54.1%、「40～64 歳」で 43.2%、「65 歳以上」で 47.5%)

図 「生活困窮者自立支援制度」を知っているか

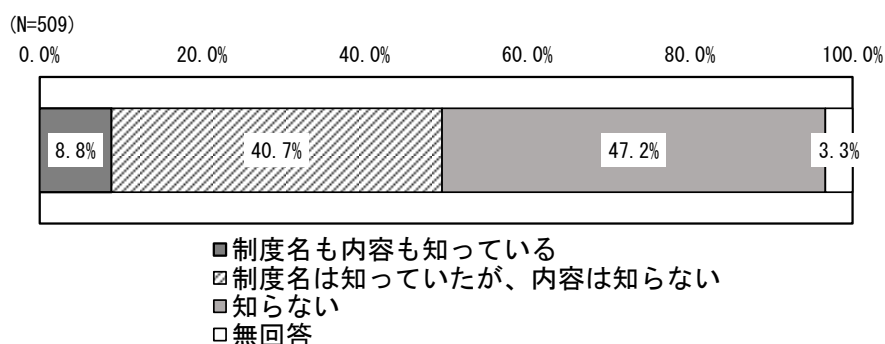
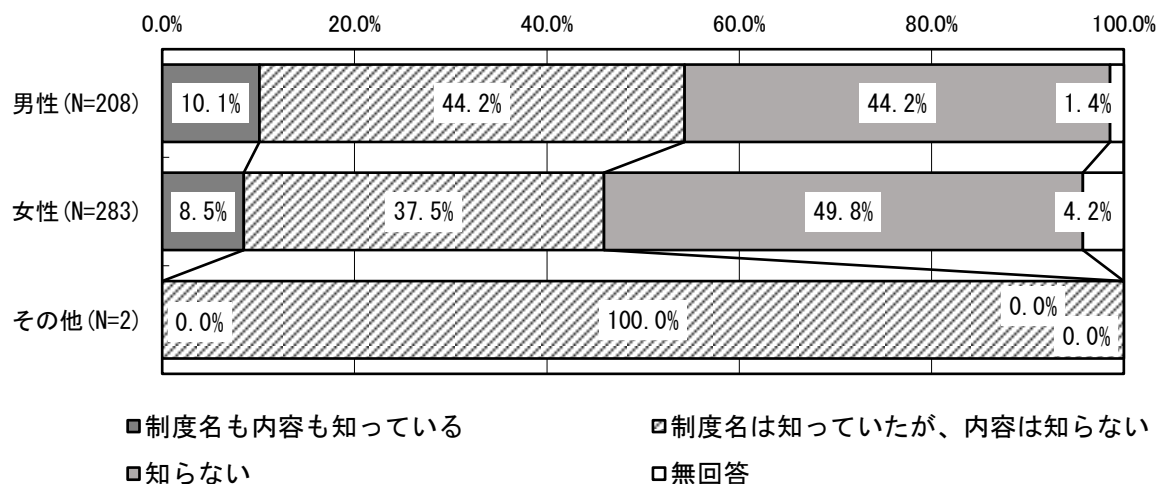
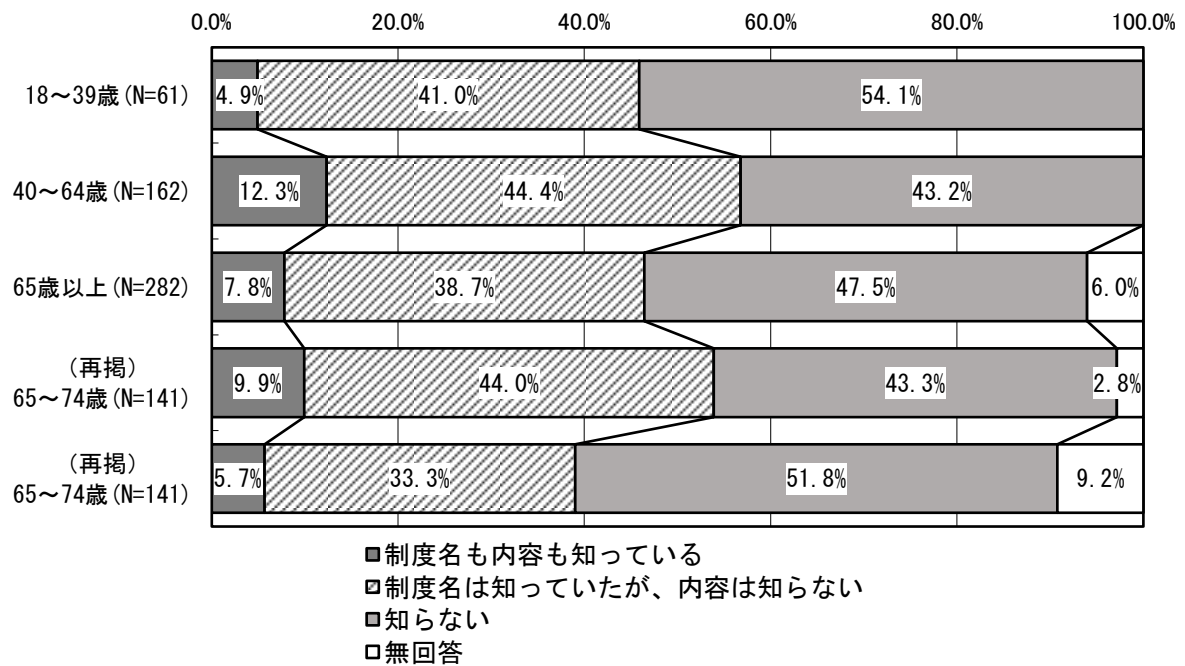


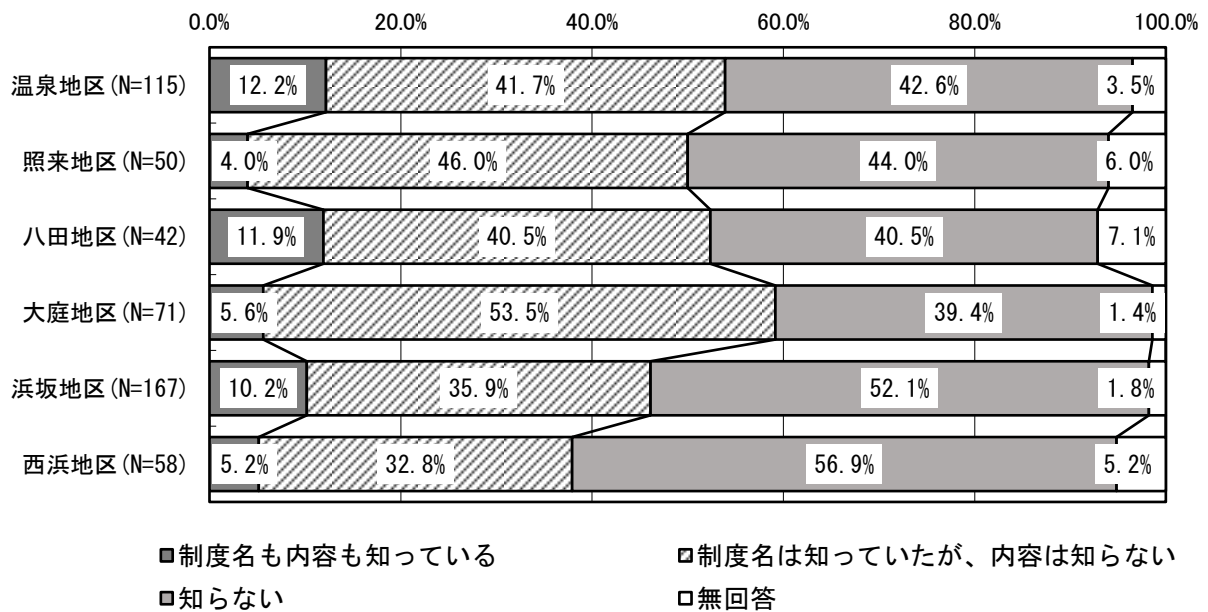
図 「生活困窮者自立支援制度」を知っているか(男女別)



図「生活困窮者自立支援制度」を知っているか(年齢区分別)



図「生活困窮者自立支援制度」を知っているか(地区別)



4 健康や福祉について

（１）日頃感じている悩みや不安〈複数回答〉

〔問 29 あなたは、日頃、どのような悩みや不安を感じていますか。（あてはまるものすべてに○）〕

日頃感じている悩みや不安についてみると、「自分の健康や病気のこと」（58.0％）が最も高く、次いで「家族の健康や病気のこと」（53.8％）、「経済的なこと」（28.1％）となっています。

前回の調査結果から比較すると、「自分や家族の生活上の問題（進学、就職、結婚など）」が 17.4 ポイント減少し、「自分の健康や病気のこと」が 5.6 ポイント、「経済的なこと」が 5.5 ポイント増加しています。

年齢区分別に最も多い回答をみると、「18～39 歳」では、「家族の健康や病気のこと」と「経済的なこと」（いずれも 41.0％）、「40～64 歳」では、「家族の健康や病気のこと」（62.3％）、「65 歳以上」では、「自分の健康や病気のこと」（67.7％）となっています。

図 日頃感じている悩みや不安（複数回答）

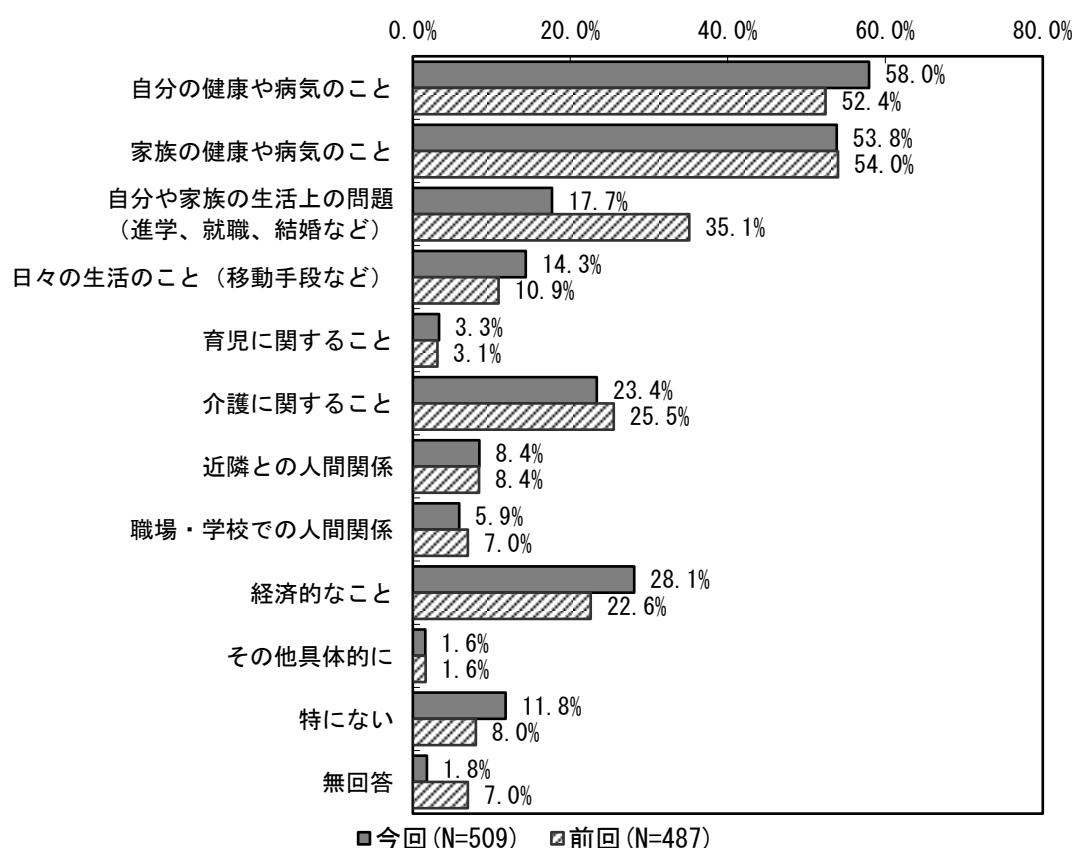


図 日頃感じている悩みや不安(複数回答)(男女別)

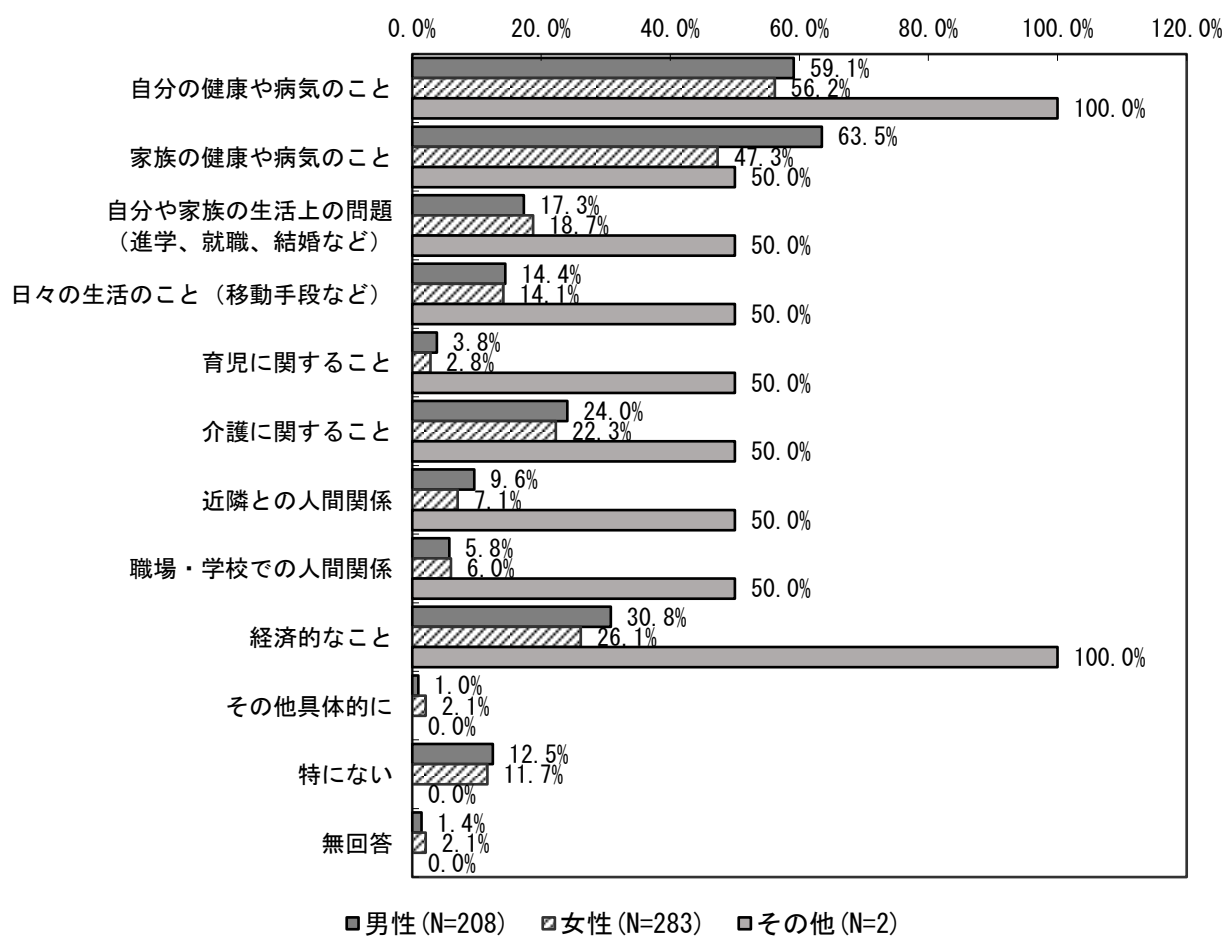


図 日頃感じている悩みや不安(複数回答)(年齢区分別)

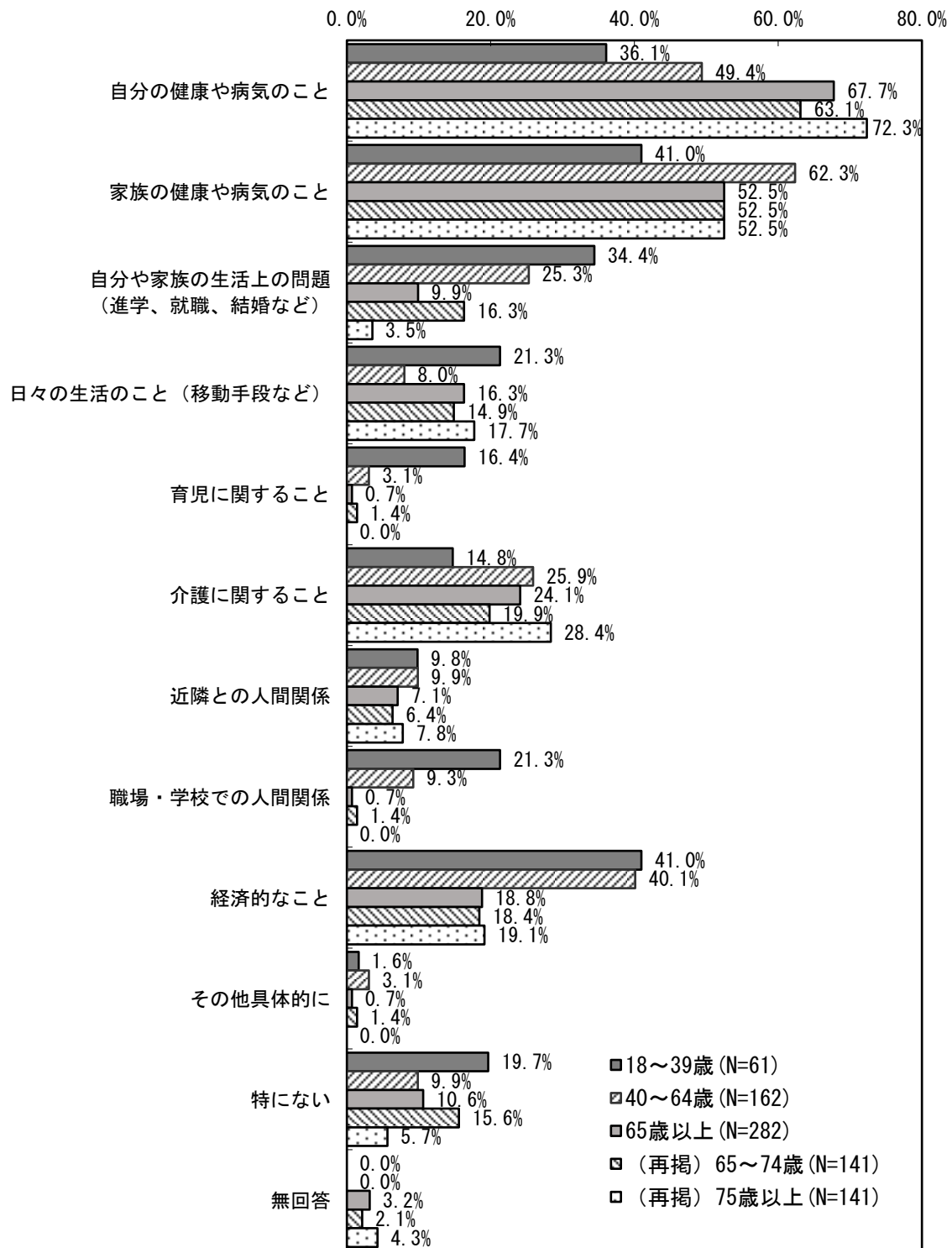
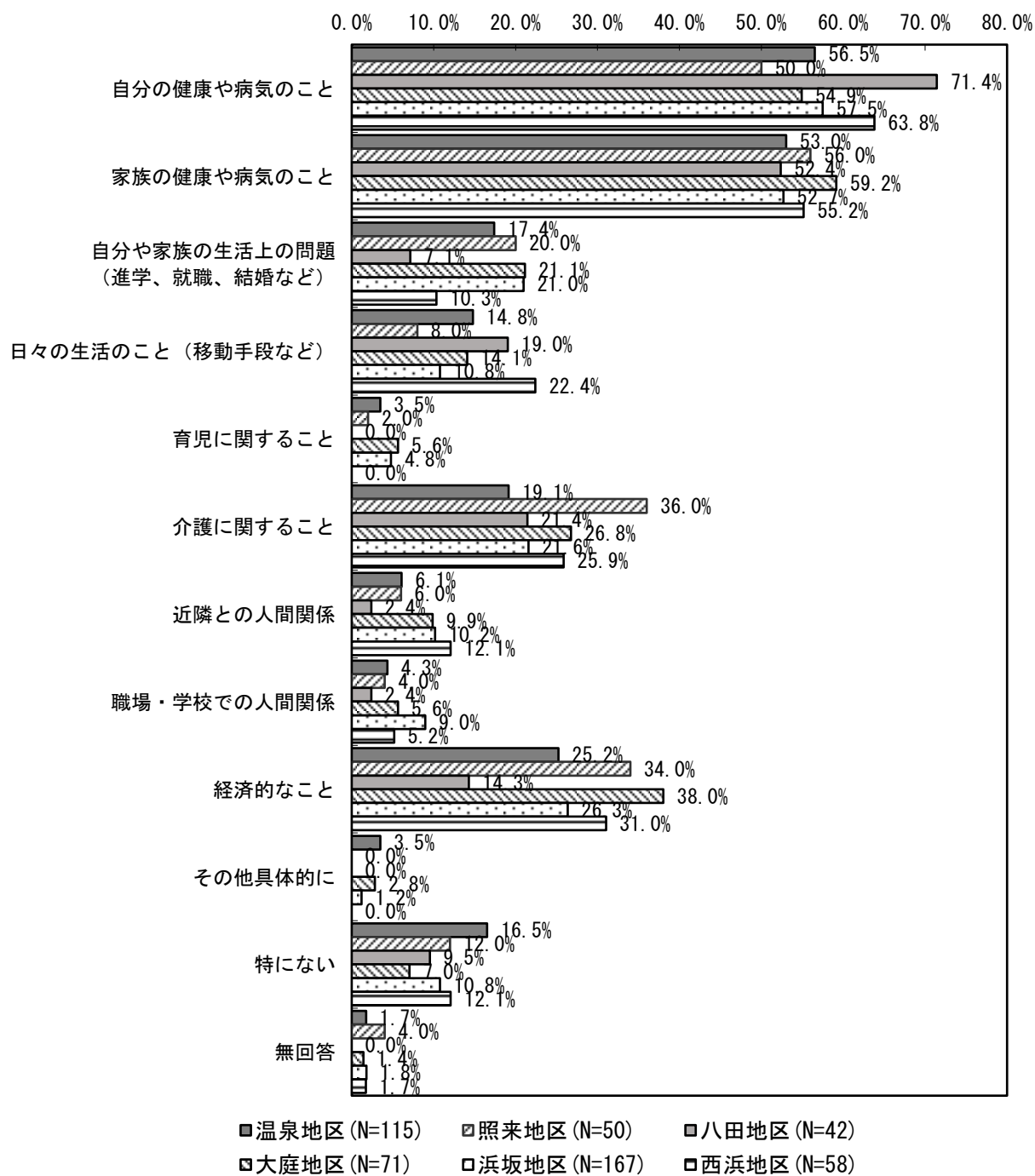


図 日頃感じている悩みや不安(複数回答)(地区別)



(2) 悩みや不安の相談相手〈複数回答〉

〔問 30 悩みや不安があったとき、誰に相談していますか。(3つまで○)〕

悩みや不安の相談相手についてみると、「家族・親戚」(82.9%)が最も高く、次いで「友人・知人」(41.1%)、「医師」(11.0%)となっています。

前回の調査結果から比較すると、大きな変化は見られません。

図 悩みや不安の相談相手(3つ以内で複数回答)

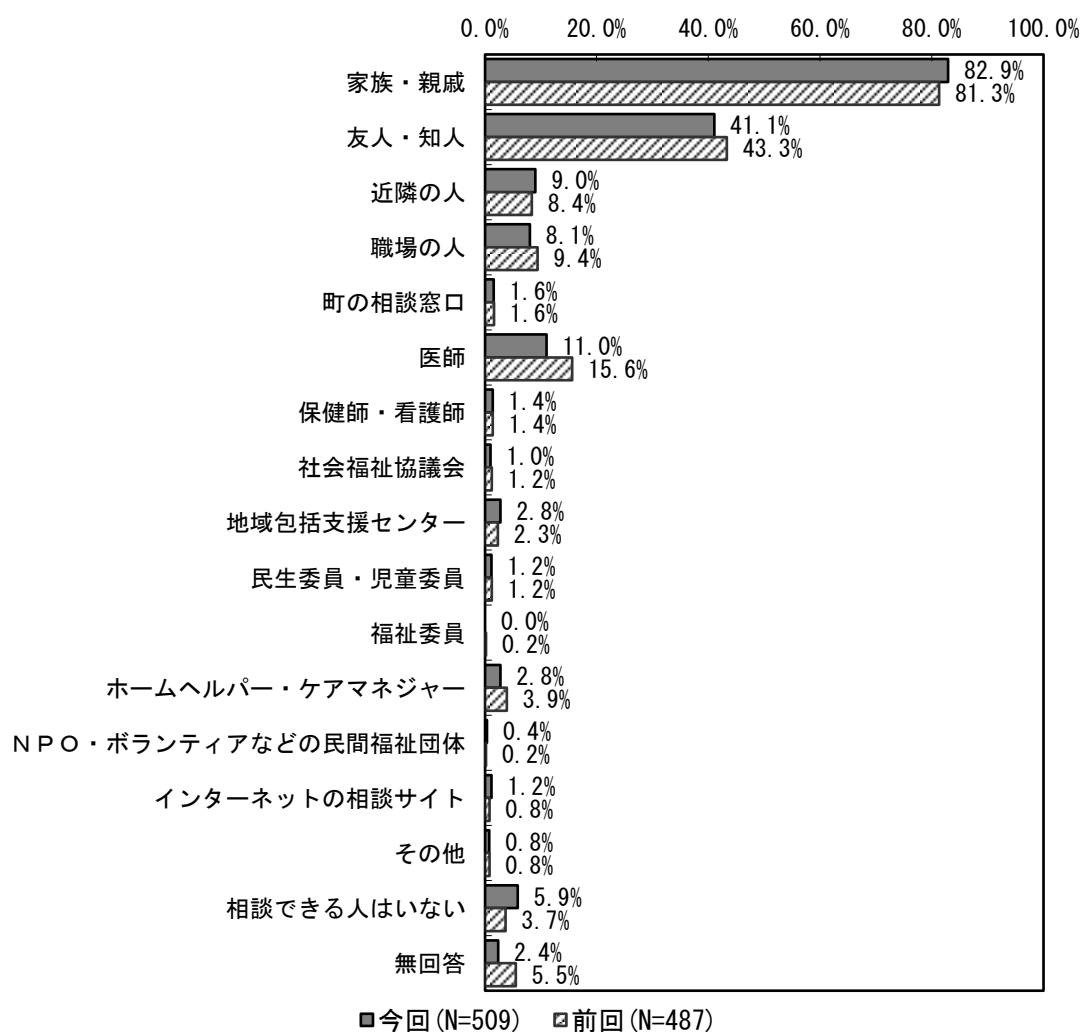


図 悩みや不安の相談相手(3つ以内で複数回答)(男女別)

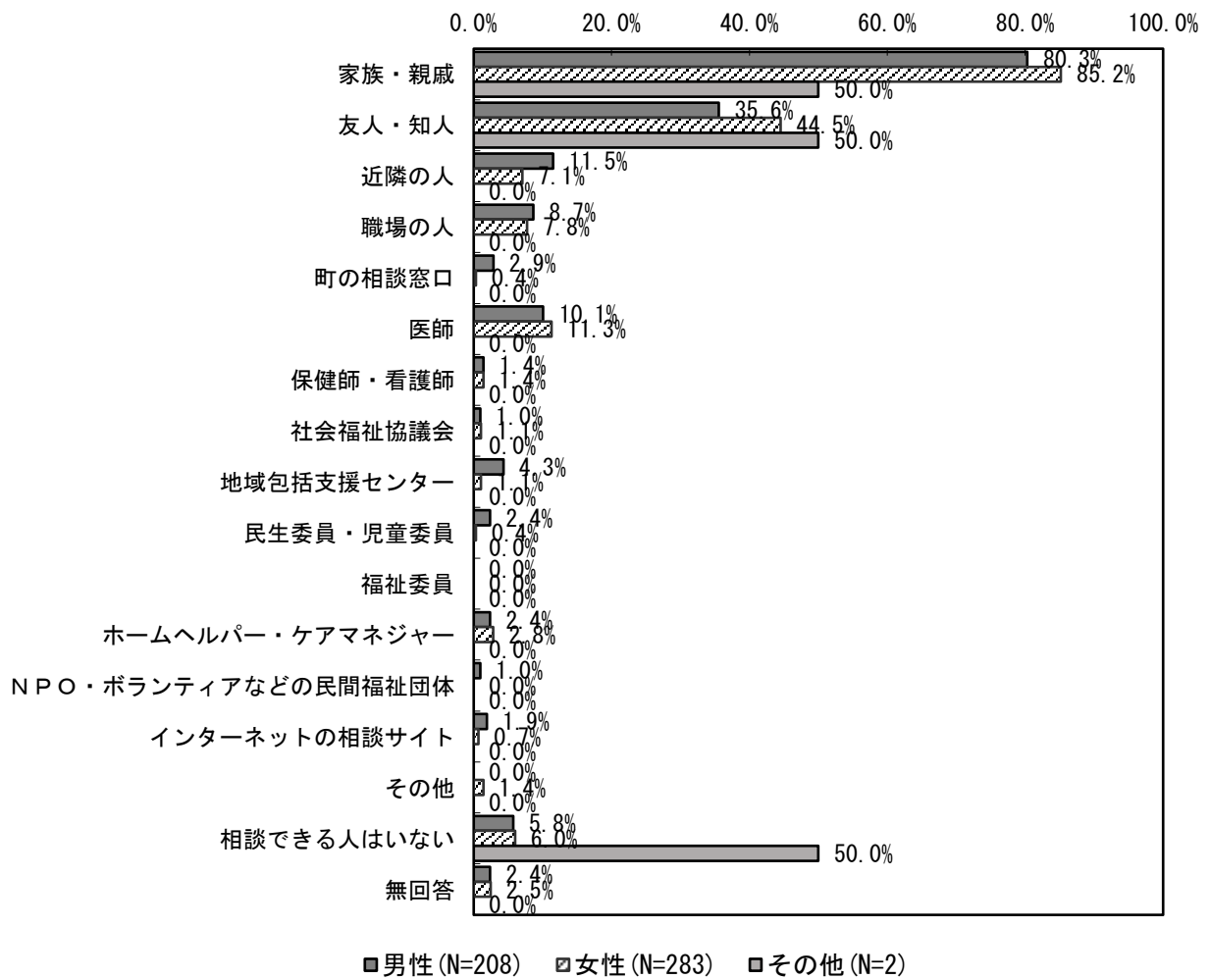


図 悩みや不安の相談相手(3つ以内で複数回答)(年齢区分別)

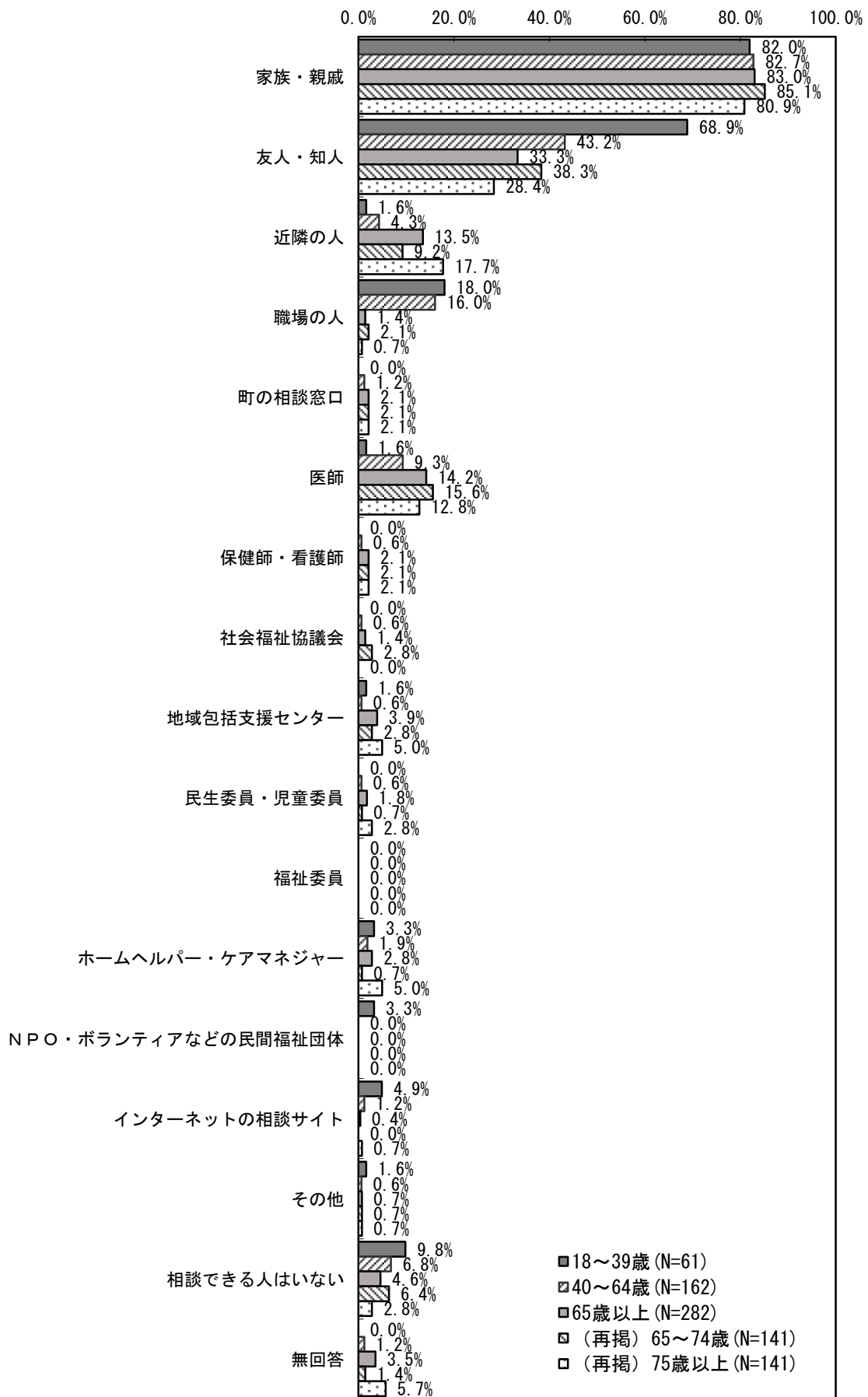
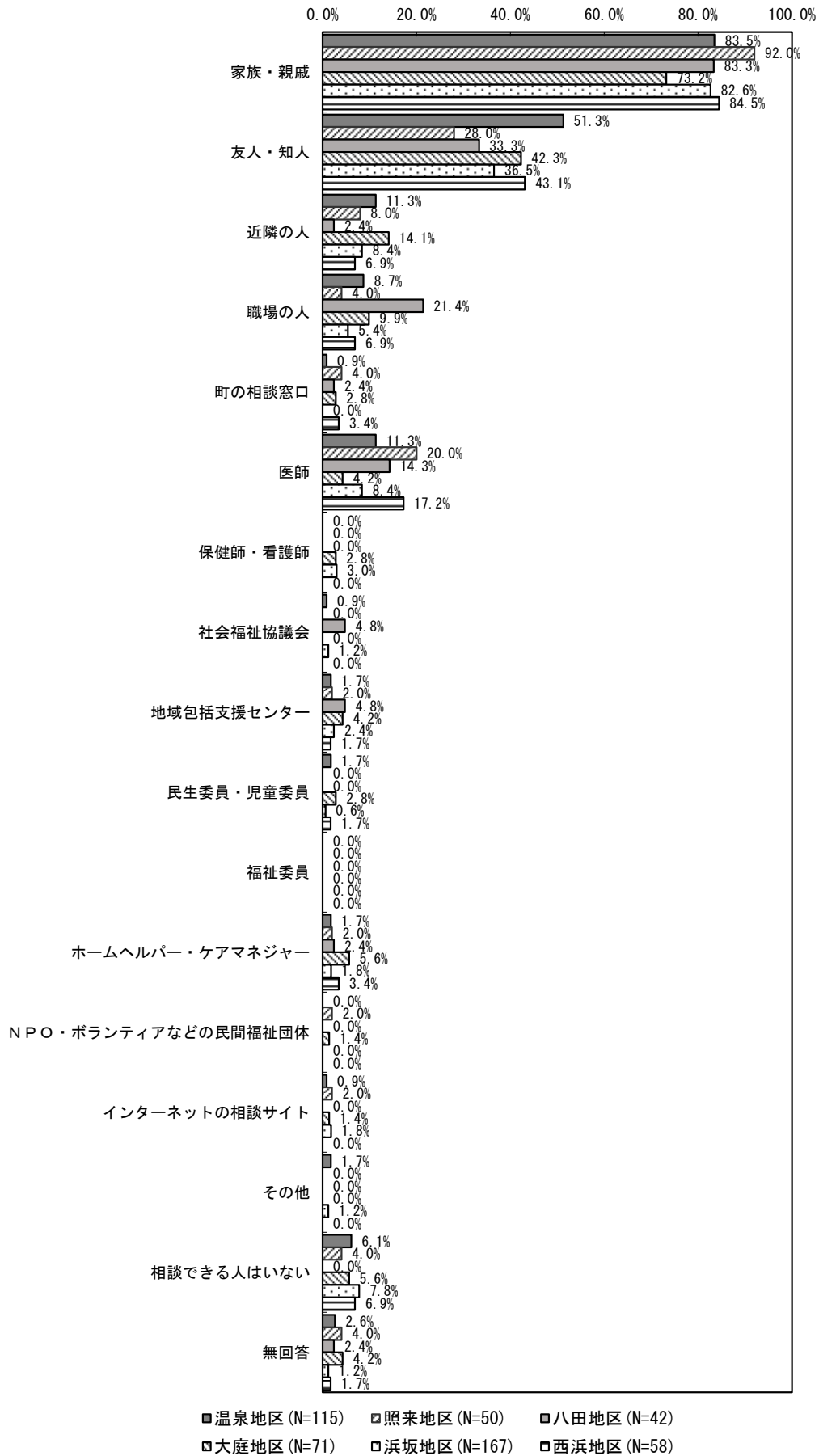


図 悩みや不安の相談相手(3つ以内で複数回答)(地区別)



（３）健康や福祉について知りたい情報〈複数回答〉

〔問 31 あなたは健康や福祉について、どのような情報を知りたいですか。（あてはまるものすべてに○）〕

健康や福祉について知りたい情報についてみると、「健康や福祉についてのサービス利用方法に関する情報」（36.7％）が最も高く、次いで「高齢者や障がいのある人についてのサービス情報」（35.8％）、「健康づくりについてのサービス情報」（30.5％）となっています。

前回の調査結果から比較すると、「高齢者や障がいのある人についてのサービス情報」が 6.6 ポイント、「高齢者や障がいのある人が生活しやすい住宅や福祉機器についての情報」が 5.2 ポイント増加しています。

年齢区分別にみると、「18～39 歳」では、「子育てについてのサービス情報」（39.3％）、「40～64 歳」では、「健康や福祉についてのサービス利用方法に関する情報」（43.8％）、「65 歳以上」では、「高齢者や障がいのある人についてのサービス情報」（39.0％）がそれぞれ最も高くなっています。

図 健康や福祉について知りたい情報（複数回答）

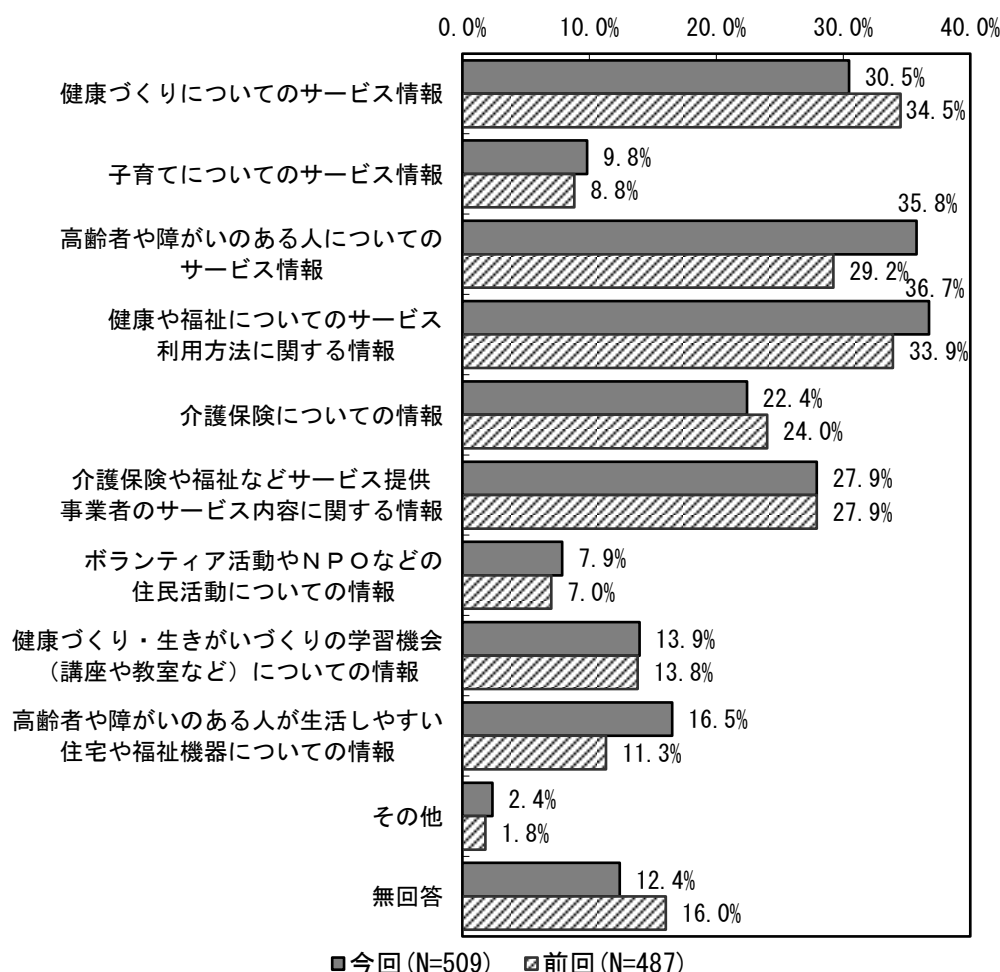


図 健康や福祉について知りたい情報(複数回答)(男女別)

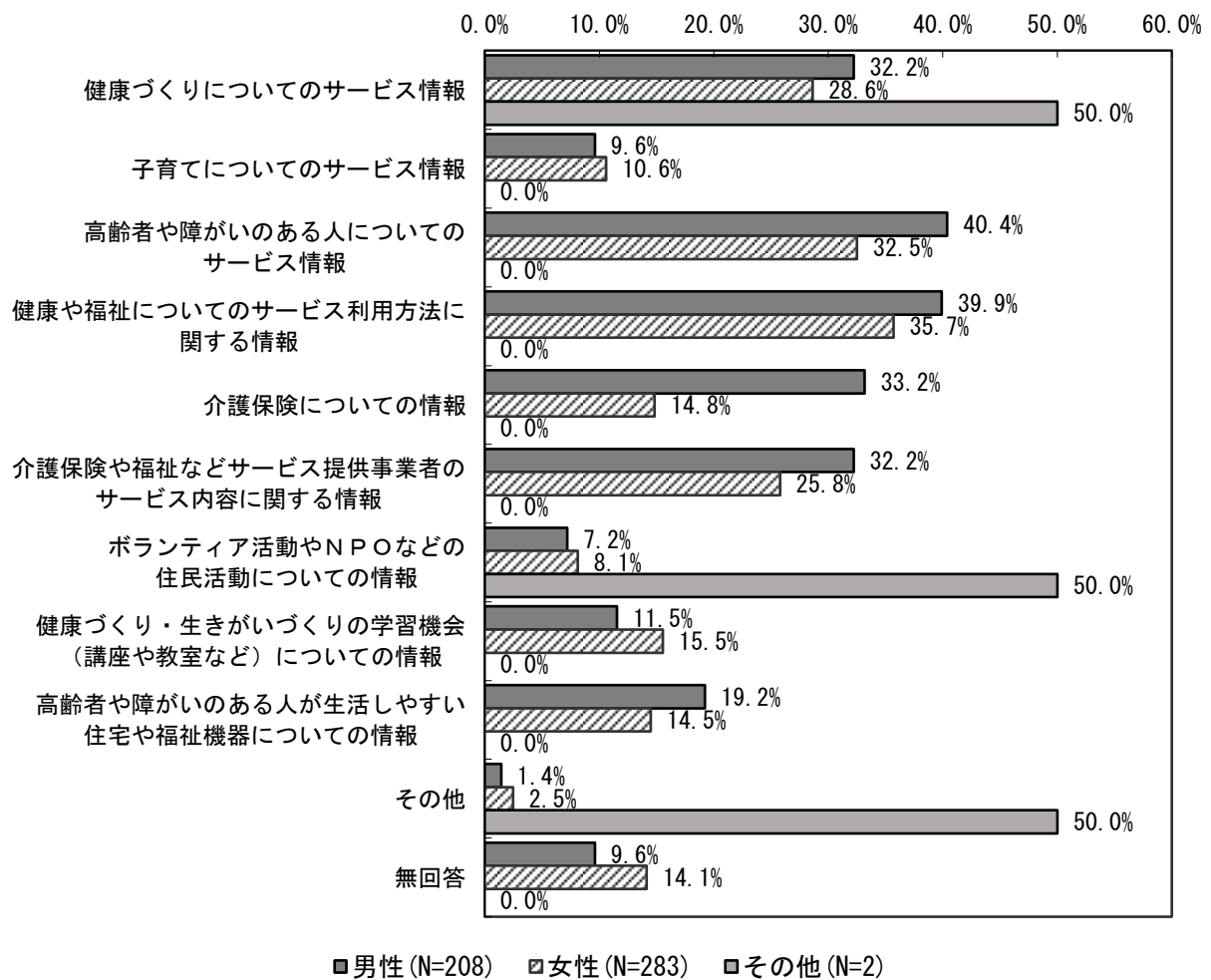


図 健康や福祉について知りたい情報(複数回答)(年齢区分別)

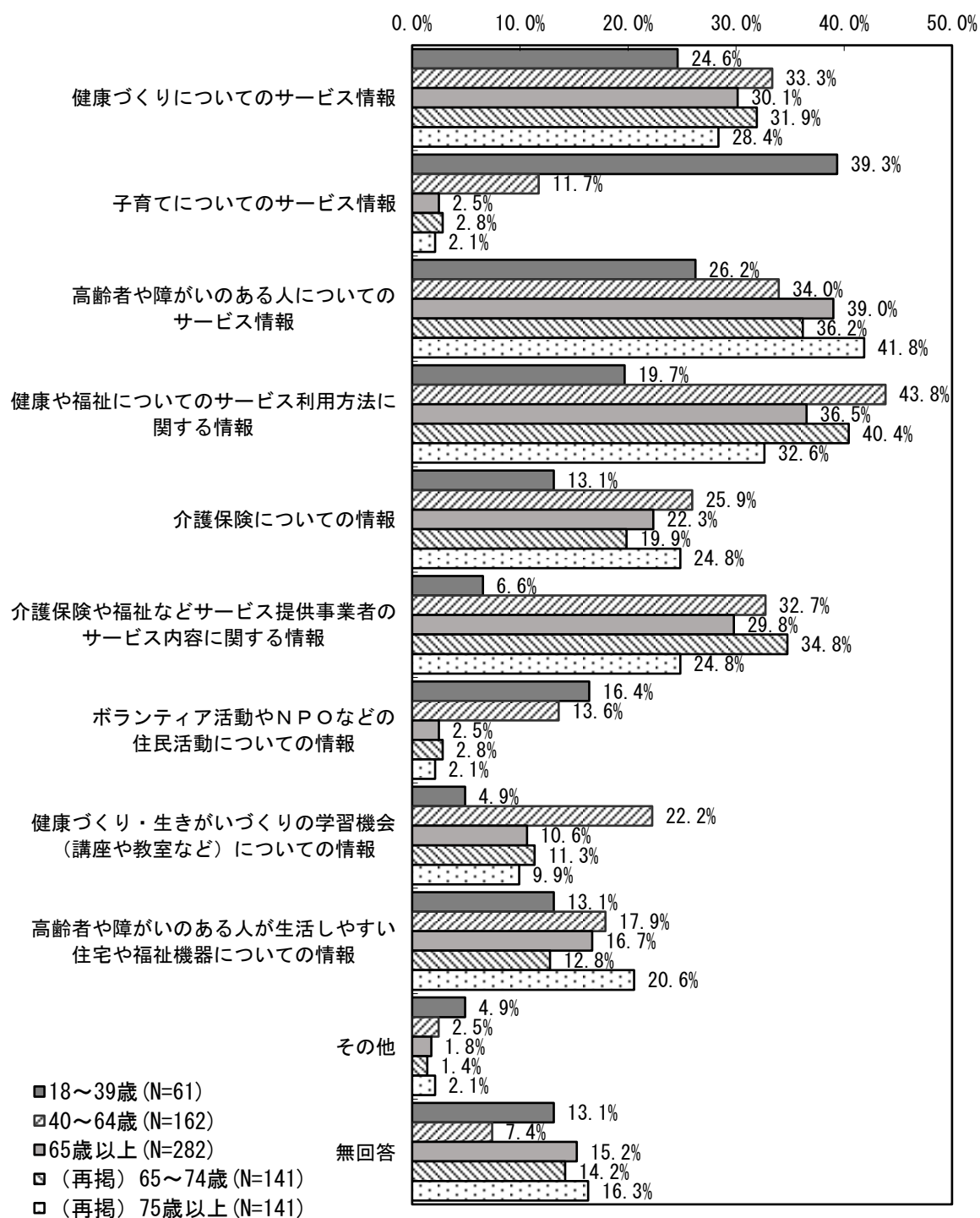
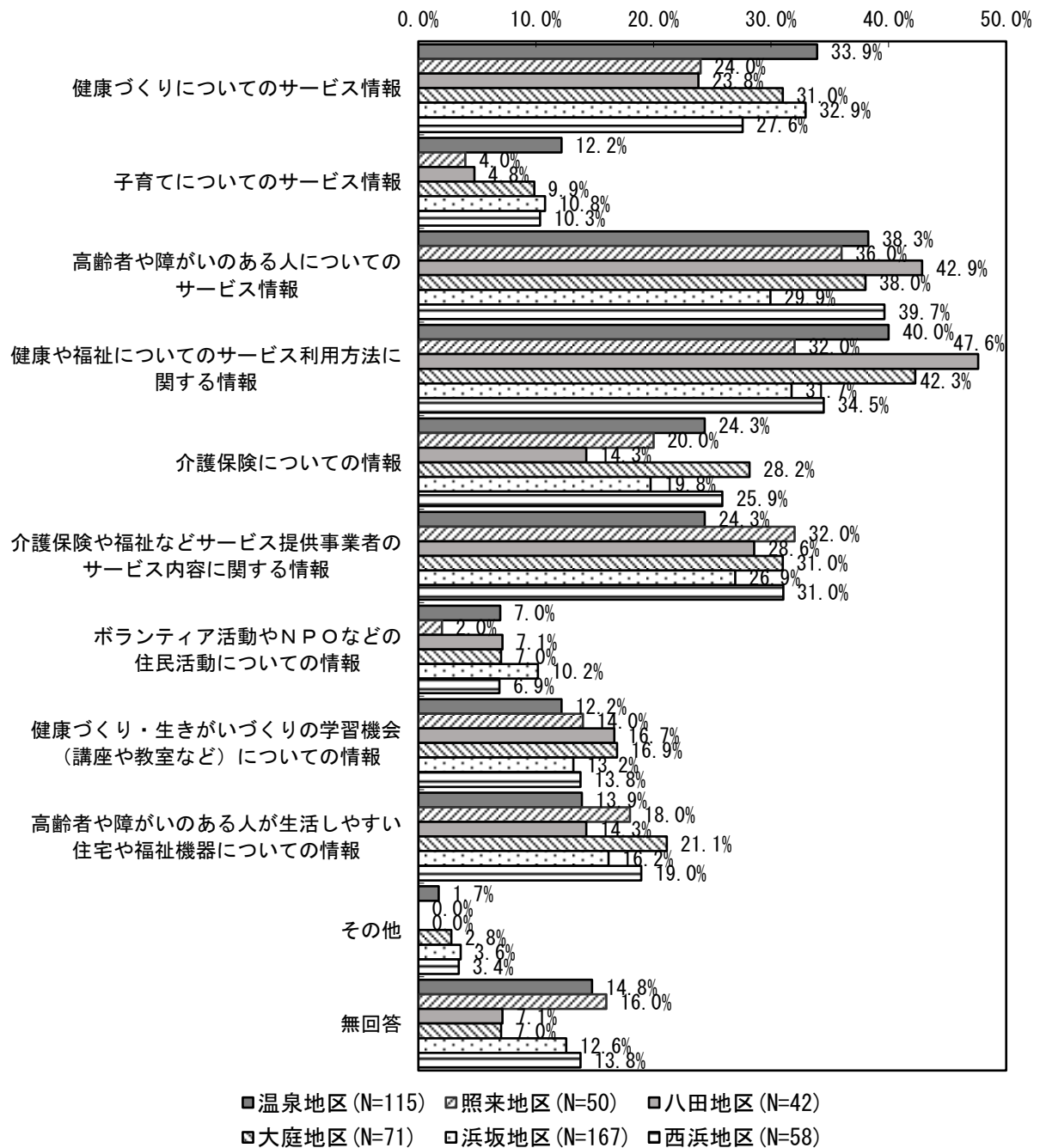


図 健康や福祉について知りたい情報(複数回答)(地区別)



（４）健康や福祉についての情報を得るうえで、役立っていると思われるもの〈複数回答〉

〔問 32 健康や福祉についての情報を得るうえで、役立っていると思われるものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）〕

健康や福祉についての情報を得るうえで、役立っていると思われるものについてみると、「町の「広報しんおんせん」」（67.2%）が最も高く、次いで「新聞の情報」（36.3%）、「町のパンフレット・冊子など」（33.0%）となっています。

前回の調査結果から比較すると、「病院などの医療機関からの情報」が 7.5 ポイント減少しています。

年齢区別にみると、年代が高いほど、「町のパンフレット・冊子など」「社会福祉協議会からの情報」「新聞の情報」「ラジオやテレビの情報」が高くなっています。一方で、「インターネットの情報」は、「18～39 歳」で 44.3%、「40～64 歳」で 38.3%と高くなっています。

図 健康や福祉についての情報を得るうえで、役立っていると思われるもの（複数回答）

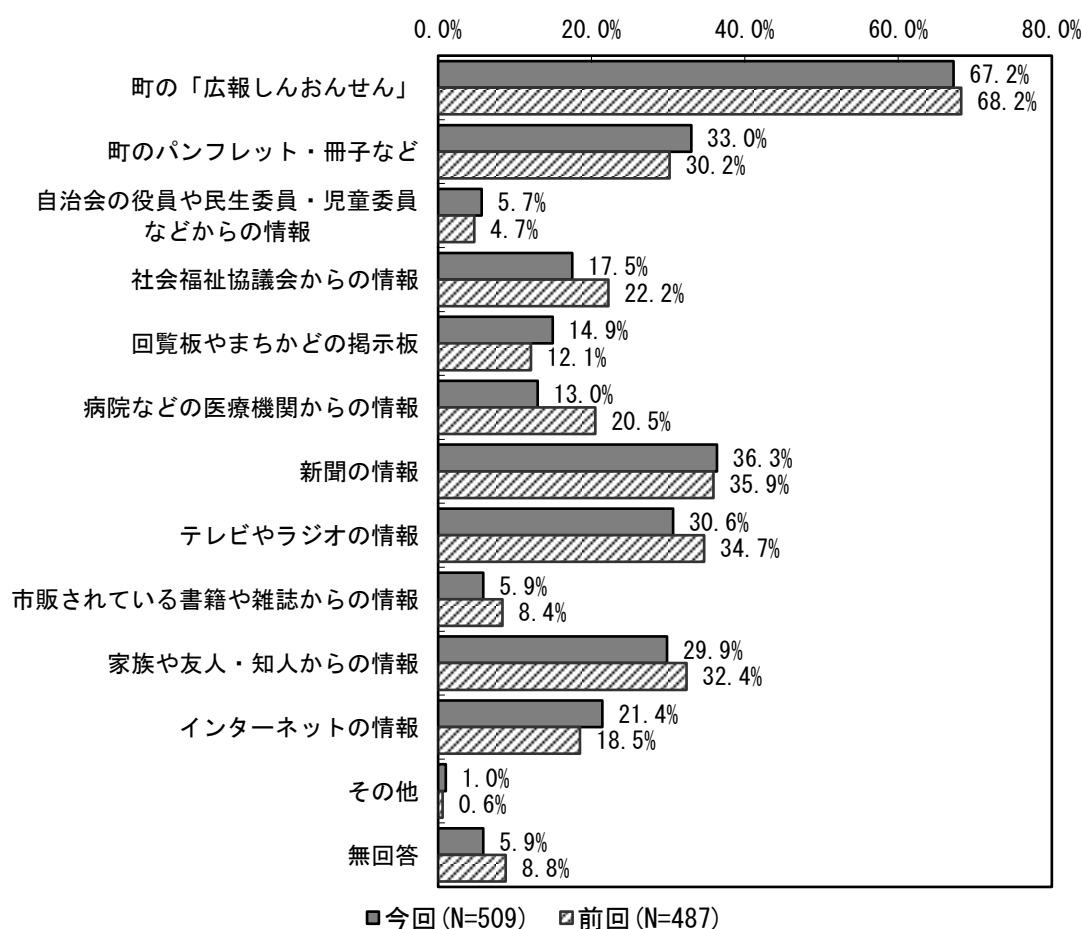


図 健康や福祉についての情報を得るうえで、役立っていると思われるもの(複数回答)(男女別)

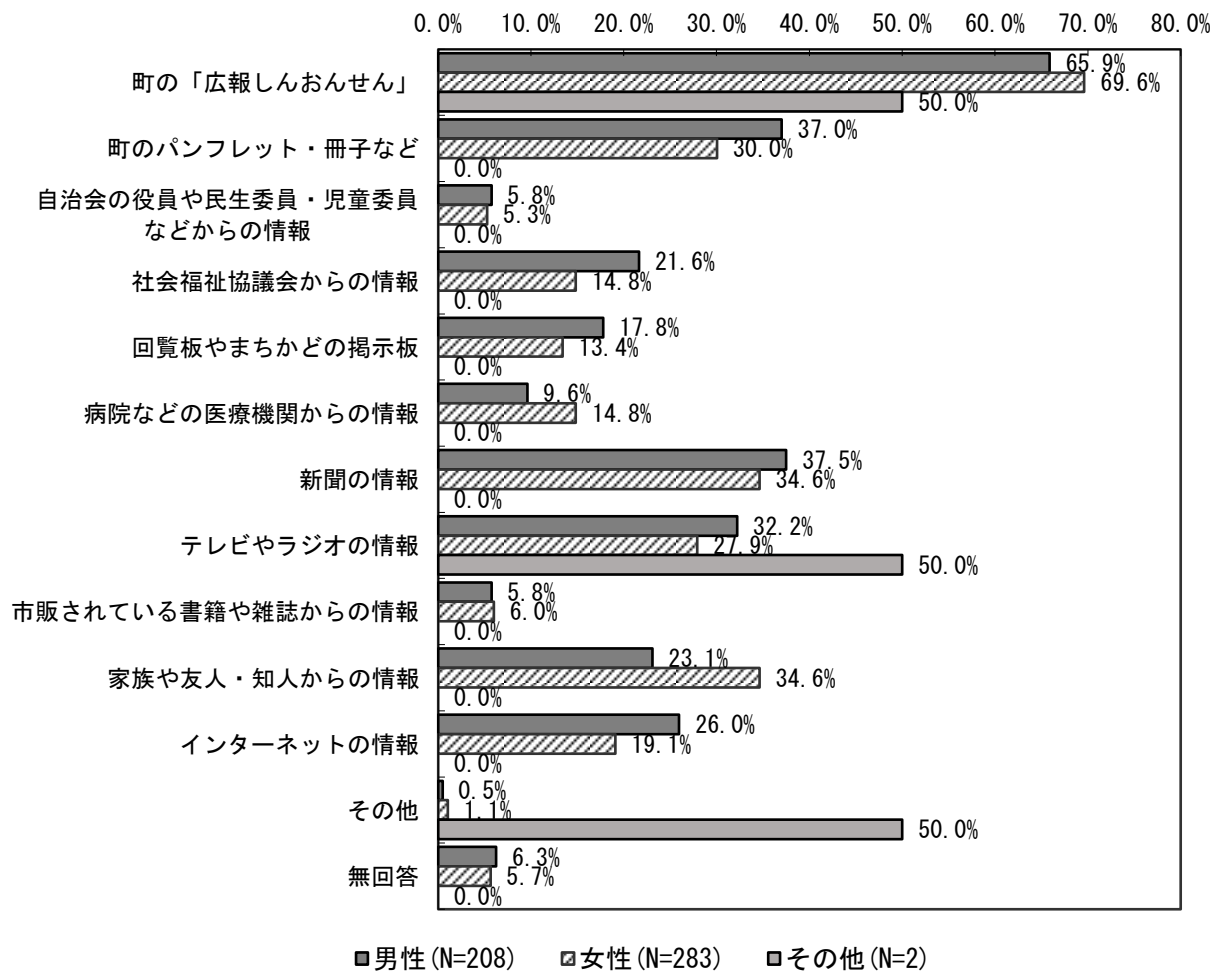


図 健康や福祉についての情報を得るうえで、役立っていると思われるもの(複数回答)(年齢区分別)

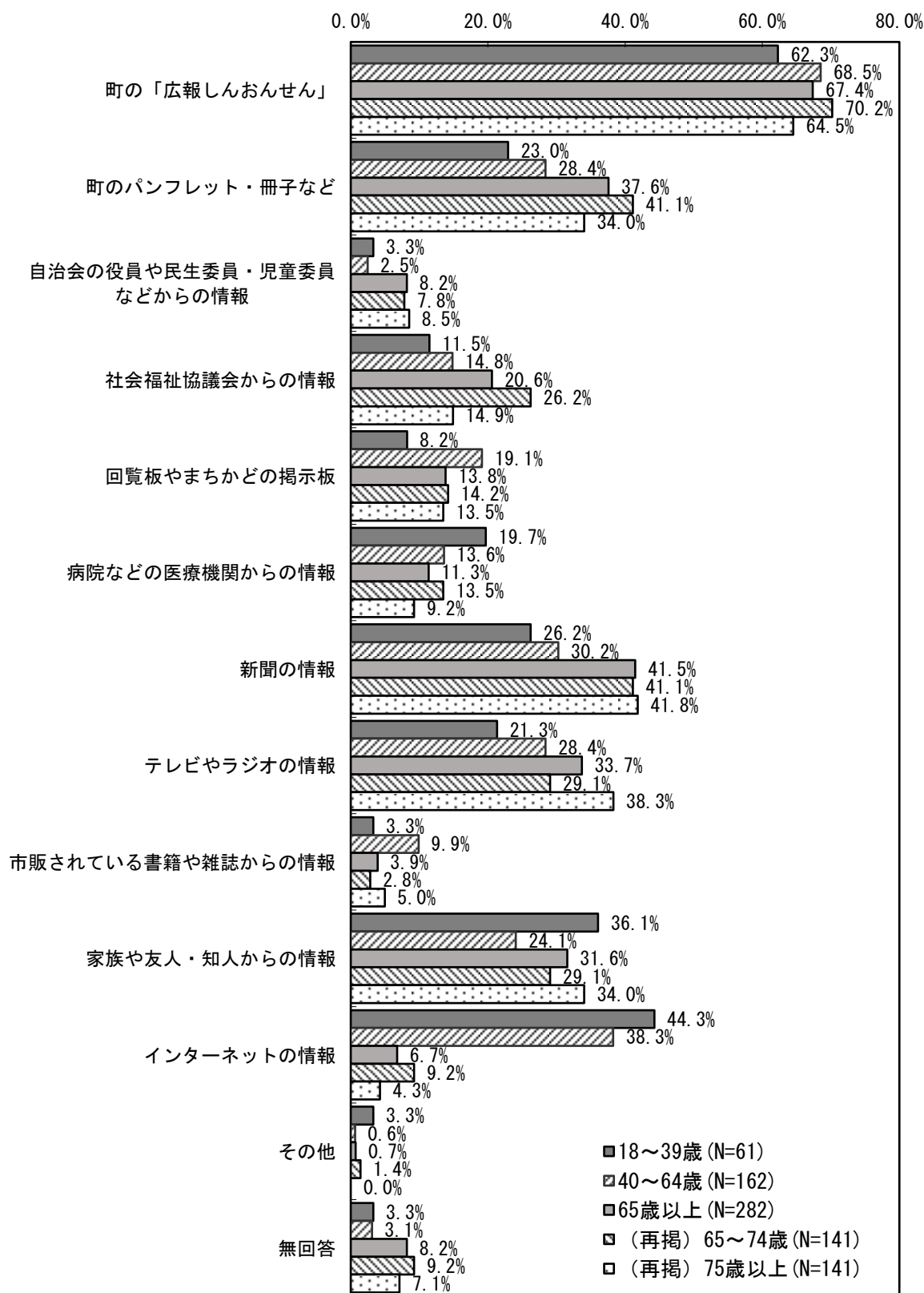
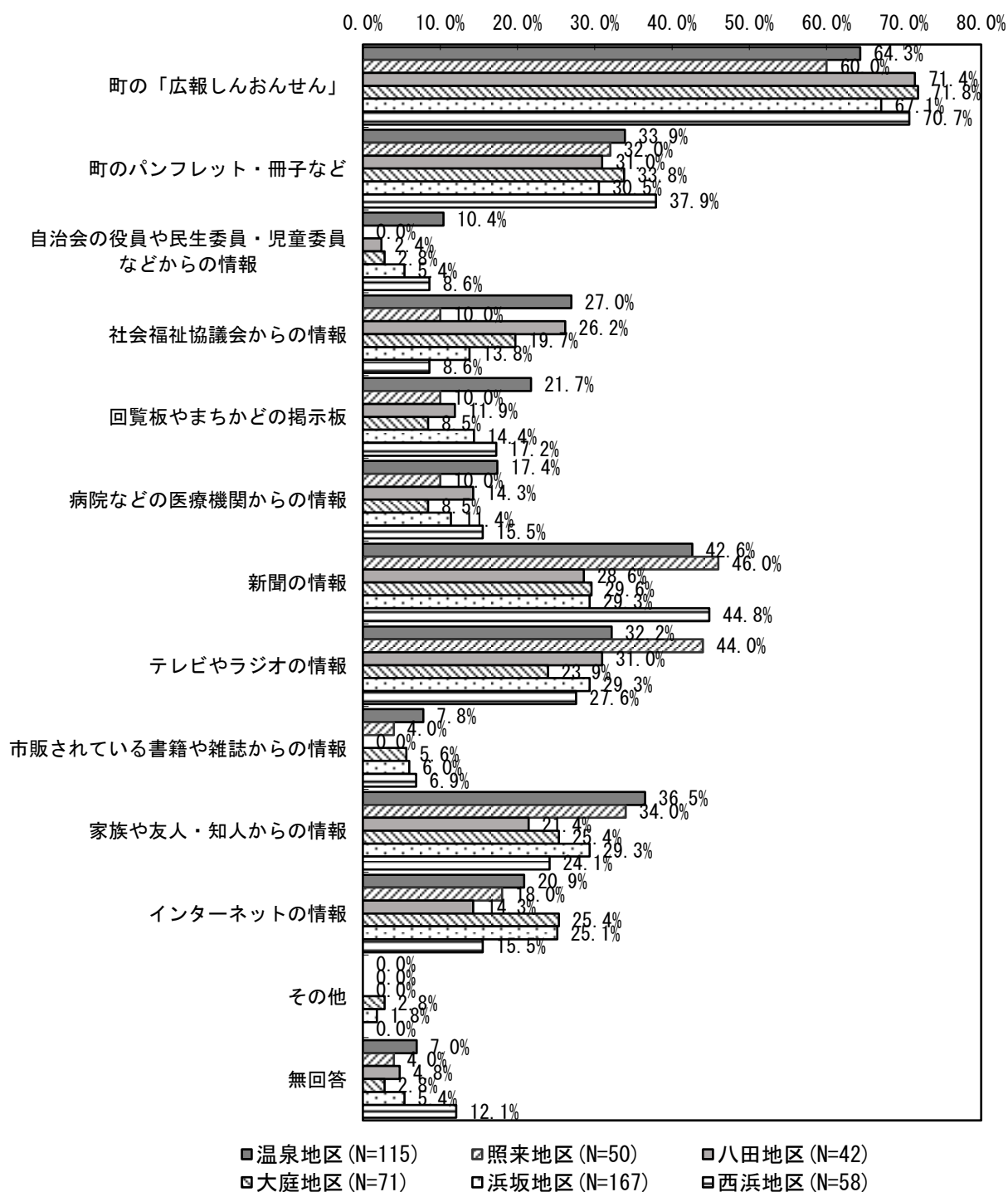


図 健康や福祉についての情報を得るうえで、役立っていると思われるもの(複数回答)(地区別)



（５）新温泉町の健康や福祉に関する情報提供の方法について、何をもっと充実させるべきか〈複数回答〉

〔問 33 あなたは新温泉町の健康や福祉に関する情報提供の方法について、何をもっと充実させるべきだと思いますか。（3つまで〇）〕

新温泉町の健康や福祉に関する情報提供の方法について、何をもっと充実させるべきかについてみると、「町の『広報しんおんせん』」（57.6%）が最も高く、次いで「町のパンフレット・冊子など」（36.5%）、「社会福祉協議会からの情報」（19.4%）となっています。

前回の調査結果から比較すると、上位3項目の順位は同じ結果となっています。また、「インターネットの情報」が7.8ポイント増加しています。

年齢区別にみると、年代が高いほど「町の『広報しんおんせん』」「町のパンフレット・冊子など」が高くなっています。一方で、「インターネットの情報」は、64歳以下で高く、「18～39歳」では45.9%、「40～64歳」では32.1%となっています。

図 新温泉町の健康や福祉に関する情報提供の方法について、何をもっと充実させるべきか（3つ以内で複数回答）

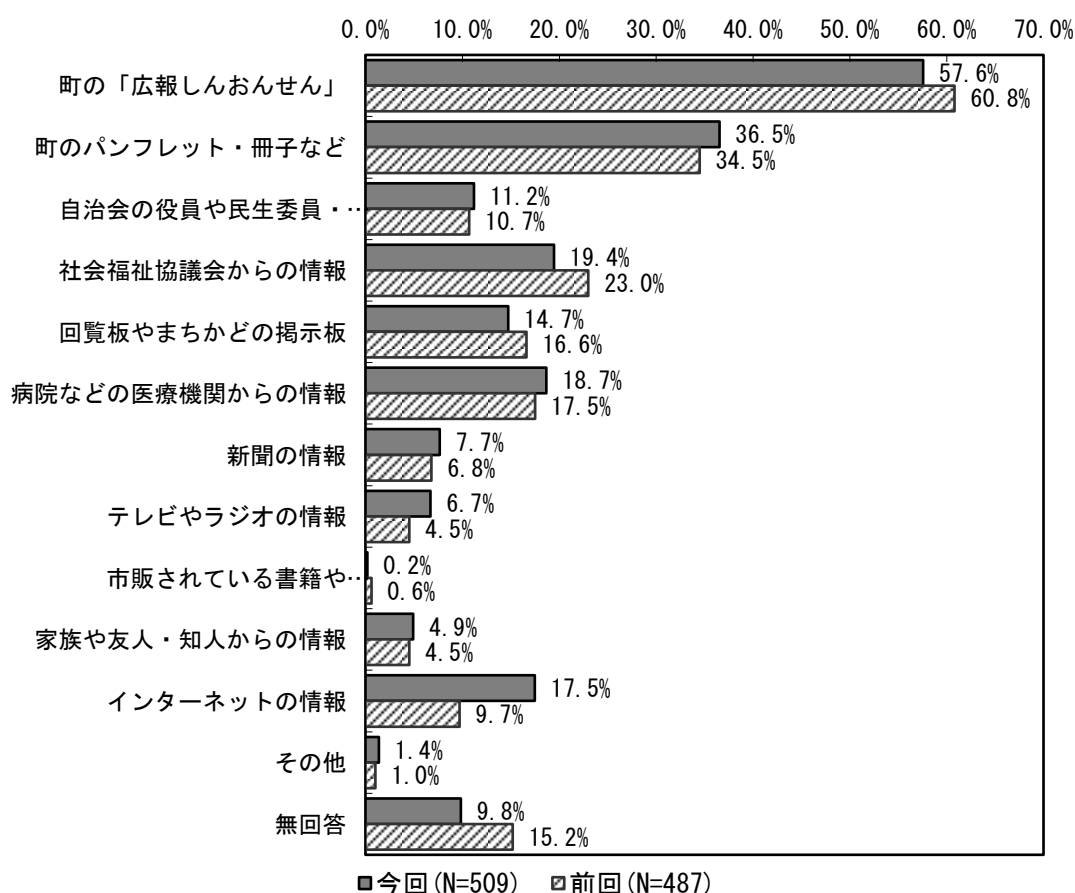


図 新温泉町の健康や福祉に関する情報提供の方法について、何をもっと充実させるべきか(3つ以内で複数回答)(男女別)

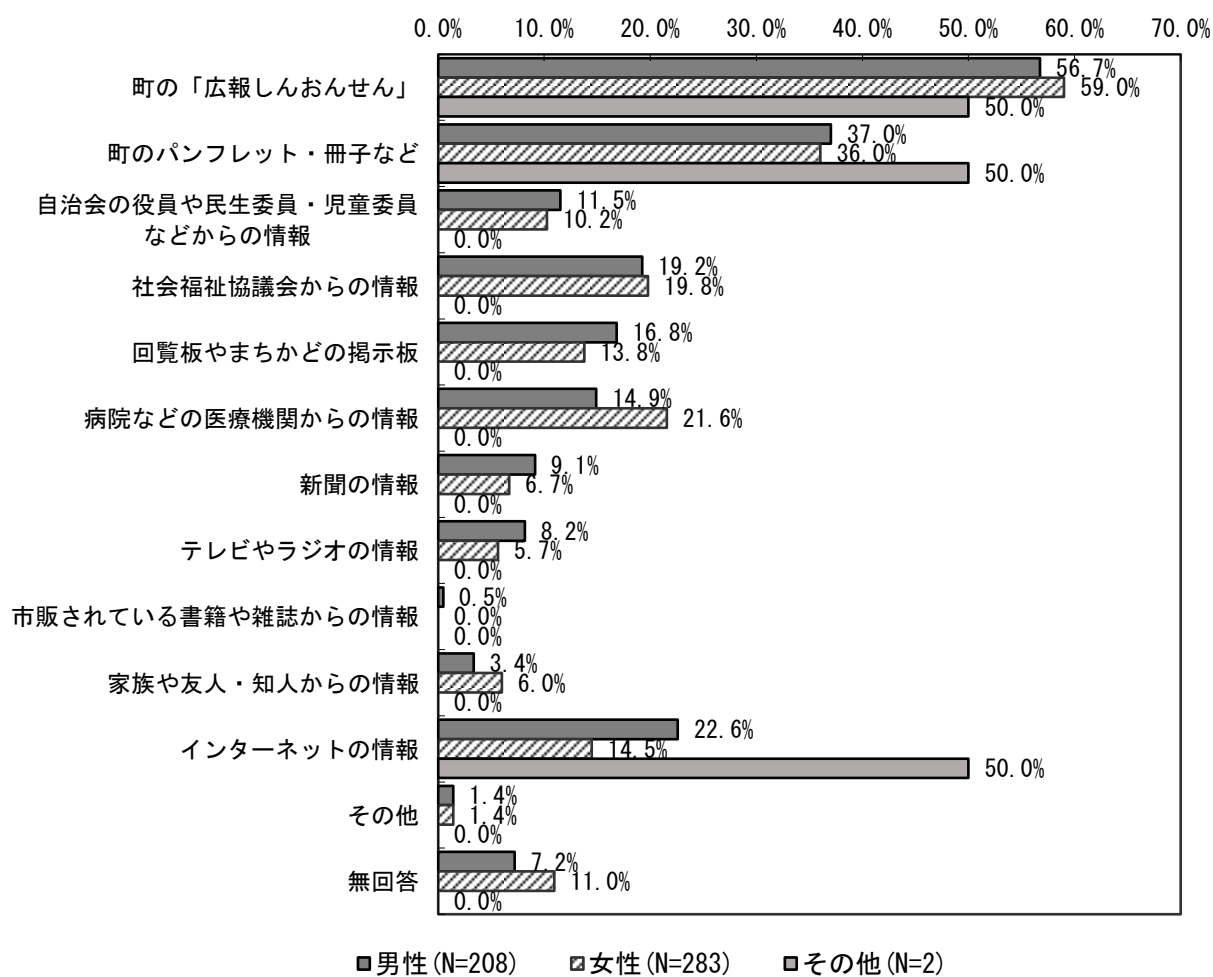


図 新温泉町の健康や福祉に関する情報提供の方法について、何をもっと充実させるべきか(3つ以内で複数回答)
(年齢区分別)

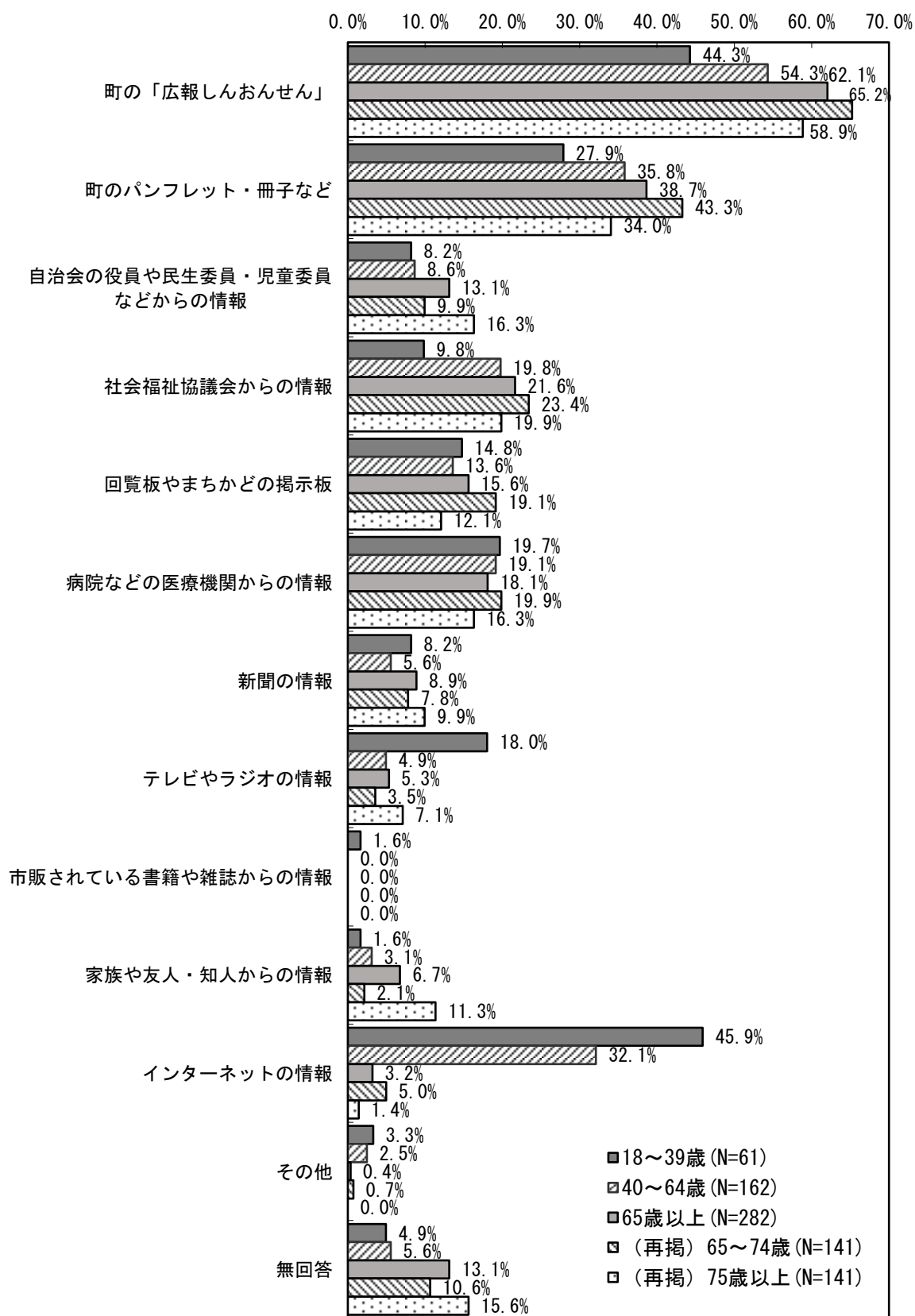
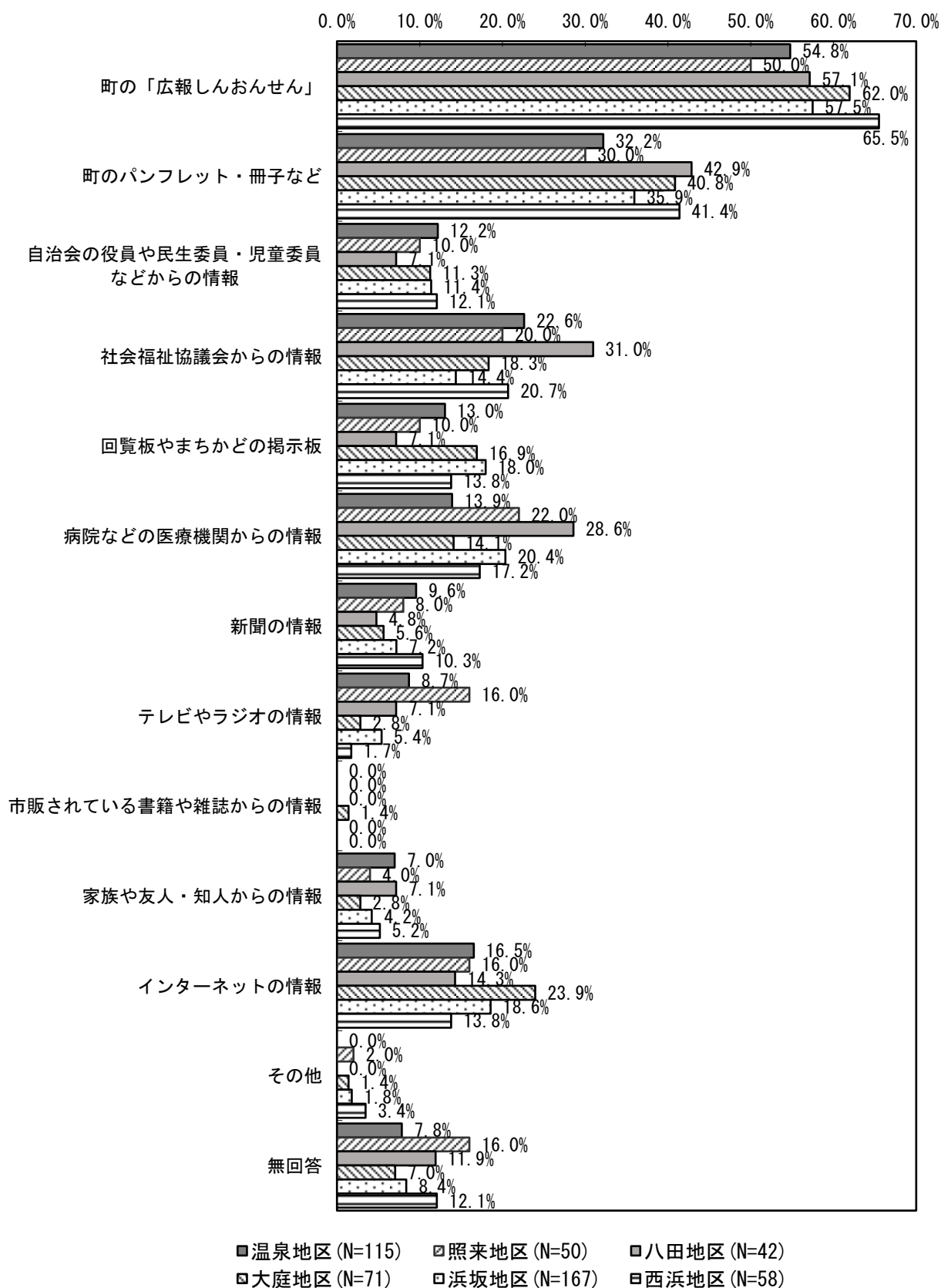


図 新温泉町の健康や福祉に関する情報提供の方法について、何をもっと充実させるべきか(3つ以内で複数回答)(地区別)



（６）子育てや高齢者、障がいのある人に関するサービスを安心して利用できるようにするために充実させるべきこと〈複数回答〉

〔問 34 あなたは、子育てや高齢者、障がいのある人に関するサービスを安心して利用できるようにするため、どのようなことを充実させるべきだと思いますか。（3つまで〇）〕

子育てや高齢者、障がいのある人に関するサービスを安心して利用できるようにするために充実させるべきことについてみると、「福祉サービスを適切に選んで利用できるように支援する相談窓口」（64.6%）が最も高く、次いで「福祉サービスにかかわる人権侵害や苦情について、安心して気軽に相談できる窓口」（31.8%）、「悪質な事業者を排除する仕組み」（17.1%）となっています。前回の調査結果から比較すると、上位2項目の順位は同じ結果となっています。

図 子育てや高齢者、障がいのある人に関するサービスを安心して利用できるようにするために充実させるべきこと（3つ以内で複数回答）

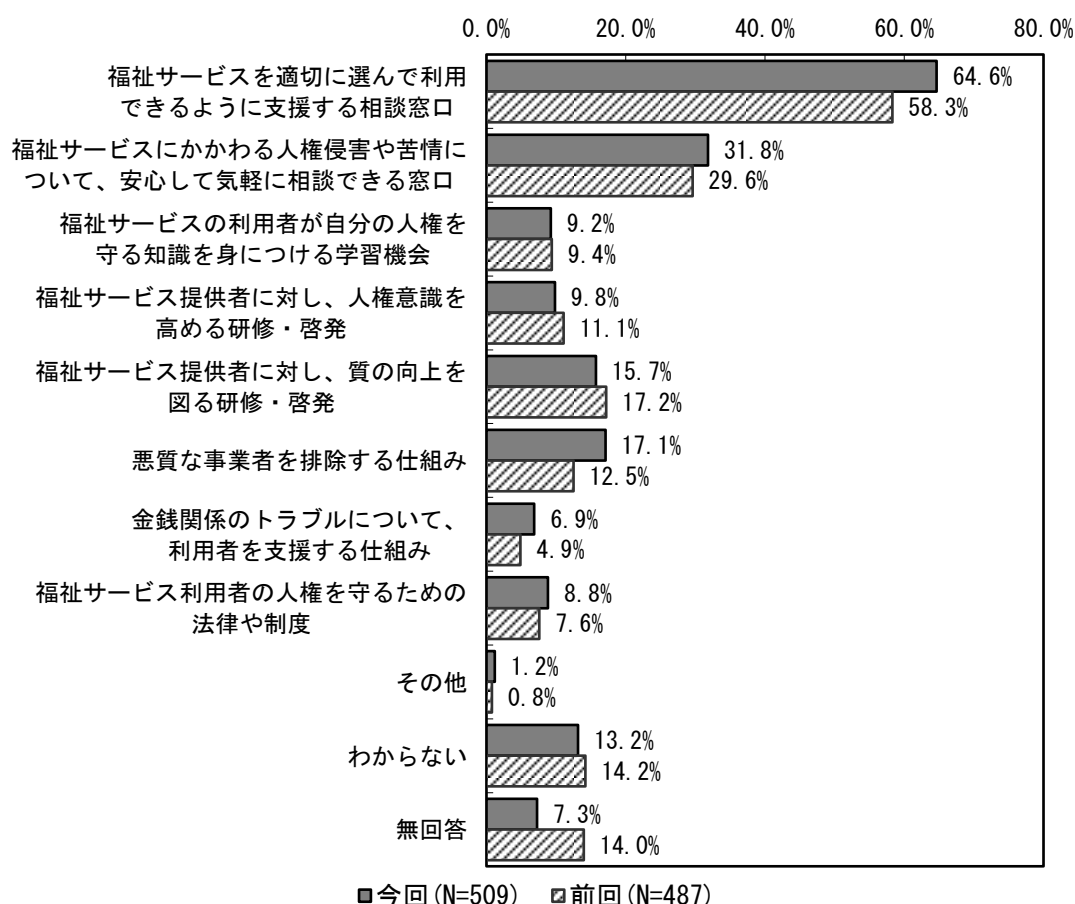


図 子育てや高齢者、障がいのある人に関するサービスを安心して利用できるようにするために充実させるべきこと
(3つ以内で複数回答)(男女別)

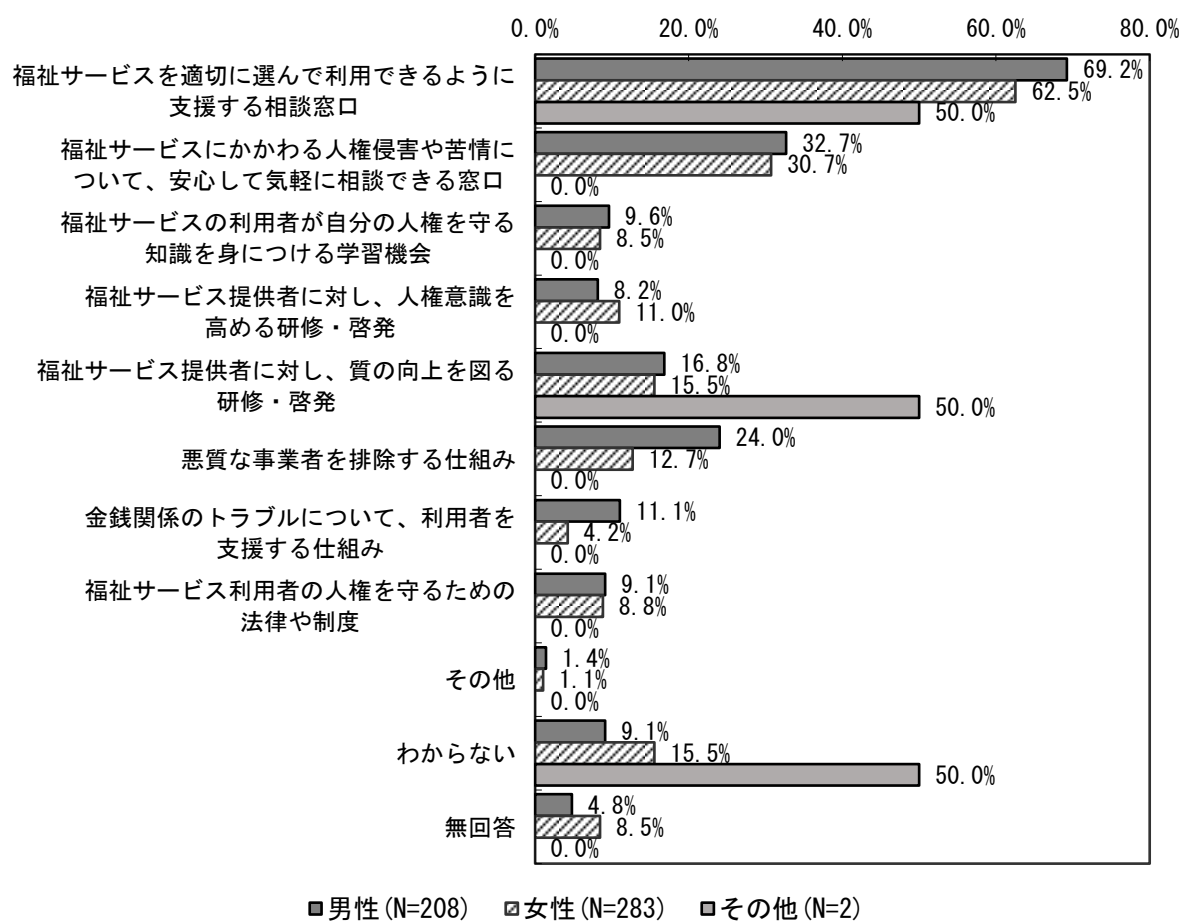


図 子育てや高齢者、障がいのある人に関するサービスを安心して利用できるようにするために充実させるべきこと
(3つ以内で複数回答)(年齢区分別)

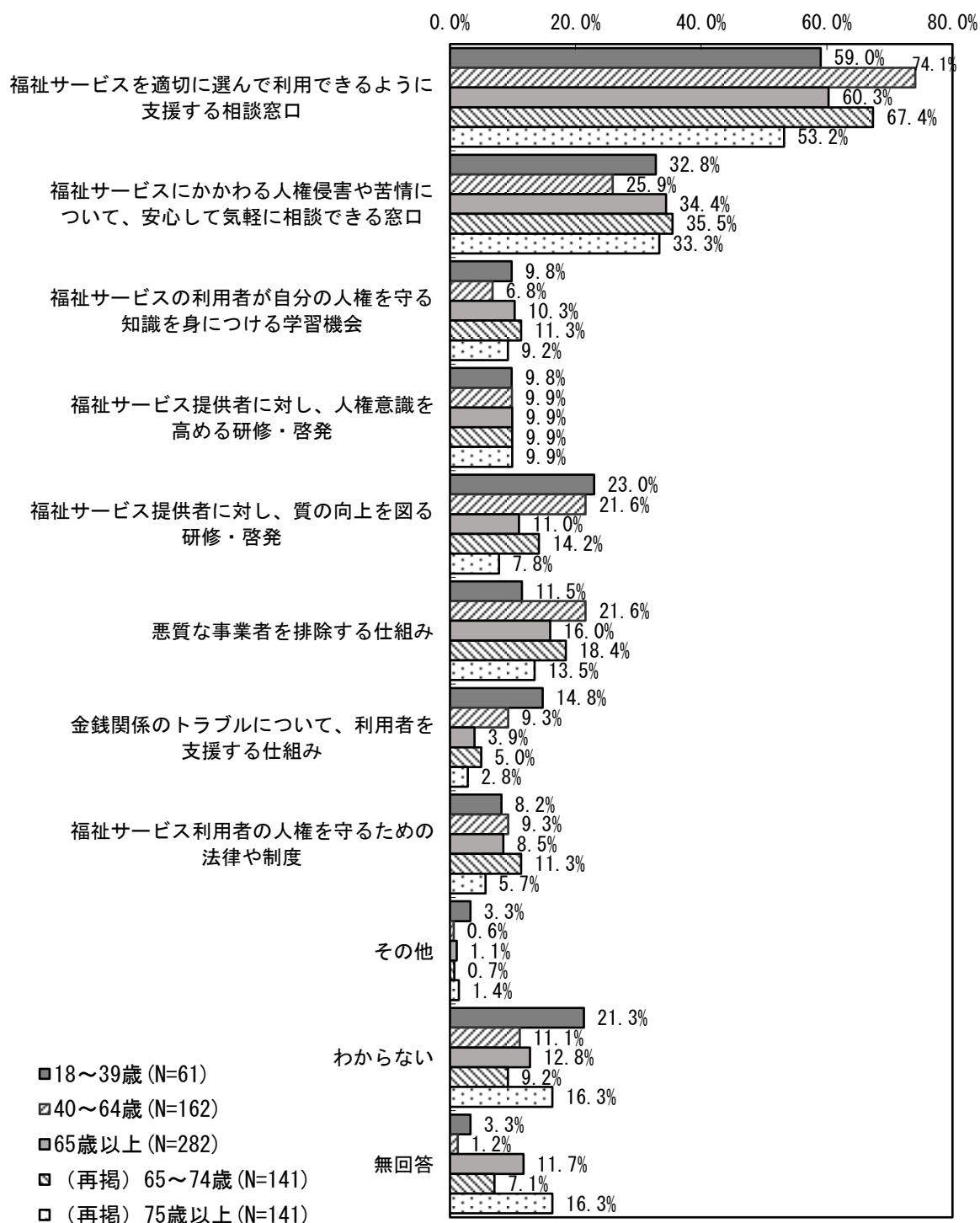
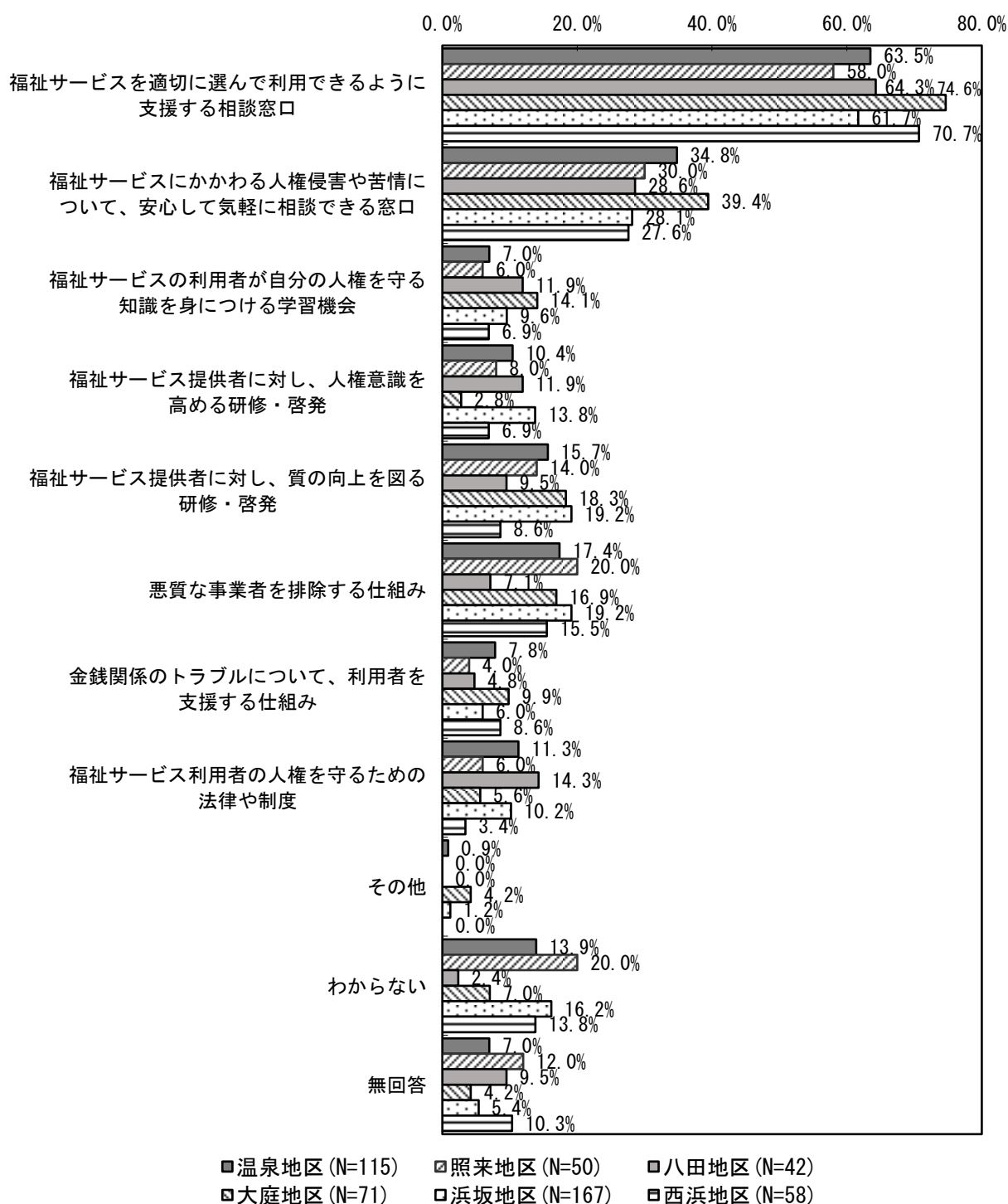


図 子育てや高齢者、障がいのある人に関するサービスを安心して利用できるようにするために充実させるべきこと
(3つ以内で複数回答)(地区別)



5 地域における支えあいについて

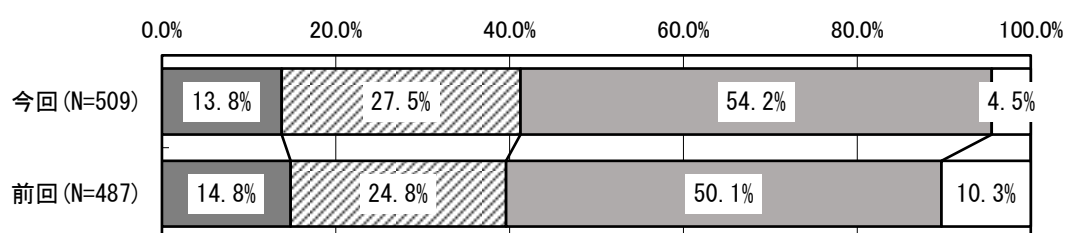
(1)「地域包括ケアシステム」について知っているか〈単数回答〉

〔問 35(1) あなたは、「地域包括ケアシステム」について知っていますか。(1つだけ〇)〕

「地域包括ケアシステム」について知っているかについてみると、「知らなかった」(54.2%)が多く約5割、次いで「制度名は知っていたが、内容は知らなかった」(27.5%)、「制度名も内容も知っていた」(13.8%)となっています。

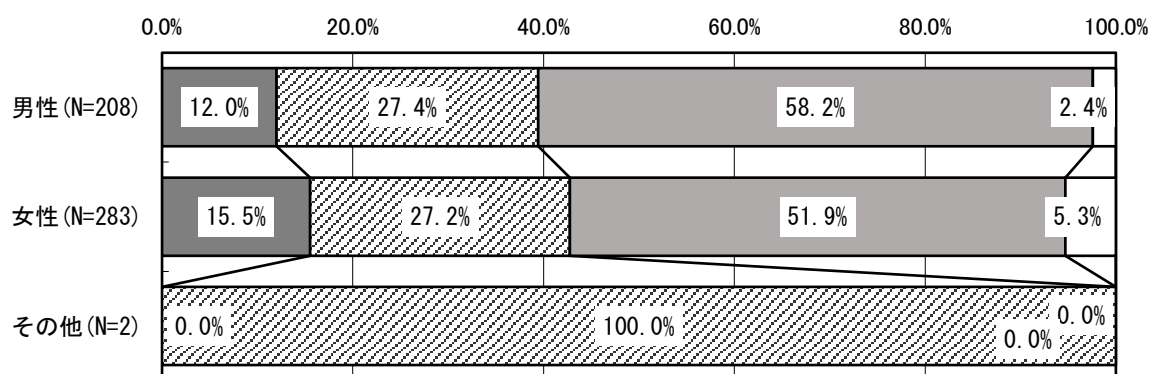
前回の調査結果から比較すると、大きな変化は見られません。

図 「地域包括ケアシステム」について知っているか



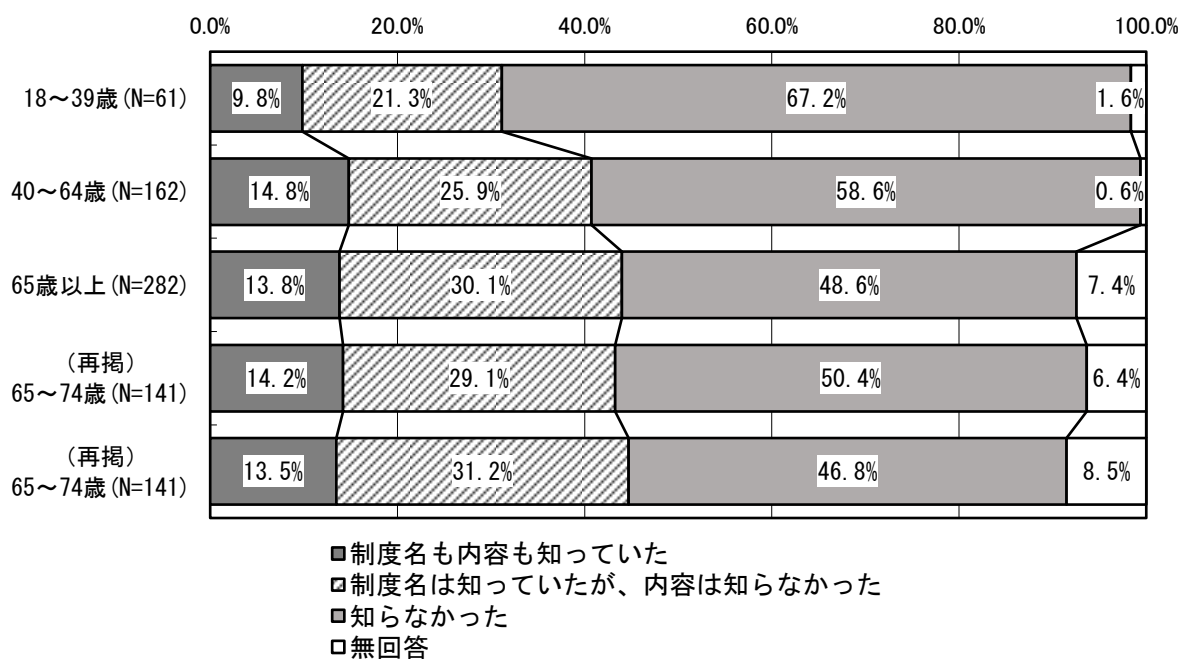
- 制度名も内容も知っていた
- ▨制度名は知っていたが、内容は知らなかった
- 知らなかった
- 無回答

図 「地域包括ケアシステム」について知っているか(男女別)

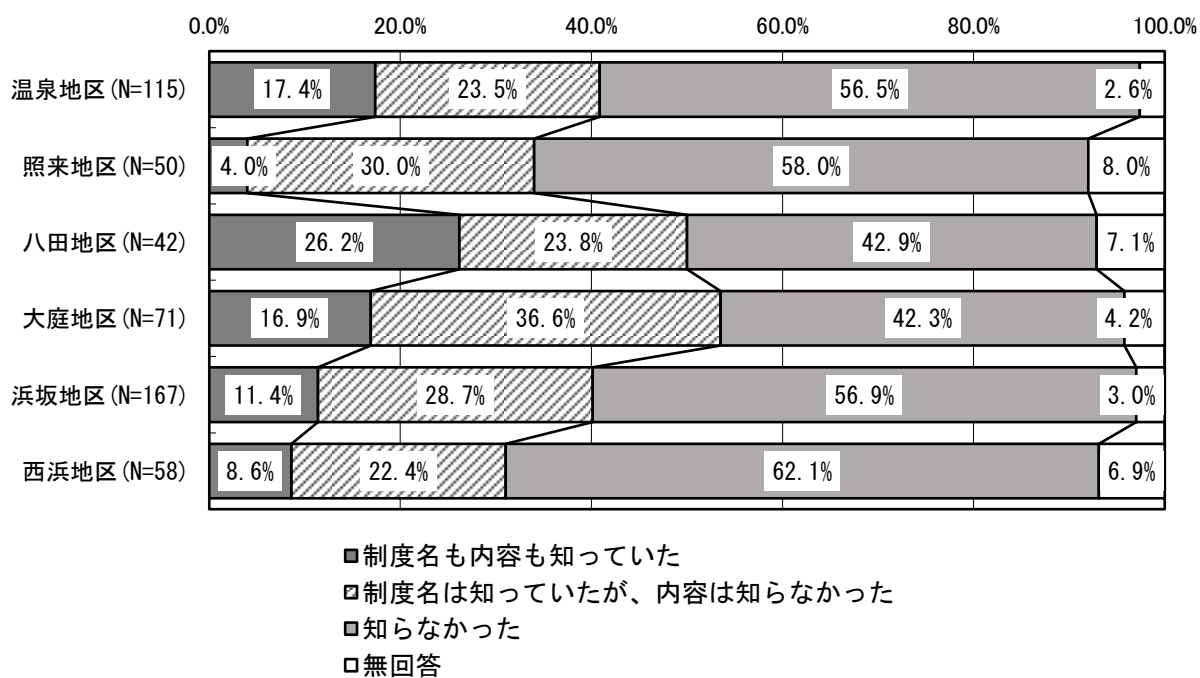


- 制度名も内容も知っていた
- ▨制度名は知っていたが、内容は知らなかった
- 知らなかった
- 無回答

図「地域包括ケアシステム」について知っているか(年齢区分別)



図「地域包括ケアシステム」について知っているか(地区別)



（２）地域における支えあいの仕組みを構築するためにできる取組〈複数回答〉

〔問 35(2) あなたは、地域における支えあいの仕組みを構築するためにどのような取組をすることができますか。（あてはまるものすべてに○）〕

地域における支えあいの仕組みを構築するためにできる取組についてみると、「身近な地域の見守り」（51.3％）が最も高く、次いで「高齢者支援に関する取組」（23.4％）となっています。

前回の調査結果から比較すると、「サロン活動への参加」が6.2ポイント、「ふれあい活動への参加」が5.5ポイント減少しています。支えあい取組取組図 地域における支えあいの仕組みを構築するために

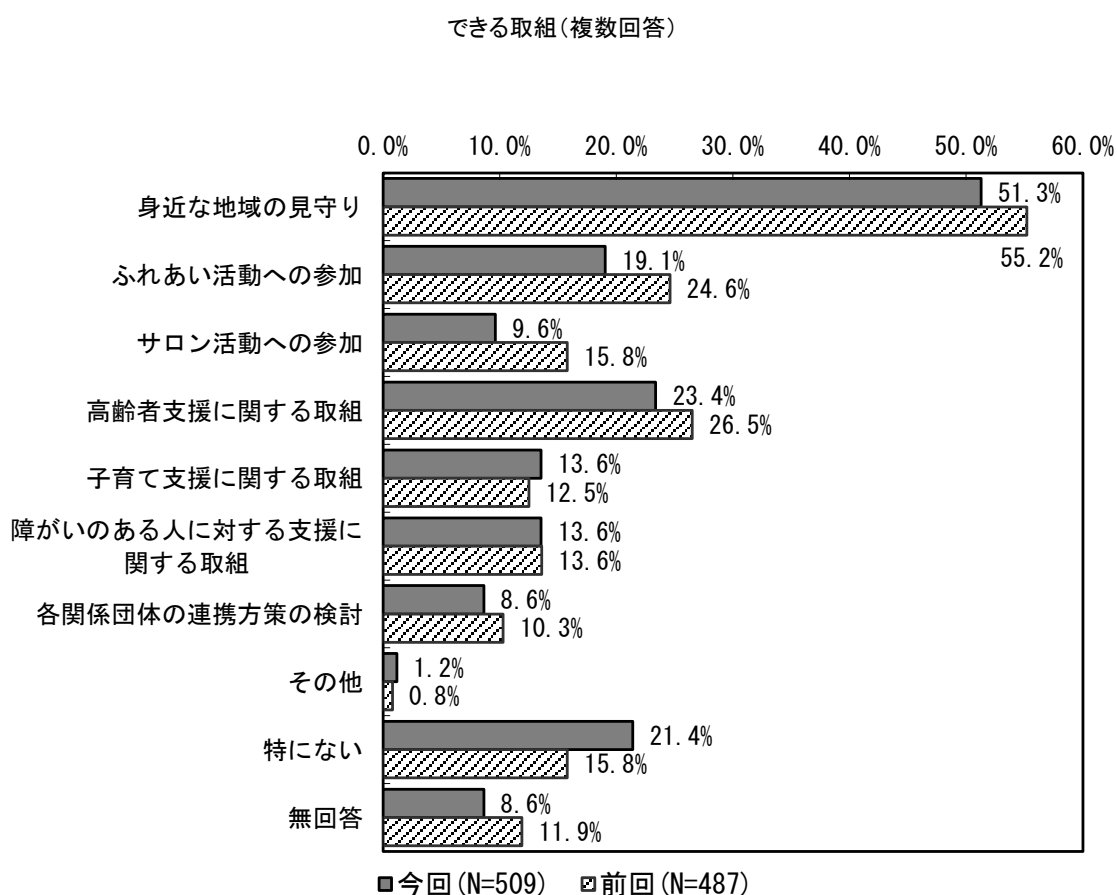


図 地域における支えあいの仕組みを構築するためにできる取組(複数回答)(男女別)

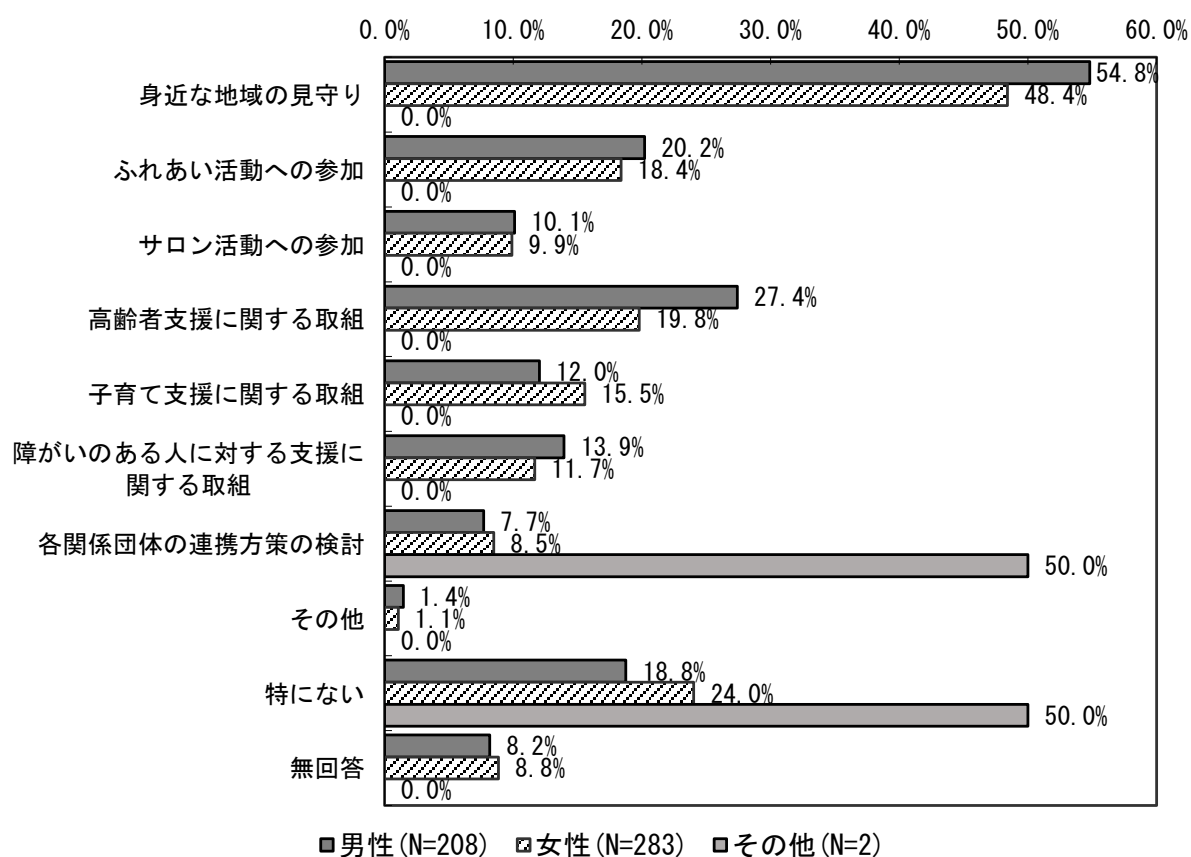


図 地域における支えあいの仕組みを構築するためにできる取組(複数回答)(年齢区分別)

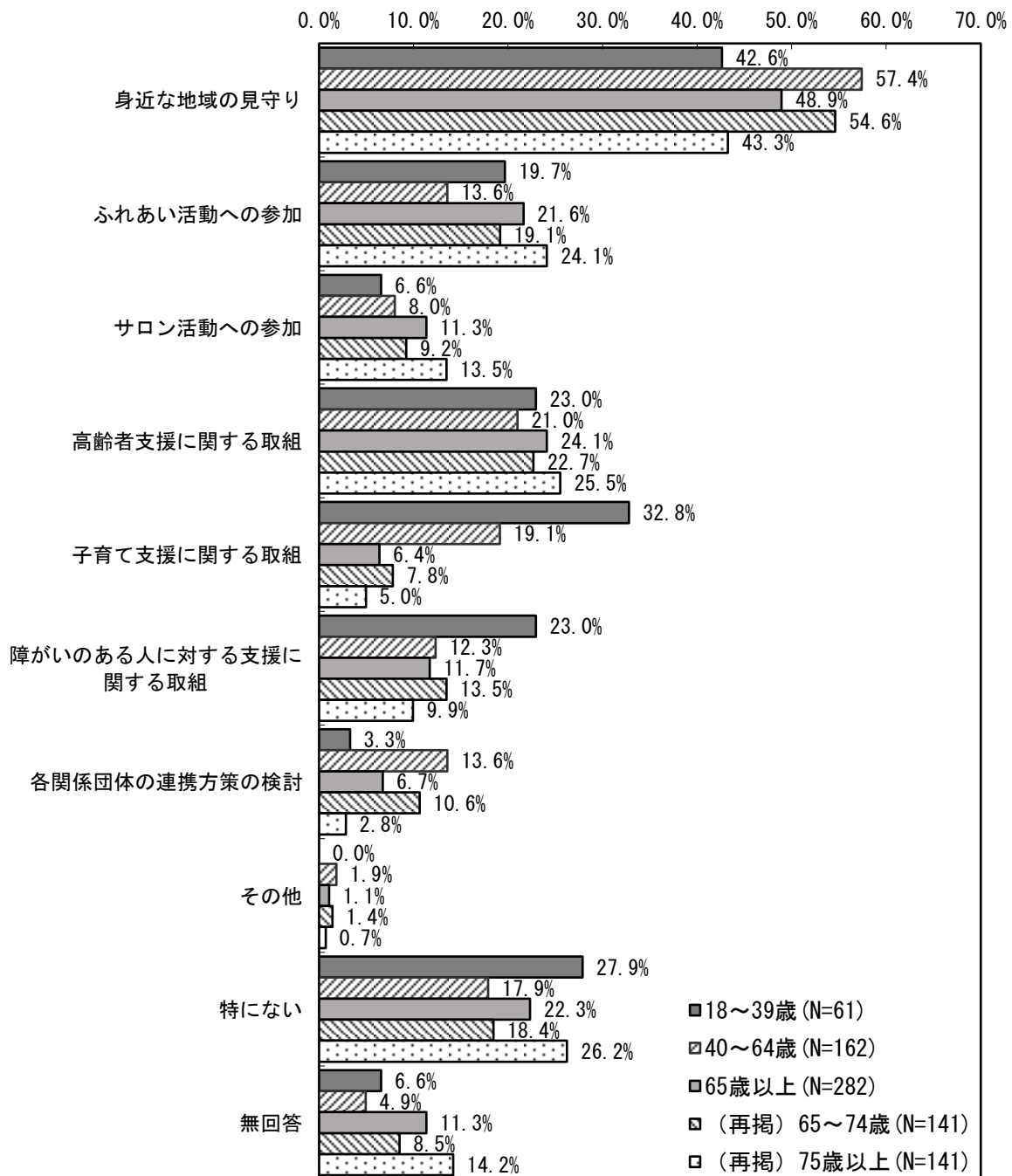
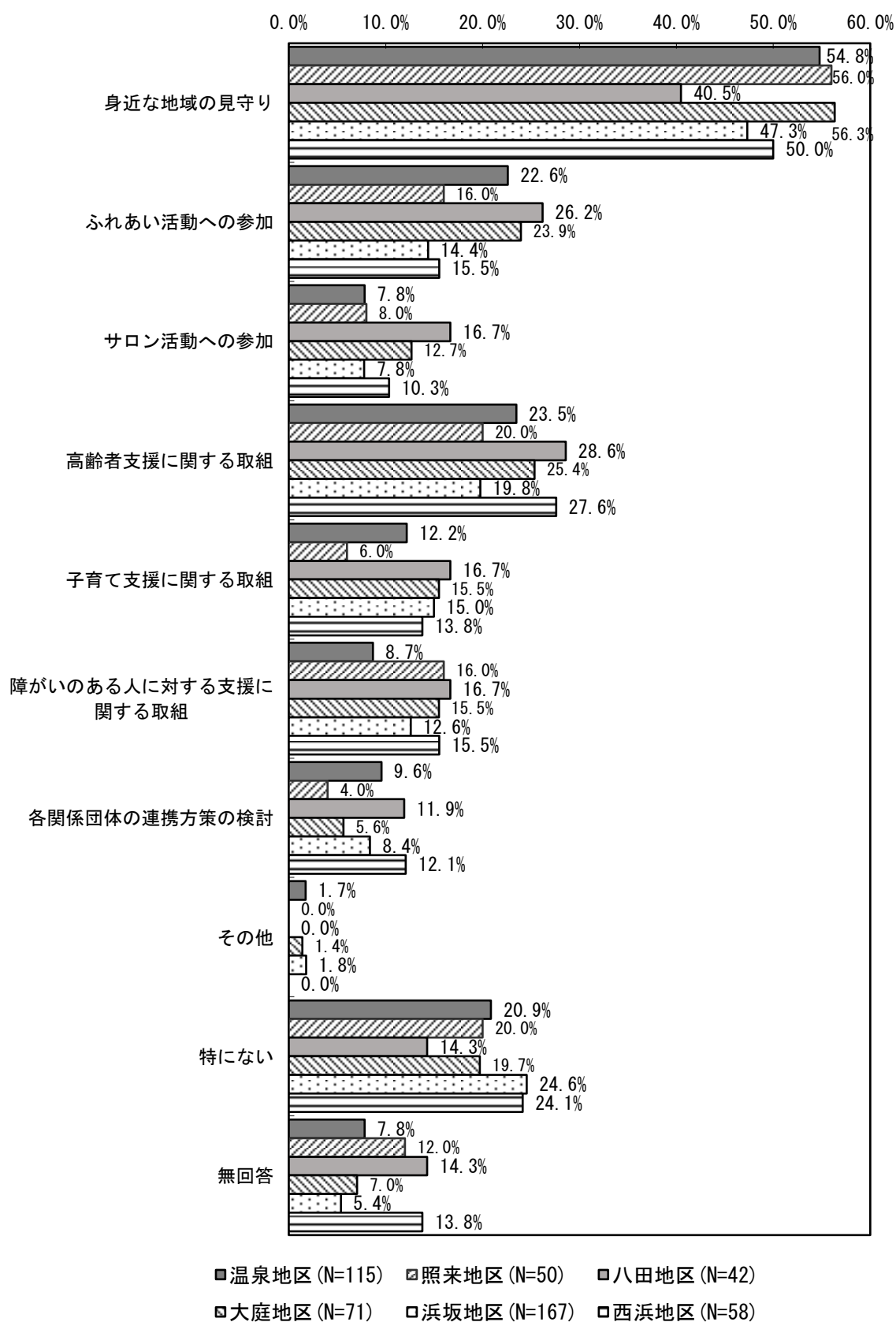


図 地域における支えあいの仕組みを構築するためにできる取組(複数回答)(地区別)



6 避難行動要支援者登録制度について

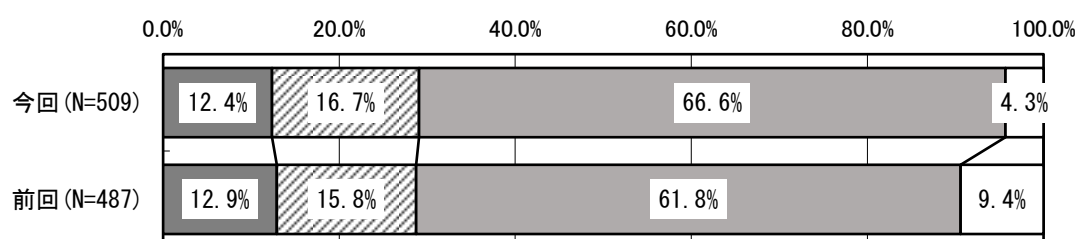
(1) 「避難行動要支援者登録制度」について知っているか〈単数回答〉

〔問 36(1) あなたは、「避難行動要支援者登録制度」について知っていますか。(1つだけ○)〕

「避難行動要支援者登録制度」について知っているかについてみると、「知らなかった」(66.6%)が最も高く、次いで「制度名は知っていたが、内容は知らなかった」(16.7%)、「制度名も内容も知っていた」(12.4%)となっています。

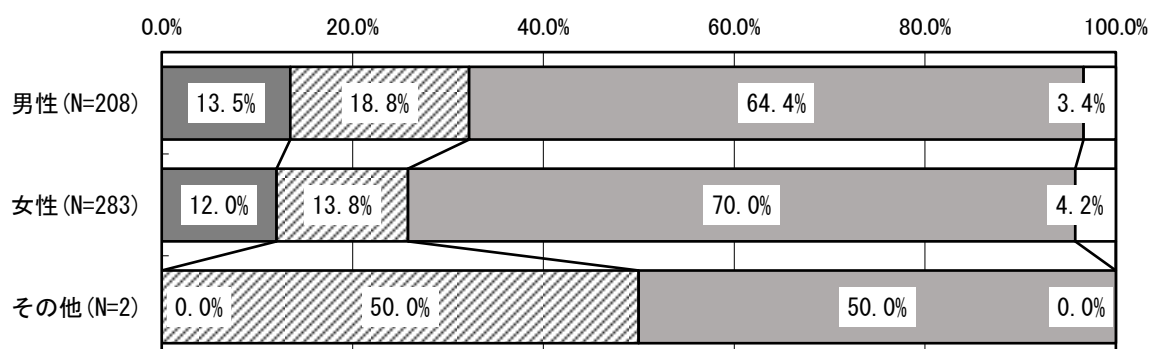
前回の調査結果から比較すると、大きな変化は見られません。

図 「避難行動要支援者登録制度」について知っているか



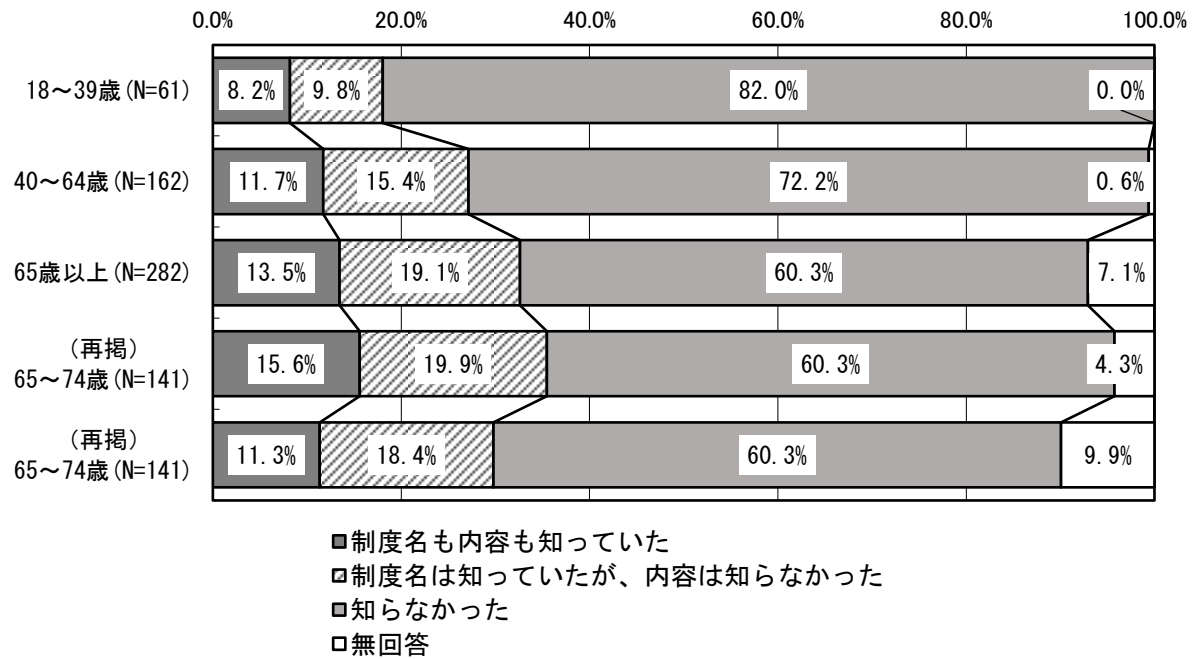
- 制度名も内容も知っていた
- 制度名は知っていたが、内容は知らなかった
- 知らなかった
- 無回答

図 「避難行動要支援者登録制度」について知っているか(男女別)

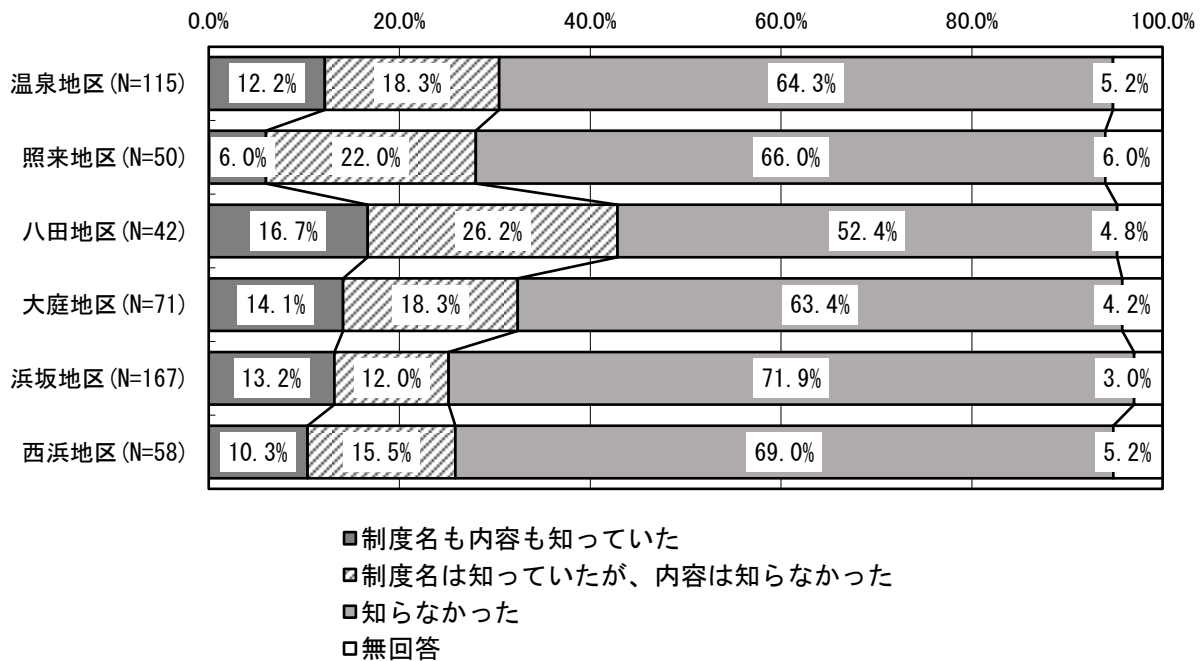


- 制度名も内容も知っていた
- 制度名は知っていたが、内容は知らなかった
- 知らなかった
- 無回答

図「避難行動要支援者登録制度」について知っているか(年齢区分別)



図「避難行動要支援者登録制度」について知っているか(地区別)



(2)「避難行動要支援者」から「避難支援者」として登録を依頼された場合、どのように対応するか〈単数回答〉

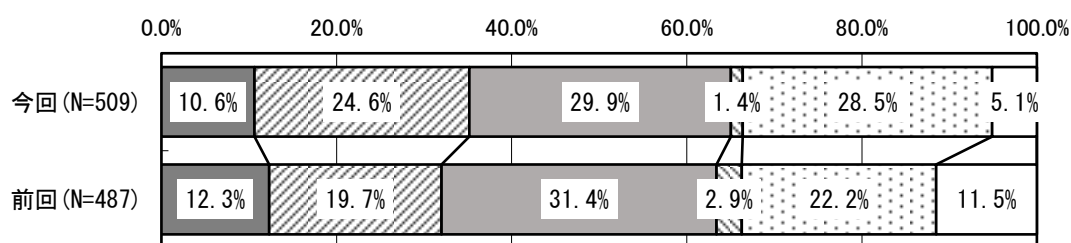
〔問 36(2) あなたは、「避難行動要支援者」から、その人の「避難支援者」として登録を依頼された場合、どのように対応しますか。(1つだけ○)〕

「避難行動要支援者」から「避難支援者」として登録を依頼された場合、どのように対応するかについてみると、「町内会や自主防災組織など、地域の組織で対応する」(29.9%)が最も高く、次いで「わからない」(28.5%)、「自分のことで精一杯で登録を引き受けることは難しい」(24.6%)となっています。

前回の調査結果から比較すると、「わからない」が6.3ポイント増加しています。

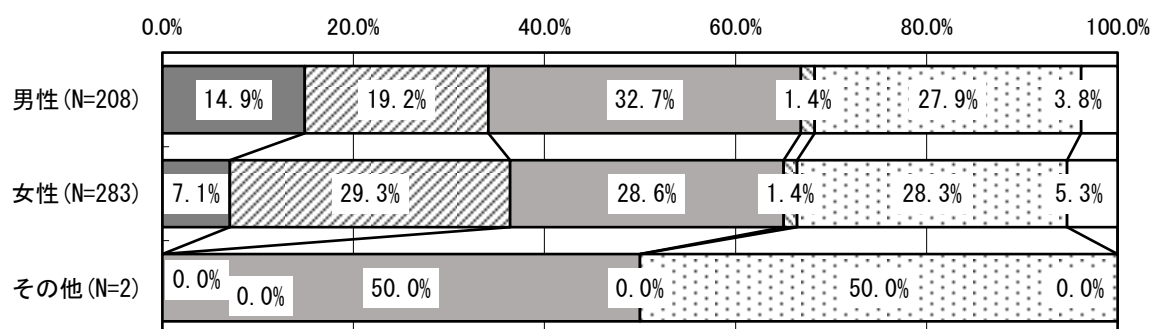
年齢区分別にみると、年代が低いほど、「登録を引き受ける」が多くなっていますが、一方で、「わからない」も年代が低いほど多くなっています。

図 「避難行動要支援者」から「避難支援者」として登録を依頼された場合、どのように対応するか



- 登録を引き受ける
- ▨自分のことで精一杯で登録を引き受けることは難しい
- ▩町内会や自主防災組織など、地域の組織で対応する
- その他
- わからない
- 無回答

図 「避難行動要支援者」から「避難支援者」として登録を依頼された場合、どのように対応するか(男女別)



- 登録を引き受ける
- ▨自分のことで精一杯で登録を引き受けることは難しい
- ▩町内会や自主防災組織など、地域の組織で対応する
- その他
- わからない
- 無回答

図 「避難行動要支援者」から「避難支援者」として登録を依頼された場合、どのように対応するか(年齢区分別)

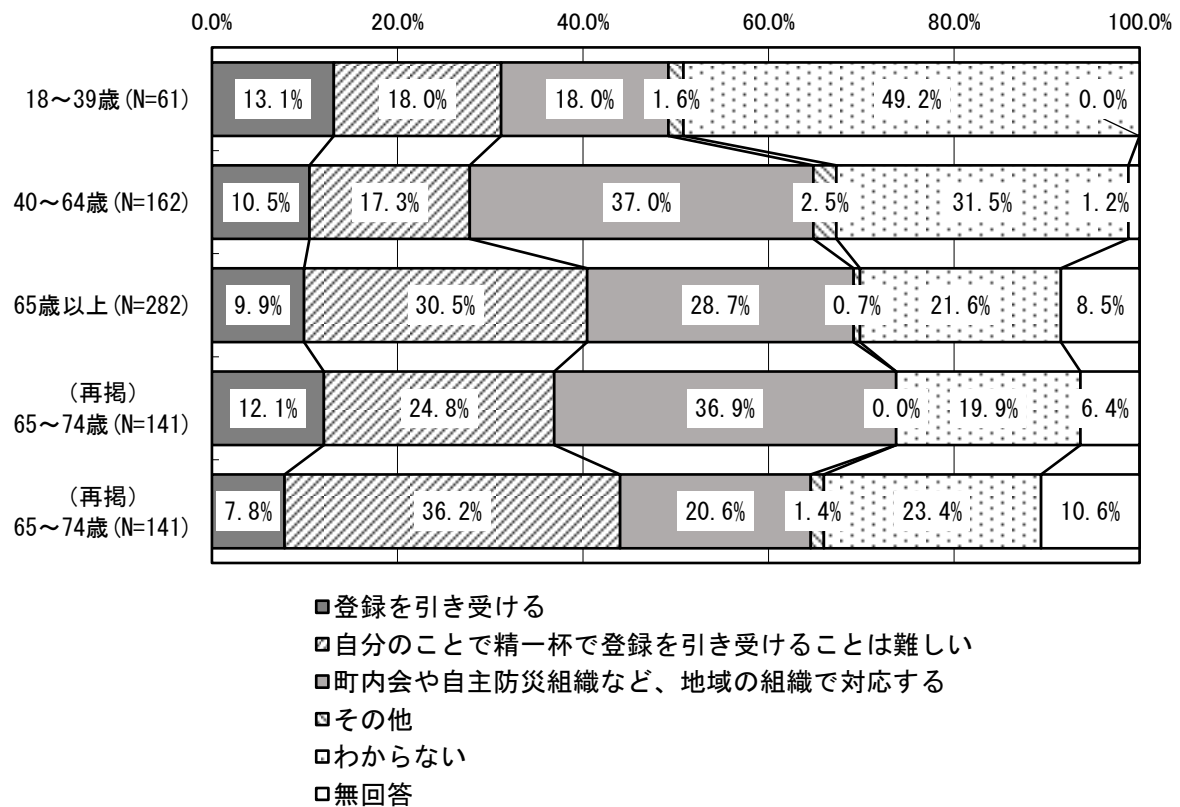
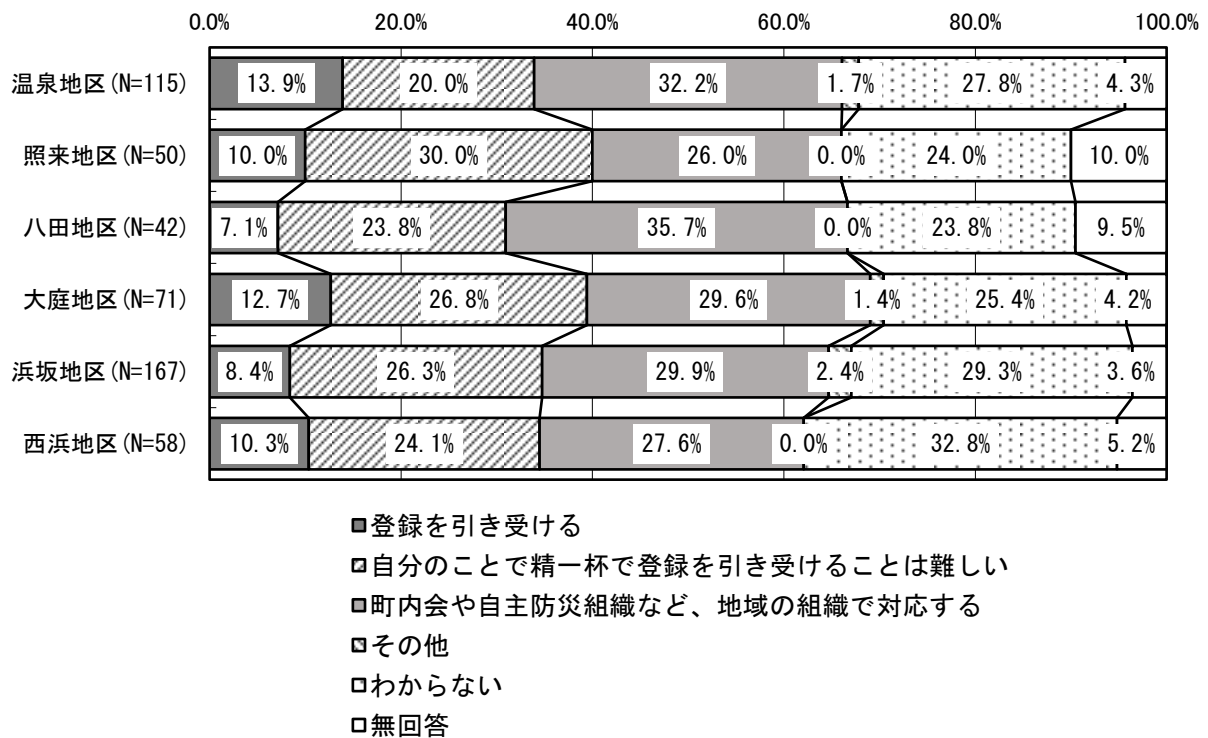


図 「避難行動要支援者」から「避難支援者」として登録を依頼された場合、どのように対応するか(地区別)



7 これからの新温泉町の健康・福祉について

(1) 福祉を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係についてどのように考えるか〈単数回答〉

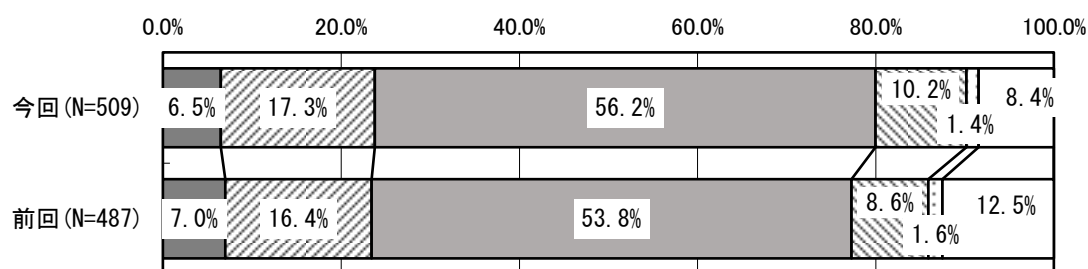
〔問 37 あなたは、福祉を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係についてどのように考えますか。(最も近いものに1つだけ○)〕

福祉を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係についてどのように考えるかについてみると、「福祉課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである」(56.2%)が最も高く、次いで「行政の手の届かない福祉課題については、住民が協力していくべきである」(17.3%)、「住民として福祉課題に積極的に取り組み、その活動に対して行政は援助・協力すべきである」(10.2%)となっています。

前回の調査結果から比較すると、上位2項目の順位は同じ結果となっています。

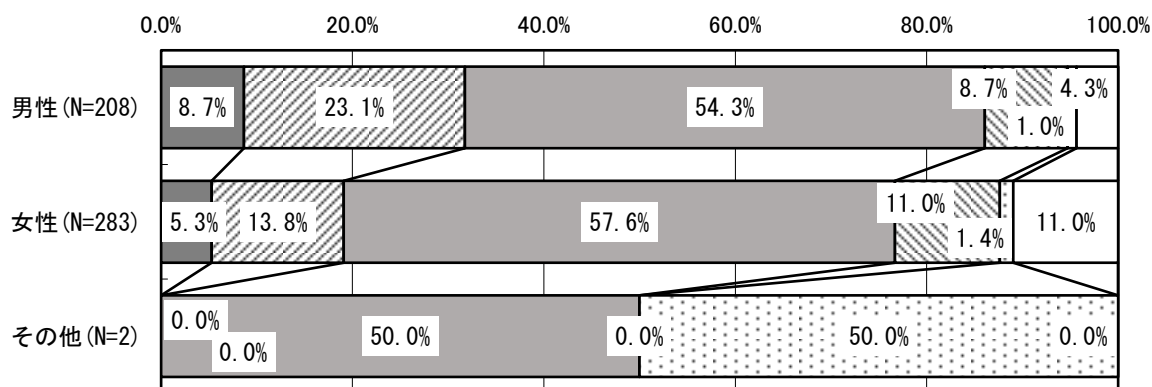
地域での人とのかかわりに対する考え方別にみると、すべての考え方で、「福祉課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである」が最も高くなっています。

図 福祉を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係についてどのように考えるか



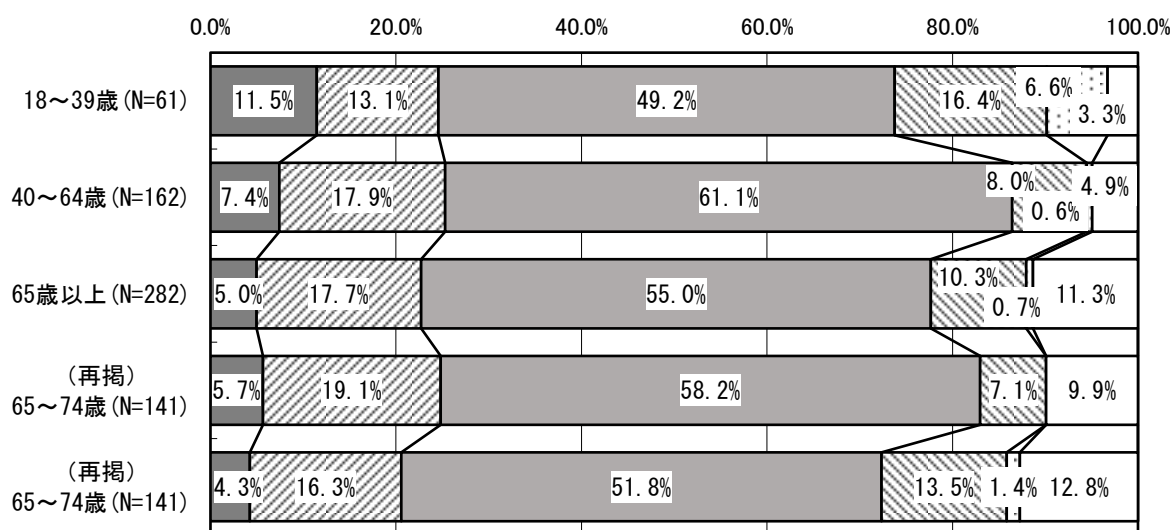
- 福祉を充実する責任は行政（国や県、市町村）にあるので、住民は特に協力することはない
- 行政の手の届かない福祉課題については、住民が協力していくべきである
- 福祉課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである
- 住民として福祉課題に積極的に取り組み、その活動に対して行政は援助・協力すべきである
- その他
- 無回答

図 福祉を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係についてどのように考えるか(男女別)



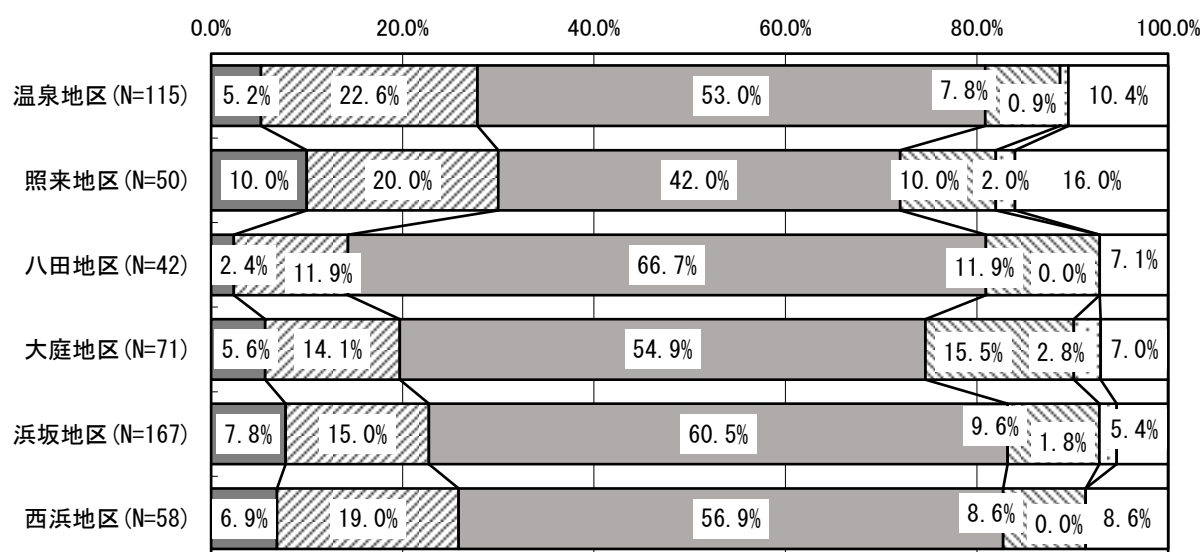
- ☐ 福祉を充実する責任は行政（国や県、市町村）にあるので、住民は特に協力することはない
- ☐ 行政の手の届かない福祉課題については、住民が協力していくべきである
- ☐ 福祉課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである
- ☐ 住民として福祉課題に積極的に取り組み、その活動に対して行政は援助・協力すべきである
- ☐ その他
- ☐ 無回答

図 福祉を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係についてどのように考えるか(年齢区分別)



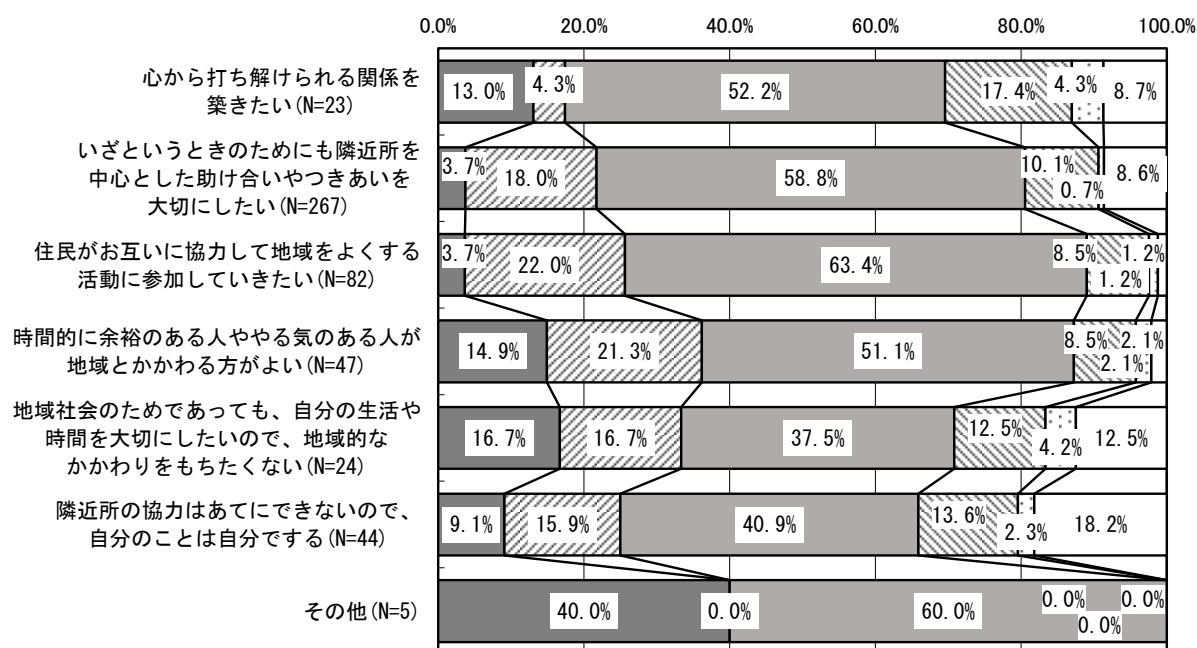
- ☐ 福祉を充実する責任は行政（国や県、市町村）にあるので、住民は特に協力することはない
- ☐ 行政の手の届かない福祉課題については、住民が協力していくべきである
- ☐ 福祉課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである
- ☐ 住民として福祉課題に積極的に取り組み、その活動に対して行政は援助・協力すべきである
- ☐ その他
- ☐ 無回答

図 福祉を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係についてどのように考えるか(地区別)



- 福祉を充実する責任は行政（国や県、市町村）にあるので、住民は特に協力することはない
- 行政の手の届かない福祉課題については、住民が協力していくべきである
- 福祉課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである
- 住民として福祉課題に積極的に取り組み、その活動に対して行政は援助・協力すべきである
- その他
- 無回答

図 福祉を充実させていくうえで、行政と地域住民の関係についてどのように考えるか
(地域での人とかかわりに対する考え方別)



- ☒ 福祉を充実する責任は行政（国や県、市町村）にあるので、住民は特に協力することはない
- ☐ 行政の手の届かない福祉課題については、住民が協力していくべきである
- ☐ 福祉課題については、行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである
- ☐ 住民として福祉課題に積極的に取り組み、その活動に対して行政は援助・協力すべきである
- ☐ その他
- ☐ 無回答

（２）健康や福祉を充実していくうえで優先して取り組むべき施策〈複数回答〉

〔問 38 今後、新温泉町が健康や福祉を充実していくうえで取り組むべき施策として、どのようなことに優先して取り組むべきだと思いますか。（3つまで〇）〕

健康や福祉を充実していくうえで優先して取り組むべき施策についてみると、「高齢者や障がいのある人が、安心して在宅生活をおくることができるためのサービスの充実」（48.7%）が最も高く、次いで「身近なところでの相談窓口の充実」（41.5%）、「保健福祉に関する情報提供や案内の充実」（27.9%）となっています。

前回の調査結果から比較すると、上位2項目の順位は同じ結果となっています。

年齢区分別に最も多い回答をみると、「18～39 歳」と「65 歳以上」では、「高齢者や障がいのある人が、安心して在宅生活をおくることができるためのサービスの充実」（37.7%、53.5%）、「40～64 歳」では、「身近なところでの相談窓口の充実」（48.1%）となっています。

図 健康や福祉を充実していくうえで優先して取り組むべき施策(3つ以内で複数回答)

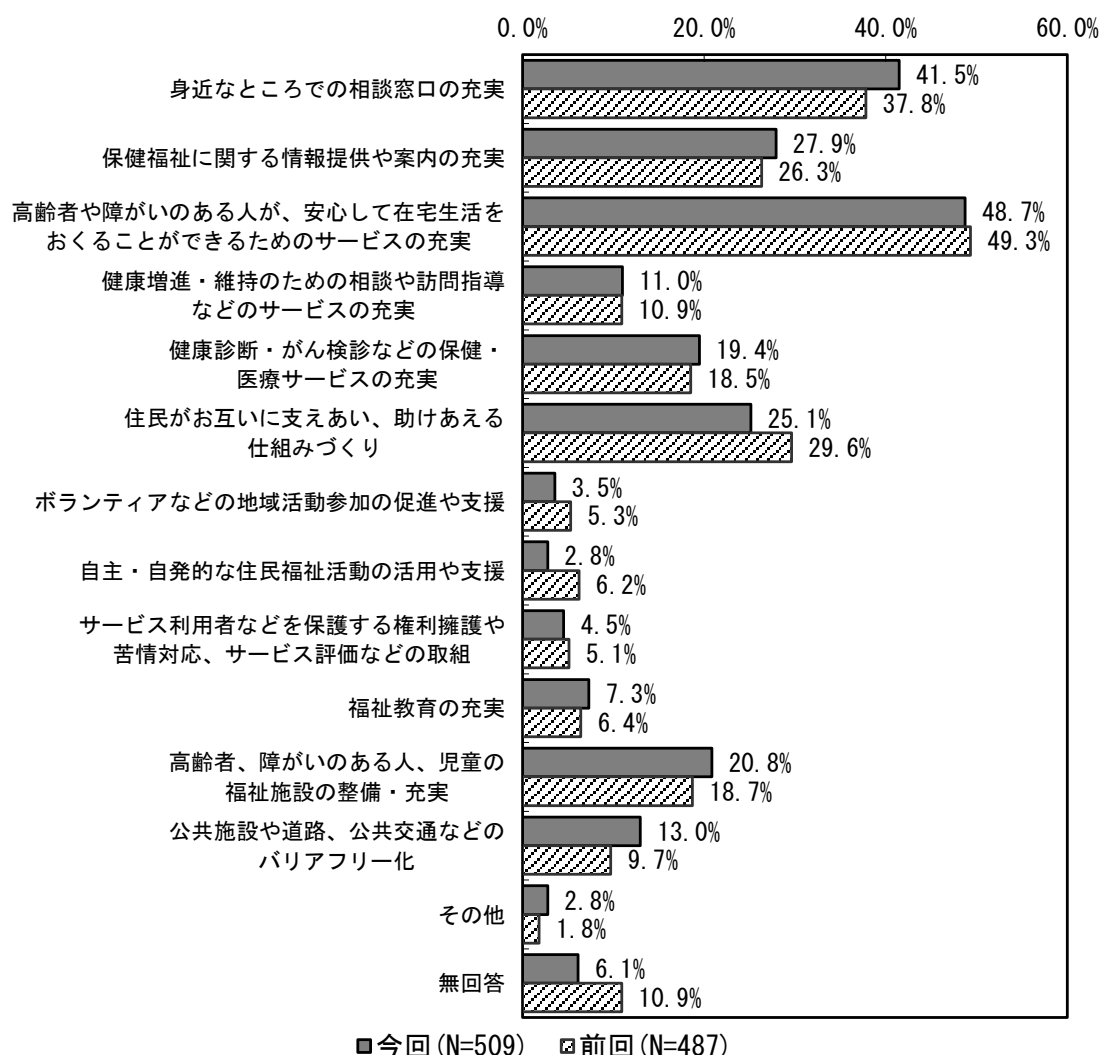


図 健康や福祉を充実していくうえで優先して取り組むべき施策(3つ以内で複数回答)(男女別)

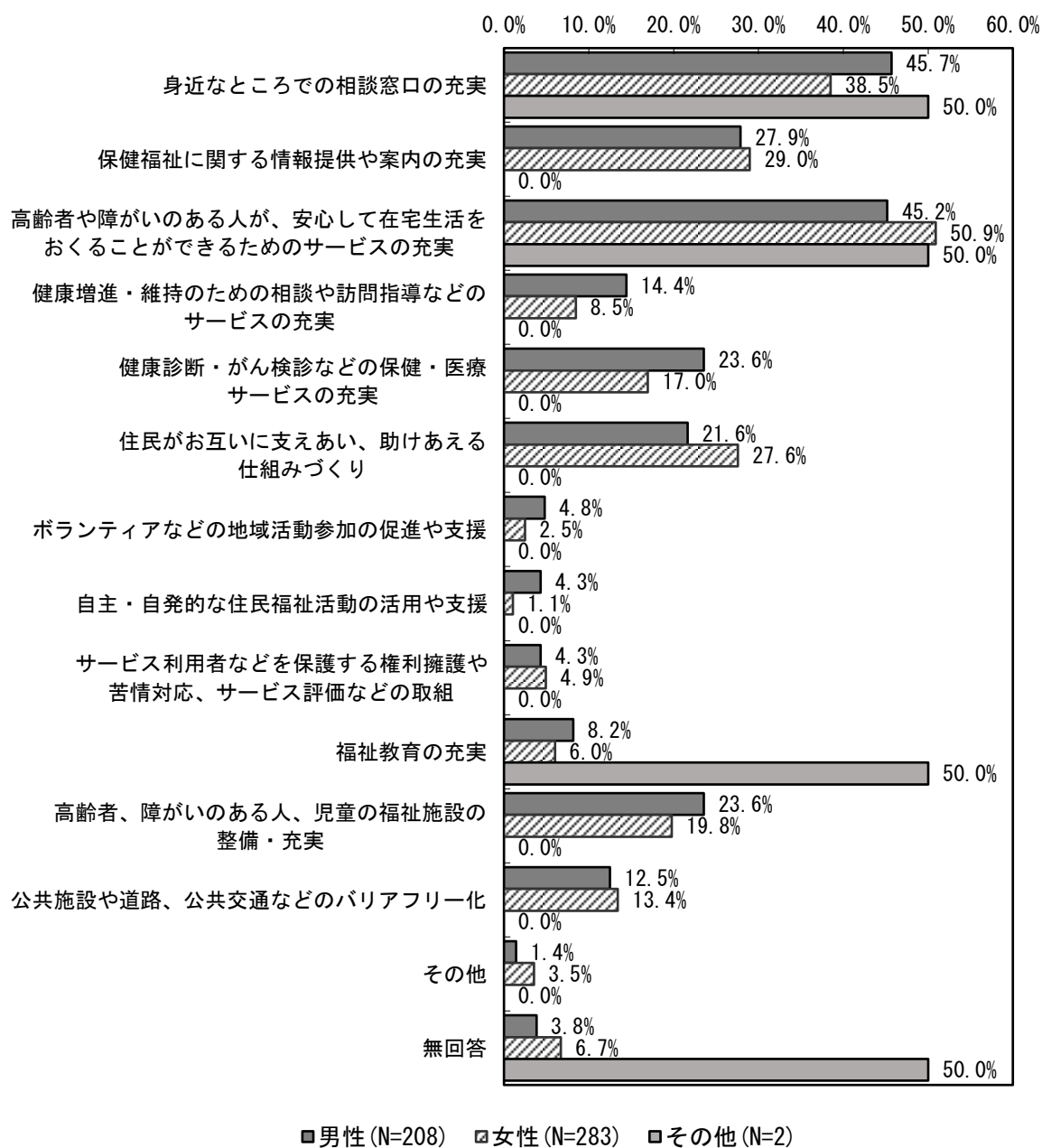


図 健康や福祉を充実していくうえで優先して取り組むべき施策(3つ以内で複数回答)(年齢区分別)(1/2)

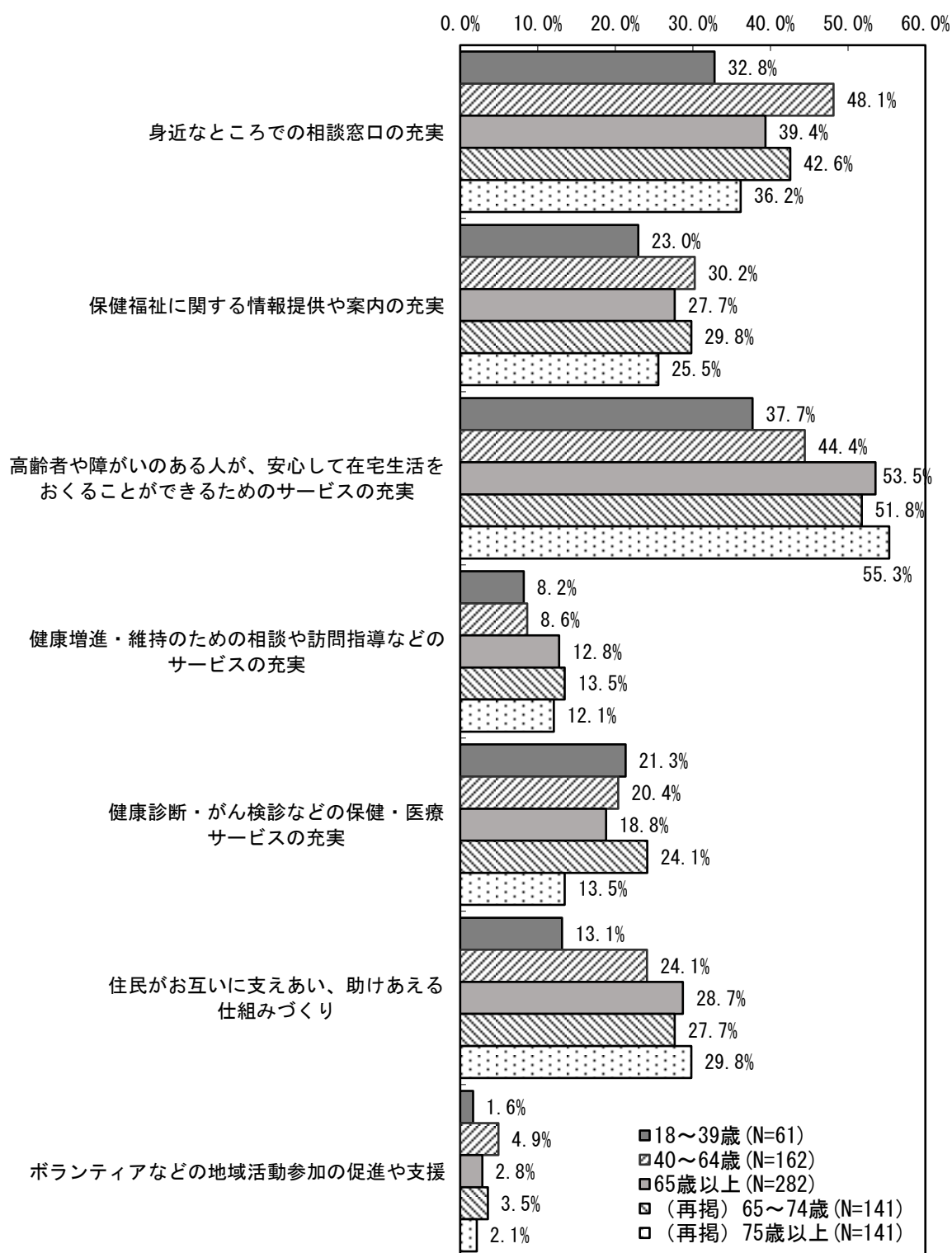


図 健康や福祉を充実していくうえで優先して取り組むべき施策(3つ以内で複数回答)(年齢区分別)(2/2)

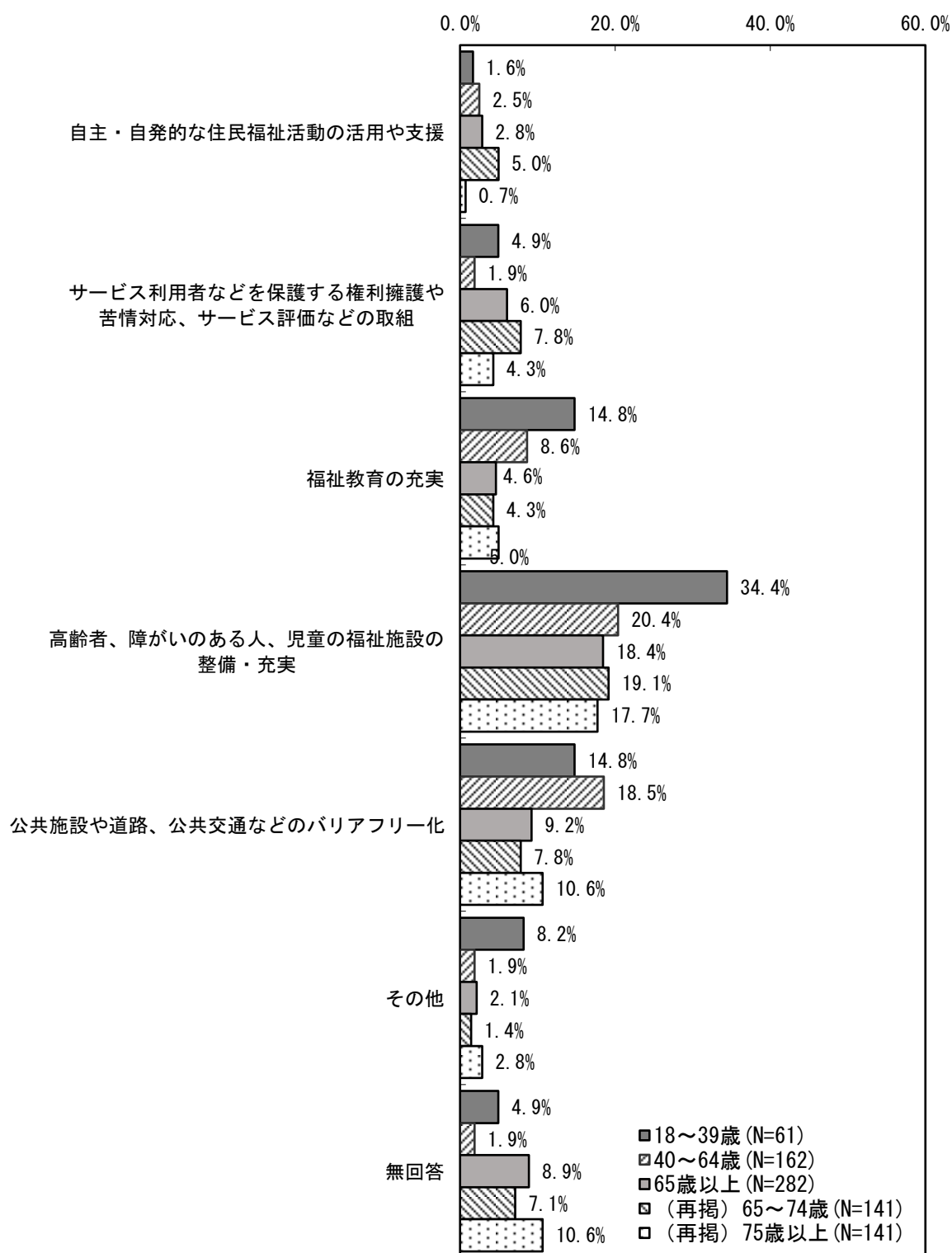


図 健康や福祉を充実していくうえで優先して取り組むべき施策(3つ以内で複数回答)(地区別)(1/2)

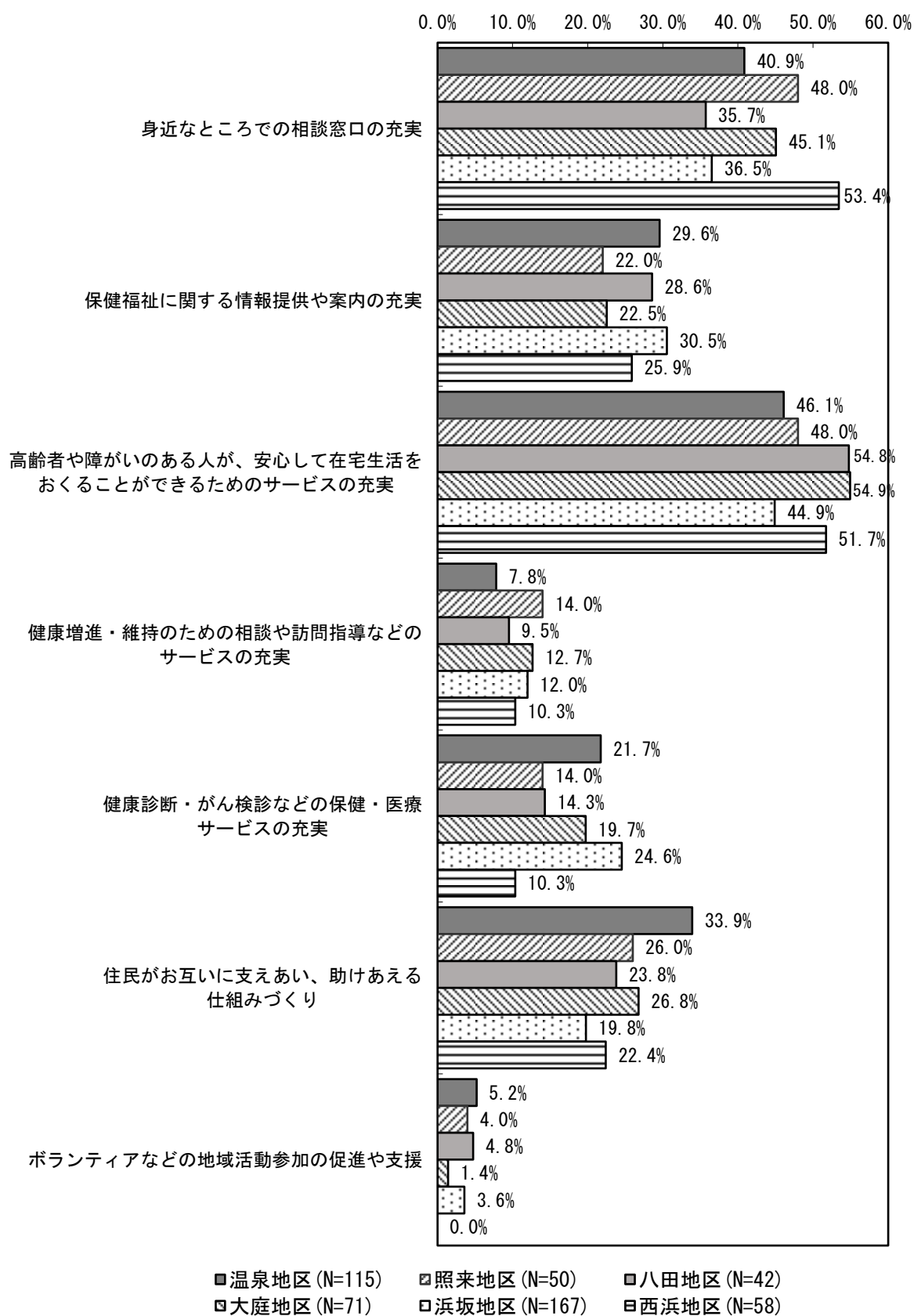
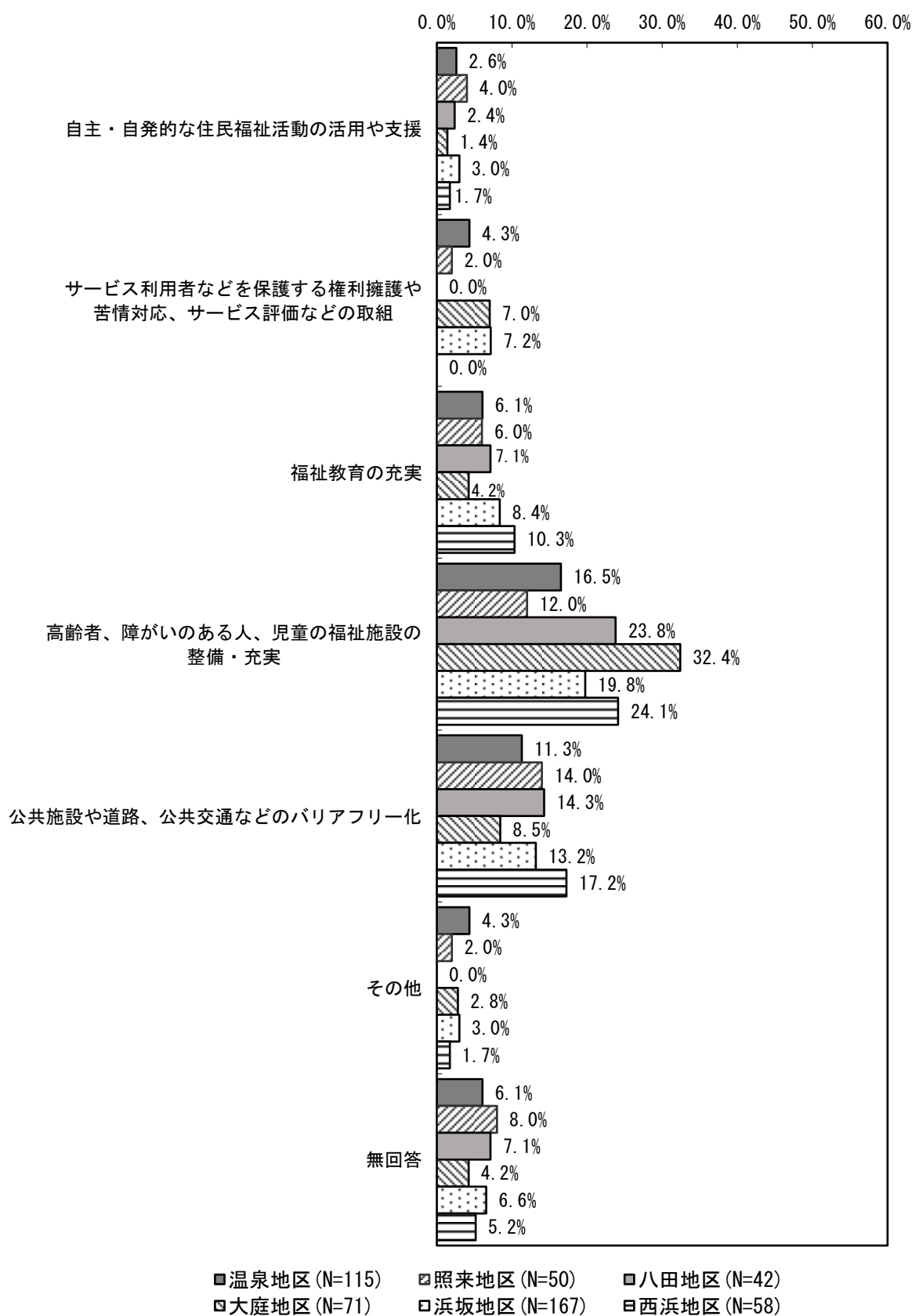


図 健康や福祉を充実していくうえで優先して取り組むべき施策(3つ以内で複数回答)(地区別)(2/2)



8 ご意見・ご要望（自由回答）

ご意見・ご要望の自由回答は、アンケート回答者 509 人中、100 人から回答があり、女性の割合が高く、特に、65 歳以上の女性から 40 件ありました。

回答内容を項目別にみると、「高齢者福祉」（39 件）は最も高く、次いで、「交通・移動」（26 件）、「地域福祉」（17 件）、「行政」（17 件）、「病院・医療」（15 件）などとなっています。

自由回答の主な内容は次頁のようになっています。

表 ご意見・ご要望の回答者数

年齢区分	男性	女性	その他	無回答	総計
18～39 歳	5	5	1	0	11
40～64 歳	13	21	1	1	36
65 歳以上	9	40	0	3	52
無回答	0	0	0	1	1
総計	27	66	2	5	100

表 ご意見・ご要望の分類項目別件数(10 件以上を表示)

分類項目	件数（多い順）
高齢者福祉について	39
交通・移動について	26
地域福祉について	17
行政について	17
病院・医療について	15
子ども・子育てについて	12
若者の流出について	12

※回答内容に複数の項目があるため、
自由回答の件数と件数の合計は異なります。

① 高齢者福祉について

ある日突然、身体を自由を奪われた。歩いたり日常生活などではできるが力が入らなくなってきている。体幹も不良なのでやりたいことができなくなってきている。これから雪の積もる日が多くなってくるので、雪かきなどできるのか不安である。
時間に余裕ができて困っている方の助けになりたいと思っても、個人間だとなにかと疑われることが煩わしい。本当に助けが必要な方に適任の方を紹介、または仲介できる機関があれば良いと思う。もちろん無料のボランティアで。
一人暮らしなので、突然死とかでの孤独死とかが不安で仕方ない。誰も助けてくれないと思うのが怖い。
行政と地域住民を引き合わせるコーディネーターのような人がいてくれて、高齢者を気にかけてほしい。
高齢者の数がとても多い町であるにもかかわらず福祉についてはまったくもって不十分である。もっと細かい案や施設の充実が必要であると考えます。今後ほとんどが65歳以上の高齢者となる本町にどのような考え方があるのか知りたい。また高齢とまではいかない人たちのためのトレーニング施設やトレーナーを増やし、健康な身体づくりの向上を考えてほしい。
老人、独居老人の日々の生活について自由に相談できる組織の充実。
どこの地域でも独居老人が増えています。地域だけでは対応が難しくなっています。町や社協では早目の対策を考えていくべきではないでしょうか。

② 交通・移動について

仕事先が鳥取市内にあり、自宅からJR通勤は問題がある。賃金の格差もあり町内での勤務先が充実していないため、交通機関の対応を急ぐべきと考えます。
高齢者が買い物に行く交通手段が少ないと思う。地域に移動式販売車で回るとか、昔はあったのですが、今は見かけません。そんなのがあったら、一人暮らしの高齢者の方は買い物を楽しめるのではないのでしょうか。
車のない一人暮らしの高齢者の方が買い物に困っておられます。移動販売の車で買い物できたら助かると思います。
高齢者が自動車運転免許を安心して返納できるよう、その後の支援を充実してほしい。
日々の生活の交通の便が不自由で困っている。病院、役場、買い物に行くことに困っている。
福祉、乗り合いタクシーの充実。

③ 地域福祉について

地域でどんな福祉活動をして居られるでしょうか、知りたいです。
地域福祉がどんなときに相談できるのか、もっと分かりやすいようにしてもらえると良いのですが。
少子高齢化が加速し、サービスを提供を必要とする人は増加していますが、システムの構築は必要です。その中核となりえる人材の確保と育成が急務であり、若者世代の定住が促進されなければ地域の健康や福祉の充実は困難です。
福祉関係が充実してきたと思う。
地域福祉に関係する職員、ボランティア等々人権意識の向上、個人情報守秘義務の徹底。

④ 行政について

相談窓口で相談してもたらい回し。解決できないから問題。相談して解決できるようであれば問題ではない。
福祉の件では関係者の方、日々努力されて業務されていることに感謝。制度がここまで充実していることを改めて知ることができました。
民生委員の職権や責任について、区長には徹底するべきで、老人や障がい者についての行政への連絡の判断が難しい。事務的に連絡できるよう、簡単な報告様式を提示してはどうか。
出張業務で行政手続き、相談窓口を行っていただけると嬉しいですが。

⑤ 病院・医療について

病人に対して心のケアができる専門療法士が必要。例えばガンが再発したためうつとなり、ひきこもりになったときなどの精神科的専門職員が必要。
浜坂病院で安心して病気を診てもらえる様にして頂きたいです。
病院の治療終了後にリハビリが必要な人の充実した専門施設が新温泉には 1 つもないので県外に行くしかない。
24 時間いつでも往診など対応していただける医師。かかりつけの病院があっても時間外は対応していただけない。特に普段医者にかかっていない者にすれば安心してお願いできる場所があると有り難いです。

⑥ 子ども・子育てについて

高齢者問題も大事だが、教育や子育てしやすい環境の取組を進めるほうが良いと思う。10代～50代世代のことも考えていかないと高齢者問題も解決しないと思います。

高齢者より子ども、若い親子世帯へのサポートや楽しめるサービスを充実してほしい。

大きな問題は少子化であって高齢化ではないような気がします。手厚く公的にも見守られ心から大切に育てた新温泉町の子ども達が高校卒業したら帰って来ない。何十年も先の問題ではなく数年～10年程で子どもが町から居なくなるのではと不安です。残された老人たちはどう生きていくのでしょうか。町の抜本的な大改革が必要なのではと思ってしまいます。

出生率が低下している中で、子ども園、小学校の統廃合を進めるべきではないか。温泉地域、浜坂地域で子ども園も小学校も1園、1校とすべきではないか。その際には、既存の建物を使えば良いのではないか。子ども園は建設せず、統廃合後の小学校を使う方法が良いのではないか。

⑦ 若者の流出について

地域的にも難しい点が多くある中で若者の人数が少なく、もっと若者が仕事をもてる安心した生活が送れるまちづくりを考えてください。そうしないと若者は帰ってきません。

少子高齢化が加速し、サービスの提供を必要とする人は増加していますが、システムの構築は必要です。その中核となりえる人材の確保と育成が急務であり、若者世代の定住が促進されなければ地域の健康や福祉の充実は困難です。

若い人が安心して働ける町づくりをしてほしい。

大学を卒業したら浜坂に戻ってくることを考えているが、就職について不安である。どのような場所に行けば相談ができるのか、またどのような職種があるのか、HPを見ても分かりにくいためなかなか不安です。

若い人が定住するために就職口を確保してほしい。企業の誘致、免税するとか土地は無償で提供するとかして働く所をつくってほしい。

どうすれば人が集まる町になるかを考えていかないとと思う。また、若い人が住みたいと思える町づくり。